

| 第1期             |             | 8/3～8/8       |      |                       |
|-----------------|-------------|---------------|------|-----------------------|
| 講座名             | 担当教員        | シラバス変更        | 募集定員 | 備考                    |
| 法学（日本国憲法2単位を含む） | 水野 正        |               | 全    |                       |
| 歴史学             | 堀川 徹        | あり            | 50   | <del>シラバス未掲載</del>    |
| 英語Ⅰ～Ⅳ           | マイケル ギルロイ   | <del>あり</del> | 75   | 昼間（前期）受講不可            |
| 英語Ⅰ～Ⅳ           | 賀美 真之介      |               | 全    |                       |
| 保健体育講義Ⅰ         | 高橋 正則・水落 文夫 |               | 75   | 月～水の3日間の動画配信          |
| 憲法              | 名駕 健二       | あり            | 75   | 昼間（前期）受講不可            |
| 商法Ⅲ             | 大久保 拓也      | あり            | 全    |                       |
| 民法Ⅳ             | 加藤 雅之       | あり            | 全    |                       |
| 労働法             | 新谷 真人       |               | 全    |                       |
| 民法Ⅴ             | 大杉 麻美       | あり            | 50   |                       |
| 行政学             | 山田 光矢       | <del>あり</del> | 全    |                       |
| 国文学講義Ⅱ（中古）      | 笹生 美貴子      | あり            | 全    |                       |
| 国文学講義Ⅵ（現代）      | 尾形 大        |               | 全    |                       |
| 漢字書法            | 徳泉 さち       |               | 30   | 前半                    |
| 西洋古典            | 福島 昇        | あり            | 全    | <del>シラバス未掲載</del>    |
| 英語学概説           | 山岡 洋        | あり            | 全    |                       |
| 英語学演習Ⅰ～Ⅲ        | 小澤 賢司       |               | 30   | 後半 <del>シラバス未掲載</del> |
| 英文法             | 真野 一雄       |               | 全    |                       |
| 倫理学基礎講読         | 関谷 雄磨       | あり            | 全    | シラバス変更追加              |
| 東洋史特講Ⅱ          | 高綱 博文       | あり            | 30   | 後半（ZOOM）              |
| 情報概論            | 中村 典裕       | あり            | 全    | 昼間（前期）受講不可            |
| 経済開発論           | 前野 高章       | あり            | 全    |                       |
| 広告論             | 雨宮 史卓       | <del>あり</del> | 75   | 昼間（前期）受講不可            |
| 人文地理学概論         | 小倉 真        |               | 50   |                       |
| 英語科教育法Ⅲ         | リチャード キャラカー | あり            | 30   | 前半 <del>シラバス未掲載</del> |
| 国語科教育法Ⅰ         | 野澤 拓夫       | あり            | 30   | 後半 <del>シラバス未掲載</del> |
| 教育原論/教育の思想      | 渡辺 典子       |               | 30   | 前半                    |
| 特別支援教育概論        | 田尻 由起       |               | 30   | 7日・8日の2日間             |
| 博物館教育論          | 岡部 幹彦       |               | 全    |                       |

変更シラバスは後日掲載します

黄色：市ヶ谷校舎での面接授業（3日間授業）

オレンジ：ライブ配信授業（3日間授業）

白：Google classroomによる映像配信授業（月曜日～土曜日6日間授業）

前半：8月3日～8月5日（9：00～17：30）3日間のみの授業

後半：8月6日～8月8日（9：00～17：30）3日間のみの授業

※特別支援教育概論は7日・8日の対面授業

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔法学〕

水野 正

◆**授業概要** 複数の人が存在するとお互いの求めるものの違いにより、そこに問題が生ずる。そこで、人の社会生活上の問題を解決するための基礎となる基本的な価値観（＝法）を理解し、互いの権利を尊重し、義務を果たすことの重要性を学ぶ。

◆**学修到達目標** ある人々の間に生じた問題は、法律を基に互いの考えを示し、法律を基に相手の考えを理解し、互いが納得することにより解決される。そのような解決ができるよう、法律を正しく理解する為の方法を理解し、法律に基づいた自分の考えを示すことができるようになることを目標とする。また、インターネットに関する法律を知り、自己の権利を守り、相手の権利を侵害しないように行動できるようになる事を目標とする。

◆**授業方法** いわゆる講義形式で行う。まず、テキストに沿った内容で広義の法律について、正しく解釈する為の規則や手段について説明します。その知識に基づいてコンピュータ、インターネットに関わる諸問題について、どのような問題点があるかを説明し、その解決を現行法でできるのか否かを考えていくことにします。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容：ガイダンス 法とは何かを考える。<br>事前学修：法学を学ぶことの意味を考え、法という言葉から何を連想するかを確かめておくこと。<br>事後学修：論理的思考と説明を理解し、法は社会生活を営む人により作られることを理解する。                       |
| 2 回  | 授業内容：日本の法制度 継受法 固有法<br>事前学修：日本の法制度を日本史から考えてみる。<br>事後学修：他国との関係から日本の法制度がどのように変化してきたかを理解する。   |
| 3 回  | 授業内容：法と他の社会規範 1 法と道徳の違い<br>事前学修：人の生活を律する法以外のものは？テキスト「法と他の社会規範」部分を読むこと。<br>事後学修：法と道徳の区別ができるように理解すること。                                       |
| 4 回  | 授業内容：法と他の社会規範 2 法と宗教、法と慣習（習俗）との違い<br>事前学修：法と他の社会規範との違い。テキスト「法と他の社会規範」部分を読んでおくこと。<br>事後学修：法と宗教、慣習（習俗）との区別ができるように理解すること。                     |
| 5 回  | 授業内容：法の目的 法と正義<br>事前学修：法は何を実現しようとするのか。テキスト「法の目的」部分を読んでおくこと。<br>事後学修：法のいうところの正義とはどのようなものかを理解すること。   |
| 6 回  | 授業内容：法源 1 法源とは何か 成文法と不文法の特徴 成文法<br>事前学修：法を知る手がかりとなるものは何であるか。テキスト「法源」部分を読んでおくこと。<br>事後学修：現代は成文法が中心的役割を担っていること。成文法の種類と特徴を理解すること。             |
| 7 回  | 授業内容：法源 2 法源としての不文法<br>事前学修：不文法について、テキスト「不文法」部分を読んでおくこと。<br>事後学修：裁判所の判決は、不文法であることを理解すること。  |
| 8 回  | 授業内容：法の分類 普通法（一般法）と特別法、強行法と任意法、公法、私法、社会経済法 等<br>事前学修：法の適用には順番があることを確認する。テキスト「法の分類」部分を読んでおくこと。<br>事後学修：法の適用には順番があること、どの法（条文）が優先するのか正しく理解する。 |
| 9 回  | 授業内容：法の効力範囲 時間的効力範囲、地理的効力範囲、人的効力範囲<br>事前学修：日本の法律の効力が及ぶ範囲を考える。テキスト「法の効力範囲」部分を読んでおくこと。<br>事後学修：国境のないインターネットの世界では、どこかの国の法律が適用されるのか考えてみる。      |
| 10 回 | 授業内容：法の解釈と適用 1 事実認定 推定、擬制<br>事前学修：脳死と判定されたドナーの心臓にナイフを刺して心停止にすると何罪になるのか。<br>事後学修：どの条文が推定の規定か、犠牲の規定か確認しておく。                                  |
| 11 回 | 授業内容：法の解釈と適用 2 有権解釈 学理解釈 論理解釈<br>事前学修：テキスト「法の解釈と適用」部分を読んでおくこと。<br>事後学修：解釈のそれぞれの分類の意味を正しく理解すること。  |
| 12 回 | 授業内容：デジタル万引きと犯罪の成否<br>事前学修：「いわゆるデジタル万引きと犯罪の成否」水野正 国士館法学 45 号を読んでおくこと。<br>事後学修：法の解釈と適用について具体的に考え、様々な場合を考える。                                 |
| 13 回 | 授業内容：不正アクセス行為とウイルスの作成と供用<br>事前学修：「不正指令電磁的記録に関する罪の一考察」水野正 国士館法学 46 号を読んでおくこと。<br>事後学修：ネット社会を保護するための法律について、その解釈と適用の難しさを理解する。                 |
| 14 回 | 授業内容：グーグルストリートビューとプライバシーの保護<br>事前学修：「道路周辺映像サービスの問題点」水野正 日本法学 81 巻 2 号を読んでおくこと。<br>事後学修：利便性とプライバシーの保護と公開される者の意思との関係を考えてみる。                  |
| 15 回 | 授業内容：インターネットと忘れられる権利<br>事前学修：「個人情報保護の為の検索結果に対する削除権」水野正 日本法学 82 巻 1 号を読む。<br>事後学修：様々なシーンでの個人情報の保護の重要性を考えてみる。                                |

◆**教科書** 選定『法学 B11500』通信教育教材（教材コード 000515）

◆**参考書** 内閣『インターネット法』松井他編 有斐閣

内閣 小型の六法 但し、定額制でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット PC）を使用できる学生は、それらの機器を持参すれば六法は不要。

授業計画記載の国士館法学は（<https://kokushikan.repo.nii.ac.jp>）、日本法学は（<http://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/law.html>）から無料でダウンロード可

◆**成績評価基準** 論述式の筆記試験で評価する。問題は講義の範囲内から複数問出題し、その中から 1 問選択して回答する形式とする。

## 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英語 I～IV〕

マイケル ギルロイ

- ◆**授業概要** To enhance students' reading, listening comprehension, writing skills, grammar, enlarge vocabulary and boost self confidence.
- ◆**学修到達目標** Help students' develop aural and oral fluency through engaging content and practical practices. Units are thematically structured, including topics which appear in daily conversations.
- ◆**授業方法** Students will work individually, in pairs and in groups to complete in class exercises. Activities include reading, writing, listening, role-plays and discussions.
- ◆**履修条件** 令和元年度昼間スクーリング（前期）「英語A」「英語M」（マイケルギルロイ）とは積み重ね不可。  
令和2年度昼間スクーリング（前期）「英語」（マイケルギルロイ）とは積み重ね不可。
- ◆**授業計画**〔各90分〕

|     |  |
|-----|--|
| 1回  | 授業内容: Introductions - Greeting to know each other.<br>事前学修: Enthusiasm, dictionary, paper and pencil.<br>事後学修: Will be decided. (W. B. D.) |
| 2回  | 授業内容: Family and Friends.<br>事前学修: Homework (H/W), think about "Family"<br>事後学修: W. B. D.  |
| 3回  | 授業内容: Friends.<br>事前学修: H/W, think about "Customs"<br>事後学修: W. B. D.   |
| 4回  | 授業内容: Customs - Japan.<br>事前学修: H/W<br>事後学修: W. B. D.  |
| 5回  | 授業内容: Custom - Global.<br>事前学修: H/W review<br>事後学修: W. B. D.   |
| 6回  | 授業内容: Education.<br>事前学修: H/W review<br>事後学修: W. B. D.   |
| 7回  | 授業内容: Sports 1.<br>事前学修: H/W review<br>事後学修: W. B. D.  |
| 8回  | 授業内容: Sports 2.<br>事前学修: H/W review<br>事後学修: W. B. D.  |
| 9回  | 授業内容: Work.<br>事前学修: H/W review<br>事後学修: W. B. D.  |
| 10回 | 授業内容: Food 1.<br>事前学修: H/W review<br>事後学修: W. B. D.  |
| 11回 | 授業内容: Food 2.<br>事前学修: H/W review<br>事後学修: W. B. D.  |
| 12回 | 授業内容: Studying English<br>事前学修: H/W review<br>事後学修: W. B. D.   |
| 13回 | 授業内容: Health<br>事前学修: H/W review<br>事後学修: W. B. D., and course review.   |
| 14回 | 授業内容: Review / Warm up / Test.<br>事前学修: Study of all topics covered.<br>事後学修: Brainstorm summer.   |
| 15回 | 授業内容: Summer Topic.<br>事前学修: Last week's H / W.<br>事後学修: Have a wonderful summer vacation.   |

- ◆**教科書** 〔丸沼〕"English Listening and Speaking Patterns 2" Andrew E. Bennett, NAN' UN-DO  
〔当日資料配布〕 Supplementary handouts. Interactive games.
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** Grades will be allocated based on attendance, participation, completed assignments and a final exam.

**注意** E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 【英語 I～IV】

賀美 真之介

◆**授業概要** 基礎的な英文法を確認し、練習問題の解説を速くして、知識の定着を図る。できる限り網羅的に英文法を確認し、文法項目ごとの関連性をも理解できるように、テキストとそれを補完する配布資料を用いて説明する。

◆**学修到達目標** テキストの練習問題には、知識の定着を確認する。基本的な英作文の問題も用意されている。この問題の例文を基礎として、それに修飾する要素を付加すれば、より高度な英文が完成する。この前段階として、まずは、修飾要素が最小限の基礎的な英文を書けるようになることを第一目標とする。

◆**授業方法** 各項目（Part I）について、解説、演習（練習問題）を行う。

◆**履修条件** 令和元年度夜間スクーリング（秋季）【英語 H】（賀美真之介）とは積み重ね不可。

◆**授業計画** 【各90分】

|     |  |
|-----|--|
| 1回  | 授業内容：1. 文の種類～5. 文の種類とその特徴<br>事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。<br>事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail等で質問すること。   |
| 2回  | 授業内容：1. 文の種類～5. 文の種類とその特徴<br>事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。<br>事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail等で質問すること。   |
| 3回  | 授業内容：6. 文を構成する要素(1)～10. 進行形<br>事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。<br>事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail等で質問すること。 |
| 4回  | 授業内容：6. 文を構成する要素(1)～10. 進行形<br>事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。<br>事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail等で質問すること。 |
| 5回  | 授業内容：11. 完了形(1)～15. 助動詞(3)<br>事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。<br>事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail等で質問すること。  |
| 6回  | 授業内容：11. 完了形(1)～15. 助動詞(3)<br>事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。<br>事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail等で質問すること。  |
| 7回  | 授業内容：16. 受動態(1)～20. 不定詞(2)<br>事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。<br>事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail等で質問すること。  |
| 8回  | 授業内容：16. 受動態(1)～20. 不定詞(2)<br>事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。<br>事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail等で質問すること。  |
| 9回  | 授業内容：21. 不定詞(3)～25. 動名詞(1)<br>事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。<br>事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail等で質問すること。  |
| 10回 | 授業内容：21. 不定詞(3)～25. 動名詞(1)<br>事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。<br>事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail等で質問すること。  |
| 11回 | 授業内容：26. 動名詞(2)～30. 関係詞(2)<br>事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。<br>事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail等で質問すること。  |
| 12回 | 授業内容：26. 動名詞(2)～30. 関係詞(2)<br>事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。<br>事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail等で質問すること。  |
| 13回 | 授業内容：31. 関係詞(3)～35. 仮定法(2)<br>事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。<br>事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail等で質問すること。  |
| 14回 | 授業内容：31. 関係詞(3)～35. 仮定法(2)<br>事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。<br>事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail等で質問すること。  |
| 15回 | 授業内容：総復習と期末試験<br>事前学修：試験範囲の学習をしておくこと。<br>事後学修：授業を通じて、理解できない点があった場合は、e-mail等で質問すること。                            |

◆**教科書** 図説「新版英文法の総復習とワンクラス上の英作文」野村忠夫・菅野悟・野村美由紀・外池滋生 DTP出版

2017

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 期末試験 6割 授業への参画度 4割

**注意** E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



# 講座内容（シラバス）

〔保健体育講義Ⅰ〕 オープン受講：不可

高橋 正則／水落 文夫

◆**授業概要** 近年、超高齢社会を向かえているわが国の平均寿命は、年々上昇しているものの、健康寿命との差は依然として縮まらない傾向が続いています。平均寿命と健康寿命の差は約 10 年前後であり、その差を埋めるためには、自立して生活できる健康な身体を積極的に獲得する必要があります。そこで、健康・体力に関する様々な情報に日頃から関心を向け、自身の健康維持・増進を目指す運動数館のある生活習慣を考えていきます。特に、トレーニングコーチ（日本オリンピック委員会強化スタッフ・医科学）として体力トレーニングやメンタルトレーニングの指導実績を生かし、実践的で効果的な健康教育に関する知識を授業に反映させています。

◆**学修到達目標** 生涯を通じて最も大切な健康とは何か、また、健康・体力の維持増進のために何が必要かについて、基本的な知識を習得することで、自らの生活習慣に結びつけることができるようになる。

◆**授業方法** この授業は、パワーポイントによって資料をスクリーンに提示しながら、講義形式で授業を進めます。また、必要に応じて、配布資料を準備し、各授業前に配布する予定です。なお、授業では講義内容からレポート等の課題を出す場合があります。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 回  | 授業内容 | ガイダンス（授業のスケジュールおよび受講上の注意事項等の説明）、現代社会と健康：現代社会と健康の関連を説明する。   |
|      | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。                         |
|      | 事後学修 | 配布資料をまとめ、理解しておくこと。   |
| 2 回  | 授業内容 | コミュニケーションスキル：現代社会におけるコミュニケーションスキルの重要性を解説する。                |
|      | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。                         |
|      | 事後学修 | 配布資料をまとめ、理解しておくこと。   |
| 3 回  | 授業内容 | 体力の概念：体力の構成を行動体力と防衛体力の観点から説明する。                            |
|      | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。                         |
|      | 事後学修 | 配布資料をまとめ、理解しておくこと。   |
| 4 回  | 授業内容 | オリンピズム：オリンピックに対する考え方やオリンピック教育の具体的内容を説明する。                  |
|      | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。                         |
|      | 事後学修 | 配布資料をまとめ、理解しておくこと。   |
| 5 回  | 授業内容 | 運動・スポーツの効果：運動やスポーツが心身に及ぼす影響を解説する。                          |
|      | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。                         |
|      | 事後学修 | 配布資料をまとめ、理解しておくこと。   |
| 6 回  | 授業内容 | 運動による疲労：身体活動が与える疲労を様々な指標で捉え、その影響を説明する。                     |
|      | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。                         |
|      | 事後学修 | 配布資料をまとめ、理解しておくこと。   |
| 7 回  | 授業内容 | 休養の実態と意義：休養の必要性や効果的な取り方を解説する。                              |
|      | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。                         |
|      | 事後学修 | 配布資料をまとめ、理解しておくこと。   |
| 8 回  | 授業内容 | 運動学習：運動を効果的に学習するための理論を説明する。また計 8 回の授業内容を範囲とする試験を実施する。      |
|      | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。また試験対策として、各授業の復習をしておくこと。 |
|      | 事後学修 | 配布資料をまとめ、講義全体の内容を整理し、理解しておくこと。                             |
| 9 回  | 授業内容 |  |
|      | 事前学修 |  |
|      | 事後学修 |  |
| 10 回 | 授業内容 |  |
|      | 事前学修 |  |
|      | 事後学修 |  |
| 11 回 | 授業内容 |  |
|      | 事前学修 |  |
|      | 事後学修 |  |
| 12 回 | 授業内容 |  |
|      | 事前学修 |  |
|      | 事後学修 |  |
| 13 回 | 授業内容 |  |
|      | 事前学修 |  |
|      | 事後学修 |  |
| 14 回 | 授業内容 |  |
|      | 事前学修 |  |
|      | 事後学修 |  |
| 15 回 | 授業内容 |  |
|      | 事前学修 |  |
|      | 事後学修 |  |

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 当日、授業時にプリントを配布します。

◆**参考書** 〔図〕『健康・スポーツ教育論』 日本大学文理学部体育学研究室編、八千代出版

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（貢献度）およびレポート・テストによって、総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：初回の授業時、受講学生に直接伝えます。

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔労働法〕

新谷 真人

◆**授業概要** 労働法は、生まれながらにして労働者保護を目的とした法律である。しかし、現実の労使関係においては、賃金未払い、長時間労働、不当な解雇などのトラブルが絶えない。本講義では、労働法の基礎を学ぶことによって、労使双方が守るべき労働法のルールを理解できるように心掛ける。

◆**学修到達目標** 労働法の体系における労働組合の役割を理解する。労働契約の重要私性を理解し、労働条件は対等な立場での合意に基づき決定すべきことを学ぶ。

◆**授業方法** 教科書とシラバスに従い、講義形式で授業を行う。本年度は、教科書の後半から始める。随時DVD等の映像資料を用いる。

### ◆授業計画〔各90分〕

|     |  |
|-----|--|
| 1回  | 授業内容：（確証は教科書に対応。）第11章 団結権保障と労働組合法<br>事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。<br>事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。 |
| 2回  | 授業内容：第12章 不当労働行為制度<br>事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。<br>事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。                |
| 3回  | 授業内容：第13章 団体交渉と労働協約（第14章は省略）<br>事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。<br>事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。      |
| 4回  | 授業内容：第1章 労働法の原理<br>事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。<br>事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。                   |
| 5回  | 授業内容：第2章 労働基準法の理念と労働契約<br>事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。<br>事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。            |
| 6回  | 授業内容：第3章 就業規則と労働契約<br>事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。<br>事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。                |
| 7回  | 授業内容：第4章 配転・出向・転籍<br>事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。<br>事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。                 |
| 8回  | 授業内容：第5章 賃金の保護<br>事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。<br>事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。                    |
| 9回  | 授業内容：第6章 労働時間の規制<br>事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。<br>事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。                  |
| 10回 | 授業内容：第7章 休憩・休日・年次有給休暇<br>事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。<br>事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。             |
| 11回 | 授業内容：第8章 労働災害の予防と災害補償<br>事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。<br>事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。             |
| 12回 | 授業内容：第9章 女性・非正規労働者と労働法<br>事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。<br>事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。            |
| 13回 | 授業内容：第10章 雇用の終了<br>事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。<br>事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。                   |
| 14回 | 授業内容：全体の復習、補足。<br>事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。<br>事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。                    |
| 15回 | 授業内容：試験。<br>事前学修：試験範囲を復習する。<br>事後学修：自己採点してみる。  |

◆**教科書** 丸沼『労働法・第12版』新谷真人編著 弘文堂 2019年  
[当日資料配布]

◆**参考書** 丸沼『労働判例百選・第9版』ジュリスト 有斐閣 2016年

◆**成績評価基準** 最終授業時の論述試験（100%）。

## 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔行政学〕 変更予定

山田 光矢

- ◆**授業概要** 人類社会の時代的な変化と、各時代の国家や地方公共団体の役割の変質を、W.W. ロストローの「take off の原理」手がかりに分析し、近世からポスト・モダンまでの国家変質と、行政需要の拡大がもたらして行政機構の肥大化と財政赤字の増大に対して、そして今後どのように対応すべきかを、行（財）政改革の実態やあるべき方向性について、行政機構改革や財政改革の実際の例を手がかりに分析していく。
- ◆**学修到達目標** 日本の行（財）政が抱える問題点と、そうした事由が発生した理由やそれへの対応策の適否を分析し、日本の行（財）政改革のあるべき方向性について自分の考えを述べられるようにする。
- ◆**授業方法** 講義形式を中心に基礎的な事項の理解を高めるとともに、項目ごとに討論や質疑応答を行い、各自の考えを確立できるように進めていく。
- ◆**履修条件** やる気さえあればその他の条件は特にありません。
- ◆**授業計画**〔各90分〕

|     |   |
|-----|---|
| 1回  | 授業内容：行政とはどのようなものなのかを、法律学（三権分立）と政治学（五権分立）から説明する<br>事前学修：行政や国家や政治といったものがどのようなものなのかを考えてくる<br>事後学修：政治学と法律学における行政に対する考え方の相違について理解する                |
| 2回  | 授業内容：人類の歴史と文化や文明の変化と国家・政治・行政の変質を説明する<br>事前学修：教科書の第1章を読んで、W.W. ロストローの「take off の原理」を軸に、人類の歴史について考えてくる<br>事後学修：人類の歴史と文化や文明、国家・政治・行政の時代的な変質を理解する |
| 3回  | 授業内容：絶対主義王政下の政治と行政<br>事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる<br>事後学修：イギリス、フランスの絶対主義の特質と、イギリスのエリザベス教団法を理解する  |
| 4回  | 授業内容：行政学前史：三十年戦争と官房学・警察学、資本主義の萌芽とシュタイン行政学<br>事前学修：教科書第1章と配布資料の関係する部分を読んでくる<br>事後学修：官房学・警察学・シュタイン行政学の特徴を理解する                                   |
| 5回  | 授業内容：アメリカ行政学誕生の背景：アメリカ建国とジャクソニアンデモクラシー<br>事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる<br>事後学修：アメリカの独立後の歴史とアメリカ政治の特質を理解する   |
| 6回  | 授業内容：アメリカ行政学の誕生と発展：W. ウィルソンとアメリカ行政学<br>事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる<br>事後学修：W. ウィルソンの行政学の特徴を整理する  |
| 7回  | 授業内容：アメリカ行政学の展開：官僚制擁護論と行政学<br>事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる<br>事後学修：M. ウェーバー、フレイヨール、テーラー、ギューリックらの理論を整理する   |
| 8回  | 授業内容：アメリカ行政学の変質：行政管理論・ホーソン実験と人間関係論<br>事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる<br>事後学修：ホーソン実験がアメリカ行政学やアメリカ社会に与えた影響を整理する   |
| 9回  | 授業内容：世界大恐慌とニューディール政策とケインズ革命<br>事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる<br>事後学修：修正資本主義が政治と行政の関係に与えた影響を整理する  |
| 10回 | 授業内容：行政国家と行財政改革：新自由主義・新保守主義<br>事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる<br>事後学修：大きな政府と小さな政府の特徴と問題点を理解する   |
| 11回 | 授業内容：明治維新と大日本帝国憲法下の日本の行政改革の特色と流れ<br>事前学修：教科書第14章の関係する部分を読んでくる<br>事後学修：戦前の日本の行政改革の流れを理解する  |
| 12回 | 授業内容：日本国憲法制定と新しい行政制度の特徴<br>事前学修：教科書第14章の関係する部分を読んでくる<br>事後学修：戦後日本の行政改革の流れを理解する  |
| 13回 | 授業内容：橋本行革・小泉改革・安倍内閣の行（財）政改革の特徴<br>事前学修：教科書第14章の関係する部分を読んでくる<br>事後学修：平成の行（財）政改革の特色と目的について理解する  |
| 14回 | 授業内容：年金制度から見えてくる日本の行（財）政の改革の実態と問題点<br>事前学修：現在の日本における年金制度の問題点を調べてくる<br>事後学修：年金問題から見えてくる日本の行（財）政の問題点と改革のあるべき方向性を理解する                            |
| 15回 | 授業内容：これまでの講義内容の整理<br>事前学修：これまでの講義の内容を整理してくる<br>事後学修：行政学と行政改革の関係を理解する  |

- ◆**教科書** 丸沼『政治学』吉野篤編・山田光矢他著 弘文堂  
〔当日資料配布〕山田光矢著「行政改革の理論と実態」日本大学法学会編『政経研究』（41-1）
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 試験を60%、平常点を20%、小テストやレポート等を20%程度で評価する。

**注意** E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔国文学講義Ⅵ（現代）〕

尾形 大

◆**授業概要** 本講義は、日本人で最初のノーベル文学賞作家である川端康成の代表的な小説群を通史的に読み進めることを通して、大正後半から戦後までの川端文学の変遷とその特徴を整理していくものです。当然のことですが、文学とは作家個人によってのみ作り出されるものではなく、同時代の社会的・文化的・歴史的な背景との結びつきの中で形成されるものです。川端文学が生み出される背景に関する理解を深めつつ、その世界を押し広げていきましょう。

◆**学習到達目標** 1. 文学を専門的に学ぶための姿勢や方法や概念について学び、文学を〈読む〉ための多様な視点の獲得と分析方法を理解し説明することができる。  
2. 川端文学に組み込まれた同時代性を意識しながら、個別のテキストの位置付けと特徴について説明することができる。

◆**授業方法** 基本的に講義形式で行いますが、定期的な小レポートを課して授業内容の理解度を測り、同時に各人の考えを言葉に表してもらいます。受講生は指定されたテキストを通読した上で問題意識を持って授業に臨んでください。毎時リアクションペーパーを記入してもらい、次の時間に回答することで双方向的な授業を作っていきたいと思います。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |   |
|------|---|
| 1 回  | 授業内容：ガイダンス／川端康成に関する基礎的な情報の解説<br>事前学修：川端康成について調べておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。   |
| 2 回  | 授業内容：『掌の小説』を読む<br>事前学修：『掌の小説』から 1 篇を選んで読んでおくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。   |
| 3 回  | 授業内容：『伊豆の踊子』を読む①―『私』とは誰か<br>事前学修：『伊豆の踊子』前半を読んでおくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。   |
| 4 回  | 授業内容：『伊豆の踊子』を読む②―『名作』化するプロセス<br>事前学修：『伊豆の踊子』後半を読んでおくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。   |
| 5 回  | 授業内容：『伊豆の踊子』を読む③―同時代性と階級差<br>事前学修：『伊豆の踊子』について、自分の考えをノートに整理しておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。   |
| 6 回  | 授業内容：『禽獣』を読む①―人間と〈動物〉<br>事前学修：『禽獣』を読んでおくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。   |
| 7 回  | 授業内容：『禽獣』を読む②―『雪国』への展開<br>事前学修：『禽獣』について自分の考えをノートに整理しておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。  |
| 8 回  | 授業内容：『雪国』を読む①―物語構造と文体<br>事前学修：『雪国』前半を読んでおくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。   |
| 9 回  | 授業内容：『雪国』を読む②―同時代の〈日本回帰〉との応答<br>事前学修：『雪国』後半を読んでおくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。  |
| 10 回 | 授業内容：『雪国』を読む③―映画版との比較<br>事前学修：『雪国』について、自分の考えをノートに整理しておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられた文学テキストを実際に読む。  |
| 11 回 | 授業内容：『水月』を読む①―時間とメタファー<br>事前学修：『水月』前半を読んでおくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。  |
| 12 回 | 授業内容：『水月』を読む②―語り手の位置<br>事前学修：『水月』後半を読んでおくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。  |
| 13 回 | 授業内容：『水月』を読む③―同時代との応答<br>事前学修：1950 年前後の川端康成の活動について調べておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。  |
| 14 回 | 授業内容：『水月』を読む④―戦争とチャタレイ裁判への眼差し<br>事前学修：『水月』について、自分の考えをノートに整理しておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。  |
| 15 回 | 授業内容：試験<br>事前学修：これまでの授業内容をノートにまとめ、全体を見直しておく。試験では授業で扱った以外の川端文学をひとつ選び分析を行ってもらうので、事前に候補を考えてメモをとりながら読んでおくこと。<br>事後学修：これまでの授業内容を確認した上で、自身が選んだ川端文学の特徴について同時代状況と重ね合わせながらもう一度読み直しておく。 |

◆**教科書** 凡沼『雪国』 川端康成 新潮文庫  
凡沼『教科書で読む名作 伊豆の踊子・禽獣ほか』 ちくま文庫

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 授業内で実施するレビューシートおよび小レポート（40%）、第 15 回目に実施するレポート形式の試験（60%）。毎回出席することを前提として評価する。試験に関しては初回に指示するが、一応授業計画の第 15 回を参照しておくこと。

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 【漢字書法】

徳泉 さち

◆**授業概要** 中国における漢字のおこりからはじまり、時代とともにその造形がどのように変遷していったのか、下記の教科書や当日配布するプリント、さらにプロジェクターで写す画像などを通して理解を深めます。そうした書の歴史を知った上で、実際に日本、中国の古典作品を鑑賞し、篆書、隸書、草書、行書、楷書の書体を実際に筆で書きながら、技法やその特徴を学びます。

◆**学習到達目標** 中学校国語科「書写」を指導するための基本的な事項の理解とその技法の習得を目指しつつ、身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くことを学びます。あわせて教科書と当日配布のプリントによって、中国をはじめ日本の各時代における文字の変遷と歴史的背景について発展的な理解を深めることを目指します。

◆**授業方法** 書道実技が主体となる授業です。各自、半紙、下敷き（フェルト状のもの）、中筆（4号筆程度）、小筆、固形墨、硯、文鎮、古新聞を持参ください。特に高価な道具を準備する必要はありませんが、硯はプラスチック製のものではなく、固形墨を磨ることができるものを準備してください。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各90分〕

|     |      |   |
|-----|------|---|
| 1回  | 授業内容 | ガイダンス（授業の進め方、概要を説明。また、書道実技に使用する文房具について説明し、その適切な使い方をレクチャーします）              |
|     | 事前学修 | 各自、書道実技に必要な道具（半紙、下敷き（フェルト状のもの）、中筆（4号筆程度）、小筆、固形墨、硯、文鎮、古新聞）をご準備ください。        |
|     | 事後学修 | 文房四宝と呼ばれる筆、墨、硯、紙の製造法や特質を理解し、その正しい使い方や手入れのしかたを確認する。                        |
| 2回  | 授業内容 | 中学校国語科書写を指導するための知識、技能を学ぶ①書教育の歴史、学習指導要領での位置付け                              |
|     | 事前学修 | 中学校国語科学習指導要領、解説に記されている書写に関する事項に目を通しておいてください。                              |
|     | 事後学修 | 江戸時代の寺子屋にはじまり、文字がどのように教えられてきたのか。現代に至るまでの歴史を確認する。                          |
| 3回  | 授業内容 | 中学校国語科書写を指導するための知識、技能を学ぶ② 授業実践例を確認しながら                                    |
|     | 事前学修 | もし、身の回りに書写の授業を担当する先生、あるいは書道教室を運営されている方がいらっしゃれば、現在の書写教育の状況をインタビューしてみてください。 |
|     | 事後学修 | 現行の中学校国語科書写で使用されている教科書を参照し、授業の内容やその目的を理解する。                               |
| 4回  | 授業内容 | 中学校国語科書写を指導するための知識、技能を学ぶ③ 実際に書写の実技指導をするために必要な技法を学ぶ。                       |
|     | 事前学修 | お手持ちの書道セットで、筆と墨を使って、ご自身のお名前を半紙に書いてみてください。                                 |
|     | 事後学修 | 直線、曲線、はねやはらいなど基本的な文字のパーツの筆使いを反復練習してください。                                  |
| 5回  | 授業内容 | 中学校国語科書写を指導するための知識、技能を学ぶ④ 実際に書写の実技指導をするために必要な技法を学ぶ。                       |
|     | 事前学修 | お手持ちの書道セットで、楷書、行書の漢字を何枚か試し書きしてみてください。                                     |
|     | 事後学修 | 楷書と行書の連筆について、授業で配布した手本を参考に反復練習してください。                                     |
| 6回  | 授業内容 | 漢字のはじまり 甲骨文について   |
|     | 事前学修 | 『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。  |
|     | 事後学修 | 甲骨文字がどのような文字か、その発見から解説にいたるまでの経緯を理解する。                                     |
| 7回  | 授業内容 | 漢字のはじまり 金文について  |
|     | 事前学修 | 『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。  |
|     | 事後学修 | 青銅器とは何か、またそこに鑄込まれた金文の特徴について理解する。  |
| 8回  | 授業内容 | 秦の始皇帝と篆書  |
|     | 事前学修 | 『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。  |
|     | 事後学修 | 篆書とはどのような文字か、秦の時代の作品から理解する。   |
| 9回  | 授業内容 | 漢代の墓碑、隸書について  |
|     | 事前学修 | 『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。  |
|     | 事後学修 | 隸書とはどのような文字か、代表的な漢碑のなりたち、碑文の内容もあわせて理解する。                                  |
| 10回 | 授業内容 | 王羲之の書について1  |
|     | 事前学修 | 『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。  |
|     | 事後学修 | 王羲之の代表的な作品である蘭亭序について、その作品の概要、書法史上の位置付けを理解する。                              |
| 11回 | 授業内容 | 王羲之の書について2  |
|     | 事前学修 | 『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。  |
|     | 事後学修 | 王羲之の書が、後世どのように伝来してきたのか。日本書道史に与えた影響を理解する。                                  |
| 12回 | 授業内容 | 蘭亭序偽作説をめぐって 中国南北朝時代の書について   |
|     | 事前学修 | 『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。  |
|     | 事後学修 | 蘭亭序偽作説とは、どのような論争だったのか理解する。  |
| 13回 | 授業内容 | 初唐の三大家について1   |
|     | 事前学修 | 『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。  |
|     | 事後学修 | 欧陽詢、虞世南、褚遂良のそれぞれの書の個性を理解する。   |
| 14回 | 授業内容 | 初唐の三大家について2   |
|     | 事前学修 | 『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。  |
|     | 事後学修 | 欧陽詢、虞世南、褚遂良のそれぞれの書の個性を理解する。   |
| 15回 | 授業内容 | まとめ   |
|     | 事前学修 | 近隣的美術館、博物館のコレクションなどをHPで閲覧し、どのような書作品があるか調べてみてください。                         |
|     | 事後学修 | この授業で扱った内容について復習し、近隣的美術館、博物館にでかけてさまざまな書作品を鑑賞してください。                       |

◆**教科書** 丸岡『書の古典と理論』全国大学書道学会編 光村図書 2020年

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** 授業への取り組み・態度（60パーセント）と提出作品（40パーセント）によって、総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意



# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英文法〕

真野 一雄

◆**授業概要** 準動詞 形容詞 名詞句と文構造の多様性 代用表現 関係詞 特殊構文 について、テキストの解説、練習問題を通して英文構造を深く理解する。

◆**学修到達目標** 英文学専攻の学生として必要な英文法知識を基礎的及び全般的に修得し、正確な英語の文法解釈ができるようになる。

◆**授業方法** テキスト本文の解説、補足説明を行います。設問、練習問題も行います。必要に応じて別途、練習問題を行うこともあります。章末の応用問題は時間の関係で割愛します（解答はポータルに掲載します）。

### ◆授業計画（各 90 分）

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 回  | 授業内容 | テキスト本文の解説、補足説明を行います。設問、練習問題も行います。必要に応じて別途、練習問題を行うこともあります。章末の応用問題は時間の関係で割愛します（解答はポータルに掲載します）。 |
|      | 事前学修 | テキスト p. 105-p. 111 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。  |
|      | 事後学修 | 学修内容をまとめ、理解を深めておく。   |
| 2 回  | 授業内容 | 第 7 章 準動詞 7.4 準動詞の意味上の主語 7.5 準動詞の表す「時」   |
|      | 事前学修 | テキスト p. 111-p. 117 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。  |
|      | 事後学修 | 学修内容をまとめ、理解を深めておく。   |
| 3 回  | 授業内容 | 第 7 章 準動詞 7.6 準動詞の形容詞的用法 7.7 不定詞と動名詞の意味の相違   |
|      | 事前学修 | テキスト p. 117-p. 122 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。  |
|      | 事後学修 | 学修内容をまとめ、理解を深めておく。   |
| 4 回  | 授業内容 | 第 8 章 形容詞 8.1 形容詞の定義 8.2-3 形容詞の意味的特性   |
|      | 事前学修 | テキスト p. 124-p. 132 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。  |
|      | 事後学修 | 学修内容をまとめ、理解を深めておく。   |
| 5 回  | 授業内容 | 第 8 章 形容詞 8.4 形容詞を含む複雑な構造 8.5 比較構文   |
|      | 事前学修 | テキスト p. 132-p. 137 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。  |
|      | 事後学修 | 学修内容をまとめ、理解を深めておく。   |
| 6 回  | 授業内容 | 第 8 章 形容詞 8.6 形容詞に相当する表現 8.7 「形容詞」の全体像   |
|      | 事前学修 | テキスト p. 137-p. 138 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。  |
|      | 事後学修 | 学修内容をまとめ、理解を深めておく。   |
| 7 回  | 授業内容 | 第 9 章 名詞句と文構造の多様性 9.1 名詞句の主要部 9.2 同格 9.3 文名詞句  |
|      | 事前学修 | テキスト p. 140-p. 144 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。  |
|      | 事後学修 | 学修内容をまとめ、理解を深めておく。   |
| 8 回  | 授業内容 | 第 9 章 名詞句と文構造の多様性 9.4 間接疑問と潜伏疑問 9.5 話法 9.6 句読法   |
|      | 事前学修 | テキスト p. 145-p. 150 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。  |
|      | 事後学修 | 学修内容をまとめ、理解を深めておく。   |
| 9 回  | 授業内容 | 第 10 章 代用表現 10.1 代名詞 10.2 代用形  |
|      | 事前学修 | テキスト p. 151-p. 160 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。  |
|      | 事後学修 | 学修内容をまとめ、理解を深めておく。   |
| 10 回 | 授業内容 | 第 10 章 代用表現 10.3 省略  |
|      | 事前学修 | テキスト p. 160-p. 162 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。  |
|      | 事後学修 | 学修内容をまとめ、理解を深めておく。   |
| 11 回 | 授業内容 | 第 11 章 関係詞 11.1-5 関係詞の機能と種類 など   |
|      | 事前学修 | テキスト p. 164-p. 172 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。  |
|      | 事後学修 | 学修内容をまとめ、理解を深めておく。   |
| 12 回 | 授業内容 | 第 11 章 関係詞 11.6-10 独立関係節など   |
|      | 事前学修 | テキスト p. 172-p. 179 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。  |
|      | 事後学修 | 学修内容をまとめ、理解を深めておく。   |
| 13 回 | 授業内容 | 第 12 章 特殊構文 12.1 特殊構文とは 12.2 文法的な仕組みとしての特殊構文   |
|      | 事前学修 | テキスト p. 181-p. 189 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。  |
|      | 事後学修 | 学修内容をまとめ、理解を深めておく。   |
| 14 回 | 授業内容 | 第 12 章 特殊構文 12.3 音声的な仕組み 12.4 特殊構文の存在理由  |
|      | 事前学修 | テキスト p. 189-p. 190 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。  |
|      | 事後学修 | 学修内容をまとめ、理解を深めておく。   |
| 15 回 | 授業内容 | 試験とその解説  |
|      | 事前学修 | 第 7～12 章の総復習をし、重要事項を正確に理解しておく。   |
|      | 事後学修 | 第 7～12 章の総まとめをし、英文構造の理解を徹底させる。   |

◆**教科書** 『大学生のための現代英文法』『大学生のための現代英文法』 開拓社 開拓社

◆**参考書** 『現代英文法講義』 安藤貞雄 開拓社  
『英文法解説』 江川泰一郎 金子書房  
『ジーニアス総合英語』 大修館書店

◆**成績評価基準** 全出席を前提に、試験 100% で評価の予定。（試験は途中退出なしです）

## 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

### 〔広告論〕

雨宮 史卓

◆**授業概要** 広告及び宣伝、PR、プロモーション等の意義を理解し、マーケティング戦略の中でいかにこれらが機能しているかを学ぶ。また、広告戦略についても考察し、広告が様々な企業組織や生活者の間に存在するコミュニケーション活動であることを理解する。できるだけ身近な事例を用いて理論を解説するように心掛け、実務経験から得た知識を具体例として挙げる。

◆**学修到達目標** 1 プロモーション活動における広告の基本的機能と役割が理解できる。  
2 広告及び宣伝、PR、プロモーション等の意義を理解し、マーケティング戦略の中でこれらが、どのように機能しているかを説明できる。  
3 市場動向や時代背景を見極めながら、広告コンセプトがどのように立案されていくかが理解できる。

◆**授業方法** ターン前半はテキストに沿いながら広告の基本機能を解説し、後半は必要に応じて資料を配布して企業の広告戦略を解説する。また、各授業の後半で、その日の主要なテーマに関するリアクション・ペーパー（小論文）の提出を求める。

◆**履修条件** 昼間スクーリング（前期）受講者は受講不可。

◆**授業計画**〔各90分〕

|     |      |   |
|-----|------|---|
| 1回  | 授業内容 | 授業の進め方 オリエンテーション 広告とは何か？  |
|     | 事前学修 | テキスト20～21頁の広告の基本的な考え方をよく読んでおくこと。                                  |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。                |
| 2回  | 授業内容 | 広告の基本的機能と役割   |
|     | 事前学修 | テキスト32～36頁の広告コミュニケーションの基本的考え方をよく読んでおくこと。                          |
|     | 事後学修 | 配布資料をノートにまとめ、テキストの第1章を要約しておくこと。                                   |
| 3回  | 授業内容 | マーケティング戦略とプロモーション戦略   |
|     | 事前学修 | テキスト第1章の要約を読み返し、15頁の図を見て、マーケティングとプロモーションの関係を把握しておくこと。             |
|     | 事後学修 | テキストの図と配布資料の図表を見比べて、その内容をノートに整理しておくこと。                            |
| 4回  | 授業内容 | プロモーション戦略と広告  |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートと配布資料を確認し、テキスト19頁の表をノートに書き写しておくこと。                       |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、プロモーション戦略の種類とその内容を確認しておくこと。      |
| 5回  | 授業内容 | 高価格製品の広告戦略  |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートを確認し、テキスト36～41頁をよく読んでおくこと。                               |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。                     |
| 6回  | 授業内容 | コモディティ製品の広告戦略   |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートを確認し、テキスト41～50頁をよく読んでおくこと。                               |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、コモディティ製品の特徴を理解し、配布資料の事例を確認しておくこと。                   |
| 7回  | 授業内容 | 広告コンセプトの考え方   |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートを確認し、テキスト57～63頁をよく読んでおくこと。                               |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、「広告コンセプトの考え方」「広告の3Bの法則」「色彩マーケティング」の内容をノートに要約しておくこと。 |
| 8回  | 授業内容 | データ分析と広告露出  |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートを確認し、テキスト63～67頁をよく読んでおくこと。また、配布資料に目を通しておくこと。             |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、定量データと定性データの違いや、ポストモダン・マーケティングの内容を理解しておくこと。         |
| 9回  | 授業内容 | 時間の概念と広告戦略  |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートを確認し、テキスト67～80頁をよく読んでおくこと。また、配布資料に目を通しておくこと。             |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。                     |
| 10回 | 授業内容 | 広告コンセプトとタイム・マーケット   |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートを確認し、テキスト83～88頁をよく読んで、タイム・マーケットの現状を理解しておくこと。             |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、テキスト85頁の表をノートに書き写しておくこと。                            |
| 11回 | 授業内容 | タイム・マーケットの新たな視点と広告コンセプト   |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートを確認し、テキスト88～103頁をよく読んでおくこと。                              |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、テキスト103頁の表をノートに書き写しておくこと。                           |
| 12回 | 授業内容 | 消費者行動と商品ベネフィット  |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートを確認し、テキスト105～116頁をよく読んでおくこと。                             |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、「消費者シグナル」の概念を理解しておくこと。                              |
| 13回 | 授業内容 | サービスに対する広告・プロモーションの考え方  |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートを確認し、テキスト120～131頁をよく読んでおくこと。                             |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、テキスト120頁、128～129頁の図表をノートに書き写しておくこと。                 |
| 14回 | 授業内容 | 前期授業の総まとめ   |
|     | 事前学修 | 予め配布された資料を熟読し、テキスト該当箇所を事前にノートにまとめておくこと。                           |
|     | 事後学修 | 要点項目として配布資料に挙げたものを、再確認し授業内容をノートに整理しておくこと。                         |
| 15回 | 授業内容 | テストと解説  |
|     | 事前学修 | 前回の授業内で指摘した広告戦略の事例を、前もって調べておくこと。                                  |
|     | 事後学修 | 授業内容を確認・理解して、自身が調べた広告戦略の事例が適切かどうかを再確認すること。                        |

◆**教科書** 教材「広告論 S30900」  
〔当日資料配布〕必要に応じて資料を配布する

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** テスト（40%）、小論文（40%）、平常点（20%） 授業の取り組み、小論文、テストにより総合的に評価します。

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔人文地理学概論〕

小倉 眞

◆**授業概要** 地理学は自然環境と社会との関係について分析・整理する学問であることを念頭に置き、環境条件としての気候、地域社会の自然的特徴、人口の偏在性と食料との関係、農村の地域的展開過程、工業発展と地域条件、都市化と都市構造などについて、地理学的視点から理解・整理できるように心掛ける。また、本年度は地形図の読図や地図作業も取り入れて学修する。

◆**学修到達目標** 環境（自然・社会）の地域的特徴や変動と、これに対応しながら展開する世界や日本の地域社会の多様性と社会発展について分析・整理し、地域が持つ特質を位置づけることによって、地理学の基本的視角について学修することができる。同時に教科としての教育視点について修得することができる。

◆**授業方法** 配布するレジュメおよび資料（地図・統計・写真等）を用いて授業を進める。授業は基本的には講義形式で行うが、特定テーマについては発表・討議の時間を設定する。

\*色鉛筆（赤・橙・黄・緑等）を準備すること

### ◆授業計画〔各 90 分〕

|      |                      |  |
|------|----------------------|--|
| 1 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 人文地理学はどのような学問か ― 地理学における位置づけを中心として ―<br>地理学の構成（自然地理学・人文地理学）について事前に調べる。<br>レジュメに基づいて系統地理学の位置づけや「地域」の関係について整理する。   |
| 2 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | なぜ赤道地域が熱帯なのか？ 気候分布のメカニズムとその特徴について解説する ― 世界の気候と自然環境の特徴 ―<br>レジュメを見て世界の大気候区について整理する。<br>気候区分図に基づいて、サバナ気候区や西岸海洋性気候区の分布と気候の特徴についてまとめ、レポートを作成する。                |
| 3 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | アジアに人口が集中する要因について農業との関係で考える ― 世界の人口と分布の偏在性について ―<br>事前に世界人口の現況や人口構成の特徴、及びアジアとヨーロッパで展開する農業の基本構造について調べてみる。<br>食料と人口収容力との関係について、ノート・レジュメ等により整理する。             |
| 4 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 日本の農村の成立とその特質について考察する ― 律令国家成立時の条里水田村の例 ―<br>条里制農村成立の意味やその特質について調べてみる。<br>配布資料の地形図を利用して、条里地割の特徴、分布構造などについて整理する。地形図に水田区割りを色分けして分析する。                        |
| 5 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 日本農村の発展過程に関して「自然と社会との関係」の視点で考察する― 扇状地地形の特色と地域 ― 地形図の読図を学修する<br>扇状地地形の特色や土地利用について、三角州と対比して整理してみる。<br>授業で学修した内容に基づいて、地形図の読図作業をし、その特徴について整理する。（レポート作成の準備をする）  |
| 6 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 黒部川扇状地地域を事例に近世・近代の農村開発について考察する。<br>近世における藩政村の対応・特色について事前に調べてみる。<br>日本海側に位置する地域に関して、自然的特徴（気候等）や社会的位置づけについて整理する。   |
| 7 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 近代から現代に至る農村の展開過程について、自然条件の足かせやその条件故の利点について分析・考察する（発表・討論あり）<br>地形的特徴と社会の発展、技術の進歩などの関係について考えてみる。（レポート提出のための作業をする）<br>社会の状況変化や社会発展と地域の展開について、討論内容を整理しながら整理する。 |
| 8 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 資源の偏在と工業立地・立地移動について検証する<br>レジュメを見て資源産出量の特に多い地域・国を整理してみる。<br>とくにレアメタル等の工業的利用と産出国についてまとめる。   |
| 9 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 産業革命早期のイギリスにおける工業立地と自然的・社会的関係について考察する。<br>イギリス西海岸地域における綿織物工業の立地要因について調べてみる。<br>イギリスの資源分布と工業立地の関係、とくに立地移動について整理する。  |
| 10 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 日本における高度経済成長の牽引力となった鉄鋼業の立地移動と、現在の工業立地について考察する<br>配布資料の「日本の工業」の立地状況及びその特色について検証する。<br>日本における資源賦存状況と高度経済成長下の工業立地の特色について整理する。                                 |
| 11 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | アメリカ合衆国における資源の賦存と鉱業・工業の立地、及び現代の工業立地移動と工業地域の特色を考察する<br>五大湖沿岸地域の工業立地の内容と、サンベルト地帯への立地移動について調べてみる。<br>アメリカ合衆国におけるハイテク産業地域の発展についての要因と展開状況を整理する。                 |
| 12 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | オーストラリアの資源と産業立地、経済構造の特色について考察する。<br>オーストラリアの資源分布と鉱業立地について調べる。<br>ノート・レジュメを見て、オーストラリアの産業立地・都市の配置と経済の基本構造について整理する。   |
| 13 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 都市化の定義と都市化過程について考察する ― 日本の都市化と都市問題 ―<br>レジュメを見て、都市の高度化・拡大と、都市化との関係について調べてみる。<br>日本における急速な都市化と土地利用規制策・促進策などについて整理し、その問題点についてまとめる。                           |
| 14 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 都市中心部の展開過程について「都市内部構造論」の観点から考察する<br>都心地域周辺にスラム地区がなぜ形成されるか資料を調べ、考えてみる。<br>各「都市内部構造論」の提起内容を整理し、理論的特徴と問題点についてまとめる。  |
| 15 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 試験及び解説<br>試験範囲を中心にまとめる。<br>地域の諸現象と地理学の関係について確認する。  |

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 当日資料等のプリントを配布する。

〔丸図〕 地図帳（高等学校等で使用の地図帳）

◆**参考書** 〔教材〕『人文地理学概論 T22200』 通信教育教材（教材コード 000422）

◆**成績評価基準** テスト 75%、レポート 15%、授業の参画度（10%）により総合的に評価する。

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔教育原論 / 教育の思想 B〕

渡辺 典子

◆**授業概要** 過去から現在に至るまでの学校の変遷とそれを支えている教育理念を理解し、歴史認識を培うことで、現在の教育に対する視点を持つことを目的とする。

◆**学修到達目標** ①近代の教育を支えている理念や思想に関する基礎的な知識を身につけることができる。

②現代社会における教育課題を考える際の歴史的視点を身につけることができる。

③人間の育ちとジェンダーとのかかわりを理解することができる。

◆**授業方法** 主な授業方法は教科書に沿った講義形式であるが、できるだけ視聴覚教材を用い、またグループワークも取り入れる予定である。

### ◆授業計画〔各90分〕

|     |   |
|-----|---|
| 1回  | 授業内容: イントロダクションー教育の本質・目標ー<br>事前学修: テキスト p. 1-2 を読んでおくこと。<br>事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。                     |
| 2回  | 授業内容: 近世の子どもと教育<br>事前学修: テキスト p.41-55 の太字の項目内容に目を通すこと。<br>事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。                       |
| 3回  | 授業内容: 近代教育の成立<br>事前学修: テキスト p.64-68 の太字の項目内容に目を通すこと。<br>事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。                         |
| 4回  | 授業内容: 天皇制教育体制の確立と展開<br>事前学修: テキスト p.85-88 を読んでおくこと。<br>事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。                          |
| 5回  | 授業内容: 良妻賢母教育の成立<br>事前学修: テキスト p.99, 101-102 を読んでおくこと。<br>事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。                        |
| 6回  | 授業内容: 教員養成と教科書<br>事前学修: テキスト p.70, 103-104 を読んでおくこと。<br>事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。                         |
| 7回  | 授業内容: 大正デモクラシー期における社会と教育の再編<br>事前学修: テキスト p.115 - 120 の太字の項目内容に目を通すこと。<br>事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。       |
| 8回  | 授業内容: 児童中心主義の教育<br>事前学修: テキスト p.127-128, 130-131 を読んでおくこと。<br>事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。                   |
| 9回  | 授業内容: 教育を受ける権利<br>事前学修: テキスト p.128-129 を読んでおくこと。<br>事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。                             |
| 10回 | 授業内容: 大正期の女性と教育<br>事前学修: テキスト p.106-107 を読んでおくこと。<br>事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。                            |
| 11回 | 授業内容: 大正期の社会教育<br>事前学修: テキスト p.115-116 を読んでおくこと。<br>事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。                             |
| 12回 | 授業内容: 昭和前期の教育と子ども<br>事前学修: テキスト p.138, p.141-142, p.149-153 の太字の項目内容に目を通すこと。<br>事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。 |
| 13回 | 授業内容: 昭和前期の女性の教育<br>事前学修: テキスト p.150 を読んでおくこと。<br>事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。                               |
| 14回 | 授業内容: 昭和前期の男性の教育<br>事前学修: テキスト p.151 を読んでおくこと。<br>事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。                               |
| 15回 | 授業内容: まとめ<br>事前学修: これまでの授業内容を確認しておくこと。<br>事後学修: これまで学んだことを現在の教育に対する視点につなげること。                           |

◆**教科書** 丸沼『教育から見る日本の社会と歴史』第2版 片桐芳雄他 八千代出版 2017.3

◆**参考書** 丸沼『図説教育の歴史』横須賀薫監修 河出書房新社 2008.10

◆**成績評価基準** 試験（50%）、適宜課す感想文などの課題（30%）、授業参加における発言や貢献度（20%）

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔特別支援教育概論〕 オープン受講：不可

田尻 由起

- ◆**授業概要** 教員養成課程の中で、特別支援教育に関する最も基本となる科目である。障害児教育に関する制度・歴史をはじめ、様々な障害やその他、教育的支援ニーズを持つ、児童、生徒の教育・心理・生理・指導法について概説する。また障害のある児童、生徒にとどまらず、個々の違いを認識しつつ、様々な人々が活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育について、理解を深める。
- ◆**学習到達目標** 通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害を持つ児童・生徒や、障害はないが支援を必要とする児童、生徒が学校生活、および学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学んでいけるよう、①児童、生徒の学習上、生活上の困難を理解し、②指導の方法を身につけ、③個別の教育的ニーズに対して、他教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を身につける。
- ◆**授業方法** 基本的にはテキストに沿って講義形式で行われるが、講義中、簡単な疑似体験、支援の実態についてのVTR視聴、事例検討等を含み、その後リアクションペーパーを作成し提出。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画〔各90分〕**

|     |      |  |
|-----|------|--|
| 1回  | 授業内容 | オリエンテーション、特別支援教育の理念と制度、歴史を知る   |
|     | 事前学修 | 教科書3～56頁を読んで理解しておくこと。また、ニュースや新聞等で話題になっている特別支援教育に関する話題について、理解し、自分なりの意見を持っておく。                     |
|     | 事後学修 | 授業内容について整理し、ノートにまとめておく。初日の授業を聞いて、自分のイメージしていた特別支援教育との差異について考えをまとめる。                               |
| 2回  | 授業内容 | 障害の状態像の理解と指導・支援Ⅰ：聴覚障害、視覚障害、肢体不自由、知的障害、病弱児及び教育上の医療的配慮   |
|     | 事前学修 | 教科書59～118頁を読んで理解しておくこと。  |
|     | 事後学修 | それぞれの障害像を整理するとともに、それぞれの教育的支援ニーズ、指導、支援についてまとめる。   |
| 3回  | 授業内容 | 障害の状態像の理解と指導・支援Ⅱ：発達障害の概要とDSM-5   |
|     | 事前学修 | 教科書119～166頁まで読んでおくこと。また発達障害に関する今日の話題について、新聞、ニュース等から学んでおく。  |
|     | 事後学修 | 多様な発達障害の障害像について整理し、理解しておくこと。   |
| 4回  | 授業内容 | 就学前の早期支援と就学前後の移行支援：乳幼児期、学齢期の子ども達の発達を理解するとともに、スクリーニングや早期支援の実態を学ぶ。また就学前後や小学校から中学校への移行時の移行支援について学ぶ。 |
|     | 事前学修 | 乳幼児期から青年期にかけての発達について理解しておく。  |
|     | 事後学修 | 学齢期前の子どもたちの姿の理解を深めるとともに、幼児期から小学校へ、また小学校から中学校への移行支援のポイントについて、まとめる。                                |
| 5回  | 授業内容 | 特別支援教育に関する教育課程、教育制度の理解Ⅰ：普通学級、通級、特別支援学級等における教育課程について学ぶ。また各教科の指導法や自立活動の指導法について学ぶ。                  |
|     | 事前学修 | 特別支援教育における様々な授業実践について、インターネットや本などを通して学んでおく。  |
|     | 事後学修 | 授業で学んだことについて、使用テキスト以外の書籍にも目を通し、自らの実践の際の参考となるよう、復習する。   |
| 6回  | 授業内容 | 特別支援教育に関する教育課程、教育制度の理解Ⅱ：学校教育における目標と各種「計画」、及びカリキュラムマネジメント   |
|     | 事前学修 | インターネット等で学校教育、特別支援教育にかかわる各種「計画」について内容やその書式に目を通しておく。  |
|     | 事後学修 | 授業で学んだことについて、使用テキスト以外の書籍にも目を通し、自らの実践の際の参考となるよう、復習する。   |
| 7回  | 授業内容 | 1. インクルーシブな学校と特別な支援の必要のない幼児児童生徒<br>2. 関係機関との連携：①地域の支援体制と特別支援教育コーディネータ、②教育と福祉・医療・労働機関との連携         |
|     | 事前学修 | 教科書17-31頁を再読しておくこと。また169～109頁を読んで理解しておくこと。   |
|     | 事後学修 | 特別支援教育にかかわる「学校」以外の多様な資源についても興味を持ち、理解を深めること。  |
| 8回  | 授業内容 | 特別支援教育の視点を取り入れたクラスづくり・授業づくり・学校づくり  |
|     | 事前学修 | これまでの学習の復習をしておくこと。また実際に担任としてクラス運営をしていくことを意識しながら授業の望むこと。  |
|     | 事後学修 | 授業で学んだことについて、使用テキスト以外の書籍にも目を通し、自らの実践の際の参考となるよう、復習しておく。   |
| 9回  | 授業内容 |  |
|     | 事前学修 |  |
|     | 事後学修 |  |
| 10回 | 授業内容 |  |
|     | 事前学修 |  |
|     | 事後学修 |  |
| 11回 | 授業内容 |  |
|     | 事前学修 |  |
|     | 事後学修 |  |
| 12回 | 授業内容 |  |
|     | 事前学修 |  |
|     | 事後学修 |  |
| 13回 | 授業内容 |  |
|     | 事前学修 |  |
|     | 事後学修 |  |
| 14回 | 授業内容 |  |
|     | 事前学修 |  |
|     | 事後学修 |  |
| 15回 | 授業内容 |  |
|     | 事前学修 |  |
|     | 事後学修 |  |

- ◆**教科書** 凡沼「MINERVA 初めて学ぶ教職⑨ 特別支援教育―共生社会の実現に向けて―」小林秀之 米田宏樹 安藤隆男  
当日資料配布
- ◆**参考書**
- ◆**成績評価基準** 疑似体験や模擬授業、グループ討議、等を実施するため、授業への参加度を重視する（リアクションペーパーを含む）（40%）、定期試験（60%）
- ◆**授業相談（連絡先）**：基本的には授業時間に受け付ける。その他の時間帯については初回授業の際に案内する。

注意



# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔博物館教育論〕 オープン受講：不可

岡部 幹彦

◆**授業概要** 博物館教育の目的とその特性を理解し、基本となる理論と実践方法に関する知識と方法を修得する。これにより博物館の教育機能に関する基礎能力を養い、《学びの契機の提供》《学びのサポート》《学びのサイクルの創出》に必要な知識・能力を身につける。また、博物館教育と学校教育との関係を理解し連携事業を推進する能力を養う。博物館学芸員としての経験を活かし、内外の優れた事例を紹介するとともに博物館教育に必要なコミュニケーション能力について学び、博物館教育事業の企画力・実践力を身につける。

◆**学修到達目標** 1. 博物館教育に携わる学芸員として多様で魅力的な教育事業を企画・実践する基礎能力を身につけるとともに、あらゆる博物館事業を教育的視点から捉えることができる。2. 市民の学びをサポートするために必要なコミュニケーション能力について理解し育むことができる。3. 他の機関や組織、市民グループ等と連携して地域の学びをサポートすることを説明できる。

◆**授業方法** 毎回の授業時に資料を配付し、スライドを用いて講義形式で進行することを基本とするが、積極的な学修姿勢と理解を促すため、事前学習課題ほか適宜テーマを設けて発言を求める。博物館教育に係る映像資料や実物資料を用いて多様な視点を提供するとともに、教育事業の企画書の作成を体験する。また、各授業終了時に必要に応じ要点確認レポートの提出を求める。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

|      |   |
|------|---|
| 1 回  | 授業内容：《ガイダンス》授業の進め方と留意点、博物館の定義・機能と博物館教育<br>事前学修：博物館の教育事業についてどのような事業が実施されているか種類の異なる館について調べておくこと<br>事後学修：博物館法・ICOM の定義を理解し、博物館教育の目的等について整理しておくこと |
| 2 回  | 授業内容：博物館教育の特質、博物館ならではの教育とは、教育・学習と自由な学び<br>事前学修：博物館以外の社会教育施設について調べ理解しておくこと<br>事後学修：博物館ならではの教育事業の事例を調べ、その概要をまとめておくこと                            |
| 3 回  | 授業内容：モノから学ぶこと モノの意味、歴史的価値・学術的価値・芸術的価値、観察と鑑賞<br>事前学修：観察という行為と認識について調べておくこと<br>事後学修：1 点の有形の文化遺産を例として、これに係るモノ・コト・ヒト・環境などの要素を書き出して理解を深めること        |
| 4 回  | 授業内容：展示と教育 展示テーマと学び、展示と資料情報の提供—内外の事例から<br>事前学修：博物館の展示を観覧しどのようななかたちで資料情報が提供されているか調べておくこと<br>事後学修：1 点の資料・作品を選び、講義内容を踏まえた解説を作成すること               |
| 5 回  | 授業内容：学びの契機の提供と学びのサポートから学びのサイクルの創出へ<br>事前学修：博物館と良好な関係を保ち活動する自主的な学習団体について調べ、その概要をノートに整理しておくこと<br>事後学修：事前学修で調べた学習団体について当該博物館が行うサポートを整理すること       |
| 6 回  | 授業内容：学びの手法 ワークショップ本来の意味から学びの手法を考える、主体的な学びとファシリテーターの役割、気づきと気づきの共有を通じて学ぶ<br>事前学修：ワークショップの歴史と本来の意味を調べ理解しておくこと<br>事後学修：ワークショップを企画・立案し、企画書を作成すること  |
| 7 回  | 授業内容：事例に学ぶ(1) 教育事業の企画と実践<br>事前学修：博物館の子ども向け教育事業について調べておくこと<br>事後学修：教育事業を企画する際に考慮すべき点について整理して理解すること   |
| 8 回  | 授業内容：事例に学ぶ(2) 多様な博物館教育、ICT ツールと博物館教育<br>事前学修：博物館のウェブ上の学習コンテンツを調べ利用すること<br>事後学修：事前学修で調べた学習コンテンツについて講義を踏まえて評価すること                               |
| 9 回  | 授業内容：博物館を学ぶ 博物館を学ぶプログラム、博物館リテラシー、人材育成<br>事前学修：博物館リテラシーについて調べておくこと<br>事後学修：博物館を学ぶプログラムの事例を調べ博物館機能との関係を整理し理解すること                                |
| 10 回 | 授業内容：学びとコミュニケーション、知識・情報の伝達から理解の共有へ<br>事前学修：「コミュニケーション能力」とは一般にどのようなものとされているか調べておくこと<br>事後学修：興味・関心の深化を促すためのコミュニケーションについて整理しておくこと                |
| 11 回 | 授業内容：博物館と学校教育(1) 学校教育と博物館教育、総合的な学習の時間と博学連携<br>事前学修：総合的な学習の時間について各自の体験を整理し、評価しておくこと<br>事後学修：博物館教育と学校教育との関係を整理しておくこと                            |
| 12 回 | 授業内容：博物館と学校教育(2) 博学連携事業の現状と課題、授業科目と博物館利用<br>事前学修：博学連携事業について各自の経験を整理し、評価しておくこと<br>事後学修：講義で取り上げた事例以外の優れた博学連携事業を調べ評価すること                         |
| 13 回 | 授業内容：市民の学習活動と博物館 生涯学習と博物館 ボランティアと学び<br>事前学修：生涯学習の本質と意義について整理しておくこと<br>事後学修：学習に係わるボランティア活動の事例を調べその概要を整理し、評価すること                                |
| 14 回 | 授業内容：内外の博物館教育 社会の課題と博物館教育<br>事前学修：ESD（持続可能な開発のための教育）について調べておくこと<br>事後学修：博物館に係る 1960 年のユネスコ勧告について要点を整理しておくこと                                   |
| 15 回 | 授業内容：まとめ 博物館教育の可能性と学芸員の果たすべき役割 【試験】<br>事前学修：博物館の各種事業における教育・学習要素を整理しておくこと<br>事後学修：講義を踏まえ博物館教育に求められる学芸員像を整理しておくこと                               |

◆**教科書** 当日資料配布

◆**参考書** 図録『博物館概論 Y20300』（教材コード 00092）

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（20%）、要点確認レポート（20%）、試験（60%）

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

| 第1期             |             | 8/3～8/8       |      |                       |
|-----------------|-------------|---------------|------|-----------------------|
| 講座名             | 担当教員        | シラバス変更        | 募集定員 | 備考                    |
| 法学（日本国憲法2単位を含む） | 水野 正        |               | 全    |                       |
| 歴史学             | 堀川 徹        | あり            | 50   | <del>シラバス未掲載</del>    |
| 英語Ⅰ～Ⅳ           | マイケル ギルロイ   | <del>あり</del> | 75   | 昼間（前期）受講不可            |
| 英語Ⅰ～Ⅳ           | 賀美 真之介      |               | 全    |                       |
| 保健体育講義Ⅰ         | 高橋 正則・水落 文夫 |               | 75   | 月～水の3日間の動画配信          |
| 憲法              | 名嶋 健二       | あり            | 75   | 昼間（前期）受講不可            |
| 商法Ⅲ             | 大久保 拓也      | あり            | 全    |                       |
| 民法Ⅳ             | 加藤 雅之       | あり            | 全    |                       |
| 労働法             | 新谷 真人       |               | 全    |                       |
| 民法Ⅴ             | 大杉 麻美       | あり            | 50   |                       |
| 行政学             | 山田 光矢       | <del>あり</del> | 全    |                       |
| 国文学講義Ⅱ（中古）      | 笹生 美貴子      | あり            | 全    |                       |
| 国文学講義Ⅵ（現代）      | 尾形 大        |               | 全    |                       |
| 漢字書法            | 徳泉 さち       |               | 30   | 前半                    |
| 西洋古典            | 福島 昇        | あり            | 全    | <del>シラバス未掲載</del>    |
| 英語学概説           | 山岡 洋        | あり            | 全    |                       |
| 英語学演習Ⅰ～Ⅲ        | 小澤 賢司       |               | 30   | 後半 <del>シラバス未掲載</del> |
| 英文法             | 真野 一雄       |               | 全    |                       |
| 倫理学基礎講読         | 関谷 雄磨       | あり            | 全    | シラバス変更追加              |
| 東洋史特講Ⅱ          | 高綱 博文       | あり            | 30   | 後半（ZOOM）              |
| 情報概論            | 中村 典裕       | あり            | 全    | 昼間（前期）受講不可            |
| 経済開発論           | 前野 高章       | あり            | 全    |                       |
| 広告論             | 雨宮 史卓       | <del>あり</del> | 75   | 昼間（前期）受講不可            |
| 人文地理学概論         | 小倉 真        |               | 50   |                       |
| 英語科教育法Ⅲ         | リチャード キャラカー | あり            | 30   | 前半 <del>シラバス未掲載</del> |
| 国語科教育法Ⅰ         | 野澤 拓夫       | あり            | 30   | 後半 <del>シラバス未掲載</del> |
| 教育原論/教育の思想      | 渡辺 典子       |               | 30   | 前半                    |
| 特別支援教育概論        | 田尻 由起       |               | 30   | 7日・8日の2日間             |
| 博物館教育論          | 岡部 幹彦       |               | 全    |                       |

変更シラバスは後日掲載します

黄色：市ヶ谷校舎での面接授業（3日間授業）

オレンジ：ライブ配信授業（3日間授業）

白：Google classroomによる映像配信授業（月曜日～土曜日6日間授業）

前半：8月3日～8月5日（9：00～17：30）3日間のみの授業

後半：8月6日～8月8日（9：00～17：30）3日間のみの授業

※特別支援教育概論は7日・8日の対面授業

# 講座内容（シラバス）

## 〔歴史学〕

堀川 徹

◆**授業概要** 本講義では、歴史学の目的や特徴などを解説し、具体例として奈良時代までの日本古代史を中心とした講義を行う。様々な論点を取り上げ、多面的に考察し、それらの因果関係を明らかにしていく。主に基本となる政治史、そこから派生する女帝論、それらを支えた社会の3つをテーマとして講義を行う。本講義を通じて、日本古代史に関する知識、歴史学の意義を把握し、物事を論理的かつ多面的に捉える力を獲得することを目標とする。

◆**学修到達目標** 1. 学問として歴史学を捉えることができる。  
2. 論理的に物事を説明できる。  
3. 様々な史料を用いて、自分の考えを表現することができる。  
4. 日本古代史の流れを多面的に捉え、説明することができる。  
5. 日本の古代国家・社会の構造を理解し、説明することができる。  
6. 日本古代の女帝について説明することができる。

◆**授業方法** 音声付きパワーポイントを使用したオンデマンド方式。  
本授業の事前学修・事後学習の時間は各2時間を目安としています。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各 90 分）**

|      |      |   |
|------|------|---|
| 1 回  | 授業内容 | 歴史学とは何か<br>歴史学とはどのような学問なのかを考える。             |
|      | 事前学修 | 自分なりに歴史学とはどのような特徴をもつ学問なのか、他の学問と比較しながら考えておく。 |
|      | 事後学修 | 配布資料を完成させ、要点をまとめておく。                        |
| 2 回  | 授業内容 | 古代政治史(1)3世紀の社会                              |
|      | 事前学修 | 邪馬台国について調べておく。                              |
|      | 事後学修 | 配布資料を完成させ、要点をまとめておく。                        |
| 3 回  | 授業内容 | 古代政治史(2)倭の五王の時代                             |
|      | 事前学修 | 倭の五王について調べておく。                              |
|      | 事後学修 | 配布資料を完成させ、要点をまとめておく。                        |
| 4 回  | 授業内容 | 古代政治史(3)継体天皇の出現と王権構造                        |
|      | 事前学修 | 継体天皇について調べておく。                              |
|      | 事後学修 | 配布資料を完成させ、要点をまとめておく。                        |
| 5 回  | 授業内容 | 古代政治史(4)大化改新                                |
|      | 事前学修 | 推古天皇と大化改新について調べておく。                         |
|      | 事後学修 | 配布資料を完成させ、要点をまとめておく。                        |
| 6 回  | 授業内容 | 古代政治史(5)天智天皇と天武天皇                           |
|      | 事前学修 | 天智天皇と天武天皇について調べておく。                         |
|      | 事後学修 | 配布資料を完成させ、要点をまとめておく。                        |
| 7 回  | 授業内容 | 古代政治史(6)平城京の時代                              |
|      | 事前学修 | 奈良時代の政争について調べておく。                           |
|      | 事後学修 | 配布資料を完成させ、要点をまとめておく。                        |
| 8 回  | 授業内容 | 古代の女帝(1)近年の女帝研究の特徴                          |
|      | 事前学修 | 女帝研究の特徴について調べておく。                           |
|      | 事後学修 | 配布資料を完成させ、要点をまとめておく。                        |
| 9 回  | 授業内容 | 古代の女帝(2)古代史の中の女帝                            |
|      | 事前学修 | 女帝とは何か調べておく。                                |
|      | 事後学修 | 配布資料を完成させ、要点をまとめておく。                        |
| 10 回 | 授業内容 | 古代の女帝(3)古代女帝の成立                             |
|      | 事前学修 | 推古天皇について調べておく。                              |
|      | 事後学修 | 配布資料を完成させ、要点をまとめておく。                        |
| 11 回 | 授業内容 | 古代の女帝(4)持統天皇の歴史的意義                          |
|      | 事前学修 | 持統天皇について調べておく。                              |
|      | 事後学修 | 配布資料を完成させ、要点をまとめておく。                        |
| 12 回 | 授業内容 | 古代の社会(1)奈良時代の国家を支えたもの                       |
|      | 事前学修 | 律令と日本書紀について調べておく。                           |
|      | 事後学修 | 配布資料を完成させ、要点をまとめておく。                        |
| 13 回 | 授業内容 | 古代の社会(2)古代の戸籍と税制                            |
|      | 事前学修 | 古代の戸籍について調べておく。                             |
|      | 事後学修 | 配布資料を完成させ、要点をまとめておく。                        |
| 14 回 | 授業内容 | 古代の社会(3)地方の民衆の社会と生活                         |
|      | 事前学修 | 出雲国風土記にみえる地方の人々の暮らしについて調べておく。               |
|      | 事後学修 | 配布資料を完成させ、要点をまとめておく。                        |
| 15 回 | 授業内容 | 古代の社会(4)古代の「移動」                             |
|      | 事前学修 | 古代の人々・モノ・情報の移動についてその諸相を調べておく。               |
|      | 事後学修 | 配布資料を完成させ、要点をまとめておく。                        |

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 配布資料・動画ともに google classroom からダウンロードすること。

◆**参考書**

◆**成績評価基準** レポート 100%（政治史分野、女帝論分野、社会史分野の3通を予定している）

◆**授業相談（連絡先）**：t\_horikawa@seisa.ac.jp

注意

# 講座内容（シラバス）

〔憲法〕 オープン受講：不可

名雪 健二

◆**授業概要** 本スクーリングでは、憲法の内容、憲法の分類、日本国憲法の構造といった基礎概念や基本原理、また、天皇をみていくが、人権総論（人権享有の主体、法の下での平等など）と精神的自由、経済的自由、人身の自由および統治機構としての国会・内閣・裁判所についてもみていく。

◆**学修到達目標** 憲法は、国家の在り方を規定した基本法である。したがって、われわれが国家生活をしていく上で憲法を知ること、極めて重要である。憲法を学ぶことで、憲法とは何かを知ることができ、また、憲法判例をみることで、生きた憲法を理解することができ、さらに、憲法の規範論理的構造を理解することで、現代の複雑な憲法現象を統一的に、かつ、原理的にとらえることができる。

◆**授業方法** 憲法の解釈論が中心となる。また、生きた憲法を理解するために、判例を取り上げる。そのための資料として、授業に関連する判例を配布する。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |                      |   |
|------|----------------------|---|
| 1 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | ガイダンス、憲法の学び方、憲法の内容、憲法の分類、日本国憲法制定の法理<br>講義の該当箇所をよく読んでおくこと。<br>講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、日本国憲法制定の法理についてよく理解しておくこと。  |
| 2 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 日本国憲法の構造、日本国憲法の基本原理<br>講義の該当箇所をよく読んでおくこと。<br>講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、憲法前文の性質と前文が裁判規範となるかどうかについて理解しておくこと。また、国民主権の原理が、憲法上、いかに具現化されているかについても理解しておくこと。  |
| 3 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 天皇（地位・皇位継承・天皇の権能の代行）<br>講義の該当箇所をよく読んでおくこと。<br>講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、天皇の行為と天皇の権能の行使の要件について理解しておくこと。  |
| 4 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 人権総論<br>講義の該当箇所をよく読んでおくこと。<br>講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、人権の制約、違憲審査基準について理解しておくこと。また、人権享有の主体、特に、外国人の人権についてよく理解しておくこと。  |
| 5 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 人権総論<br>講義の該当箇所をよく読んでおくこと。<br>講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、法の下での平等の意味と不合理な差別の禁止について、判例を含めて理解しておくこと。また、私人間効力とは何かを理解し、どのような判例があるのかをまとめておくこと。   |
| 6 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 精神的自由<br>講義の該当箇所をよく読んでおくこと。<br>講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、内心の自由の保障の内容についてまとめておくこと。また、信教の自由と政教分離の原則を理解しておくこと。あわせて、判例の立場をまとめておくこと。   |
| 7 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 精神的自由、国会の憲法上の地位<br>講義の該当箇所をよく読んでおくこと。<br>講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、報道の自由と取材の自由、また、憲法が、学問の自由を保障した意義と大学の自治をよく理解し、あわせて、判例の立場をまとめておくこと。さらに、国会が最高機関であることと立法機関であることの意味をよく理解しておくこと。                |
| 8 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 衆議院の解散、議院の権能（自律権、国政調査権）<br>講義の該当箇所をよく読んでおくこと。<br>講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、衆議院の解散では、解散権の主体と根拠規定、解散の原因についてよく理解しておくこと。また、議院の自律権の意味を踏まえて、自律的事項についてよく理解しておくこと。さらに、国政調査権の性格・範囲・限界についてよく理解しておくこと。 |
| 9 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 内閣総理大臣の憲法上の地位・憲法<br>講義の該当箇所をよく読んでおくこと。<br>講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、内閣総理大臣が憲法上いかなる地位にあるのか、また、その権能として、国務大臣の任免権をはじめとして、内閣の代表権、法律・政令への連署権、国務大臣訴追同意権について、それぞれ問題点があるので、よくまとめておくこと。               |
| 10 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 違憲審査権<br>講義の該当箇所をよく読んでおくこと。<br>講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、違憲審査権の意義を踏まえて、違憲審査権の性格・違憲審査の対象について、それぞれ学説が対立しているので、それを整理し、判例もあわせてまとめておくこと。   |
| 11 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 経済的自由<br>講義の該当箇所をよく読んでおくこと。<br>講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、財産権の保障・内容・財産権の制限と保障について理解しておくこと。   |
| 12 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 人身の自由<br>講義の該当箇所をよく読んでおくこと。<br>講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、適法手続の保障、不法に逮捕されない権利、刑法の不適切と一事不再理について理解しておくこと。  |
| 13 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 社会権<br>講義の該当箇所をよく読んでおくこと。<br>講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、生存権の法的性格をいかに解するかについて学説と判例をまとめておくこと。また、労働基本権については、公務員の労働基本権に関する判例の動向をよく理解しておくこと。  |
| 14 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 憲法改正<br>講義の該当箇所をよく読んでおくこと。<br>講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。憲法改正とは、いかなる行為であるのかを、憲法の廃棄、憲法の廃止などと区別して理解しておくこと。また、憲法改正手続において、内閣が憲法改正案を提出することができるかどうか、理解しておくこと。さらに、憲法改正に限界があるのかどうかについても、まとめておくこと。        |
| 15 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 内閣の総辞職、総括<br>講義の該当箇所をよく読んでおくこと。<br>講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。内閣の総辞職の意義、内閣が総辞職しなければならない場合をよくまとめておくこと。なお、総括の中で、講義した内容について、どこに問題点があるのかをよく整理しておくこと。   |

◆**教科書** 〔丸沼〕『日本国憲法』 名雪健二 有信堂  
〔当日資料配布〕

◆**参考書** 〔丸沼〕参考書を希望する者は、『憲法第7版』 芦部信喜・高橋和之補訂 岩波書店を購入されたい。

◆**成績評価基準** スクーリング（3日間）の授業を聴講したかどうかを確認し、それと併せて、スクーリングの最終試験を中心に総合的に評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：初回の授業時に案内する。

注意



◆**授業概要** 個人や企業が売買代金の支払いを行う際、現金で支払う、銀行振込を利用する、手形・小切手を利用する等さまざまな方法が考えられる。支払決済の中心に位置するのが、銀行をはじめとする金融機関である。本講義では、企業取引の決済手段に関する法知識の理解を目指す。古くからある手形・小切手に限らず、電子記録債権等新しい決済方法についても学ぶことで、企業取引の決済手段が理解できることを心がける。

◆**学修到達目標** 個人や企業が契約を結び、代金の支払いをする。支払をすることで代金を支払うという義務（債務）が消滅する。これを支払決済というが、どのような場合に債務が消滅するのか。代金を現金で支払った場合と銀行振込による場合とでどう違うのか。企業取引で使われる手形・小切手による決済はどういう仕組みか。このようなことについて詳しく知り、説明することができるようになる。

◆**授業方法** オンデマンド形式で行う。授業では、約束手形等従来から利用されている決済手段と、電子マネー、電子記録債権等の最新の法制度まで幅広く取り扱うこととする。事前に予習し、講義動画を視聴してから、テキストと六法をもとに講義ノートを作成することが必要である。また、ただ漫然と授業を視聴しているだけでは知識が身につかないと思うので、講義後に小テスト等により理解度をチェックする。

◆**授業計画**

|      |         |   |
|------|---------|---|
| 1 回  | 授 業 内 容 | 講義の進度に合わせて、以下の内容には変更がありうる。<br>支払決済の基礎について学ぶ。授業のテーマや内容の紹介を含めて学習方法について解説する。 |
|      | 事 前 学 修 | 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第1編 総論」を予習する。                                       |
|      | 事 後 学 修 | 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。   |
| 2 回  | 授 業 内 容 | 決済の全体像、電子マネーについて学ぶ。電子マネーの特色、法的機能について解説する。                                 |
|      | 事 前 学 修 | 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第2章 電子マネーと仮想通貨（暗号資産）」を予習する。                         |
|      | 事 後 学 修 | 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。   |
| 3 回  | 授 業 内 容 | 仮想通貨（暗号資産）とはどういう制度であるかについて学ぶ。仮想通貨（暗号資産）の法的機能について解説する。                     |
|      | 事 前 学 修 | 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第2章 電子マネーと仮想通貨（暗号資産）」を予習する。                         |
|      | 事 後 学 修 | 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。   |
| 4 回  | 授 業 内 容 | 銀行振込とはどういう制度であるかについて学ぶ。銀行振込の法的機能、法的問題点等について解説する。                          |
|      | 事 前 学 修 | 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第3章 銀行振込・資金移動業等」を予習する。                              |
|      | 事 後 学 修 | 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。   |
| 5 回  | 授 業 内 容 | 小切手とはどういう制度であるかについて学ぶ。小切手の仕組み、振出等について解説する。                                |
|      | 事 前 学 修 | 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第4章 小切手」を予習する。                                      |
|      | 事 後 学 修 | 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。   |
| 6 回  | 授 業 内 容 | 線引小切手とはどういう制度であるかについて学ぶ。小切手と線引制度等について解説する。                                |
|      | 事 前 学 修 | 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第4章 小切手」を予習する。                                      |
|      | 事 後 学 修 | 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。   |
| 7 回  | 授 業 内 容 | 為替手形について学ぶ。為替手形の仕組みについて解説する。  |
|      | 事 前 学 修 | 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第5章 為替手形」を予習する。                                     |
|      | 事 後 学 修 | 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。   |
| 8 回  | 授 業 内 容 | 有価証券とはどういう制度であるかについて学ぶ。有価証券の法的機能や仕組みについて解説する。                             |
|      | 事 前 学 修 | 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第9章 有価証券理論」を予習する。                                   |
|      | 事 後 学 修 | 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。   |
| 9 回  | 授 業 内 容 | 約束手形とはどういう制度であるかについて学ぶ。約束手形の仕組みについて解説する。                                  |
|      | 事 前 学 修 | 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第6章 約束手形」「第1節」を予習する。                                |
|      | 事 後 学 修 | 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。   |
| 10 回 | 授 業 内 容 | 約束手形とはどういう制度であるかについて学ぶ。約束手形の振出について解説する。                                   |
|      | 事 前 学 修 | 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第4章 小切手」「第2節」、「第6章 約束手形」「第2節」を予習する。                 |
|      | 事 後 学 修 | 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。   |
| 11 回 | 授 業 内 容 | 約束手形とはどういう制度であるかについて学ぶ。約束手形の振出、手形理論について解説する。                              |
|      | 事 前 学 修 | 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第4章 小切手」「第2節」「第3節」、「第6章 約束手形」「第2節」を予習する。            |
|      | 事 後 学 修 | 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。   |
| 12 回 | 授 業 内 容 | 約束手形とはどういう制度であるかについて学ぶ。約束手形の振出、裏書について解説する。                                |
|      | 事 前 学 修 | 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第4章 小切手」「第3節」、「第6章 約束手形」「第2節」「第3節」を予習する。            |
|      | 事 後 学 修 | 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。   |
| 13 回 | 授 業 内 容 | 約束手形とはどういう制度であるかについて学ぶ。約束手形の裏書・抗弁について解説する。                                |
|      | 事 前 学 修 | 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第6章 約束手形」「第3節」を予習する。                                |
|      | 事 後 学 修 | 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。   |
| 14 回 | 授 業 内 容 | 約束手形とはどういう制度であるかについて学ぶ。約束手形の抗弁・支払について解説する。                                |
|      | 事 前 学 修 | 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第6章 約束手形」「第3節」「第4節」を予習する。                           |
|      | 事 後 学 修 | 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。   |
| 15 回 | 授 業 内 容 | 手形の電子的支払とはどういう制度であるかについて学ぶ。でんさい、電子記録債権等について解説する。                          |
|      | 事 前 学 修 | 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第7章 電子記録債権」を予習する。                                   |
|      | 事 後 学 修 | 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。   |

◆**教科書** 『支払決済法―手形小切手から電子マネーまで―（第3版）』小塚莊一郎＝森田果（商事法務、2018年）2500円  
六法（民法（債権関係、相続関係）改正が成立したため、最新版（2020（令和2）年版）が望ましい）

◆**参考書（参考文献等）** 『手形小切手判例百選（第7版）』別冊ジュリスト222号、神田秀樹＝神作裕之編（有斐閣、2014年）

◆**成績評価基準** 試験（70%）、平常評価（レポート・小テスト等の提出物）（30%）  
講義動画を視聴することを前提とする。



# 講座内容（シラバス）

## 〔民法Ⅳ〕

加藤 雅之

◆**授業概要** 本講義は民法のうち、講義上「債権各論」と呼ばれる分野（契約、事務管理、不当利得および不法行為）を対象とする。もっとも、対象分野について網羅的に取り上げることはせず、いくつかの現代的問題について、民法の規定の理解を基礎として、判例や立法の動向を踏まえて検討することを主たる内容とする。なお、本講義を受講するにあたっては、事前に民法Ⅰを受講しておくことが望ましい。

◆**学修到達目標** (1)債権各論に関する基本的概念や諸規定を理解し、制度・規定が設けられた趣旨を理解し説明できる。  
(2)解釈上の問題について、基本的な最上級審の立場（判例）を理解し、説明できる。  
(3)上記(1)および(2)を踏まえて、具体的問題について、法律の規定に基づいて論理的に解答できる。

◆**授業方法** オンデマンド講義形式

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 回  | 授業内容 | ガイダンス、債権各論の全体像                                     |
|      | 事前学修 | 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。               |
|      | 事後学修 | 確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。 |
| 2 回  | 授業内容 | 契約法総論①契約の成立  |
|      | 事前学修 | 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。               |
|      | 事後学修 | 確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。 |
| 3 回  | 授業内容 | 契約法総論②契約の効力、契約の解除                                  |
|      | 事前学修 | 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。               |
|      | 事後学修 | 確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。 |
| 4 回  | 授業内容 | 契約法各論①売買契約総論                                       |
|      | 事前学修 | 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。               |
|      | 事後学修 | 確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。 |
| 5 回  | 授業内容 | 契約法各論② 売買契約の効力—契約不適合について                           |
|      | 事前学修 | 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。               |
|      | 事後学修 | 確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。 |
| 6 回  | 授業内容 | 契約法各論③ 無償契約論                                       |
|      | 事前学修 | 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。               |
|      | 事後学修 | 確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。 |
| 7 回  | 授業内容 | 小括   |
|      | 事前学修 | 事例問題について、民法の規定や判例等を参考にし、自分なりの解答を準備する。              |
|      | 事後学修 | 事例問題の解説を参照して、自分の答案を見直す。                            |
| 8 回  | 授業内容 | 契約法各論④ 貸借型契約                                       |
|      | 事前学修 | 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。               |
|      | 事後学修 | 確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。 |
| 9 回  | 授業内容 | 契約法各論⑤ 役務提供型契約                                     |
|      | 事前学修 | 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。               |
|      | 事後学修 | 確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。 |
| 10 回 | 授業内容 | 契約法各論⑥ その他の契約                                      |
|      | 事前学修 | 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。               |
|      | 事後学修 | 確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。 |
| 11 回 | 授業内容 | 不法行為① 不法行為総論、不法行為の要件                               |
|      | 事前学修 | 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。               |
|      | 事後学修 | 確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。 |
| 12 回 | 授業内容 | 不法行為② 不法行為の効果                                      |
|      | 事前学修 | 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。               |
|      | 事後学修 | 確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。 |
| 13 回 | 授業内容 | 不法行為③ 特殊の不法行為                                      |
|      | 事前学修 | 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。               |
|      | 事後学修 | 確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。 |
| 14 回 | 授業内容 | 小括   |
|      | 事前学修 | 事例問題の解説を参照して、自分の答案を見直す。                            |
|      | 事後学修 | 事例問題の解説を参照して、自分の答案を見直す。                            |
| 15 回 | 授業内容 | 総括   |
|      | 事前学修 | これまでの授業内容を整理し、不明な点を参考書等で補っておく。                     |
|      | 事後学修 | 講義内容および試験の解説などを通じて、講義全体について再確認する。                  |

◆**教科書** 事前資料送付

◆**参考書** 丸沼『契約法』 中田裕康 有斐閣 2017 年  
丸沼『不法行為法—民法を学ぶ 第2版』 窪田 充見 有斐閣 2018 年

◆**成績評価基準** 授業内課題 60%  
レポート 40%

◆**授業相談（連絡先）：**

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔民法V〕

大杉 麻美

◆**授業概要** 家族は時代の発展とともに、様々に変容し発展を続けている。また家族を取り巻く社会事象も複雑になり、家族にかかわるルールを理解することは、家族間の紛争を未然に防止する役割も担っている。本講義では、民法第4編・第5編の「家族法」と呼ばれる分野につき、社会現象を理解するとともに、条文の構造を理解し、個別の紛争に条文がどのように適用され、どのような結果が導き出されているのかにつき学ぶ。講義中では、新聞などでも取り上げられる現代的課題も取り上げ、多角的視点から家族にかかわる問題を理解することができることを目指す。

◆**学修到達目標** ・新聞等で取り上げられる家族にかかわる問題を理解し、説明することができる。  
・民法第4編、第5編に規定されている条文に書かれている言葉を理解し、説明することができる。  
・民法第4編、第5編に規定されている条文の内容を簡単に説明することができる。  
・判例にあげられる具体的な事例の事実関係及び結論を知り、理解することができる。

◆**授業方法** 講義では、家族法に関する基礎的な事柄を説明する。小レポートにおいては、自ら具体的紛争に関する事例をまとめ、自らの考えを小レポートとして作成する機会を設ける。小レポートについてはClassroomを通して全体にフィードバックをする（なお受講人数によっては授業方法が変更されることもある）。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安とする。

### ◆履修条件

### ◆授業計画（各90分）

|     |  |
|-----|--|
| 1回  | 授業内容：婚約、婚姻の形式的要件、婚姻の実質的要件、婚姻の効果<br>事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。<br>事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。                                       |
| 2回  | 授業内容：夫婦の財産関係、婚姻費用の分担、日常家事債務の連帯責任<br>事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。<br>事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。                                      |
| 3回  | 授業内容：親子関係、認知<br>事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。<br>事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。  |
| 4回  | 授業内容：親子の権利義務、親権<br>事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。<br>事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。   |
| 5回  | 授業内容：離婚届と離婚原因<br>事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。<br>事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。   |
| 6回  | 授業内容：財産分与<br>事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。<br>事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。   |
| 7回  | 授業内容：親権、面会交流、養育費<br>事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。<br>事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。  |
| 8回  | 授業内容：小レポート（2題）解説：有責配偶者による離婚請求（最判昭和62年9月2日）、預貯金債権の共同相続（最大決平成28年12月19日）<br>事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。<br>事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。 |
| 9回  | 授業内容：扶養と後見<br>事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。<br>事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。  |
| 10回 | 授業内容：相続のしくみ、子どもの相続分<br>事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。<br>事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。   |
| 11回 | 授業内容：相続財産<br>事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。<br>事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。   |
| 12回 | 授業内容：遺言の種類と性質<br>事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。<br>事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。   |
| 13回 | 授業内容：相続の承認と放棄<br>事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。<br>事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。   |
| 14回 | 授業内容：特別受益と寄与分<br>事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。<br>事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。   |
| 15回 | 授業内容：遺産分割の種類と方法<br>事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。<br>事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。   |

◆**教科書** 関四『よくわかる家族法』 本澤巳代子・大杉麻美・高橋大輔・付月 ミネルヴァ書房 2014年

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提に小レポート（2回実施：各50点満点）により成績評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：osugi.mami@nihon-u.ac.jp

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔国文学講義Ⅱ（中古）〕

笹生 美貴子

◆**授業概要** 当該授業は、オンライン授業（オンデマンド型）で進めます。『竹取物語』『源氏物語』を吟味することによって、物語の読みの広がりや解釈を学びます。また、周辺作品との関連にも触れながら、『源氏物語』の文学的位置についても考えていきます。とりわけ、『竹取物語』での和歌や月の俗信、『源氏物語』『夕顔』巻における和歌や俗信、モチーフなどに眼目を置きます。最終日に小論文（授業内容を踏まえた上での論述）を書いてもらい、試験の代わりとします。なお、教職課程教育において、自身が教職免許を得るまでの具体例や教育の現場で経験したことを用いて、教員になることについての実感等を授業にも反映します。

◆**学修到達目標** 古典文学作品を通じて、日本の伝統文化を知ることができます。文学作品に触れることにより、心の豊かさや、物語作品に込められたメッセージを読み取る力を養うことを目標とします。

◆**授業方法** 事前に「夕顔」巻（教科書）全体に目を通し、内容を把握しておきましょう。また、難解な語については古語辞典を用いて予習をしてください。登場人物が多く複雑なため、教科書に載っている人物系図等を参考にしつつ把握しておいてください。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各 90 分）**

|      |   |
|------|---|
| 1 回  | 授業内容：授業の進め方・オリエンテーション・『竹取物語』の読解①—かぐや姫の誕生と成長<br>事前学修：竹取物語の登場人物・かぐや姫の生い立ちについて確認しておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面についてよく理解しておくこと。 |
| 2 回  | 授業内容：『竹取物語』の読解②—求婚難題譚<br>事前学修：求婚難題譚について調べておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について理解しておくこと。  |
| 3 回  | 授業内容：『竹取物語』の読解③—かぐや姫の昇天場面を中心に<br>事前学修：学習予定の作品本文に目を通しておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について整理しておくこと。                             |
| 4 回  | 授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解①—冒頭場面を中心に<br>事前学修：教科書を読み、「六条のわたり」に住む女性の解釈・乳母について考えておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、冒頭場面について整理しておくこと。           |
| 5 回  | 授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解②—光源氏が扇に書かれた和歌に興味を抱く場面について学ぶ<br>事前学修：和歌の意味についてよく調べておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、扇に書かれた和歌について整理しておくこと。        |
| 6 回  | 授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解③—惟光に夕顔の素性を調べさせる場面について学ぶ<br>事前学修：前回授業に配付したプリントに目を通しておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について整理しておくこと。           |
| 7 回  | 授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解④—光源氏、伊予介の訪問を受ける場面について学ぶ<br>事前学修：雨夜の品定めについて調べておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について整理しておくこと。                 |
| 8 回  | 授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解⑤—源氏と夕顔の恋愛場面について学ぶ（三輪山神話のモチーフ）<br>事前学修：当該場面について書いてある教科書をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、三輪山神話について整理しておくこと。 |
| 9 回  | 授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解⑥—源氏と夕顔の恋愛場面について学ぶ（異類婚姻譚のモチーフ）<br>事前学修：当該場面について書いてある教科書をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、異類婚姻譚について整理しておくこと。 |
| 10 回 | 授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解⑦—物の怪が出現し夕顔を取り殺す場面について学ぶ<br>事前学修：当該場面について書いてある教科書をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について理解しておくこと。        |
| 11 回 | 授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解⑧—源氏、右近に夕顔の素性を聞く場面について学ぶ<br>事前学修：当該場面について書いてある教科書をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について整理しておくこと。        |
| 12 回 | 授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解⑨—源氏、夕顔の夢を見る場面について学ぶ<br>事前学修：当該場面について書いてある教科書をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について理解しておくこと。            |
| 13 回 | 授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻以降の内容について学ぶ①—夕顔の娘玉鬘・筑紫での生活<br>事前学修：玉鬘の筑紫での生活について調べておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について理解しておくこと。               |
| 14 回 | 授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻以降の内容について学ぶ②—夕顔の娘玉鬘・六条院での生活と結婚<br>事前学修：玉鬘の六条院での生活について調べておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について理解しておくこと。          |
| 15 回 | 授業内容：試験及び解説<br>事前学修：ノートや今まで授業で配付したプリント、教科書によく目を通しておくこと。<br>事後学修：授業内容を整理して、自身の見解が適切であったかどうかを確認すること。                            |

◆**教科書** 丸沼『源氏物語—付現代語訳』（第1巻 桐壺〜若紫）（角川ソフィア文庫）玉上琢彌訳注 角川書店  
[当日資料配布]

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 「授業後提出の感想・意見・授業態度」40%、「試験（小論文）」60%

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意



# 講座内容（シラバス）

## 〔西洋古典〕〔オンデマンド型〕

福島 昇

◆**授業概要** シェイクスピアの悲劇『オセロー』を読む。シェイクスピアの英語は英文学、米文学、言語学の基礎です。シェイクスピアの英語を通して、『オセロー』の奥深さを少しでも理解し、『オセロー』のテーマである、嫉妬、真実の愛について学ぶ。また『オセロー』がいかにトニ・モニソンの『デズデモナ』に影響を与えたか理解させる。

◆**学修到達目標** 英文学専攻の学生として必要な英文法の知識とシェイクスピアの英語を修得する。シェイクスピアは世界の演劇、小説、音楽、美術等に深い影響を与え続けている。授業では、『オセロー』だけでなく、その他のシェイクスピアの主要なテキスト、西洋演劇、日本演劇（歌舞伎、文楽、能・狂言、新派、大衆演劇）、トニ・モニソンなども理解させる。

◆**授業方法** 毎回40行ぐらい精読し、シェイクスピアの文法に慣れるようにする。シェイクスピアと『オセロー』の諸問題について議論し、批評／批評的感想を述べる習慣を身につける。ギリシア悲劇、現代劇、黒人演劇、日本演劇、日本文学、トニ・モニソン『デズデモナ』（『オセロー』の翻案）などと比較しながら話題を広げる。レポート提出（2回）、リアクションペーパーの提出（毎回提出、率直な質問や感想などを書く、字数は自由）。リアクションペーパーには、私からパワーポイントに動画や音声を吹き込んでお答えします。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各90分）**

|     |   |
|-----|---|
| 1回  | 授業内容：ガイダンス【オンデマンド型】<br>事前学修：『オセロー』の翻訳を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の方針、到達目標確認試験（レポート提出）について再確認すること。   |
| 2回  | 授業内容：Othello1.1.1-1.1.40【オンデマンド型】<br>事前学修：Othello1.1.1-1.1.40を精読すること。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。  |
| 3回  | 授業内容：Othello1.1.41-1.1.82【オンデマンド型】<br>事前学修：Othello1.1.41-1.1.82を精読すること。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。  |
| 4回  | 授業内容：Othello1.1.83-1.1.118【オンデマンド型】<br>事前学修：Othello1.1.83-1.1.118を精読すること。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。  |
| 5回  | 授業内容：Othello1.1.119-1.1.158【オンデマンド型】<br>事前学修：Othello1.1.119-1.1.158を精読すること。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。  |
| 6回  | 授業内容：Othello1.1.159-1.2.17【オンデマンド型】<br>事前学修：Othello1.1.159-1.2.17を精読すること。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。  |
| 7回  | 授業内容：Othello1.2.18-1.2.61【オンデマンド型】<br>事前学修：Othello1.2.18-1.2.61を精読すること。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。  |
| 8回  | 授業内容：中間試験（レポート提出、1,500字以上）『オセロー』に関することであればテーマは自由）<br>Othello1.2.62-1.2.99【オンデマンド型】<br>事前学修：レポートのテーマを決めて準備しておくこと。Othello1.2.62-1.2.99を精読すること。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。 |
| 9回  | 授業内容：Othello5.2.120-5.2.160【オンデマンド型】<br>事前学修：Othello5.2.120-5.2.160を精読すること。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。  |
| 10回 | 授業内容：Othello5.2.160-5.2.199【オンデマンド型】<br>事前学修：Othello5.2.160-5.2.199を精読すること。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。  |
| 11回 | 授業内容：Othello5.2.199-5.2.241【オンデマンド型】<br>事前学修：Othello5.2.199-5.2.241を精読すること。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。  |
| 12回 | 授業内容：Othello5.2.241-5.2.279【オンデマンド型】<br>事前学修：Othello5.2.241-5.2.279を精読すること。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。  |
| 13回 | 授業内容：Othello5.2.280-5.2.319【オンデマンド型】<br>事前学修：Othello5.2.280-5.2.319を精読すること。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。  |
| 14回 | 授業内容：Othello5.2.320-5.2.367【オンデマンド型】<br>事前学修：Othello5.2.320-5.2.367を精読すること。<br>事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。  |
| 15回 | 授業内容：到達目標確認試験（レポート提出、1,500字以上）『オセロー』に関することであればテーマは自由）<br>【オンデマンド型】<br>事前学修：レポートのテーマを決めて準備しておくこと。<br>事後学修：授業内容（1～15回）を総復習すること。   |

◆**教科書** Norman Sanders 編『オセロー』Othello, The New Cambridge Shakespeare (Cambridge UP, 3版, 2018). AMAZON等で入手できます。

【事前資料送付】教科書のプリントも用意します。

◆**参考書** 授業中に随時紹介する。

◆**成績評価基準** 学修到達目標確認試験（レポート50%、授業参画度50%）

◆**授業相談（連絡先）**：第1回目に案内します。

注意

◆**授業概要** 言語学の下位分類である英語学という学問分野の概略を理解した上で、今回は特に音声学・音韻論に焦点を当てて説明をしていく。人間の用いる言語は、音声-文法-意味の3要素から成るが、言語学はそれぞれの側面に応じた音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論などに分類される。その中でも、この講義では音声学と音韻論がどのように異なるのかを説明する。音韻論については、音素と音節までを扱う。

◆**学修到達目標** 言語学の下位分類である英語学という学問分野の概略を理解した上で、今回は特に音声学・音韻論の概要を理解することを目標とする。

◆**授業方法** 指定教科書を読みながら、理解困難な箇所をオンディマンドのコンテンツで補いながら理解を深める。オンディマンドのコンテンツはメディア授業「英語学概説 MA」の第1章から第6章までを用いる。今回は音韻論については、音素と音節の内容を十分に理解してほしい。「英語学概説 MA」のコンテンツの一部は活用するが、試験はこの授業独自の試験を作成することばの仕組み・音声学・音韻論の理解度を測るため、この授業と「英語学概説 MA」の単位は別のもとなる。

◆**授業計画**

|      | 授 業 内 容 | 「ことば」とは何か?・ことばの知識                      |
|------|---------|--|
| 1 回  | 事前学修    | 教科書の pp. 2-5 を読んでおく。                   |
|      | 事後学修    | 授業中にとったノートを、教科書 pp. 2-5 を見ながら再確認する。    |
| 2 回  | 授 業 内 容 | 言語学と英語学の諸分野                            |
|      | 事前学修    | 教科書の pp. 2-5 を読んでおく。                   |
| 3 回  | 事後学修    | 授業中にとったノートを、教科書 pp. 2-5 を見ながら再確認する。    |
|      | 授 業 内 容 | 音の研究分野・音声学と音韻論                         |
| 4 回  | 事前学修    | 教科書 pp. 5-8 を読んでおく。                    |
|      | 事後学修    | 授業中にとったノートを、教科書 pp. 5-8 を見ながら再確認する。    |
| 5 回  | 授 業 内 容 | ことばの音はどのように作られるか（始動・発声・調音）             |
|      | 事前学修    | 教科書 pp. 12-15 を読んでおく。                  |
| 6 回  | 事後学修    | 授業中にとったノートを、教科書 pp. 12-15 を見ながら再確認する。  |
|      | 授 業 内 容 | ことばの音の種類                               |
| 7 回  | 事前学修    | 教科書 pp. 15-16 を読んでおく。                  |
|      | 事後学修    | 授業中にとったノートを、教科書 pp. 15-16 を見ながら再確認する。  |
| 8 回  | 授 業 内 容 | 母音                                     |
|      | 事前学修    | 教科書 pp. 17-21 を読んでおく。                  |
| 9 回  | 事後学修    | 授業中にとったノートを、教科書 pp. 17-21 を見ながら再確認する。  |
|      | 授 業 内 容 | 子音                                     |
| 10 回 | 事前学修    | 教科書 pp. 21-29 を読んでおく。                  |
|      | 事後学修    | 授業中にとったノートを、教科書 pp. 21-29 を見ながら再確認する。  |
| 11 回 | 授 業 内 容 | 音素                                     |
|      | 事前学修    | 教科書 pp. 32-40 を読んでおく。                  |
| 12 回 | 事後学修    | 授業中にとったノートを、教科書 pp. 32-40 を見ながら再確認する。  |
|      | 授 業 内 容 | 音声素性                                   |
| 13 回 | 事前学修    | 教科書 pp. 40-44 を読んでおく。                  |
|      | 事後学修    | 授業中にとったノートを、教科書 pp. 40-44 を見ながら再確認する。  |
| 14 回 | 授 業 内 容 | 音節・音節とモーラ                              |
|      | 事前学修    | 教科書 pp. 48-65 を読んでおく。                  |
| 15 回 | 事後学修    | 授業中にとったノートを、教科書 pp. 48-65 を見ながら再確認する。  |
|      | 授 業 内 容 | 閉音節言語と開音節言語                            |
| 16 回 | 事前学修    | 教科書 pp. 65-72 を読んでおく。                  |
|      | 事後学修    | 授業中にとったノートを、教科書 pp. 65-72 を見ながら再確認する。  |
| 17 回 | 授 業 内 容 | 音節量                                    |
|      | 事前学修    | 教科書 pp. 102-105 を読んでおく。                |
| 18 回 | 事後学修    | 授業中にとったノートを、教科書 pp. 102-105 を見ながら再確認する |
|      | 授 業 内 容 | 理解度確認                                  |
| 19 回 | 事前学修    | これまでの授業の内容を改めて見直し、特に英文分析を確認する。         |
|      | 事後学修    | 試験に備えて、例文における英文分析を確認する。                |
| 20 回 | 授 業 内 容 | 最終試験とその解説                              |
|      | 事前学修    | 前回の理解度確認を改めて読み直し、新たな英文で自分の理解度を再度確認する。  |
| 21 回 | 事後学修    | 自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。            |
|      | 授 業 内 容 | 最終試験の解説                                |
| 22 回 | 事前学修    | 自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。            |
|      | 事後学修    | 授業内容を確認して、自分の単文の構造に関する理解が適切かどうかを再確認する。 |

◆**教科書** 窪菌晴夫（1998）『音声学・音韻論』 日英語対照による英語学演習シリーズ 1，くろしお出版。

◆**参考書(参考文献等)**

『日英語対照による英語学概論』 西光義弘 編 くろしお出版  
 窪菌晴夫（1998）『音声学・音韻論』 日英語対照による英語学演習シリーズ 1，くろしお出版。  
 窪菌晴夫・溝越彰（1991）『英語の発音と英詩の韻律』 英語学入門講座 7，英潮社。  
 佐藤寧・佐藤努（1997）『現代の英語音声学』 金星堂。  
 窪菌晴夫（1995）『語形成と音韻構造』 日英語対照研究シリーズ3，くろしお出版。

◆**成績評価基準** 授業参加度：20%（視聴回数など）

最終試験：80%（教科書・参考図書・ノート・電子辞書など、インターネット通信によるもの以外参照可）



# 講座内容（シラバス）

## 【英語学演習】

小澤 賢司

◆**授業概要** 本授業では、「卒業論文」作成の一助となるよう、以下の項目を扱います。④は時間的な余裕があれば行ないます。

- ① 論文とは何かを知る。
- ② 各種文献を精読する。
- ③ 実際に論文を読む（体験する）。
- ④ 受講者同士で意見を交わし合う。

◆**学修到達目標** 本授業では、以下の到達目標を設定します。④は時間的な余裕があった場合の到達目標となります。

- ① 論文の構成を理解し、説明することができる。
- ② 文献を正確に読み解き、まとめることができる。
- ③ 疑問を捻出することができる。
- ④ 協働作業（グループワーク）を通して、解決策（案）を創出することができる。

◆**授業方法** 本授業では、当日配布プリントおよび事前配布プリントを輪読形式で読み進めていきます。適宜、受講者を指名します。事前配布資料を配っていますので、授業までに精読および自然な日本語に訳しておいてください。音読はとても重要ですので、既知の単語でも発音とアクセント（特にアクセント）はしっかり調べ、発声できるようにしておいてください。3日間のスクーリングですので、全15回の「授業計画」は1日約5回分進むとお考えください。ただし、受講者の様子（理解度）を見ながら授業を進めていきますので、全15回の「授業計画」はあくまで「目安」です。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各90分〕

|     |      |  |
|-----|------|--|
| 1回  | 授業内容 | 授業の進め方について、論文について、辞書について   |
|     | 事前学修 | 論文を読む その1 序論：{Will / Can / Would / Could} you ～？の知識の確認   |
|     | 事後学修 | 本授業のシラバスを熟読しておくこと  |
| 2回  | 授業内容 | 論文を読む その1 柏野（2002）「ボライトネスの側面」（3節「疑問文の検討」まで）  |
|     | 事前学修 | 論全体の構成、話の流れ（論理的過程）、主張の展開方法、客観性の有無など、第1回目で伝えたことを意識しながら文献を読むこと   |
|     | 事後学修 | 授業内容を復習しておくこと  |
| 3回  | 授業内容 | 論文を読む その1 柏野（2002）「ボライトネスの側面」（6節「結語」まで）  |
|     | 事前学修 | 論全体の構成、話の流れ（論理的過程）、主張の展開方法、客観性の有無など、第1回目で伝えたことを意識しながら文献を読むこと   |
|     | 事後学修 | 授業内容を復習しておくこと  |
| 4回  | 授業内容 | 論文を読む その2（序論） 比較構文 as ... as の知識の確認  |
|     | 事前学修 | 論文を読む その2 澤田（2018）「“x as ... as y” 構文の意味解釈をめぐって」（3節「“x as ... as y” 構文の意味」まで）                            |
|     | 事後学修 | 論全体の構成、話の流れ（論理的過程）、主張の展開方法、客観性の有無など、第1回目で伝えたことを意識しながら文献を読むこと   |
| 5回  | 授業内容 | 論文を読む その2 澤田（2018）「“x as ... as y” 構文の意味解釈をめぐって」（5節「おわりに」まで）   |
|     | 事前学修 | 論全体の構成、話の流れ（論理的過程）、主張の展開方法、客観性の有無など、第1回目で伝えたことを意識しながら文献を読むこと   |
|     | 事後学修 | 授業内容を復習しておくこと  |
| 6回  | 授業内容 | 文献を読む 序論：法助動詞 Can と May の知識の確認   |
|     | 事前学修 | 文献を読む Leech（2004）Can と May（事前配布資料1ページ目）  |
|     | 事後学修 | 事前配布プリント（A4版縦）の1ページ目を精読し、日本語訳を用意しておくこと   |
| 7回  | 授業内容 | 文献を読む Leech（2004）Can と May（事前配布資料2ページ目）  |
|     | 事前学修 | 事前配布プリント（A4版縦）の2ページ目を精読し、日本語訳を用意しておくこと   |
|     | 事後学修 | 授業内容を復習しておくこと  |
| 8回  | 授業内容 | 文献を読む Leech（2004）Can と May（事前配布資料3ページ目）  |
|     | 事前学修 | 事前配布プリント（A4版縦）の3ページ目を精読し、日本語訳を用意しておくこと   |
|     | 事後学修 | 授業内容を復習しておくこと  |
| 9回  | 授業内容 | 文献を読む Leech（2004）Can と May（事前配布資料4ページ目）  |
|     | 事前学修 | 事前配布プリント（A4版縦）の4ページ目を精読し、日本語訳を用意しておくこと   |
|     | 事後学修 | 授業内容を復習しておくこと  |
| 10回 | 授業内容 | 論文を読む その3 柏野（2002）「可能性を表す can と may」   |
|     | 事前学修 | 論全体の構成、話の流れ（論理的過程）、主張の展開方法、客観性の有無など、第1回目で伝えたことを意識しながら文献を読むこと   |
|     | 事後学修 | 授業内容を復習しておくこと  |
| 11回 | 授業内容 | 論文を読む その4 Altman “Getting the Subtle Distinctions: Should Verbus Had Better”（IDENTIFYING THE PROBLEM まで） |
|     | 事前学修 | 事前配布プリント（A4版横）の文献を精読し、日本語訳を用意しておくこと  |
|     | 事後学修 | 授業内容を復習しておくこと  |
| 12回 | 授業内容 | 論文を読む その4 Altman “Getting the Subtle Distinctions: Should Verbus Had Better”（MODAL TEST ITEMS まで）        |
|     | 事前学修 | 事前配布プリント（A4版横）の文献を精読し、日本語訳を用意しておくこと  |
|     | 事後学修 | 授業内容を復習しておくこと  |
| 13回 | 授業内容 | 論文を読む その4 Altman “Getting the Subtle Distinctions: Should Verbus Had Better”（DISCUSSION まで）              |
|     | 事前学修 | 事前配布プリント（A4版横）の文献を精読し、日本語訳を用意しておくこと  |
|     | 事後学修 | 授業内容を復習しておくこと  |
| 14回 | 授業内容 | これまでの復習（予備回）   |
|     | 事前学修 | これまでの授業で不足と感じるものについて質問を考えておくこと   |
|     | 事後学修 | テストに備えて勉強しておくこと  |
| 15回 | 授業内容 | 総括テストおよびまとめ  |
|     | 事前学修 | テストに備えて勉強しておくこと  |
|     | 事後学修 | 本授業で学んだことを今後の学修に活かすこと  |

◆**教科書** **事前資料送付** A4版「縦」（Can と May について）の資料を配布します。

**事前資料送付** A4版「横」（Had better について）の資料を配布します。

◆**参考書** 大学生・社会人向けの辞書を必ず持参してください。2003年以降に発行された辞書が望ましいです。新しい辞書の購入をお考えの方には授業中にいくつかご紹介いたします。

◆**成績評価基準** 試験（60%）、授業参画度（40%）  
※3日間すべての回に出席していることを前提に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：授業の前後ないし授業中に（用紙に書いていただいて）質問を受け付けます。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔倫理学基礎講読〕

関谷 雄磨

◆**授業概要** 「倫理学基礎講読」は、倫理学上のさまざまな問題をテーマに書かれた作品を精読する科目です。本年は、プラトンの初期作品から『ソクラテスの弁明』を扱います。この作品においては、例えば、人間にとって最も大切なものは「命」なのか、それとも、「命」以上に大切にすべきものがあるのか、もしあるとしたらそれは一体何なのか、といった問いかけがなされており、それらを手掛かりとして、「われわれは一体どのような生き方をすればよいのか」という根本的な問題について、本講座でみなさんと一緒に考えたいと思います。

◆**学修到達目標** プラトンの作品と一緒に読みながら、倫理学（哲学）書を深く理解するための読み方を習得します。具体的には、1) まず、作品の中でどのような問題が提起されているのかを理解し、2) そして、その問題に対して著者（あるいは登場人物）がどのような主張をしているのかを読み解きます。3) その上で、読み手であるわれわれ自身がその問題について主体的に考察・評価する、というものです。

◆**授業方法** 授業は、ソクラテスやその時代状況について少し講義をした後に、『ソクラテスの弁明』を読みます。今年度は関谷がテキストを音読し、そこにどのような問題が隠れているのかを掘り起こして解説しながら読み進めるというスタイルで行います。なお、学修効果を高めるため、必ず事前に『ソクラテスの弁明』を読んでから授業に臨んで下さい。（『授業計画』におけるページの割り振りは便宜的なものです。）

### ◆履修条件

### ◆授業計画〔各 90 分〕

|      |   |
|------|---|
| 1 回  | 授業内容：ガイダンス、ソクラテスおよびその時代状況についての一般的説明     |
|      | 事前学修：『ソクラテスの弁明』（前半）を読んでおくこと             |
|      | 事後学修：ソクラテスおよびその時代状況について、配布プリントを基に復習すること |
| 2 回  | 授業内容：ソクラテスおよびその時代状況についての一般的説明（つづき）      |
|      | 事前学修：『ソクラテスの弁明』（後半）を読んでおくこと             |
|      | 事後学修：ソクラテスおよびその時代状況について、配布プリントを基に復習すること |
| 3 回  | 授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（1-2 章）                |
|      | 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと    |
|      | 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと  |
| 4 回  | 授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（3-5 章）                |
|      | 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと    |
|      | 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと  |
| 5 回  | 授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（6-7 章）                |
|      | 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと    |
|      | 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと  |
| 6 回  | 授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（8-10 章）               |
|      | 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと    |
|      | 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと  |
| 7 回  | 授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（11-12 章）              |
|      | 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと    |
|      | 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと  |
| 8 回  | 授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（13-15 章）              |
|      | 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと    |
|      | 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと  |
| 9 回  | 授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（16-17 章）              |
|      | 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと    |
|      | 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと  |
| 10 回 | 授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（18-20 章）              |
|      | 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと    |
|      | 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと  |
| 11 回 | 授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（21-22 章）              |
|      | 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと    |
|      | 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと  |
| 12 回 | 授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（23-25 章）              |
|      | 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと    |
|      | 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと  |
| 13 回 | 授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（26-27 章）              |
|      | 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと    |
|      | 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと  |
| 14 回 | 授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（28-30 章）              |
|      | 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと    |
|      | 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと  |
| 15 回 | 授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（31-33 章）              |
|      | 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと    |
|      | 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと  |

◆**教科書** 〔通材〕『倫理学基礎講読 P 30200』（通信教育教材 教材コード 000337）

◆**参考書** 〔通材〕『西洋思想史 I P20200』通信教育教材（教材コード 000569）  
〔図〕『増補ソクラテス』岩田靖夫（ちくま学芸文庫）

◆**成績評価基準** 期間中に課すレポート（10%）および、終講レポート（90%）で評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：philosophy\_gr\_sekiya@yahoo.co.jp

注意

# 講座内容（シラバス）

〔東洋史特講Ⅱ〕 オープン受講：不可

高綱 博文

◆**授業概要** 孫文の「大アジア主義」について

◆**学修到達目標** 近代中国を代表する革命政治家・孫文は、1924年11月最後の訪日において有名な「大アジア主義」講演を行った。本講義では同講演を彼の対外戦略論の視点から読み解き、複雑な近代日中関係史を理解する。

◆**授業方法** テキストを講読するとともに、孫文関係の映像資料を視聴し近代日中関係史への理解を深める。

◆**準備学修** テキスト『東洋史特講Ⅱ』を通読しておくこと。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔1日目：450分、2日目：450分、3日目：450分〕

|     |  |
|-----|--|
| 1日目 | テキストの第1章・第2章及び史料を講読する。<br>孫文と中国革命（映像視聴・講義）                   |
| 2日目 | テキストの第3章・第4章及び史料を講読する。<br>孫文と中国革命（映像視聴・講義）                   |
| 3日目 | テキストの第5章・第6章及び史料を講読する。<br>孫文の中国革命を支援した日本人（映像視聴・講義）<br>まとめ・試験 |

◆**教科書** 『東洋史特講Ⅱ』（通信教育部教材）

◆**参考書** ●

◆**成績評価基準** 試験（70%）、レポート（30%）。

◆**授業相談（連絡先）**：takatsuna.hirofumi@nihon-u.ac.jp（連絡する際には学科・学生番号・氏名を明記）

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔情報概論〕

中村 典裕

◆**授業概要** 現代社会において知的活動を行うためには、コンピュータの活用は必須である。その中でも特にオフィスソフトと呼ばれる、ワープロ・表計算・プレゼンソフトを使いこなす技術は極めて重用である。本講義では、民間企業で情報システムの構築に関わった経験のある教員が、文書などの文字情報を扱うワープロソフト、数字やデータなどの表計算ソフト、研究成果や地域情報の発信などを行うプレゼンソフトの基本と応用面を教育する。

◆**学修到達目標** 本講義を通じてオフィスソフトの概要と特徴を把握し、情報の種類に応じて適切なソフトウェアを選択して利用できる技術を習得する。最終的に次の内容を習得することを目標とする。

1. オフィスソフトの概要を習得する。
2. 情報の種類に応じて、ワープロ・表計算・プレゼンソフトの使い分けが可能になる。
3. 最終的にオフィスソフトを活用して、ある程度まとまった課題を完成する事ができる。

◆**授業方法** 本スクーリングの中では講義形式と演習の両方を行う。講義形式ではコンピュータの構造、歴史、コンピュータセキュリティ、情報倫理などについて学ぶ。演習ではコンピュータを実際に操作しながら、必要な技術の習得を目指す。授業の折々に小課題を課し提出する。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各 90 分）**

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容：ガイダンス、PC 操作の基礎とウェブの原理と閲覧<br>事前学修：日頃から情報通信技術（ICT）に関わるテレビ報道や新聞記事などに興味や関心を持って接する態度を期待する。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。 |
| 2 回  | 授業内容：ワードの基礎：タイピング、各種記号や特殊文字の入力、コピー & ペースト<br>事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。        |
| 3 回  | 授業内容：ワードの応用：表、図形の作成、ビジネス文書（社内文書、社外文書）の作成<br>事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。         |
| 4 回  | 授業内容：コンピュータの基本原則・コンピュータ技術の基礎に関する学習<br>事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。               |
| 5 回  | 授業内容：ワードの総合演習：表現力のある文書の作成<br>事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。                 |
| 6 回  | 授業内容：表計算ソフトの概要とエクセルの基礎<br>事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。                           |
| 7 回  | 授業内容：エクセル入門：表計算ソフトの基礎、合計と平均を使った表の作成<br>事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。              |
| 8 回  | 授業内容：エクセル活用：四則演算、グラフ基礎、IF 関数、条件付き書式<br>事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。              |
| 9 回  | 授業内容：エクセル応用：オートフィルタ、データベース機能、ピボットテーブル<br>事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。            |
| 10 回 | 授業内容：情報化社会の発達と進展<br>事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。                          |
| 11 回 | 授業内容：HTML の基礎・ホームページ記述言語の基礎について学ぶ<br>事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。         |
| 12 回 | 授業内容：インターネットセキュリティ：コンピュータ犯罪などについて学ぶ<br>事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。              |
| 13 回 | 授業内容：パワーポイント入門：プレゼンテーションの基礎<br>事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。                      |
| 14 回 | 授業内容：パワーポイント演習：プレゼンテーションの実践演習<br>事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。                    |
| 15 回 | 授業内容：最終課題：これまでに学習した内容を駆使して課題に取り組む。<br>事前学修：前回までの授業内容を確認し、最終課題に備える。<br>事後学修：最終課題の結果を整理し、結果について再確認する。  |

◆**教科書**（当日資料配布）

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 平常点（20%）、小課題（30%）、最終課題レポート（50%）。全時間受講する事を前提として評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

注意



# 講座内容（シラバス）

## 〔経済開発論〕

前野 高章

◆**授業概要** 新興国や途上国の経済発展はいまや世界経済に強い影響を与えており、先進国と新興国や途上国との経済的結びつきは深まっている。本講義では経済発展の基礎理論と経済発展の源泉に関する主要論点を学ぶことから、新興国および途上国の経済発展を歴史的側面、理論的側面、政策的側面から理解し、グローバル化による経済的影響について考えていく。

◆**学修到達目標** 発展途上国の経済開発がどのように変遷してきたのか、という点を歴史的側面、理論的側面、政策的側面から学ぶことにより、アジア地域の新興国や発展途上国の経済開発の現状や直面している課題について理解・説明できるようになることを目的とする。

◆**授業方法** 授業は講義形式を基本とする。教科書および配布資料にもとづき、板書とパワーポイントで講義を行う。教科書は事前に読んでおくこと。また、講義内で課題を設ける場合、その解説は講義内で行うようにする。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |      |   |
|------|------|---|
| 1 回  | 授業内容 | 開発経済論とは何かについて<br>講義の進め方について確認し、経済発展とは何かなどについて学修する。      |
|      | 事前学修 | 教科書、参考書などから経済発展とは何かを把握する。                               |
|      | 事後学修 | 講義の内容を整理し、配布資料を読んで、講義内容を理解する。                           |
| 2 回  | 授業内容 | 国際経済学と経済開発論<br>経済開発の歴史的展開（戦前から戦後 1950 年代）について学修する。      |
|      | 事前学修 | 前回の配布資料の要点を確認する。  |
|      | 事後学修 | 配布資料をもとに講義内容をまとめる。                                      |
| 3 回  | 授業内容 | 国際経済学と経済開発論<br>経済開発の歴史的展開（1960 年代から 1970 年代）について学修する。   |
|      | 事前学修 | 教科書、参考書、配布資料などから南北問題の意味について確認する。                        |
|      | 事後学修 | 講義内容をもとに南北問題の発生経緯について整理する。                              |
| 4 回  | 授業内容 | 国際経済学と経済開発論<br>経済開発の歴史的展開（1980 年代以降）について学修する。           |
|      | 事前学修 | 教科書、参考書、配布資料などから途上国と新興国の格差問題について確認する。                   |
|      | 事後学修 | 講義内容をもとに南北問題の変容と新興国の台頭について整理する。                         |
| 5 回  | 授業内容 | 経済開発の基本問題と開発理論の展開<br>途上国の経済成長と貧困問題について学修する。             |
|      | 事前学修 | 教科書、参考書、配布資料などから経済発展と貿易の関係について確認する。                     |
|      | 事後学修 | 講義内容をもとにローレンツ曲線やクズネッツの逆 U 字仮説について確認し、経済成長と貧困問題について整理する。 |
| 6 回  | 授業内容 | 経済開発の基本問題と開発理論の展開<br>開発経済理論の展開について学修する。                 |
|      | 事前学修 | 教科書、参考書、配布資料などから経済発展と海外直接投資の関係について確認する。                 |
|      | 事後学修 | 講義内容をもとに経済開発の理論展開について整理する。                              |
| 7 回  | 授業内容 | 経済発展と貿易の役割<br>国際貿易の役割について学修する。                          |
|      | 事前学修 | 教科書、参考書、配布資料などから経済発展と開発戦略の関係について確認する。                   |
|      | 事後学修 | 講義内容をもとに経済開発における国際貿易の役割について整理する。                        |
| 8 回  | 授業内容 | 経済発展と貿易の役割<br>国際貿易理論の進展について学修する。                        |
|      | 事前学修 | 教科書、参考書、配布資料などから経済発展と工業化戦略の関係について確認する。                  |
|      | 事後学修 | 講義内容をもとに国際貿易の理論展開について整理する。                              |
| 9 回  | 授業内容 | 経済発展と貿易の役割<br>経済発展における貿易政策の役割について学修する。                  |
|      | 事前学修 | 教科書、参考書、配布資料などから経済発展における人口問題について確認する。                   |
|      | 事後学修 | 講義内容をもとに貿易政策の役割について整理する。                                |
| 10 回 | 授業内容 | 開発戦略の展開とキャッチアップ<br>経済開発のキャッチアップ・プロセスについて学修する。           |
|      | 事前学修 | 教科書、参考書、配布資料などから途上国の農村問題や貧困問題について確認する。                  |
|      | 事後学修 | 講義内容をもとに開発戦略の時代的推移について整理する。                             |
| 11 回 | 授業内容 | 経済発展と人口問題<br>経済発展における人口増加と経済成長の関係性について学修する。             |
|      | 事前学修 | 教科書、参考書、配布資料などから途上国の都市化政策について確認する。                      |
|      | 事後学修 | 講義内容をもとに経済発展における人口転換モデルと人口政策の在り方について整理する。               |
| 12 回 | 授業内容 | 経済発展と農村開発・都市化政策<br>経済発展における農村開発と都市化政策について学修する。          |
|      | 事前学修 | 教科書、参考書、配布資料などから東アジア地域の経験の要因について確認する。                   |
|      | 事後学修 | 講義内容をもとに農村開発・都市化政策の特徴と問題点を整理する。                         |
| 13 回 | 授業内容 | 経済発展と東アジアの経験<br>貿易と投資による東アジア地域の経済発展について学修する。            |
|      | 事前学修 | 教科書、参考書、配布資料などから経済発展における先進国の役割について確認する。                 |
|      | 事後学修 | 講義内容をもとに東アジアの経済発展プロセスの特徴について整理する。                       |
| 14 回 | 授業内容 | 経済発展と開発援助政策<br>開発援助の意義について学修する。                         |
|      | 事前学修 | これまで配布した資料を熟読し、要点をノートにまとめる。                             |
|      | 事後学修 | 講義内容をもとに世界の開発援助の特徴と課題について整理する。                          |
| 15 回 | 授業内容 | 試験および総まとめ<br>講義で学修した内容の総確認を行う。                          |
|      | 事前学修 | 全配布資料から講義の要点をまとめる。                                      |
|      | 事後学修 | 講義および試験をふまえ、新興国・途上国の経済発展について再確認する。                      |

◆**教科書** 丸沼『現代開発経済入門』 陸亦群 他 文真堂 2020 年  
〔当日資料配布〕講義資料は当日に配布する。

◆**参考書** 丸沼『アジア開発経済論』 セイジ・F・ナヤ著 文真堂 2013 年  
通材『経済開発のエッセンス』 辻忠博 創成社 2015 年  
丸沼

◆**成績評価基準** 試験（70%）、および、課題などの平常点（30%）から評価する。毎回出席することを前提として成績をつける。

◆**授業相談（連絡先）：**

注 意



# 講座内容（シラバス）

## 〔英語科教育法Ⅲ〕

リチャード・キャラカー

◆**授業概要** This class focuses on how different teaching methods are influenced by the various schools of educational psychology theories of language, as well as the influence of individual differences among language learners.

◆**学習到達目標** Students will be able to understand the educational theories of behaviorism, constructivism, and social interactionism, as well as aspects of communicative competence. Students will then be expected to understand how these theories influence teaching methods in the language classroom, especially audiolingualism, cognitive academic language learning approach, task-based language teaching, and communicative language teaching.

◆**授業方法** Students will engage with the content of the course through various readings, listening exercises, vocabulary exercises, reading comprehension questions, discussions and videos. Furthermore, students will be required to apply some of the theories and methods in mini teaching activities in small groups.

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 回  | 授業内容 | Introduction to the course and going over the syllabus<br>A-3-2  |
|      | 事前学修 | Read page 5  |
|      | 事後学修 | Confirm understanding of syllabus  |
| 2 回  | 授業内容 | Questions Surrounding SLA<br>Discussion and vocabulary<br>Comprehension<br>A-3-2   |
|      | 事前学修 | Read pages 6-9   |
|      | 事後学修 | Confirm understanding of Questions Surrounding SLA   |
| 3 回  | 授業内容 | Educational Psychology<br>Behaviorism, constructivism, and social interactionism<br>Reading, discussion, and vocabulary<br>A-3-2         |
|      | 事前学修 | Read pages 38-41   |
|      | 事後学修 | Confirm understanding of behaviorism, constructivism, and social interactionism  |
| 4 回  | 授業内容 | Educational Psychology: theory to method<br>CALLA and ALM<br>Comprehension and CALLA teaching activities<br>A-3-2                        |
|      | 事前学修 | Read page 42-43  |
|      | 事後学修 | Confirm understanding of CALLA, ALM, and learner strategy training activities  |
| 5 回  | 授業内容 | Educational Psychology: theory to method<br>Audiolingual lesson observation and role play<br>A-3-2                                       |
|      | 事前学修 | Read page 46   |
|      | 事後学修 | Confirm understanding of Audiolingual drills   |
| 6 回  | 授業内容 | Communicative Competence<br>Discussion, and vocabulary<br>A-3-2  |
|      | 事前学修 | Read page 20-21  |
|      | 事後学修 | Confirm understanding Janani anecdote  |
| 7 回  | 授業内容 | Communicative Competence<br>Reading comprehension and discussion<br>A-3-2  |
|      | 事前学修 | Read pages 22-24   |
|      | 事後学修 | Confirm understanding of communicative competence  |
| 8 回  | 授業内容 | Communicative Competence: Task-based Language Teaching (TBLT)<br>Reading comprehension and discussion<br>A-3-2                           |
|      | 事前学修 | Read pages 25-26   |
|      | 事後学修 | Confirm understanding of TBLT  |
| 9 回  | 授業内容 | Communicative Competence: Task-based Language Teaching (TBLT)<br>TBLT lesson observation<br>A-3-2  |
|      | 事前学修 | Read page 27   |
|      | 事後学修 | Confirm understanding of Communicative Language Teaching and Task-based Language Teaching  |
| 10 回 | 授業内容 | Individual Differences in Language Learning<br>Discussion and vocabulary<br>A-3-2  |
|      | 事前学修 | Read page 29-30  |
|      | 事後学修 | Confirm understanding of unique study methods  |
| 11 回 | 授業内容 | Individual Differences in Language Learning<br>Listening to an interview<br>Post-listening discussion: information gap activity<br>A-3-2 |
|      | 事前学修 | Read page 31-32  |
|      | 事後学修 | Confirm understanding of individual differences  |
| 12 回 | 授業内容 | Individual Differences in Language Learning<br>Lecture on motivation<br>Post-listening activity: discussing motivation<br>A-3-2          |
|      | 事前学修 | Read pages 34-35   |
|      | 事後学修 | Confirm understanding of motivation  |
| 13 回 | 授業内容 | Individual Differences in Language Learning<br>Consolidation Activity<br>A-3-2   |
|      | 事前学修 | Read page 36   |
|      | 事後学修 | Confirm understanding of individual differences  |
| 14 回 | 授業内容 | Review for test<br>A-3-2   |
|      | 事前学修 | Read pages 5-10, 19-34, and 37-42  |
|      | 事後学修 | Confirm understanding of all themes  |
| 15 回 | 授業内容 | Exam<br>Teacher evaluations<br>A-3-2   |
|      | 事前学修 | Consider the impact of pedagogy on classroom dynamics  |
|      | 事後学修 | Confirm understanding the connection between educational psychology and pedagogy   |

◆**教科書** [Linguistic Soup: Recipes for Success] 2020 [Richard Caraker] [Perceptia Press] code number: order #212821

◆**参考書**

◆**成績評価基準** Exam 60% Microteaching activity 15% Homework 10% Participation 15%  
Student participation will be measured by discussions during every class.  
"In-class examination" will be measured by a term-end exam.

◆**授業相談（連絡先）** : richardcaraker@gmail.com

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔国語科教育法Ⅰ〕

野澤 拓夫

◆**授業概要** 「学習指導要領」の趣旨や構造について学ぶことを通して、国語科教育の意義と内容を理解する。また、カリキュラム・マネジメントについても理解する。それらの理論をふまえ、どのようにしたらそれを具現化できるか、具体的な教材に即して検討する。具体的事例としては高校1年生を対象とした『国語総合』を教材にして、現代文・古文・漢文の模擬授業を演習形式で行い、その適否について質疑と討論を重ねて考察・評価できるようにする。

◆**学習到達目標** 「学習指導要領」が求める新しい時代における国語科教育の在り方について、具体的事例を基に考察・討論することと、その理解を自分のものにすることができる。グループによる模擬授業によって疑似トレーニングを積むことで、教育現場で用いられているさまざまな指導法について知ることができる。また、教育実習を想定した具体的な取り組みについても取り上げるので、教育実習に臨む準備ができる。

◆**授業方法** 初日の理論を基に2日目からグループごとに効果的な授業方法を検討・選択して模擬授業を実施する。その具体的な展開例から全体で討論を重ね、指導法の適否についての考察・評価を行う。ディベート・学習ゲームなどの教育実践例（DVD）を紹介し、これらについても検討を行う。模擬授業・教育実践例に対して、個人に評価シートの提出を求める。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各 90 分）**

|      |      |   |
|------|------|---|
| 1 回  | 授業内容 | ガイダンスとして授業の進め方を説明する。グループを編成し、本シラバスに提示した現代文・古文・漢文の3分野8教材を用いた模擬授業の分担（グループ・発表者）を決める。よい模擬授業の実現に向けて、「授業評価」の観点を参照しつつ、その条件について討議する。  |
|      | 事前学修 | 本シラバスに提示した現代文・古文・漢文の3分野8教材を読んでおくこと。また「よい授業」の条件について考えておくこと。「評価」の意味について考えておくこと。   |
|      | 事後学修 | 討議内容を整理するとともに、授業内容と配布資料とを確認し、理解を深めておくこと。  |
| 2 回  | 授業内容 | 教育実践例「伝統的な言語文化を授業する」（DVD）を紹介、解説し、あわせて模擬授業展開上の留意点等について解説する。  |
|      | 事前学修 | 伝統的な言語文化について、あらかじめ調べておくこと。  |
|      | 事後学修 | 授業内容と配布資料を確認し、国語科教育に求められているさまざまな事項を理解する。  |
| 3 回  | 授業内容 | 「国語科教育法Ⅰ」のテキストにより、国語科教育の意義と内容について解説する。また、「学習指導要領解説」の内容を確認し、新しい時代の国語科教育の在り方とカリキュラム・マネジメントについて解説する。   |
|      | 事前学修 | テキストと「学習指導要領解説」に目を通しておくこと。  |
|      | 事後学修 | 授業内容を確認・整理して、国語科教員が果たすべき役割について理解を深めておくこと。   |
| 4 回  | 授業内容 | アクティブラーニングのひとつである「学習ゲーム」（作文に関するもの）をDVDで紹介し、アクティブラーニングを国語科教育に活用する必要性と意義について解説、討議する。  |
|      | 事前学修 | アクティブラーニングおよび「学習ゲーム」とは何かについて調べ、それが必要な理由について考えておくこと。   |
|      | 事後学修 | 授業内容をふまえアクティブラーニングおよび「学習ゲーム」をどのように授業に活かしたらよいのかについて考えておくこと。  |
| 5 回  | 授業内容 | 現代文・古文・漢文の授業それぞれの模擬授業展開上の留意点と、指導案作成上の注意点を説明し、質疑に答える。その後、グループごとに担当する教材の性格を分析し、模擬授業の準備に入る。配布された指導案のフォームを用いて、「よい指導案」づくりに取り組む。  |
|      | 事前学修 | 指導案を作成するうえでの留意点をインターネット等であらかじめ調べておくこと。  |
|      | 事後学修 | 授業内容をふまえ、各グループごとに担当する模擬授業の指導方法について検討、決定しておくこと。  |
| 6 回  | 授業内容 | 現代文 詩「わたしが一番きれいだったとき」（75～77頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。   |
|      | 事前学修 | 当該教材を読んで、適切と思われる指導方法を考え、授業プランを立てておくこと。<br>※当該教材による模擬授業を担当するグループについては、発表者を中心に協働して教材のジャンルや性格に適した指導方法・授業形態を選択し、意欲的な授業プランを立てること。それに基づいた学習指導案を作成し、必要に応じてワークシートなどを用意すること。 |
|      | 事後学修 | 授業内容を確認し、詩教材の扱い方について整理し、教育現場で求められる指導力について把握しておくこと。<br>※模擬授業を担当したグループについては、授業内容をふまえて、ふりかえりを行い、その成果を共有しておくこと。   |
| 7 回  | 授業内容 | 漢文 故事「蛇足」（308～309頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。   |
|      | 事前学修 | 当該教材を読んで、漢文・故事という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。  |
|      | 事後学修 | 授業内容を確認し、漢文教材の扱い方を整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。  |
| 8 回  | 授業内容 | 現代文 小説「羅生門」（156～172頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。   |
|      | 事前学修 | 当該教材を読んで、小説という教材の性格をふまえた授業プランを立てておくこと。  |
|      | 事後学修 | 授業内容を確認し、小説の扱い方について整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。   |
| 9 回  | 授業内容 | 古文 俳諧紀行文・奥の細道「旅立ち」（276～277頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。  |
|      | 事前学修 | 当該教材を読んで、古文・俳諧紀行文という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。   |
|      | 事後学修 | 授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。  |
| 10 回 | 授業内容 | 漢文 史伝「晏子の御者」（314～315頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。  |
|      | 事前学修 | 当該教材を読んで、前の漢文で学んだ留意点を活かした授業プランを立てておくこと。   |
|      | 事後学修 | 授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。  |
| 11 回 | 授業内容 | 現代文 評論「水の東西」（126～132頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。  |
|      | 事前学修 | 当該教材を読んで、評論という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。   |
|      | 事後学修 | 授業内容を確認し、評論教材の扱い方について整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。   |
| 12 回 | 授業内容 | 古文 伊勢物語「芥川」（288～289頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。   |
|      | 事前学修 | 当該教材を読んで、古文・物語という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。  |
|      | 事後学修 | 授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。  |
| 13 回 | 授業内容 | 漢文 唐詩「江雪・涼洲詩」（321～322頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。   |
|      | 事前学修 | 当該教材を読んで、漢詩という教材の性格をふまえた授業プランを立てておくこと。  |
|      | 事後学修 | 授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。  |
| 14 回 | 授業内容 | 教育実践例として「ディベートの授業」をDVDで紹介し、解説する。また、「ディベート教育」が日本で進まない理由と現状とを解説し、それが本当に必要な授業形態なのか、また日本に根づいていくものなのかについて検討する。   |
|      | 事前学修 | ディベートとは何かについて調べ、ディスカッションとの違いについて考えておくこと。  |
|      | 事後学修 | 授業内容をふまえ、「ディベート」をどのようにしたら授業に活かせるのかを考えておくこと。   |
| 15 回 | 授業内容 | 試験  |
|      | 事前学修 | 14回の授業のふりかえりを行い、試験のための準備をしておくこと。  |
|      | 事後学修 | 試験問題（課題）について、正しい理解と適切な解答ができたかを確認しておくこと。   |

◆**教科書** 『新版 中学校 高等学校国語科教育法』 野路潤家・湊吉正（おうふう）  
『新編 国語総合』 高校1年教科書（教育出版）17 教出 国総 343  
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（文部科学省）  
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』（文部科学省）

◆**参考書** 国語・古語・漢和の各辞書  
『国語科 重要用語事典』 高木まさ他（明治図書）

◆**成績評価基準** 授業参画度（30%）、提出物（30%）、試験（40%）により総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：nozaseimei22@gmail.com

注意

| 第2期                |                                     | 8/10～8/15 |     |                   |
|--------------------|-------------------------------------|-----------|-----|-------------------|
| 講座名                | 担当教員                                | シラバス変更    | 受講者 | 備考                |
| 政治学                | 関根 二三夫                              |           | 全   | 昼間受講不可            |
| 英語Ⅰ～Ⅳ              | 和泉 周子                               | あり        | 50  | 昼間受講不可            |
| 英語Ⅰ～Ⅳ              | アレックス ブラウン                          | あり        | 全   | 昼間受講不可            |
| フランス語Ⅰ・Ⅱ           | 大庭 克夫                               | あり        | 全   | 昼間受講不可            |
| 体育実技Ⅰ・Ⅱ            | 佐藤 秀明・佐藤 佑介<br>高橋 正則・深見 将志<br>水落 文夫 |           | 200 | 課題研究              |
| 商法Ⅰ                | 宮崎 裕介                               | あり        | 全   |                   |
| 民事訴訟法              | 吉田 純平                               |           | 全   |                   |
| 民法Ⅳ                | 清水 恵介                               | あり        | 100 |                   |
| 国際政治学              | 大八木 時広                              |           | 全   |                   |
| 地方自治論              | 山田 光矢                               | あり        | 全   |                   |
| 国語学演習Ⅰ～Ⅲ           | 杉山 俊一郎                              |           | 全   | 後半 (ZOOM)         |
| 国語音声学              | 林 直樹                                |           | 全   |                   |
| 国語学講義              | 鈴木 功真                               | あり        | 280 |                   |
| 国文学演習Ⅰ～Ⅵ           | 高橋 優美穂                              |           | 30  | 前半 (ZOOM)         |
| 国文法                | 阿久澤 忠                               |           | 全   |                   |
| 英語学特殊講義            | 吉良 文孝                               |           | 30  | 前半                |
| 英米文学演習Ⅰ～Ⅲ          | 鈴木 ふさ子                              |           | 30  | 後半                |
| スピーチコミュニケーションⅡ     | リチャード キャラカー                         |           | 60  | 前半 (ZOOM) シラバス未掲載 |
| アメリカ文学史            | 北原 安治                               |           | 75  |                   |
| 英語学演習Ⅰ～Ⅲ           | 真野 一雄                               |           | 全   |                   |
| イギリス文学史Ⅰ           | 常名 朗央                               |           | 50  |                   |
| 英語学演習Ⅰ～Ⅲ           | 田中 竹史                               |           | 30  | 後半                |
| 哲学演習Ⅰ・Ⅱ            | 長谷川 武雄                              |           | 30  | 後半                |
| 日本史入門              | 関 幸彦                                |           | 全   |                   |
| 日本史演習Ⅰ・Ⅱ           | 下川 雅弘                               | あり        | 30  | 前半 ZOOMに変更        |
| 経済学史/経済学説史         | 塚本 隆夫                               |           | 全   |                   |
| 経済原論/経済学原論         | 陸 亦群                                |           | 全   | 後半 (ZOOM)         |
| 地方財政論              | 斎藤 英明                               |           | 60  | 前半 (ZOOM)         |
| 貿易論                | 岡田 直己                               |           | 全   | 後半 (ZOOM)         |
| 証券市場論              | 佐藤 猛                                |           | 60  |                   |
| 教育課程論              | 滝澤 雅彦                               |           | 全   |                   |
| 英語科教育法Ⅳ            | 小林 和歌子                              |           | 全   |                   |
| 英語科教育法Ⅱ            | 市川 泰弘                               |           | 30  | 前半                |
| 社会科・公民科教育法Ⅱ        | 高橋 隆人                               |           | 30  | 前半                |
| 生徒指導・進路指導論         | 上野 昌之                               |           | 30  | 後半                |
| 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 | 今泉 朝雄                               |           | 全   |                   |
| 法学通論/法律学概論（国際法を含む） | 遠藤 清臣                               |           | 全   |                   |
| 博物館経営論             | 中野 照男                               |           | 全   |                   |

変更シラバスは後日掲載します

黄色：市ヶ谷校舎での面接授業（3日間授業）

オレンジ：ライブ配信授業（3日間授業）

白：Google classroomによる映像配信授業（月曜日～土曜日6日間授業）

前半：8月10日～8月12日（9：00～17：30）3日間のみの授業

後半：8月13日～8月15日（9：00～17：30）3日間のみの授業

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔政治学〕

関根 二三夫

◆**授業概要** 基礎教育としての講義を行います。政治学の変遷、政治の概念や本質、政治権力、国家と国家機関、議会政治、立法部と行政部、大統領拒否権や議会拒否権など、主に政治に関する思想的側面や制度面について学びます。

◆**学修到達目標** 議会や大統領もしくは内閣の動きを見ますと、政治が難しい現象のように思われます。しかし、法律や予算の制定や執行は、国家や社会及び個人の発展に寄与するために役立ちます。この講義においては、政治が我々の生活に大きな影響を及ぼすと同時に、我々にとって身近な現象であることを理解できるようにします。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、政治に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるかを客観的に理解しなければなりません。講義中に理解度チェックを行い、講義内容に関する受講生の理解度を高めて行きます。受講に際しては、予習及び復習が必要になります。

### ◆授業計画〔各90分〕

|     |  |
|-----|--|
| 1回  | 授業内容：講義全体の概要の説明<br>事前学修：テキストを熟読し、概要を理解すること。<br>事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。      |
| 2回  | 授業内容：政治学の変遷<br>事前学修：参考書の第1章第2節を熟読すること。<br>事後学修：講義で知り得た内容を整理し、時代区分毎にノートにまとめること。     |
| 3回  | 授業内容：政治の概念<br>事前学修：参考書の第1章第1節を熟読すること。<br>事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。            |
| 4回  | 授業内容：政治の本質<br>事前学修：テキストの第1章第1節を熟読すること。<br>事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。           |
| 5回  | 授業内容：政治権力—概念及び構造<br>事前学修：テキストの第1章第2節を熟読すること。<br>事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。     |
| 6回  | 授業内容：政治権力—支配の手段<br>事前学修：参考書の第2章第4節を熟読すること。<br>事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。       |
| 7回  | 授業内容：国家成立の要素<br>事前学修：参考書の第3章を熟読すること。<br>事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。             |
| 8回  | 授業内容：国家の分類<br>事前学修：参考書の第3章を熟読すること。<br>事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。               |
| 9回  | 授業内容：国家機関<br>事前学修：参考書の第3章を熟読すること。<br>事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。                |
| 10回 | 授業内容：議会政治の原理<br>事前学修：参考書の第4章第1節を熟読すること。<br>事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。          |
| 11回 | 授業内容：議会の構成<br>事前学修：テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。<br>事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。  |
| 12回 | 授業内容：議院内閣制<br>事前学修：テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。<br>事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。  |
| 13回 | 授業内容：大統領制<br>事前学修：テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。<br>事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。   |
| 14回 | 授業内容：大統領拒否権<br>事前学修：テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。<br>事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。 |
| 15回 | 授業内容：議会拒否権<br>事前学修：テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。<br>事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。  |

◆**教科書** 通材『政治学 B11700』通信教育教材（教材コード000279）

◆**参考書** 函国『教養政治学』岩井奉信・黒川貢三郎・関根二三夫他 改訂 南窓社 2012年

◆**成績評価基準** 試験70%、平常点30%。※試験同様、質問や理解度チェック等の平常点も重視しますので、受講に際しては欠席をしないように注意して下さい。

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英語〕

アレックス ブラウン

- ◆**授業概要** Students will learn authentic English by studying the dialogue in the scenes from the movie Big Fish by Tim Burton, starring Ewan MacGregor. Each class will involve answering comprehension questions and group discussion on various themes in the movie. Students will be asked to hand in their work to be reviewed by the teacher periodically.
- ◆**学修到達目標** This course gives students the opportunity to improve listening comprehension and discussion skills in a group setting. This movie offers a wide range of challenging topics for discussion. Students are expected to participate actively.
- ◆**授業方法** Students will be given daily worksheets to complete. The tasks will vary from day to day but actively listening and follow up discussion questions will be the norm. Role plays of the movie script will take place from time to time.
- ◆**履修条件** There are no pre-requisites for this course so it is open to everyone. Students must be prepared with a folder to keep handouts in and be ready to take notes.
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容: Class orientation.<br>事前学修: Ice breakers and student profiles.<br>事後学修: Search Big Fish on IMBD and browse this info.    |
| 2 回  | 授業内容: Scene 1 viewing and worksheets.<br>事前学修: List the movie's characters.<br>事後学修: Predict the next scene.                   |
| 3 回  | 授業内容: Scene 2 viewing and worksheets.<br>事前学修: Complete the discussion questions.<br>事後学修: Read over scene 1 - 3 scripts.      |
| 4 回  | 授業内容: Scene 3 viewing and worksheets<br>事前学修: Complete discussion questions<br>事後学修: Finish the vocabulary matching activity.  |
| 5 回  | 授業内容: Review the 1st quarter of the film<br>事前学修: Character discussion<br>事後学修: Complete character descriptions.               |
| 6 回  | 授業内容: Scene 4 viewing and comprehension.<br>事前学修: Vocabulary review.<br>事後学修: Prepare your script reading parts.               |
| 7 回  | 授業内容: Scene 5 viewing and questions<br>事前学修: Introduction to mid-term report.<br>事後学修: Research your mid-term report.          |
| 8 回  | 授業内容: Report presentations<br>事前学修: Post report discussions.<br>事後学修: Prepare for Scene 6                                      |
| 9 回  | 授業内容: Scene 6 viewing and discussions<br>事前学修: Check answers in groups<br>事後学修: Review scenes 4, 5, 6                          |
| 10 回 | 授業内容: Complete the Review Worksheet.<br>事前学修: Scene 7 viewing and questions.<br>事後学修: Practice the vocabulary for scene 7.     |
| 11 回 | 授業内容: Scene 8 viewing.<br>事前学修: Practice role plays in the script.<br>事後学修: Complete the geographical worksheet.               |
| 12 回 | 授業内容: Scene 9 viewing and discussion<br>事前学修: Pronunciation practice.<br>事後学修: Read notes for character development.           |
| 13 回 | 授業内容: Final scene viewing.<br>事前学修: Review scenes 7 - 10.<br>事後学修: Review all discussion questions and character profiles.     |
| 14 回 | 授業内容: Test review questions<br>事前学修: Replay key scenes from the film<br>事後学修: Study for the test.                              |
| 15 回 | 授業内容: Multiple choice and True/False test<br>事前学修: Complete the essay question.<br>事後学修: Congratulations on course completion. |

◆**教科書** 当日資料配布

◆**参考書** 当日資料配布

◆**成績評価基準** Class participation and class work submission is part of the grade (60%) A report will be graded at midterm. (10%) A test will be given on the last day (30%).

## 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



# 講座内容（シラバス）

## 〔体育実技〕 オープン受講：不可

高橋 正則

◆**授業概要** 現代の高齢社会において、健康を維持・増進するためには、適度な運動習慣を生活習慣に取り込むことが求められます。そこで、まず自己の体力の現状を把握し、身体運動の継続的な必要性について認識を高めます。そして、年齢や体力レベルに応じた運動参加への具体的方法を理解し、スポーツ実践に取り組むとともに、それらを通して、他者とコミュニケーションを活発に図ることで社会的スキルも養います。そのために、日頃より1日20分以上の連続歩行や軽い柔軟運動の実施を心がけ、コンディショニングの維持が大切となります。特に、トレーニングコーチ（日本オリンピック委員会強化スタッフ・医科学）として体力トレーニングやメンタルトレーニングの指導実績を生かし、実践的で効果的な方法論を実践に反映させています。

◆**学習到達目標** 多くの運動やスポーツの実践を通して、その楽しさや具体的方法を他者とともに学び、自らが身体活動を継続して実施することの重要性を認識できるようになる。また、スポーツを通して、他者とのコミュニケーションを深め、社会的スキルを向上させることができるようになる。

◆**授業方法** 原則、天候に左右されない体育館内（アリーナおよび卓球場）での授業とし、いくつかの小グループに分かれ、体力測定をはじめとする様々な運動や、ネット型スポーツやニュースポーツを中心としたスポーツを体験します。体力測定結果については、性別や年齢に応じた基準値と比較照合して、自己評価を実施します。また、各グループでのネット型スポーツやニュースポーツでは、学生個々の年齢や体力レベルに配慮するとともに、入念なウォーミングアップとクールダウンを徹底して行います。なお、本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

|     |      |   |
|-----|------|---|
| 1回  | 授業内容 | ガイダンス：集中授業における運動の効果とリスク・施設の使用法・注意事項の説明、グループ分けと準備体操の実施。                            |
|     | 事前学修 | 前日までに各自で体力の維持・向上を図り、コンディショニングの維持に留意しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。  |
| 2回  | 授業内容 | 体力測定の実施と評価：5種目（閉眼片足立ち、握力、長座体前屈、上体起こし、反復横跳び）、具体的な説明の実施。測定後、各測定項目の基準値と比較照合し、自己評価する。 |
|     | 事前学修 | 前日よりコンディショニングの維持に留意しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。  |
| 3回  | 授業内容 | 卓球：用具の理解、フォアハンドとバックハンド、サーブ、ボールの回転とショットとの関係、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。    |
|     | 事前学修 | 前日よりコンディショニングの維持に留意しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。  |
| 4回  | 授業内容 | 卓球：ダブルスにおけるペアとのコンビネーション（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。                           |
|     | 事前学修 | 前日よりコンディショニングの維持に留意しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。  |
| 5回  | 授業内容 | 卓球：ルール理解、ダブルスの試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。                                  |
|     | 事前学修 | 前日よりコンディショニングの維持に留意しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。  |
| 6回  | 授業内容 | バドミントン：用具の理解、フォアハンドとバックハンド、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。                    |
|     | 事前学修 | 前日よりコンディショニングの維持に留意しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。  |
| 7回  | 授業内容 | バドミントン：サーブ、ハイクリアー、ダブルスにおけるペアとのコンビネーション（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。            |
|     | 事前学修 | 前日よりコンディショニングの維持に留意しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。  |
| 8回  | 授業内容 | バドミントン：ルール理解、ダブルスの試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。                              |
|     | 事前学修 | 前日よりコンディショニングの維持に留意しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。  |
| 9回  | 授業内容 | ミニテニス：用具の理解、フォアハンドとバックハンド、ボールの回転とショットとの関係、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。     |
|     | 事前学修 | 前日よりコンディショニングの維持に留意しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。  |
| 10回 | 授業内容 | ミニテニス：サーブ、ダブルスにおけるペアとのコンビネーション（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。                    |
|     | 事前学修 | 前日よりコンディショニングの維持に留意しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。  |
| 11回 | 授業内容 | ミニテニス：ルール理解、ダブルスの試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。                               |
|     | 事前学修 | 前日よりコンディショニングの維持に留意しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。  |
| 12回 | 授業内容 | バレーボール：用具の理解、アンダーハンドおよびオーバーハンドパス、レシーブ、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。         |
|     | 事前学修 | 前日よりコンディショニングの維持に留意しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。  |
| 13回 | 授業内容 | バレーボール：ルール理解、パスワーク、チームビルディング、試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。                   |
|     | 事前学修 | 前日よりコンディショニングの維持に留意しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。  |
| 14回 | 授業内容 | ソフトバレーボール：ルール理解、パス、サーブ、チームビルディング、試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。               |
|     | 事前学修 | 前日よりコンディショニングの維持に留意しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。  |
| 15回 | 授業内容 | グループ別対抗ソフトバレーボール大会：4コートに分かれ、各コート内でグループ別に総当たり戦を行う（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。  |
|     | 事前学修 | 前日よりコンディショニングの維持に留意しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。  |

◆**教科書** 特になし

◆**参考書** 〔丸〕『健康・スポーツ教育論』 日本大学文理学部体育学研究室編、八千代出版

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（貢献度）および自己の体力に合った運動への理解と遂行の程度によって、総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：初回の授業時、受講学生に直接伝えます。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔民事訴訟法〕

吉田 純平

◆**授業概要** 民事訴訟法は、私人間の紛争を解決するための訴訟を規律する法律である。本講義では、民事訴訟の基本的な流れやルールを概観しながら、民事訴訟法における基本的な概念を説明し、同法における重要な論点について学説や判例の検討を行う。

◆**学修到達目標** 民事訴訟法における基本的概念の意味を理解し、説明することができる。また、民事訴訟に関する簡単な事例について、関連する法規を適用するとともに、論点を見つけて学説や判例を参考に議論することができる。

◆**授業方法** 基本的には講義形式で行う。毎回授業内容に関する小テストを行い、知識の修得度を確認する。小テストについては、次回授業の冒頭で解説する。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容：民事手続の種類・民事訴訟法の法源<br>事前学修：教科書の該当部分を読む。<br>事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。    |
| 2 回  | 授業内容：民事訴訟の目的・司法権の限界<br>事前学修：教科書の該当部分を読む。<br>事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。      |
| 3 回  | 授業内容：裁判所<br>事前学修：教科書の該当部分を読む。<br>事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。                 |
| 4 回  | 授業内容：当事者<br>事前学修：教科書の該当部分を読む。<br>事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。                 |
| 5 回  | 授業内容：訴えの利益<br>事前学修：教科書の該当部分を読む。<br>事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。               |
| 6 回  | 授業内容：訴訟物・二重起訴の禁止<br>事前学修：教科書の該当部分を読む。<br>事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。         |
| 7 回  | 授業内容：訴訟行為<br>事前学修：教科書の該当部分を読む。<br>事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。                |
| 8 回  | 授業内容：証拠調べ<br>事前学修：教科書の該当部分を読む。<br>事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。                |
| 9 回  | 授業内容：自白<br>事前学修：教科書の該当部分を読む。<br>事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。                  |
| 10 回 | 授業内容：訴訟の終了<br>事前学修：教科書の該当部分を読む。<br>事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。               |
| 11 回 | 授業内容：既判力の主観的範囲・客観的範囲<br>事前学修：教科書の該当部分を読む。<br>事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。     |
| 12 回 | 授業内容：複数請求訴訟<br>事前学修：教科書の該当部分を読む。<br>事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。              |
| 13 回 | 授業内容：複数当事者訴訟<br>事前学修：教科書の該当部分を読む。<br>事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。             |
| 14 回 | 授業内容：参加<br>事前学修：教科書の該当部分を読む。<br>事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。                  |
| 15 回 | 授業内容：上訴・再審<br>事前学修：教科書の該当部分を読む。<br>事後学修：教科書の「確認しよう」を解く。民事訴訟の全体的な流れを確認する。 |

◆**教科書** 四国『(Next シリーズ) 民事訴訟法〔第2版〕』小田司編 弘文堂

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** 小テストの点数（60 点満点）と期末試験の点数（40 点満点）を合計して評価する。民事訴訟法の基本概念の確認と事例への民事訴訟法の適用能力を問う問題とする。

◆**授業相談（連絡先）**：授業前後のほか、メールで受け付けます。yosida.junpei@nihon-u.ac.jp

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔国際政治学 / 国際政治論 / 国際政治学概論〕

大八木 時広

◆**授業概要** グローバル化が進展する国際社会においては、人権、人種・民族問題、核兵器の拡散と軍縮問題、安全保障と国際貢献、経済における相互依存関係の深まり、地域経済統合、国際社会における貧困や格差、国際協調の推進などの問題が生じている。これらの問題や課題を理解させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割について認識させる。以上の点について、本講義では国際政治史の視点から授業をおこなう。

◆**学修到達目標** 授業概要で述べられているような項目について、国際政治上の出来事、とりわけ 20 世紀の国際政治史の出来事に関して説明することができるようになる。具体的には、戦後の新たな国際秩序とは何か、冷戦はどのようにして始まり、進展していったのか、多極化世界とは何かについて述べることができるようになる。またそうした国際政治史上の知識を、現代の国際政治上の課題と結びつけて説明できるようになる。

◆**授業方法** 受講者にはあらかじめテキストで予習してもらい、授業当日はレジメ形式のプリントを配布する。そのレジメの内容に従い、レジメ内の年表・写真・地図を参照しつつ、そしてパワーポイントなども用いて受講者の理解の手助けとしつつ講義を進める。なおスクーリング中、適時リアクションペーパーの記入と提出を求め、受講者の理解度をチェックする。リアクションペーパーについては授業内で解説を行い、受講者の理解度をさらに深めていく。

### ◆履修条件

### ◆授業計画〔各 90 分〕

|      |                      |  |
|------|----------------------|--|
| 1 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 授業ガイダンスをおこない、授業の進め方、成績評価などについて説明する。また 20 世紀前半の国際政治について概説する。<br>テキストのまえがき、および 24～42 項を読んで 20 世紀前半の国際政治について理解しておくこと。<br>配布プリントと自分のノートを整理して、授業内容を理解しておくこと。  |
| 2 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 新たな国際秩序 第二次世界大戦終了後、ヤルタ体制とブレトンウッズ体制がどのように形成され、新たな戦後国際秩序が形成されたか説明する。<br>テキスト 44～60 項を読んで、ヤルタ体制とブレトンウッズ体制が形成された背景について理解しておくこと。<br>配布プリントと自分のノートを整理して、とくにヤルタ体制とブレトンウッズ体制の担い手の違いについて確認し、授業内容を理解しておくこと。      |
| 3 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | ソ連脅威論と封じ込め政策 ソ連脅威論がどのようなものであったのか、またそれに対してアメリカは対ソ封じ込め政策をどのように展開したのか説明する。<br>テキスト 50～71 項を読んで、ソ連脅威論が登場する国際情勢について理解しておくこと。<br>配布プリントと自分のノートを整理して、とくに封じ込め政策の性格についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。                       |
| 4 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | アジアの独立 アジア、とくに中国や東南アジアにおける独立運動がどのように展開されて、どのような国々が誕生したのか説明する。<br>テキスト 98～112 項、および 134～150 項を読んで、アジア独立の背景となった国際情勢について理解しておくこと。<br>配布プリントと自分のノートを整理して、とくにアジア独立運動の性格についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。               |
| 5 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 戦後日本～占領から独立へ アメリカによってどのような占領政策が展開されたか、また日本がどのように独立を回復したか説明する。<br>テキスト 152～167 項を読んで、占領政策の背景となる国際情勢について理解しておくこと。<br>配布プリントと自分のノートを整理して、とくに日本占領がなぜ早期に終了したのかについてまとめ、授業内容を理解しておくこと。                        |
| 6 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 冷戦下の国際危機(1) 冷戦下で発生したベルリン危機と台湾海峡危機について、どのような国際的背景の下でなぜ発生したか説明する。<br>テキスト 86～92 項、および 254～257 項を読んで、危機発生背景となる国際情勢について理解しておくこと。<br>配布プリントと自分のノートを整理して、とくに危機の収束の仕方についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。                   |
| 7 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 冷戦下の国際危機(2) 冷戦下で発生したキューバ危機について、どのような国際的背景の下でなぜ発生したか説明する。<br>テキスト 287～297 項を読んで、ベルリン危機発生背景となる国際情勢について理解しておくこと。<br>配布プリントと自分のノートを整理して、とくにベルリン危機の収束の仕方についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。                              |
| 8 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 多極化世界(1) スターリンの死後、ソ連陣営がどのように動揺し、その中で中ソがどのように対立に至ったのか、そのことが冷戦下の国際政治にどのような影響を及ぼしたのか説明する。<br>テキスト 226～242 項を読んで、中ソ対立の背景となる国際情勢について理解しておくこと。<br>配布プリントと自分のノートを整理して、とくに中ソ対立の国際的影響についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。     |
| 9 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 多極化世界(2) 第三世界における民族独立運動がどのように展開されたのか、また独立した新興諸国がどのように結束を図ったのかについて、非同盟運動などを取り上げつつ説明する。<br>テキスト 271～280 項を読んで、第三世界における民族独立運動の背景となる国際情勢について理解しておくこと。<br>配布プリントと自分のノートを整理して、とくに非同盟運動についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。 |
| 10 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | デタント(1) 旧西ドイツによる緊張緩和のための外交(東方外交)がどのように展開されたのか、また CSCE(全欧安全保障協力会議)がどのように開かれたのかについて説明する。<br>テキスト 320～327 項を読んで、東方外交と CSCE の背景について理解しておくこと。<br>配布プリントと自分のノートを整理して、とくに CSC の意義についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。       |
| 11 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | デタント(2) まず米ソによるデタントの試み、とりわけ米ソの核軍備管理交渉がどのように展開されたのか、またデタントがなぜ揺らいだのかについて説明する。<br>テキスト 327～336 項を読んで、米ソデタント外交の背景について理解しておくこと。<br>配布プリントと自分のノートを整理して、とくに米ソの軍備管理の成果と課題についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。                |
| 12 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 冷戦終結(1) ソ連のゴルバチョフによって、ペレストロイカと新思考外交という内政・外交の改革がなぜ行われ、どのように進展したのか、これらはどのような国際的影響を及ぼしたか説明する。<br>テキスト 358～370 項を読んで、ペレストロイカの背景について理解しておくこと。<br>配布プリントと自分のノートを整理して、とくに新思考外交が及ぼした影響についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。   |
| 13 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 冷戦終結(2) ポーランドやハンガリーといった東欧の社会主義諸国がどのようにして社会主義体制から脱却したのか(東欧市民革命)、ベルリンの壁はいかにして崩壊したのか説明する。<br>テキスト 371～374 項を読んで、東欧市民革命の背景について理解しておくこと。<br>配布プリントと自分のノートを整理して、とくに東欧市民革命が及ぼした影響についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。       |
| 14 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 冷戦終結(3) ドイツ統一とソ連邦解体について、それぞれどのようなプロセスをたどり、また冷戦の終結にどのような影響をおよぼしたのか説明する。<br>テキスト 372～374 項、および 388～390 項を読んで、ドイツ統一とソ連邦解体の背景について理解しておくこと。<br>配布プリントと自分のノートを整理して、ドイツ統一とソ連邦解体が及ぼした影響についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。  |
| 15 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | グローバル化世界の課題 冷戦終結後の現代世界が抱える諸問題を、グローバル・イシューの観点から説明する。<br>テキスト 390～402 項を読んで、グローバル化世界の諸問題について理解しておくこと。<br>配布プリントと自分のノートを整理して、とりわけ緊急性の高いグローバル・イシューについてまとめ、授業内容を理解しておくこと。                                   |

◆**教科書** 丸沼『20 世紀の国際政治（第 3 版）』松岡完 同文館出版

◆**参考書** 丸沼『アメリカとヨーロッパ』渡邊啓貴 中公新書

◆**成績評価基準** 授業内テスト（60%）、リアクションペーパー（40%）を総合して評価します。授業内テストはスクーリング最終日に実施します。リアクションペーパーはスクーリング期間内に 4 回程度書いてもらう予定です。

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

**注意**

# 講座内容（シラバス）

## 〔国語学演習〕 オープン受講：不可

杉山 俊一郎

◆**授業概要** 『源氏物語』を取り上げ、そこに見られる国語史的特色について研究する。授業は演習形式で行う。本文の解説、調査、考察等の作業を通して、国語史研究の実感を学ぶとともに、各自の興味・関心をかたしにするにはどのようなアプローチが有効であるかについても考える。なお、本授業は言語史研究の対象として当該資料を取り扱うものであり、文学的鑑賞を目的とするものでない点、注意が必要である。

◆**学修到達目標** 本演習における学修到達目標は次の三点である。

- ①調査文献に見られる言語事象について、国語学的な視座で考え、説明できるようになる。
- ②国語史研究に必要な文献資料やツールの探し方、取り扱い方が理解できるようになる。
- ③学術研究として成り立たせるためにはどのような手続きが必要なのか理解できるようになる。

◆**授業方法** 演習科目なので、全員が発表を行う。発表は一人二回を予定している。第一回が翻字・語釈・現代語訳（逐語訳）等の基礎的調査、第二回が任意の言語事象に絞ったより深い調査である。なお、報告時の討議で明らかになった追加課題についてレポートを課すことがある。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |                      |   |
|------|----------------------|---|
| 1 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | イントロダクション 授業の概要や進め方を説明する。また、本授業の対象である平安時代の国語史上における位置づけについて解説する。<br>通信教育教材などを読んで、平安時代の国語史上における位置づけについて理解しておくこと。<br>授業の内容をノートに整理し、配布資料や授業内に紹介する参考文献にあたって国語史の全体的な流れをおさえること。  |
| 2 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 資料概説『源氏物語』の国語史上の位置づけについて解説する。<br>事前配布資料や参考書を読んで、当該資料の概要についておさえておくこと。<br>授業の内容をノートに整理し、配布資料や授業中に紹介する参考文献にあたって当該資料の国語史上における位置づけについて理解すること。  |
| 3 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 翻字作業の実際、受講者による発表と討議 具体例に基づきながら、翻字の際の注意点について説明する。あわせて、翻字の限界についても考える。<br>くずし字辞典などを参照しながら予め担当箇所の翻字を行っておくこと。<br>授業内容を確認しながら改めて担当箇所の翻字に修正点がないか確認すること。  |
| 4 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 漢字表記語の読みを推定、受講者による発表と討議 ふりがなのない漢字表記語が、当時どのように読まれていたのかを推定する方法や、そのために用いる工具書にはどのようなものがあるのかについて解説する。<br>国語辞典、古語辞典、漢和辞典などを参照しながら担当箇所に出現する漢字表記語の読みを推定しておくこと。<br>漢字表記語の読みを推定する方法を整理すること。また、授業内に紹介する工具書の使用法や注意点についても確認しておくこと。           |
| 5 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 清濁の推定、受講者による発表と討議 清濁を推定する方法や、そのために用いる工具書にはどのようなものがあるのかについて解説する。<br>国語辞典、古語辞典、漢和辞典などを参照しながら担当箇所中の語の清濁について推定しておくこと。<br>清濁を推定する方法を整理すること。また、授業内に紹介する工具書の使用法や注意点についても確認しておくこと。  |
| 6 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 歴史的仮名遣いとの比較、受講者による発表と討議 調査資料中に見られる仮名表記語が歴史的仮名遣いと異なっている場合の注意点を解説する。<br>担当箇所中に歴史的仮名遣いと異なっている箇所がないか確認しておくこと。<br>授業の内容を整理・確認した上で、当該資料中の仮名遣いの傾向について調べること。  |
| 7 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 句読点の付与、受講者による発表と討議 古典注釈書における全体的な傾向性を確認しつつ、句読点や鈎括弧の付け方について検討する。<br>予め担当部分について句読点や鈎括弧を付けておくこと。<br>全体の討議を踏まえて担当箇所について修正点がないか確認すること。  |
| 8 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 構文解析、受講者による発表と討議 古典文の構造について解説する。語の係り受けを中心としつつ、古典文の解析に特に注意が必要な構文についても説明を加える。<br>文法書や古語辞典を参照して、予め担当部分の係り受けや構文などについて検討しておくこと。<br>授業の内容をノートに整理し、配布資料や授業中に紹介する参考文献にあたって古典文の構造に習熟すること。  |
| 9 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 語の意味・用法の調査①一語義の分析、受講者による発表と討議 語の意味・用法を特定するための着眼点について解説する。<br>国語辞典、古語辞典などを参照して、担当箇所中の単語のそれぞれがどのような意味・用法に該当するのかを検討しておくこと。<br>語義記述のための着眼点について整理しておくこと。また、国語辞典や古語辞典の見方、情報の引き出し方についてもおさえること。   |
| 10 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 語の意味・用法の調査②一時代性からの分析、受講者による発表と討議 語の意味・用法の時代性について検討する。また、或る語が当該資料中に存在する（存在しない）ということ国語史上どのように位置付けるかについても考える。<br>『日本国語大辞典（第二版）』『古語大鑑』をはじめとする国語辞典、古語辞典を参照しながら担当箇所中に見られる語の意味・用法と時代性について確認しておくこと。<br>国語辞典や古語辞典の見方、情報の引き出し方についておさえること。 |
| 11 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 語の意味・用法の調査③一位相的観点による分析、受講者による発表と討議 語の意味・用法と位相の関係について検討する。また、それを踏まえた用例分類の方法について解説する。<br>『日本国語大辞典（第二版）』『古語大鑑』をはじめとする国語辞典、古語辞典を参照しながら担当箇所中に見られる語の意味・用法と位相の問題について確認しておくこと。<br>国語辞典や古語辞典の見方、情報の引き出し方についておさえること。                      |
| 12 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 用例収集の方法、受講者による発表と討議 用例収集のためのツールや方法について、実例を挙げて解説する。<br>事前配布資料や参考書を読んで、用例収集にはどのようなツールや方法があるか確認しておくこと。<br>用例収集のためのツールや方法には、それぞれどのようなメリット・デメリットがあるのかをおさえ、自身の調査に適したものを選択できるようにすること。  |
| 13 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 文章論的解析の実際、受講者による発表と討議 『源氏物語』の文章構造について、特に文の切れ続き（長さ）、接続詞の使用、文末表現の諸点に注目して検討する。<br>参考書参照して、担当箇所だけでなく、当該資料全体がどのような構成・構造で書かれているのかを検討しておくこと。<br>授業の内容を踏まえ、他の文献資料ではどのようなになっているのかを確認すること。  |
| 14 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 文体史的観点による分析、受講者による発表と討議 『源氏物語』に見られる言語事象、または当該資料全体が、文体史的に見てどのように位置付けられるのかについて検討する。<br>通信教育教材や参考書を読んで、『文体』『和文』『漢文訓読文』などの用語について理解を深めておくこと。<br>授業中に紹介する参考文献にあたって当該資料の文体史上の位置づけについて、各自でさらに検討を加えてみる。                                  |
| 15 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | まとめ 授業のまとめを行う。各発表の講評も行い、本授業の到達点と課題をまとめる。<br>各自で発表中に指摘された問題点や討議の内容などをまとめ、今後の課題について述べられるようにしておくこと。<br>授業全体の振り返りを行い、国語史研究の基本的な手続きの取り方、各種ツールの取り扱い方、用例分析の方法などをおさえること。  |

◆**教科書** **事前資料送付**

教材『国語学講義 M30400』通信教育教材（教材コード 000088）

教材『国文法 M30300』通信教育教材（教材コード 000101）

凡例『証本 源氏物語 橋姫（完）』三條西公正校注 武蔵野書院

◆**参考書**

凡例『日本語学大辞典』日本語学会編 東京堂出版 2018 年

凡例『日本語学研究事典』飛田良文他編 明治書院 2007 年

凡例『ガイドブック日本語史調査法』大木一夫編 ひつじ書房 2019 年

凡例『ガイドブック日本語史』大木一夫編 ひつじ書房 2013 年

凡例『日本語調査法【古代語編】』青葉ことばの会編 1998 年

◆**成績評価基準** 授業内での発表及び質疑応答への参加 100%。場合によっては出席態度を加味し、レポートを課す。

◆**授業相談**（連絡先）：shun.sugi1984@gmail.com

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔国語音声学〕

林 直樹

- ◆**授業概要** 日本語の音声・音韻・リズム・アクセント・イントネーションについて概説する。
- ◆**学修到達目標** ・日本語の音声・アクセント・イントネーション等についての基礎的な知識を習得するとともに、その研究方法を学ぶ
  - ・音声学、日本語音韻論を学ぶことにより、国際音声記号での音声表記ができるようになる。
  - ・音声を音韻に抽象化していく方法を知り、各自の音韻体系が明示できるようになる。
- ◆**授業方法** ・パワーポイントなどによる講義形式。ただし、授業中受講者に発音などを求める。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容：はじめに・音声学とは何か<br>事前学修：音声学とはどのような学問か、理解してくる<br>事後学修：授業内容を復習し、理解を深める               |
| 2 回  | 授業内容：国際音声記号<br>事前学修：国際音声記号について予習してくる<br>事後学修：授業内容を復習し、理解を深める                         |
| 3 回  | 授業内容：音声器官、発音の仕組み<br>事前学修：音声器官について予習してくる<br>事後学修：授業内容を復習し、理解を深める                      |
| 4 回  | 授業内容：母音(1)<br>事前学修：母音の特徴について予習してくる<br>事後学修：授業内容を復習し、理解を深める                           |
| 5 回  | 授業内容：母音(2)<br>事前学修：母音の調音について予習してくる<br>事後学修：授業内容を復習し、理解を深める                           |
| 6 回  | 授業内容：母音(3)<br>事前学修：母音の多様性について予習してくる<br>事後学修：授業内容を復習し、理解を深める                          |
| 7 回  | 授業内容：子音(1)<br>事前学修：子音の特徴について予習してくる<br>事後学修：授業内容を復習し、理解を深める                           |
| 8 回  | 授業内容：子音(2)<br>事前学修：子音の調音について予習してくる<br>事後学修：授業内容を復習し、理解を深める                           |
| 9 回  | 授業内容：子音(3)<br>事前学修：子音の多様性について予習してくる<br>事後学修：授業内容を復習し、理解を深める                          |
| 10 回 | 授業内容：異音<br>事前学修：異音について予習してくる<br>事後学修：授業内容を復習し、理解を深める                                 |
| 11 回 | 授業内容：日本語のリズム（拍・音節・フット）<br>事前学修：日本語のリズムについて予習してくる<br>事後学修：授業内容を復習し、理解を深める             |
| 12 回 | 授業内容：日本語のアクセント<br>事前学修：日本語のアクセントについて予習してくる<br>事後学修：授業内容を復習し、理解を深める                   |
| 13 回 | 授業内容：日本語のイントネーション<br>事前学修：日本語のイントネーションについて予習してくる<br>事後学修：授業内容を復習し、理解を深める             |
| 14 回 | 授業内容：13 回までの内容の総合的な復習<br>事前学修：13 回までの内容の復習<br>事後学修：13 回までのないようにおいて理解の及んでいないところの確認と復習 |
| 15 回 | 授業内容：定着度の確認（教場試験）と解説<br>事前学修：14 回までの内容の総合的な復習<br>事後学修：定着度の確認と解説を踏まえた各自課題の理解          |

- ◆**教科書** 教材『国語音声学 M31400』通信教育教材（教材コード 000266）
- ◆**参考書**
  - 凡例『現代言語学入門 2 日本語の音声』窪園晴夫（岩波書店 1999）
  - 凡例『朝倉日本語講座 3 音声・音韻』上野善道編（朝倉書店 2003）
  - 凡例『新明解アクセント辞典 第2版 CD 付き』秋永一枝編（三省堂 2014）
  - 凡例『日本のことばシリーズ』平山輝男監修（明治書院）※都道府県別、刊行中
  - 凡例『日本語アクセント入門』松森晶子・新田哲夫・木部暢子・中井幸比古編著（三省堂 2012）
- ◆**成績評価基準** 試験（80%）、授業への参画度（20%）※全日程出席が試験受験資格となる
- ◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意



# 講座内容（シラバス）

## 〔国文学演習〕 オープン受講：不可

高橋 優美穂

◆**授業概要** 藤原定家撰の「百人一首」は、カルタや漫画などで親しまれている作品であるが、成立当時はカルタの形をとっていなかった。むしろ室町時代に『応永抄』や『宗祇抄』といった注釈書が成立して以来、古典作品として享受されてきたことに注目したい。この授業では「百人一首」の中から、各自一首ずつ好きな和歌を選び、古注釈書の内容を踏まえて口頭発表を行い、和歌の読解方法を学ぶ。

◆**学習到達目標** ・「百人一首」の成立事情や、古注釈書の展開を説明することができるようになる。  
・平安時代から鎌倉時代までの和歌を学ぶことで、当時の風習や恋愛事情、歴史的背景との関わりなどの、古典文学の基礎知識を修得する。  
・口頭発表の方法を修得し、ディスカッションができるようになる。

◆**授業方法** 事前送付の資料に基づき、演習開始前に各自で発表資料を作成し、受講者と高橋に配布できるよう、準備をしておくこと。口頭発表は、個々の学生の発表と質疑による演習形式で行う。どうしても人前で発表することが難しい場合は、高橋に相談をすること。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安とする。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各90分〕

|     |      |   |
|-----|------|---|
| 1回  | 授業内容 | ガイダンス：授業のテーマや到達目標および授業の方法について説明する<br>講義① 「百人一首」の成立と撰者について                               |
|     | 事前学修 | 事前配布資料に基づき、各自発表資料を準備する。   |
|     | 事後学修 | 作品の成立と撰者について、教科書を用いながら復習すること。   |
| 2回  | 授業内容 | 講義② 作品の構成と撰歌基準について  |
|     | 事前学修 | 教科書 422ページ～447ページ「三、百人一首の内容と選歌意識」に目を通す。   |
|     | 事後学修 | 教科書やノートなどを見直し、授業内容を整理すること。  |
| 3回  | 授業内容 | 講義③ 「百人一首」の注釈書について：発表順の決定   |
|     | 事前学修 | 日本大学の図書館OPACで、「百人一首」の注釈書がどれくらいあるか調べておく。   |
|     | 事後学修 | 教科書やノートなどを見直し、授業内容を整理すること。  |
| 4回  | 授業内容 | 口頭発表① 学生発表と質疑応答   |
|     | 事前学修 | 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する<br>発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする                           |
|     | 事後学修 | 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。<br>発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。 |
| 5回  | 授業内容 | 口頭発表② 学生発表と質疑応答   |
|     | 事前学修 | 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する<br>発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめる                                   |
|     | 事後学修 | 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。<br>発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。 |
| 6回  | 授業内容 | 口頭発表③ 学生発表と質疑応答   |
|     | 事前学修 | 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する<br>発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする                           |
|     | 事後学修 | 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。<br>発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。 |
| 7回  | 授業内容 | 口頭発表④ 学生発表と質疑応答   |
|     | 事前学修 | 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する<br>発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする                           |
|     | 事後学修 | 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。<br>発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。 |
| 8回  | 授業内容 | 口頭発表⑤ 学生発表と質疑応答   |
|     | 事前学修 | 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する<br>発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする                           |
|     | 事後学修 | 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。<br>発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。 |
| 9回  | 授業内容 | 口頭発表⑥ 学生発表と質疑応答   |
|     | 事前学修 | 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する<br>発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする                           |
|     | 事後学修 | 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。<br>発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。 |
| 10回 | 授業内容 | 口頭発表⑦ 学生発表と質疑応答   |
|     | 事前学修 | 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する<br>発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする                           |
|     | 事後学修 | 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。<br>発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。 |
| 11回 | 授業内容 | 口頭発表⑧ 学生発表と質疑応答   |
|     | 事前学修 | 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する<br>発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめる                                   |
|     | 事後学修 | 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。<br>発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。 |
| 12回 | 授業内容 | 口頭発表⑨ 学生発表と質疑応答   |
|     | 事前学修 | 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する<br>発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする                           |
|     | 事後学修 | 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。<br>発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。 |
| 13回 | 授業内容 | 口頭発表⑩ 学生発表と質疑応答   |
|     | 事前学修 | 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する<br>発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする                           |
|     | 事後学修 | 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。<br>発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。 |
| 14回 | 授業内容 | 口頭発表⑪ 学生発表と質疑応答   |
|     | 事前学修 | 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する<br>発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする                           |
|     | 事後学修 | 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。<br>発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。 |
| 15回 | 授業内容 | 本授業のまとめと修得事項の確認   |
|     | 事前学修 | これまでの授業内容や発表内容を振り返り、修得した事項について整理しておく。   |
|     | 事後学修 | 自分の発表資料と他の受講生の発表資料を見比べて、質疑を振り返り、修得事項の再確認を行う。  |

◆**教科書** 丸沼『百人一首』有吉保 講談社学術文庫 1983年

◆**参考書** 丸沼『百人一首』島津忠夫 角川書店 1999年  
丸沼『百人一首の作者たち—王朝文化論への試み』目崎徳衛 角川書店 2005年  
丸沼『百人一首の歴史学』関幸彦 日本放送出版協会 2009年  
丸沼『和歌とは何か』渡部泰明 岩波書店 2009年

◆**成績評価基準** 口頭発表 60%、授業への参加度 40%。

口頭発表は、発表資料や内容の充実度で評価をする。授業への参加度は、質疑への積極的な参加について評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：メールアドレス takahashi.yumihio60@nihon-u.ac.jp

※「60」は数字。

※件名に「通信夏期スクーリング」と記載してください。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔国文法〕

阿久澤 忠

◆**授業概要** 日本語学（国語学）では、言葉のどの面に焦点を当てるかによって音韻論、語彙論、文字論などの分野があるが文法論もその一つであり、本授業ではその中で品詞分類の手順と、品詞の中の動詞を中心とした用言のしくみと働きについて学ぶ。

◆**学修到達目標** 日本の古典作品（古今和歌集や徒然草）の言葉を対象として、そこに内在する文法的な法則を体系的に学び、その上で動詞を中心とした用言に対する認識を深め、古典を読解する力を養うことができる。さらには現代語の用言と比較してその違いや共通性を理解する。

◆**授業方法** 講義によって授業を進めてゆく。さらには各項目ごとに設けてある課題（問題）も解いてゆく。質問もその都度受け、こちらからの問いかけもできるだけ多く行いたい。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |   |
|------|---|
| 1 回  | 授業内容：ガイダンス・「文法」は言葉のどういう面を考察するのか。平安時代の日本語について一現代語との関係一<br>事前学修：シラバスによって授業内容を確認しておくこと。<br>事後学修：授業の内容をノートし、整理しておくこと。                         |
| 2 回  | 授業内容：文法論の単位一文・文節・単語一。「文章」について解説する。<br>事前学修：配布資料の当該部分を読んでおくこと。<br>事後学修：配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。  |
| 3 回  | 授業内容：文節の相互関係の3つの関係について解説する。<br>事前学修：配布資料の当該部分の内容を読んでおくこと。<br>事後学修：配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。  |
| 4 回  | 授業内容：文節の相互関係の残る3つの関係について解説する。<br>事前学修：配布資料の当該部分の内容を読んでおくこと。<br>事後学修：配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。  |
| 5 回  | 授業内容：文節と単語に関する「課題」を解く。<br>事前学修：配布資料にある「課題」の部分をあらかじめ解いておくこと。<br>事後学修：「課題」の答えを確認し、その「課題」を通してこれまでの学習を整理しておくこと。                               |
| 6 回  | 授業内容：「連文節」について解説する。<br>事前学修：配布資料の NO 4, 5 の「連文節」の項目を読んでおくこと。<br>事後学修：配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。   |
| 7 回  | 授業内容：配布資料の NO 5 の「連文節」についての「課題」を解く。<br>事前学修：配布資料にある「課題」の部分をあらかじめ解いておくこと。<br>事後学修：「課題」の答えを確認し、その「課題」を通してこれまでの学習を整理しておくこと。                  |
| 8 回  | 授業内容：品詞分類に至るプロセス（その1）を解説する。<br>事前学修：配布資料の NO 6, 7 の「詞と辞」と「活用の有無」の項目を読んでおくこと。<br>事後学修：配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。                           |
| 9 回  | 授業内容：品詞分類に至るプロセス（その2）を解説する。<br>事前学修：配布資料の NO 7 の「品詞分類の手続」の項目を読んでおくこと。<br>事後学修：配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。                                  |
| 10 回 | 授業内容：品詞分類に関する「課題」を解く。<br>事前学修：配布資料にある「課題」の部分をあらかじめ解いておくこと。<br>事後学修：「課題」の答えを確認し、その「課題」を通してこれまでの学習を整理しておくこと。                                |
| 11 回 | 授業内容：動詞の活用の種類とその活用形について（その1）<br>事前学修：配布資料の NO 13 の項目を読んでおくこと。<br>事後学修：配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。  |
| 12 回 | 授業内容：動詞の活用の種類とその活用形について（その2）<br>事前学修：配布資料の NO 14 「それぞれの活用の種類の具体的な動詞」を読んでおくこと。<br>事後学修：配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。                          |
| 13 回 | 授業内容：動詞に関する「課題」を解く。<br>事前学修：配布資料の NO 17 の「課題（一）」をあらかじめ解いておくこと。<br>事後学修：「課題」の答えを確認し、その「課題」を通してこれまでの学習を整理しておくこと。                            |
| 14 回 | 授業内容：動詞の研究について説明し、その資料を読む一居宣長『御国詞活用少』など<br>事前学修：配布資料の最後にある『御国詞活用抄』などに目を通しておくこと。<br>事後学修：動詞の研究の歴史、その歩みについて整理しておくこと。                        |
| 15 回 | 授業内容：形容詞と形容動詞の活用と種類について一主に動詞との比較において。質疑応答<br>事前学修：配布資料の NO 15 「形容詞の活用と種類」 NO 16 「形容動詞の活用と種類」に目を通しておくこと。<br>事後学修：形容詞、形容動詞の活用と種類について整理すること。 |

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 〔当日資料配布〕

◆**成績評価基準** 試験（90%）、授業の取り組み（10%） 毎回出席することを前提として評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔英語学特殊講義〕

吉良 文孝

- ◆**授業概要** 「英語未来表現」についての講義です。当該領域に関する基本的な知識を身につけ、そこからさらに一步踏み込んだ内容について講じます。本講座の講義内容を通して、ことばの世界に存在する大原則、すなわち、Bolingerのいう「意味とかたちの一対一の対応関係」を実感することになります。
- ◆**学修到達目標** 英語学の専攻学生が当然身につけていなければならない「英語未来表現」の基本的な知識、ならびにその関連領域についての素養・知識を学修するとともに、英語の文献をしっかりと読みこなす力を養成することを本講座の学修到達目標とします。それにより、個々の「英語未来表現」について十分に理解し、（人）に説明することができます。
- ◆**授業方法** 講義形式ですが、「時制」に関する重要な論文・著書の原書（の一部）を演習形式で受講者の皆さんも読むことになります。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |   |
|------|---|
| 1 回  | 授業内容：授業の進め方・オリエンテーション。<br>事前学修：教科書の「はしがき」にある「ことばの世界の大原則」について、その意味するところは何かを具体的に考えておくこと。<br>事後学修：講義内容を整理し、「意味とかたちの一対一の対応関係」の意味合いについて理解する。 |
| 2 回  | 授業内容：「時制」と「相」の関係について。<br>事前学修：教科書の第 1 章（2 頁から 11 頁まで）を熟読しておくこと。<br>事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。                                |
| 3 回  | 授業内容：「未来性」について。<br>事前学修：教科書の第 1 章（2 頁から 11 頁まで）を熟読しておくこと。<br>事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。                                      |
| 4 回  | 授業内容：「時制」と「相」の関係についての輪読(1)。<br>事前学修：配付プリントの熟読（§4.2）。<br>事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。   |
| 5 回  | 授業内容：「時制」と「相」の関係についての輪読(2)。<br>事前学修：配付プリントの熟読（§4.3）。<br>事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。   |
| 6 回  | 授業内容：英語未来表現(1)ー単純現在時制について（その中核的意味と典型例）について。<br>事前学修：教科書 §4.1.1 と §4.1.2 の熟読。<br>事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。                   |
| 7 回  | 授業内容：英語未来表現(2)ー単純現在時制について（状態性）。<br>事前学修：教科書 §4.1.4 の熟読。<br>事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。  |
| 8 回  | 授業内容：英語未来表現(3)ー現在進行形について。<br>事前学修：教科書 §4.2 の熟読。<br>事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。  |
| 9 回  | 授業内容：英語未来表現(4)ー will<br>事前学修：教科書 §4.3 の熟読。<br>事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。   |
| 10 回 | 授業内容：英語未来表現(5)ー be going to<br>事前学修：教科書 §4.3 の熟読。<br>事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。  |
| 11 回 | 授業内容：英語未来表現(5)ー 未来進行形の 3 つのタイプについて。<br>事前学修：教科書 §4.4.1 の熟読。<br>事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。                                    |
| 12 回 | 授業内容：英語未来表現(6)ー「FMC 構文」としての未来進行形について。<br>事前学修：教科書 §4.4.2 の熟読。<br>事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。                                  |
| 13 回 | 授業内容：英語未来表現(7)ー「FMC 構文」としての 2 つの意味とその典型例について。<br>事前学修：教科書 §4.4.5 の熟読。<br>事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。                          |
| 14 回 | 授業内容：英語未来表現(8)ー「FMC 構文」のその他の意味特徴について。<br>事前学修：教科書 §4.4.6 の熟読。<br>事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。                                  |
| 15 回 | 授業内容：試験、およびその解説。<br>事前学修：講義内容全体を整理・暗記し、私見に備える。<br>事後学修：試験解説による自身の学修度の再確認。   |

- ◆**教科書** 『ことばを彩る 1 テンス・アスペクト』 吉良文孝著 研究社 2018 年
- ◆**参考書** 『英文法解説（改訂 3 版）』 江川泰一郎著 金子書房 1991 年
- ◆**成績評価基準** 試験（70%）、授業への参画度（30%）により総合的に判断します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英米文学演習〕

鈴木 ふさ子

◆**授業概要** イギリス 19 世紀末を代表するオスカー・ワイルドの *The Picture of Dorian Gray* を味わいながら、作者の生涯及びこの時代の背景や思潮についての知識を習得する。さらに、作者ワイルドが追求した＜美＞が作品の中でどのような形で表れているのか、グループでのディスカッションなどを通して分析・批評する。

◆**学修到達目標** イギリス 19 世紀末を代表するオスカー・ワイルドの *The Picture of Dorian Gray* を味わいながら、作者の生涯及びこの時代の背景や思潮についての知り、作者ワイルドが追求した＜美＞が作品の中でどのような形で表れているのか、分析・批評できる。

◆**授業方法** オスカー・ワイルドの *The Picture of Dorian Gray* を原文で味わい、翻訳、作品解釈、発表と批評文のまとめをしていただきます。基本的には下記授業計画に沿ってテキストの和訳、音読、作品解釈を行います。その上で、グループ発表、フロアとの議論を展開していただきます。最終的に、ワイルドという人物、19 世紀末という時代背景や唯美主義、キリスト教の問題と作品の関連性についてまとめる。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 回  | 授業内容 | ガイダンス（授業の進め方・成績評価の方法の確認・発表のためのグループ分け・オスカー・ワイルドについて）  |
|      | 事前学修 | オスカー・ワイルドについて調べる。  |
| 2 回  | 事後学修 | 授業時にとったノートを見直し、オスカー・ワイルドについての知識を整理する。  |
|      | 授業内容 | イントロダクション（オスカー・ワイルドと 19 世紀末について映像やプリントを用いて解説）  |
| 3 回  | 事前学修 | イギリスの 19 世紀末について調べてくる。   |
|      | 事後学修 | 授業時にとったノートを見直し、19 世紀末についての知識を整理する。   |
| 4 回  | 授業内容 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の "Prefais," Chapter1 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。   |
|      | 事前学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の "Prefais," Chapter1 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。   |
| 5 回  | 事後学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の "Prefais," Chapter1 について授業時にとったノートを見直し、復習する。   |
|      | 授業内容 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter2 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表準備（グループごとに分かれ、作品について議論をし、発表の手順などの打ち合わせを行います。） |
| 6 回  | 事前学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter2 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。  |
|      | 事後学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter2 について授業時にとったノートを見直し、復習する。  |
| 7 回  | 授業内容 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter3, 4 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。  |
|      | 事前学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter3, 4 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。                                       |
| 8 回  | 事後学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter3, 4 について授業時にとったノートを見直し、復習する。   |
|      | 授業内容 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter5, 6 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。  |
| 9 回  | 事前学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter5, 6 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。                                       |
|      | 事後学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter5, 6 について授業時にとったノートを見直し、復習する。   |
| 10 回 | 授業内容 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter7, 8 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。  |
|      | 事前学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter7, 8 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。                                       |
| 11 回 | 事後学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter7, 8 について授業時にとったノートを見直し、復習する。   |
|      | 授業内容 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter9, 10 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。   |
| 12 回 | 事前学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter9, 10 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。                                      |
|      | 事後学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter9, 10 について授業時にとったノートを見直し、復習する。  |
| 13 回 | 授業内容 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter11 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。  |
|      | 事前学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter11 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。   |
| 14 回 | 事後学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter11 について授業時にとったノートを見直し、復習する。   |
|      | 授業内容 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter12, 13 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。  |
| 15 回 | 事前学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter12, 13 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。                                     |
|      | 事後学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter12, 13 について授業時にとったノートを見直し、復習する。   |
| 16 回 | 授業内容 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter14, 15 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。  |
|      | 事前学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter14, 15 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。                                     |
| 17 回 | 事後学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter14, 15 について授業時にとったノートを見直し、復習する。   |
|      | 授業内容 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter16, 17 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。  |
| 18 回 | 事前学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter16, 17 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。                                     |
|      | 事後学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter16, 17 について授業時にとったノートを見直し、復習する。   |
| 19 回 | 授業内容 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter18, 19 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。  |
|      | 事前学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter18, 19 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。                                     |
| 20 回 | 事後学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter18, 19 について授業時にとったノートを見直し、復習する。   |
|      | 授業内容 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter20 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。作品全体について考える。全体のまとめ。                         |
| 21 回 | 事前学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter20 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。作品全体について考える。グループ発表の準備。                             |
|      | 事後学修 | <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter20 について授業時にとったノートを見直し、復習する。作品全体についてクラスメイトの意見を参考に、自分の考えをまとめる。                        |
| 22 回 | 授業内容 | 試験と解説  |
|      | 事前学修 | スクーリング中で学んだことを総復習し、作品全体を貫く美やキリスト教の問題について自分の意見をまとめる。  |
| 23 回 | 事後学修 | 試験でできなかったところを確認し、作品全体をもう一度振り返り、今後の英文学とのつながりになるように周辺の文学を読む。   |

◆**教科書** 『The Picture of Dorian Gray』 Oscar Wilde Penguin

◆**参考書** 『オスカー・ワイルドの曖昧性』 鈴木ふさ子著 開文社

◆**成績評価基準** 予習・積極性（20%）、グループ発表・ディスカッション（20%）筆記試験（60%）

**注意** E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔アメリカ文学史〕

北原 安治

◆**授業概要** アメリカの建国から 20 世紀までのアメリカ文学の流れを学び、各作家の特徴を理解できるようになる。

◆**学修到達目標** テキストを最初から読んで行きます。文法構造を把握して、英文がしっかり読めるようになる。映像資料を活用などして米文学史の全体的な流れを把握できるようになる。村上春樹の新訳のフィッツジェラルドの『華麗なるギャツビー』の DVD など事前に見ておけば良い。28 章のヘミングウェイまでは行きたい。

◆**授業方法** 予習テストと予習ノート検査（教科書の書き込みだけでは不可）をする場合がある。テキストの英文を手書きでノートに写す。手書き以外は不可。理想として 28 章まで予習。40 人すべて予習してもよい。和訳を付ける。テキストの最後に参考文献があるので予習の参考にする。抜き打ちの実力テストをやる場合があるので辞書必携。試験は持ち込み無し。毎回テキストを間違えう学生がいるので注意。薄手のテキスト。本授業の事前学修・事後学修の時間は各 2 時間を目安としています。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |      |   |
|------|------|---|
| 1 回  | 授業内容 | 映像資料、アメリカ先住民の文学およびジョン・スミス   |
|      | 事前学修 | 『アメリカ・インディアン』の詩（1977 年）（中公新書）金関寿夫著参照  |
|      | 事後学修 | 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。  |
| 2 回  | 授業内容 | 映像資料、『プリマス植民地』のブラッドフォードとアメリカ最初の詩人のブラッドストリート                                     |
|      | 事前学修 | 英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。  |
|      | 事後学修 | 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。  |
| 3 回  | 授業内容 | 映像資料、『大いなる目覚め』のエドワーズと『ヤンキーズム』のフランクリン  |
|      | 事前学修 | 英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。  |
|      | 事後学修 | 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。  |
| 4 回  | 授業内容 | 映像資料、ゴシック小説の先駆者のブロックデン・ブラウンと『リップ・ヴァン・ウィンクル』のアーヴィング                              |
|      | 事前学修 | 英文の自分なりの和訳をしておく。アーヴィングの映画『スリーピー・ホロウ』を見ておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。                |
|      | 事後学修 | 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。  |
| 5 回  | 授業内容 | 映像資料、歴史ロマンスのクーバーとロマン派の詩人ブライアント  |
|      | 事前学修 | 英文の自分なりの和訳をしておく。クーバーの映画『モヒカン族の最後』を見ておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。                   |
|      | 事後学修 | 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。  |
| 6 回  | 授業内容 | 映像資料、怪奇・推理小説のボウと『超絶主義』のエマーソン  |
|      | 事前学修 | 英文の自分なりの和訳をしておく。ボウの怪奇短編映画『世にも奇妙な物語』などを見ておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。               |
|      | 事後学修 | 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。  |
| 7 回  | 授業内容 | 映像資料、『ウォールデン』のソーローとビュリタニズム批判のホーソン   |
|      | 事前学修 | 英文の自分なりの和訳をしておく。ホーソンの映画『群文字』を見ておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。                        |
|      | 事後学修 | 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。  |
| 8 回  | 授業内容 | 映像資料、『白鯨』のメルヴィルと米代表詩人のホイットマン  |
|      | 事前学修 | 英文の自分なりの和訳をしておく。映画『白鯨』を見ておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。                              |
|      | 事後学修 | 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。  |
| 9 回  | 授業内容 | 映像資料、孤独な心境を詠ったディッキンソンとリアリズムのトウエイ  |
|      | 事前学修 | 英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。  |
|      | 事後学修 | 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。  |
| 10 回 | 授業内容 | 映像資料、心理主義のジェイムズと自然主義のクレイン   |
|      | 事前学修 | 英文の自分なりの和訳をしておく。ジェイムズの映画『ある貴婦人の肖像』を見ておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。                  |
|      | 事後学修 | 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。  |
| 11 回 | 授業内容 | 映像資料、環境決定論のドライサーとシカゴ・グループのサンドバーグ  |
|      | 事前学修 | 英文の自分なりの和訳をしておく。ドライサーの映画テキスト『陽の当たる場所』を見ておく。47 ページの文献にあたっておく。                    |
|      | 事後学修 | 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。  |
| 12 回 | 授業内容 | 映像資料、深層心理のアンダソンと自然を詠ったフロスト  |
|      | 事前学修 | 英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。  |
|      | 事後学修 | 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。  |
| 13 回 | 授業内容 | 映像資料、ハーレム・ルネッサンスのヒュースと『バターソン』のウィリアムズ  |
|      | 事前学修 | 英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。  |
|      | 事後学修 | 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。  |
| 14 回 | 授業内容 | 映像資料、『偉大なギャツビー』のフィッツジェラルドとノーベル賞作家ヘミングウェイ  |
|      | 事前学修 | 英文の自分なりの和訳をしておく。映画『偉大なギャツビー』を見ておく。ヘミングウェイの映画『老人と海』など見ておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。 |
|      | 事後学修 | 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。  |
| 15 回 | 授業内容 | アメリカ文学史の全体的まとめと試験   |
|      | 事前学修 | 講義の復習。正しい和訳と小論文の準備。   |
|      | 事後学修 | アメリカ文学史の全体的な復習。   |

◆**教科書** 図説『An Outline of American Literature（アメリカ文学概観）』セメスターシリーズ 井上謙治編著 南雲堂 全 48 ページの薄いテキスト

◆**参考書** 図説『アメリカ小説入門』井上謙治著 研究社 1995 年  
この本は講義では使いません。図書館で参照。

◆**成績評価基準** 小テスト、試験などによる総合評価。手書きノート検査あり。必ず手書き。テキスト間違いや不携帯は不可。試験はテキストの和訳（テキスト全体からだ分量が多いので、講義中に指定する限定個所の和訳）と小論文（和訳がある程度できないと、小論文がいくらできても不可とする）。試験用紙裏面すべてに小論文を当てる。1000 字以上書くこと。試験時間は 100 分ほどの予定。小論文タイトルは「ポーとメルヴィルのふたりの特徴と作品を論じる」。この 2 作家以外のことを書いてはいけな。書き方として全体論でも作品論でもよい。全体論は上の参考書の『アメリカ小説入門』にあるような 2 作家の全体的特徴と複数の代表作の説明を 1,000 字以上使い、浅く広く書くものである。作品論は二人の作品からひとつずつ選び（短編でも長編でもよい）、例えばポーの短編とメルヴィルの『白鯨』の 2 冊に集中して深く論ずるものである（500 字以上ずつ合計 1,000 字以上）。どちらの論じ方でもよい。事前にまとめておくこと。辞書やノートなどの持ち込みなし。2 作家の作品名や登場人物名は日本語でよい。作品名はヒントとして試験の問題文に印刷しておく。無遅刻、皆出席を望む。

**注意** E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英語学演習〕

真野 一雄

◆**授業概要** 英語学の根幹をなす音韻論・形態論・統語論について基礎的・一般的な分野から専門的な事項まで幅広く概観します。毎回、テキストを読み、理解できるところ、できないところを自覚しておいてください。練習問題の解答も用意しておいてください。

◆**学修到達目標** 「ことば」について、すなわち英語学・言語学（・日本語学）の基礎的知識を修得し、言語について自ら考察できるようにする。

◆**授業方法** テキスト本文の解説、補足説明を行います。必要に応じて担当講師が用意する練習問題を行います。

◆**授業計画**〔各90分〕

|     |  |
|-----|--|
| 1回  | 授業内容：序章 ことばの世界を鳥瞰する<br>事前学修：テキスト p.3 - p.8 を読み、問題点を整理しておく。<br>事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。            |
| 2回  | 授業内容：第1章 世界のことば(1) 分類と特徴<br>事前学修：テキスト p.9 - p.17 を読み、問題点を整理しておく。<br>事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。      |
| 3回  | 授業内容：第1章 世界のことば(2)日本語と英語の比較<br>事前学修：テキスト p.17 - p.19 を読み、問題点を整理しておく。<br>事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。  |
| 4回  | 授業内容：第2章 ことばと音声(1)英語の音と日本語の音<br>事前学修：テキスト p.21 - p.27 を読み、問題点を整理しておく。<br>事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。 |
| 5回  | 授業内容：第2章 ことばと音声(2) リズム、連結、同化<br>事前学修：テキスト p.27 - p.32 を読み、問題点を整理しておく。<br>事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。 |
| 6回  | 授業内容：第3章 ことばと語(1) 複合<br>事前学修：テキスト p.33 - p.38 を読み、問題点を整理しておく。<br>事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。         |
| 7回  | 授業内容：第3章 ことばと語(2) 派生<br>事前学修：テキスト p.38 - p.43 を読み、問題点を整理しておく。<br>事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。         |
| 8回  | 授業内容：第4章 ことばと文法(1) 統語構造<br>事前学修：テキスト p.44 - p.50 を読み、問題点を整理しておく。<br>事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。      |
| 9回  | 授業内容：第4章 ことばと文法(2) 日本語の節構造<br>事前学修：テキスト p.50 - p.55 を読み、問題点を整理しておく。<br>事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。   |
| 10回 | 授業内容：第5章 ことばと意味(1) 語の意味<br>事前学修：テキスト p.56 - p.62 を読み、問題点を整理しておく。<br>事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。      |
| 11回 | 授業内容：第5章 ことばと意味(2) 文の意味<br>事前学修：テキスト p.62 - p.65 を読み、問題点を整理しておく。<br>事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。      |
| 12回 | 授業内容：第6章 ことばの変化(1) 音韻変化<br>事前学修：テキスト p.66 - p.71 を読み、問題点を整理しておく。<br>事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。      |
| 13回 | 授業内容：第6章 ことばの変化(2) 形態変化、統語変化<br>事前学修：テキスト p.71 - p.78 を読み、問題点を整理しておく。<br>事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。 |
| 14回 | 授業内容：第7章 ことばと社会 様々な英語、ことばの性差<br>事前学修：テキスト p.79 - p.87 を読み、問題点を整理しておく。<br>事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。 |
| 15回 | 授業内容：試験＋その解説<br>事前学修：1章～7章の総復習をしておく。<br>事後学修：1章～7章のまとめをし、理解を完璧にする。                               |

◆**教科書** 『〔入門〕ことばの世界』 大修館書店

◆**参考書** 選定『英語学概説 N30700』（教材コード000567）  
（『日英対照 英語学の基礎』 ころしお出版）  
その他の英語学入門書、概説書なら何でも結構です。

◆**成績評価基準** 全出席を前提に、試験100%で評価の予定。（試験は途中退出なしです）

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## 講座内容（シラバス）

### 〔イギリス文学史Ⅰ〕 オープン受講：不可

常名 朗央

◆**授業概要** 毎回配布するプリントを使い、各時代の政治・文化的状況とその時代の文学作品を時系列ごとに学んでいきます。各講義の終わりに次回取り扱うテキストの説明をします。指定したテキスト（作品）を図書館などで見つけて熟読しておくことが望ましいのですが（購入の必要はありません）、内容を把握しておくだけでも充分です。興味を持った作品は是非翻訳本で読むようにしてください。

◆**学修到達目標** シェイクスピア、ミルトン、オースティン、ペトラルカ（イタリア作品）、ラブレール（フランス作品）などの作品（翻訳）を抜粋して読むことで、18世紀までのイギリス文学史を欧州文学史的視点から時系列で理解できるようになる。さらに、各時代の主要作品を原文と日本語訳数点を対訳、考察することによって、各文学作品を時代背景や小説技法の観点から解釈、評価が出来るようになる。

◆**授業方法** 授業前半は各時代の特徴を政治的文化的アプローチから解説します。イギリス文学を理解するためには、ヨーロッパ史という観点から簡単な政治史と文化史の理解が不可欠なので併せて説明します。授業後半は、各時代の作品を抜粋して読んでいきます。それぞれの時代の特徴には違いがありますのでそれを理解してください。英語作品以外も読んでいきますが、全て翻訳本です。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各90分〕

|     |      |   |
|-----|------|---|
| 1回  | 授業内容 | 古英語の時代 ローマのブリタニア侵入によるラテン語の導入、キリスト教の布教、アングロ・サクソン族の建国などイギリス文学の黎明期に起きた出来事を解説します。 |
|     | 事前学修 | ギリシャ・ローマ時代の関心ある作品を考えておいてください。   |
|     | 事後学修 | プリントで紹介した古代イングランドの歴史（ノルマンコンクエストまで）を各自まとめおいてください。                              |
| 2回  | 授業内容 | 『ガリア戦記』ブリタニア侵入の箇所を抜粋して読みます。カエサル の平明で簡潔な文章を感じ取ってください。                          |
|     | 事前学修 | ローマ時代の作品と作者を調べておきましょう。  |
|     | 事後学修 | 『ガリア戦記』の第四巻と第五巻を読んでおきましょう。  |
| 3回  | 授業内容 | 『カンタベリー物語』イギリス文学の誕生ともいえるこの時代に登場した「宮廷風恋愛」を学びます。                                |
|     | 事前学修 | 『カンタベリー物語』の挿話の一つを読んでおいてください。  |
|     | 事後学修 | 宮廷風恋愛についてまとめておきましょう。  |
| 4回  | 授業内容 | 『アーサー王の死』この作品は騎士道物語の集大成といえます。ランスロット卿と王妃グイネヴィアとの逢瀬の箇所から、典型的な宮廷風恋愛を学んでいきます。     |
|     | 事前学修 | 『ガウェイン卿と緑の騎士』（トールキン）について調べてきてください。  |
|     | 事後学修 | アーサー王の人物関係図を理解してください。   |
| 5回  | 授業内容 | 『カンツォニエーレ』宮廷風恋愛を下地に、独自の愛のソネットを生み出し中世ヨーロッパの規範となったペトラルカ風ソネットから数点を読みます。          |
|     | 事前学修 | ボッカチオの『デカメロン』について調べてきてください。   |
|     | 事後学修 | イタリアルネサンスの文人について確認しておきましょう。   |
| 6回  | 授業内容 | ルネサンスとは？ダンテの登場に端を発すイタリアルネサンス同様、イングランドでもルネサンス運動がありました。その定義を学びます。               |
|     | 事前学修 | 各自が考える「ルネサンス」とは何でしょうか。調べてみましょう。   |
|     | 事後学修 | エリザベス朝時代の文芸運動についてまとめておきましょう。  |
| 7回  | 授業内容 | 小説の誕生① 16世紀に入りこれまでの劇詩・韻文に加えて新たな文学ジャンルとして「小説」が誕生しました。今回は小説の定義について学びます。         |
|     | 事前学修 | 『ガルガンチュアとパンタグリユエル』について調べておきましょう。  |
|     | 事後学修 | 小説の定義についてまとめ、内容を確認してください。   |
| 8回  | 授業内容 | 『ロミオとジュリエット』扱うテーマは限りなくありますが、ここでは時代背景、中世の恋愛をテーマに作品解説をします。                      |
|     | 事前学修 | 『ロミオとジュリエット』を読んでおくようにしてください。  |
|     | 事後学修 | この作品の悲劇性・喜劇性についてまとめておいてください。  |
| 9回  | 授業内容 | 『リシダス』このジョン・ミルトンの牧歌的哀歌を精読して、牧歌の定義について学びます。                                    |
|     | 事前学修 | ミルトンの生涯について調べておきましょう。   |
|     | 事後学修 | ヨーロッパ文学がいにギリシャ・ローマの作品から影響を受けているかを理解してください。                                    |
| 10回 | 授業内容 | 小説の誕生② 他の欧州諸国に遅れること百年、イングランドでも韻文に代わって散文文学（小説）が発展します。小説という「ジャンル」について学びます。      |
|     | 事前学修 | 18世紀のイングランド小説について調べておきましょう。   |
|     | 事後学修 | 小説とジャーナリズムの関係についてまとめてください。  |
| 11回 | 授業内容 | 『ロビンソン・クルーソー』イングランド小説の祖と言われる本作品から、小説とジャーナリズムについて学びます。                         |
|     | 事前学修 | 18世紀のイングランドの政治・経済状況を調べておきましょう。  |
|     | 事後学修 | 散文と韻文の違いを理解してください。  |
| 12回 | 授業内容 | 『高慢と偏見』イングランド小説の完成形と言われるジェーン・オースティンを読みます。                                     |
|     | 事前学修 | オースティン作品について調べておきましょう。  |
|     | 事後学修 | 作中の人物関係図を整理しましょう。   |
| 13回 | 授業内容 | 『不思議の国のアリス』18世紀から19世紀には児童文学というジャンルが登場します。本作品を抜粋して精読しましょう。                     |
|     | 事前学修 | 本作品を読んでおいてください。   |
|     | 事後学修 | この作品を児童文学とみるか、あるいは風刺かパロディかなどを各自がジャンル化してまとめてください。                              |
| 14回 | 授業内容 | 『デビッド・カパーフィールド』小説がエンタテインメントとして確立した時代のディケンズの本作品を吟味します。                         |
|     | 事前学修 | 内容だけでも調べておきましょう。  |
|     | 事後学修 | 本作が「教養小説」になっているかをまとめてください。  |
| 15回 | 授業内容 | 全体のまとめと試験   |
|     | 事前学修 | 指定された箇所をまとめて試験対策とするように。   |
|     | 事後学修 | これまで扱った作品を出来るだけ多く読んでください。   |

◆**教科書**〔当日資料配布〕当日プリントを配布します。

◆**参考書** 丸沼『イギリス名詩選』平井正穂編 岩波文庫  
丸沼『イギリス文学史』川崎寿彦著 成美堂

◆**成績評価基準** 試験とレポートにより総合的に判断します。

◆**授業相談**（連絡先）：初回授業時に案内します。

### 注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英語学演習〕

田中 竹史

◆**授業概要** ヒトは誰でも母語を獲得することができますが、その獲得は特別な勉強や訓練なしに子供の頃いつの間にか当たり前のようになされてしまいます。これは、たとえば計算の仕方や交通規則を身につけるためには勉強しなければならないということや、ピアノやバイオリンを弾いたりあるいは泳いだり車を運転したりするためには特別な訓練が必要になる、といったことは対照的です。また、通常大人が外国語を身につけるのには意識的な努力が必要であるということとも対照的です。それでは、なぜ子供は特別な勉強や訓練をせずとも母語を身につけられるのでしょうか。なぜ大人は勉強や訓練なしには外国語を身につけることができないのでしょうか。そもそもヒトは一体どのような仕組みにより、極めて複雑で豊かな内容を持つ言語を身につけているのでしょうか。本講座では、上記のような事柄を通じて生物種としてのヒトの特徴について考えます。

◆**学修到達目標** 全ての生物種の中でヒト科ヒト属のみが持つと考えられている特殊な知識体系であることばに内在する性質、そして幼児による言語獲得の過程に触れることにより、ことばの分析方法や言語学・英語学の方法論を学ぶことを目標とします。

◆**授業方法** はじめにヒトのことばに関する基礎的知識（母語話者の持つ言語知識、言語獲得の過程、言語障害、類人猿などヒト以外の生物のコミュニケーション体系など）を講義形式により確認します。その後に、テキストを題材に、受講者による担当部分の内容説明・質疑応答（その過程でアクティブラーニング、グループディスカッションなどを含みます）、教員による補足説明（その過程で課題に対するフィードバックを含みます）、という演習形式で授業を進めます。

### ◆授業計画〔各90分〕

|     |  |
|-----|--|
| 1回  | 授業内容：母語と外国語(1)<br>事前学修：参考書に挙げられている大津（2004, 2008）を読んでおくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。  |
| 2回  | 授業内容：母語と外国語(2)<br>事前学修：配布された資料をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。  |
| 3回  | 授業内容：言語の研究(1)<br>事前学修：配布された資料をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。   |
| 4回  | 授業内容：言語の研究(2)<br>事前学修：配布された資料をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。   |
| 5回  | 授業内容：ヒトの言語獲得(1)<br>事前学修：配布された資料をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。   |
| 6回  | 授業内容：ヒトの言語獲得(2)<br>事前学修：配布された資料をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。   |
| 7回  | 授業内容：14. Constraints on Reference<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。                                |
| 8回  | 授業内容：Introduction, 1 The Interpretation of Pronouns<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。              |
| 9回  | 授業内容：2 C-Command<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。   |
| 10回 | 授業内容：3 Principle C<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。   |
| 11回 | 授業内容：Conclusion<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。  |
| 12回 | 授業内容：15 Children's Knowledge of Constraints: Backwards Anaphora<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。  |
| 13回 | 授業内容：Introduction, 1 Knowledge of Principle C: Previous Research<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。 |
| 14回 | 授業内容：2 When They Should, Children Accept Backwards Anaphora<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。      |
| 15回 | 授業内容：3 Research Design, Conclusion<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。                               |

◆**教科書** **事前資料送付** An Introduction to Linguistic Theory and Language Acquisition. Crain & Lillo-Martin Blackwell 1999（該当箇所 pp.145-163 を配布します）

◆**参考書** 丸沼『探検！ことばの世界』大津由紀雄著 ひつじ書房 2004年  
丸沼『ことばに魅せられて 対話編』大津由紀雄著 ひつじ書房 2008年  
丸沼『ファンダメンタル英語学 改訂版』中島平三著 ひつじ書房 2011年  
丸沼『英語学概説 N30700』通信教育教材（教材コード000567）

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、発表や質疑応答などの授業に対する取り組み（50%）と授業終了後に提出のレポート（50%）により総合的に評価します。

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔哲学演習〕

長谷川 武雄

◆**授業概要** 哲学ではなく古典文献学から哲学的・芸術的考察を始め、それまでの哲学の王道（形而上学や認識論）を批判したニーチェの多面性を概観する。ニーチェと深い関わりのある思想家、芸術家を手引きにニーチェ解釈を試みると同時に、逆に彼等自身の思想を、ニーチェの言葉を手がかりに解釈する。いわゆる双方向的にお互いの思想的立場等を比較考察する。

◆**学修到達目標** 世界には、いわゆる「流行」というものがある。特にファッション界でよく見られる。哲学界（思想界）にもそれがある（哲学史を見れば明らかのように）。「流行」自体決して否定されるものではないが、その時、他の思想へ、他の分野へ目を向けることは、哲学自体にとって必要なことではないか。ニーチェ思想が「多方向性」への一歩を踏み出す意識のきっかけを与えることを目標とする。

◆**授業方法** 「一定頁についての発表（分析・批判）」と、それに対する「質疑応答」を中心とする。授業の中では、様々な「問い・答え」の組合せ（いわゆる「対話」）方法を通して、「分析」に加え、「探求」をも実践する。同時にその要点・妥当性を「記述（論述）」することにより、整理を行ってもらう。尚教科書の一部は省略（「授業計画」で確認）、また「発表方法・時間配分・論述」等、受講者数により変更がある。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |                      |  |
|------|----------------------|--|
| 1 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | ・ これからの講義について全体的説明（主に授業内容、講義方法、成績など）。<br>・ この授業における論述文の書き方について。<br>シラバスの内容を確認しておく。<br>これから自分の勉強方法（授業への臨み方、特に「発表」方法について）を確認しておくこと。  |
| 2 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 発表（第 1 章イサドラ・ダンカンのニーチェ：1 アメリカから来た舞踏家／2 ダンカンの見たニーチェのギリシア／3 踊りと青春）、質疑応答。<br>イサドラ・ダンカンという人物について（特に舞踏家としての）調べておくこと。<br>特にダンカンの見たニーチェをまとめてみる。   |
| 3 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 発表（第 1 章（続き）：4 アルカイズムとモダニズムの出会い／5 踊りと自由精神）、質疑応答。<br>舞踏家としてのダンカンの思想をまとめておくこと。<br>舞踏家の思想と思想家の思想の関係性についてまとめてみる。   |
| 4 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | ・「第 1 章 イサドラ・ダンカンのニーチェ」まとめ。<br>・ それについての課題：論述文（論題は当時間に発表）。<br>分野の相異と思想の関連性をどのように捉えることができるか、整理しておくこと。<br>「領域・分野・専門」の相異とは何であるのか、具体的に考えてみる。   |
| 5 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 発表（第 3 章フーコーのニーチェ：1 人間に関する基礎概念の再検討／2 知の考古学——哲学的時代診断）、質疑応答。<br>フーコーという人物について（特に構造主義について）調べておくこと。<br>「知」の歴史を、フーコーに従って自分で再検討してみる。   |
| 6 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 発表（第 3 章フーコーのニーチェ（続き）：3 系譜学的思考——力の偶然的配置の偶然的変動／4 認識という実験——謀反的知性と連帯の問題）、質疑応答。<br>ニーチェの「系譜学」（著書「道徳の系譜」）などを参考に、考え方を調べておくこと。<br>「知」や「認識」の確実性の根拠とは何か、再考してみる。                               |
| 7 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | ・「第 3 章 フーコーのニーチェ」まとめ。<br>・ それについての課題：論述文（論題は当時間に発表）。<br>フーコーの考古学とニーチェの系譜学を比較してみる。<br>「知」の誕生、それ以後の「歴史」について再考してみる。  |
| 8 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 発表（第 4 章ジョルジュ・バタイユのニーチェ：1 ファシズムと共産主義への距離——至高性の追求／2 禁欲主義の快楽への批判——神の死）、質疑応答。<br>ジョルジュ・バタイユという人物（特に無神論との関係について）調べておくこと。<br>一般的に有神論と無神論の違いはなにか、なぜこのような対立的現象が同じ人間の中に生じたのか、その理由（原因）を考えてみる。 |
| 9 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 発表（第 4 章ジョルジュ・バタイユのニーチェ（続き）：3 キリスト教的誠実性によるキリスト教批判／4 神の死と新たな希望）、質疑応答。<br>キリスト教一般（特に「神」、「三位一体論」など）について調べておくこと。<br>ニーチェの「神の死」とバタイユの無神論を比較してみる。  |
| 10 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 発表（第 4 章ジョルジュ・バタイユのニーチェ（続き）：5 孤独・笑い・道化）。<br>・「第 4 章」まとめ。<br>・ それについての課題：論述文（論題は当時間に発表）。<br>両者のキリスト教批判を比較整理しておくこと。<br>「無神論」の意味・意義について考えてみる。   |
| 11 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 発表（第 6 章リチャード・ローティのニーチェ：1 ニーチェ好きのレフトリベラル／2 メタファーとしての真理）、質疑応答。<br>リチャード・ローティという人物（特に彼の社会理論）を調べておくこと。<br>「レフトリベラル」の本質を確認しておく。  |
| 12 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 発表（第 6 章リチャード・ローティのニーチェ（続き）：3 真理の多神教／4 ニーチェ的民主主義の将来）、質疑応答。<br>一神教と多神教について調べておくこと。<br>一神教・多神教と民主主義の関係をまとめてみる。   |
| 13 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 発表（第 6 章リチャード・ローティのニーチェ（続き）：5 エスノセントリズムを自覚したエスノセントリズム）、質疑応答。<br>「エスノセントリズム」の歴史について調べておくこと。<br>ローティのニーチェ解釈の根本について整理してみる。  |
| 14 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | ・「第 6 章 リチャード・ローティのニーチェ」のまとめ。<br>・ それについての課題：論述文（論題は当時間に発表）。<br>ニーチェの思想をローティはどのように受容しているか整理しておくこと。<br>ニーチェとローティを参考に、社会思想と哲学との関係を考察する。  |
| 15 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 課題（論述）：ニーチェ思想の多様性を批判的に論述。<br>哲学に限らず、ある学問と他の学問の関係とはどのようなものか、具体的に考え、まとめてみる。<br>哲学史上で哲学以外の分野にも大きな影響を与えた人物、その思想内容を整理してみる。  |

◆**教科書** 〔凡〕「ニーチェかく語りき」 三島憲一、岩波書店（岩波現代文庫）、2016 年

◆**参考書** 〔凡〕「ニーチェ全集」 筑摩書房（ちくま学芸文庫）（訳註が多く参考になる）  
〔凡〕「ニーチェ全集 第Ⅰ期・第Ⅱ期」 白水社（遺稿が含まれている）  
教科書内の「参考文献一覧」および各章の「注」を参照し、適宜参照してください。

◆**成績評価基準** 発表・質疑応答（60%）、授業時課題（主に論述）（30%）、その他（10%）。最終的には、以上の全体を見わたし「総合的に評価」する。

◆**授業相談（連絡先）**：講師室

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔日本史入門〕

関 幸彦

- ◆**授業概要** 本科目では、わが国の歴史の根底にある「国史」について、その成立から確立のプロセスや課題について知るために、前近代ならびに近現代の論書や史論を紹介しつつ、わが国の歴史学の発達を概観する。
- ◆**学修到達目標** 日本史の時代区分、歴史学とは何かなど、日本史学修の上で必要な基礎的知識の獲得と、学修姿勢の修得を目標とする。
- ◆**授業方法** テキスト『国史の誕生』を、章・節ごとに解説しつつ、テキストの内容を肉付けする。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |   |
|------|---|
| 1 回  | 授業内容：歴史とは何か。学問としての歴史学<br>事前学修：テキスト全般の流れと、序章を熟読しておく。<br>事後学修：授業の内容を復習しておくこと。                             |
| 2 回  | 授業内容：日本史の時代区分<br>事前学修：日本史における時代区分の問題点（時代区分論争など）を調べておく。<br>事後学修：授業の内容を復習しておくこと。                          |
| 3 回  | 授業内容：江戸期における史論あれこれ<br>事前学修：テキストの 1 章 1 節を熟読しておく。<br>事後学修：授業の内容を復習しておくこと。                                |
| 4 回  | 授業内容：江戸期における学問の流れを探る<br>事前学修：テキストの 1 章 2 節を熟読しておく。<br>事後学修：授業の内容を復習しておくこと。                              |
| 5 回  | 授業内容：江戸から明治期におけるわが国の歴史学の流れ<br>事前学修：テキストの 1 章 3 節を熟読し、2～4 章の概要を把握しておく。<br>事後学修：授業の内容を復習しておくこと。           |
| 6 回  | 授業内容：近代史学の成立 ―明治期の学問事情(1)― 開化期の史学<br>事前学修：テキストの 2 章を熟読しておく。<br>事後学修：授業の内容を復習しておくこと。                     |
| 7 回  | 授業内容：近代史学の成立 ―明治期の学問事情(2)― 「欧羅巴」史学・リース<br>事前学修：テキストの 3 章を熟読しておく。<br>事後学修：授業の内容を復習しておくこと。                |
| 8 回  | 授業内容：近代史学の成立 ―明治期の学問事情(3)― 久米邦武筆禍事件<br>事前学修：テキストの 4 章を熟読しておく。<br>事後学修：授業の内容を復習しておくこと。                   |
| 9 回  | 授業内容：近代史学の展開 ―大正期の学問事情(1)― 南北朝正閏論争<br>事前学修：テキストの 5 章 1 節を熟読しておく。<br>事後学修：授業の内容を復習しておくこと。                |
| 10 回 | 授業内容：近代史学の展開 ―大正期の学問事情(2)― 近代の論理<br>事前学修：テキストの 5 章 2 節を熟読し、3 節を読んでおく。<br>事後学修：授業の内容を復習しておくこと。           |
| 11 回 | 授業内容：近代史学の確立 ―昭和戦前期と実証主義(1)― 喜田貞吉<br>事前学修：テキスト 5 章 3 節を熟読しておく。<br>事後学修：授業の内容を復習しておくこと。                  |
| 12 回 | 授業内容：近代史学の確立 ―昭和戦前期と実証主義(2)― 史観の転換<br>事前学修：テキスト 5 章全体を読み、戦前期の史観や歴史の研究方法について調べる。<br>事後学修：授業の内容を復習しておくこと。 |
| 13 回 | 授業内容：近代史学の確立 ―マルクス主義歴史学(1)― 唯物史観<br>事前学修：唯物史観（史的唯物論）についてその概要を調べておく。<br>事後学修：授業の内容を復習しておくこと。             |
| 14 回 | 授業内容：近代史学の確立 ―マルクス主義歴史学(2)― 社会経済史学<br>事前学修：昭和期における社会経済史のあゆみについて調べておく。<br>事後学修：授業の内容を復習しておくこと。           |
| 15 回 | 授業内容：再び歴史学とは何か<br>事前学修：これまでの講義の内容を振り返っておく。<br>事後学修：授業の内容を復習しておくこと。                                      |

- ◆**教科書** 関 幸彦『国史の誕生』（関幸彦）講談社学術文庫
- ◆**参考書** 講義のなかで適宜指示する。
- ◆**成績評価基準** 試験 80%，平常点（授業参画度）20%で評価する。なお、評価は全日出席を前提とする。
- ◆**授業相談（連絡先）**：授業終了時、あるいは昼休み

注意



## 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

### 〔経済学史 / 経済学説史〕 オープン受講：不可

塚本 隆夫

◆**授業概要** 17世紀のイギリスで展開された「重商主義」から、19世紀の「古典派経済学」までの経済学の歴史的展開過程を考察する。「経済学」は、一見すると時代や地域を超越した普遍性があるよう思われる。しかし経済学には、それが構築された時代や地域から有形・無形の制約を被っている。このことが経済学に様々な「学派」を産み出す大きな理由の一つである。本講では、経済学が構築された17世紀から19世紀前半までのイギリスとフランスを中心に、経済学と時代との関係を解き明かす。経済学者たちがどのように時代の問題に取り組み、「経済学」を構築してきたのかを考察する。

◆**学修到達目標** 経済学の歴史を辿ることで受講生は、経済学者たちが自分の時代の「経済問題」に取り組み、その知的格闘の成果として「経済学」が結実したものであることを、理解できるようになる。換言すれば、経済学と時代の関係を説明できることを目標とする。これを通して、経済学の「科学性」とはどのような意味なのか、を受講生が考察できることを目指す。

◆**授業方法** 授業の進行に応じ、受講生との討議を行う。この討議を通じて受講生は、自ら考察し、講義内容の理解を深めることができる。講義資料を配布する。毎回、「課題」等を課す。なお受講生の理解度に応じて、授業の進行を調整する。

◆**履修条件** 令和元年東京スクーリング（6月期1期）「経済学史 / 経済学説史」との積み重ねは不可。ミクロ・マクロ経済理論の基礎を学習していること。

#### ◆授業計画（各90分）

|     |      |   |
|-----|------|---|
|     | 授業内容 | 経済学が成立するための条件とは：市場経済体制の形成とその特質  |
| 1回  | 事前学修 | テキストを読了しておく。テキスト288～295ページの国民所得決定論を予習しておくこと。市場経済の特質、貨幣の役割、社会的分業について調べる。 |
|     | 事後学修 | 配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。   |
| 2回  | 授業内容 | 重商主義が成立する条件とは：貨幣の機能と17～18世紀のイギリスの時代背景                                   |
|     | 事前学修 | テキスト1～42ページを再読しておく。貨幣の役割を予習する。  |
|     | 事後学修 | 配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。   |
| 3回  | 授業内容 | 重商主義の貿易理論：3つの「貿易差額説」  |
|     | 事前学修 | テキスト43～65ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。  |
|     | 事後学修 | 配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。   |
| 4回  | 授業内容 | 重商主義の貿易差額説への批判と反批判  |
|     | 事前学修 | 参考文献等で「重商主義」を研究しておくこと。「貨幣数量説」を調べる。                                      |
|     | 事後学修 | 配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。   |
| 5回  | 授業内容 | フランス重商主義：コルベール政策の功罪   |
|     | 事前学修 | テキスト66～71ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。  |
|     | 事後学修 | 配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。   |
| 6回  | 授業内容 | フランス啓蒙思想のインパクト：自然法と自然秩序の思想  |
|     | 事前学修 | テキスト71～74ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。  |
|     | 事後学修 | 配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。   |
| 7回  | 授業内容 | フランス重農主義：ケネーの「経済表」を読み解く   |
|     | 事前学修 | テキスト75～84ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。  |
|     | 事後学修 | 配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。   |
| 8回  | 授業内容 | アダム・スミスの時代背景：18世紀のイギリスの社会経済問題とは   |
|     | 事前学修 | テキスト86～89ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。  |
|     | 事後学修 | 配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。   |
| 9回  | 授業内容 | スミスの富とは：分業論と交換論   |
|     | 事前学修 | テキスト89～93ページを再読。参考書で関連事項を研究する。ミクロ経済学の消費者行動分析を確認しておく。                    |
|     | 事後学修 | 配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。   |
| 10回 | 授業内容 | スミスの労働価値説と価格論   |
|     | 事前学修 | テキスト93～98ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。  |
|     | 事後学修 | 配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。   |
| 11回 | 授業内容 | スミスの経済成長論   |
|     | 事前学修 | テキスト98～106ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。                                       |
|     | 事後学修 | 配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。   |
| 12回 | 授業内容 | マルサスの「人口原理」   |
|     | 事前学修 | テキスト106～115ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。PPF(生産可能性辺境線)曲線の分析を予習する。              |
|     | 事後学修 | 配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。   |
| 13回 | 授業内容 | マルサスとリカードの「穀物法論争」   |
|     | 事前学修 | テキスト115～121ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。マクロ経済学AS・AD分析を予習する。                   |
|     | 事後学修 | 配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。   |
| 14回 | 授業内容 | リカードの「差額地代」と経済成長論   |
|     | 事前学修 | テキスト121～133ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。                                      |
|     | 事後学修 | 配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。   |
| 15回 | 授業内容 | 最終試験を実施し、受講生の授業理解度を把握する。  |
|     | 事前学修 | これまでの授業内容を整理し、不明な点を授業時質問できるようにしておくこと。                                   |
|     | 事後学修 | 4日間の授業内容を整理・確認し、経済学と時代との関係を理解できるようにする。                                  |

◆**教科書** 図録【経済学史 R30100/ 経済学説史 L31300】 通信教材（教材コード000160）  
【当日資料配布】 授業時に講義資料・課題等を配布します

◆**参考書** 図録【コアテキスト 経済学史】 井上義朗 新世社 2004年刊行  
図録【入門経済思想史 世俗の思想家たち】 ハイルブローナー ちくま学芸文庫 2001年刊  
図録【反・経済学入門：経済学は生き残れるのか—経済思想史からの警告—】 有江大介 創風社 2019年刊  
図録【やりなおす経済史】 薩山克秀 ダイアモンド社 2014年刊

◆**成績評価基準** 授業時の小テスト・課題および最終試験を総合的に判断し、成績を評価します。

**注意** E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔経済原論 / 経済学原論〕

陸 亦群

◆**授業概要** 本講義は現代マクロ経済学入門として位置づける。本講義において、ケインズ経済学の基礎である有効需要原理、流動性選好利率論を説明したうえで、IS=LM 分析とマンデル＝フレミング・モデルを中心とするオープンエコノミーを展開し、短期モデルと長期モデルの比較を踏まえて、新古典派経済学の視点から物価水準の決定、インフレとデフレに関する問題を主として学修し、応用・展開科目を学ぶ土台を築く。

◆**学修到達目標** マクロ経済学において、有効需要原理、流動性選好利率論、IS=LM 分析、国際マクロ経済学、短期モデルと長期モデルの比較、物価水準の決定、インフレとデフレを中心に講義を進める。この講義を通じて、マクロ経済学全般の「基礎知識」を習得し、現実のマクロ経済現象に対して「経済学的な考え方」を理解し、「分析手法」を身につけることができる。

◆**授業方法** 本講義は教材の内容を中心にパワーポイントと板書で授業を進める。経済学の理論を理解することを目的とし、経済学とはどのような学問であるのかという点を中心に授業を進める。現実の経済の動きを把握するために、必要に応じて時事経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配布・解説する。また、講義内で課題を設ける場合、その解説は講義内で行うようにする。

### ◆授業計画（各 90 分）

|      |      |   |
|------|------|---|
| 1 回  | 授業内容 | マクロ経済学では何を学ぶか、特に現代マクロ経済学の学習内容を概説する                                      |
|      | 事前学修 | 教科書の第 1 章を熟読すること  |
|      | 事後学修 | 講義レジュメを参照し、講義ノートを整理事、講義の内容を整理し、配布資料を読んで、重要なポイントを整理する                    |
| 2 回  | 授業内容 | 国民所得の決定について   |
|      | 事前学修 | 教科書第 4 章（P.75-82）を予め読んでおくこと   |
|      | 事後学修 | 消費関数、投資関数、45 度線モデルと財市場の均衡調整を復習すること                                      |
| 3 回  | 授業内容 | 有効需要原理  |
|      | 事前学修 | 教科書第 4 章（P.83-98）を予め読んでおくこと   |
|      | 事後学修 | 財政政策、総需要管理、乗数効果を復習すること  |
| 4 回  | 授業内容 | 流動性選好利率立論   |
|      | 事前学修 | 教科書第 5 章（P.99-130）を予め読んでおくこと  |
|      | 事後学修 | 流動性選好利率立論、貨幣の需要とマネーサプライの基礎知識を復習すること                                     |
| 5 回  | 授業内容 | 財市場・貨幣市場の均衡と IS=LM 分析   |
|      | 事前学修 | 教科書第 6 章（P.131-152）を予め読んでおくこと   |
|      | 事後学修 | 財市場と IS 曲線、貨幣市場均衡 LM 曲線、そして IS=LM 同時均衡の基礎的分析手法を復習すること                   |
| 6 回  | 授業内容 | 国際収支表の構造、国際通貨制度、IS バランスと資本勘定  |
|      | 事前学修 | 教科書第 7 章（P.153-162）を予め読んでおくこと   |
|      | 事後学修 | 国際通貨制度を理解し、国際収支表の構造と IS バランスと資本勘定の基礎概念を確認すること                           |
| 7 回  | 授業内容 | マンデル＝フレミング・モデル  |
|      | 事前学修 | 教科書第 7 章（P.162-167）を予め読んでおくこと   |
|      | 事後学修 | 開放経済体系における財市場の均衡と IS 曲線の導出、貨幣市場の均衡と LM 曲線の導出、資本移動と利率の決定の講義内容を復習すること     |
| 8 回  | 授業内容 | 固定相場制のもとでの経済政策の効果   |
|      | 事前学修 | 教科書第 7 章（P.167-172）を予め読んでおくこと   |
|      | 事後学修 | 固定相場制のもとでの財政政策の効果、金融政策の効果、為替レート変更の効果、保護主義的な貿易政策の効果について復習すること            |
| 9 回  | 授業内容 | 変動相場制のもとでの経済政策の効果   |
|      | 事前学修 | 教科書第 7 章（P.172-178）を予め読んでおくこと   |
|      | 事後学修 | 変動相場制のもとでの財政政策の効果、金融政策の効果、為替レート変更の効果、保護主義的な貿易政策の効果について復習すること            |
| 10 回 | 授業内容 | マクロ経済分析の基本的な枠組み、短期のケインズモデル、長期の新古典派モデル                                   |
|      | 事前学修 | 教科書第 3 章（P.52-66）および第 8 章（P.183-192）を予め読んでおくこと                          |
|      | 事後学修 | 長期均衡モデルにおける労働市場の均衡と産出量の決定、財市場の均衡と利率の決定、貨幣市場の役割、貨幣数量説を復習すること             |
| 11 回 | 授業内容 | 供給サイドを考慮した長期モデルの分析  |
|      | 事前学修 | 教科書第 8 章（P.193-203）を予め読んでおくこと   |
|      | 事後学修 | マネーサプライと名目 GDP 及びインフレーションの関係、期待物価上昇率、「名目」利率と「実質」利率について復習すること            |
| 12 回 | 授業内容 | 物価水準はどのように決まるのか / IS・LM モデルの拡張①   |
|      | 事前学修 | 教科書第 9 章（P.208-213）を予め読んでおくこと   |
|      | 事後学修 | ケインジアンと古典派の総供給曲線、現実的な短期の総供給曲線、労働者錯覚モデル、総供給関数における長期と短期について確認し講義内容を復習すること |
| 13 回 | 授業内容 | 物価水準はどのように決まるのか / IS・LM モデルの拡張②   |
|      | 事前学修 | 教科書第 9 章（P.214-222）を予め読んでおくこと   |
|      | 事後学修 | 物価水準の決定、名目賃金率の伸縮性、労働市場と完全雇用、ビッグ効果、AD/AS 分析と財政・金融政策の効果、価格の調整速度について復習すること |
| 14 回 | 授業内容 | インフレとデフレ  |
|      | 事前学修 | 教科書第 10 章を熟読しておくこと  |
|      | 事後学修 | フィリップス曲線とインフレーション、合理的期待形成と自然失業率仮説、インフレとデフレの社会的費用の概念を整理し復習すること           |
| 15 回 | 授業内容 | 第 2 回から第 14 回までの要点まとめ   |
|      | 事前学修 | 教科書第 2 章から 10 章までの各章を読み、各章のポイントを確認すること                                  |
|      | 事後学修 | 各章の講義レジュメを参照し、講義ノートを整理事、全体復習すること  |

◆**教科書** 丸岡『入門マクロ経済学』中谷巖 第 5 版 日本評論社

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 試験（70%）、講義内課題（30%）。毎回出席することを前提として評価し、基礎理論を身に付けているかを判定する。

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔地方財政論〕

斎藤 英明

◆**授業概要** 私たちが日々享受している公共サービスの多くは地方自治体が供給しています。本講義は地方自治体の歳入の柱である地方交付税を中心に学びます。そして、歳出が膨張し自治体の財政が悪化することを防ぐ自治体財政健全化法の制度について学びます。これらの制度により地方自治体の歳入面と歳出面がどのようにバランスをとっているのかを理解することを目指します。

◆**学修到達目標** 1. 国と地方自治体の財政関係の要である地方財政計画について理解し、お金の流れを説明できるようにする。  
2. 地方自治体の歳入の柱である地方交付税制度について理解し、地方財政計画との関係を説明できるようにする。  
3. 財政悪化を防ぐために制定された自治体財政健全化法について理解し、健全化阪大比率がどのような意味・効果を持っているのかを説明できるようにする。

◆**授業方法** スクリーンに資料を提示し、その内容を説明しながら進めます。受講者は重要であると思われる内容をノートや配布されたプリントに記入しながら授業を受けることを期待します。授業内容の理解度を確認するために1日目と2日目の最後の授業時間に確認テストを実施します。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容<br>ガイダンス<br>・履修上の注意。授業では何か学ぶのか。<br>地方財政の歴史<br>事前学修<br>・シラバスを読み、授業の全体像を整理しておきましょう。<br>・新聞やニュースで地方財政について触れてみましょう。<br>事後学修<br>・シラバスを読み返し、履修すべきか否かをしっかりと考えましょう。また、単位習得のための心構えをしましょう。<br>・全国総合開発計画を整理しておきましょう。 |
| 2 回  | 授業内容<br>財政の3機能。<br>公共財と地方公共財の違い。<br>事前学修<br>・財政の機能を調べましょう。<br>事後学修<br>・公共財と地方公共財の違いを復習しましょう。   |
| 3 回  | 授業内容<br>中央政府と地方自治体の財政状況について知りましょう。<br>事前学修<br>・基礎的財政収支を調べておきましょう。<br>事後学修<br>・地方財政の現状を復習しておきましょう。  |
| 4 回  | 授業内容<br>地方財政計画とは何か。<br>地方交付税の原資は何か。<br>事前学修<br>・地方財政計画とは何か調べてみましょう。<br>事後学修<br>・地方交付税の原資を確認しましょう。  |
| 5 回  | 授業内容<br>地方自治体の国への依存。<br>第1回～第5回の確認テスト。<br>事前学修<br>・国から地方自治体へのお金の流れを調べましょう。<br>事後学修<br>・地方財政計画の各項目を復習しましょう。   |
| 6 回  | 授業内容<br>確認テストの解説。<br>・地方交付税制度の概略。地方財政計画との関係。<br>事前学修<br>・地方交付税の性質を調べておきましょう。<br>事後学修<br>・地方財政計画での地方交付税の役割を復習しておきましょう。  |
| 7 回  | 授業内容<br>地方交付税の算定に重要な役割を果たす基準財政需要額について学びましょう。<br>事前学修<br>・基準財政需要額とは何か調べておきましょう。<br>事後学修<br>・基準財政需要額が表している経費を復習しておきましょう。   |
| 8 回  | 授業内容<br>地方交付税の算定に重要な役割を果たす基準財政収入額について学びましょう。<br>事前学修<br>・基準財政収入額とは何か調べておきましょう。<br>事後学修<br>・留保財源が機能を復習しておきましょう。   |
| 9 回  | 授業内容<br>地方交付税に対して指摘されやすい誤解を紹介し、それらが誤りである理由を学びましょう。<br>事前学修<br>・あらためて地方交付税の推移を調べてみましょう。<br>事後学修<br>・地方交付税への誤解とそれに対する解答を考えてみましょう。  |
| 10 回 | 授業内容<br>第6回～第10回の確認テスト。<br>事前学修<br>・基準財政需要額と地方財政収入額を中心に地方交付税について制度を整理しておきましょう。<br>事後学修<br>・地方交付税の制度を復習しておきましょう。  |
| 11 回 | 授業内容<br>確認テストの解説。<br>自治体財政健全化法制定の背景、制度の概要を学びましょう。<br>事前学修<br>・自治体財政健全化法とは何か調べておきましょう。<br>事後学修<br>・自治体財政健全化法の制度を整理しましょう。  |
| 12 回 | 授業内容<br>健全化判断比率の1つである実質公債費比率と連結実質赤字比率について学びましょう。<br>事前学修<br>・実質公債費比率と連結実質赤字比率とは何か調べましょう。<br>事後学修<br>・実地公債費比率と連結実質赤字比率の会計での対象範囲と健全化判断比率を整理しましょう。  |
| 13 回 | 授業内容<br>健全化判断比率の1つである将来負担比率と実質赤字比率について学びましょう。<br>事前学修<br>・将来負担比率と実質赤字比率とは何か調べましょう。<br>事後学修<br>・将来負担比率と実質赤字比率の会計での対象範囲と健全化判断比率を整理しましょう。   |
| 14 回 | 授業内容<br>自治体財政健全化法の課題について学びましょう。<br>事前学修<br>・4つの健全化判断比率を整理しておきましょう。<br>事後学修<br>・自治体財政健全化法の課題を復習しておきましょう。  |
| 15 回 | 授業内容<br>最終試験<br>事前学修<br>・これまでの授業内容を整理し、試験の準備をしましょう。<br>事後学修<br>・授業全体を振り返り、自分の居住する自治体の財政状況を調べてみましょう。  |

◆**教科書** 当日資料配布

◆**参考書** 丸沼『新版 基本から学ぶ地方財政』小西砂千夫 学陽書房 2018年  
丸沼『地方財政健全化法とガバナンスの経済学』赤井伸郎・石川達哉 有斐閣 2019年

◆**成績評価基準** ・1日目の確認テスト：30%  
・2日目の確認テスト：30%  
・3日目の最終試験：40%

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

**注意**

# 講座内容（シラバス）

## 〔貿易論〕

岡田 直己

◆**授業概要** 「貿易」は国・地域を越境して行われる主に企業間の経済活動であり、モノの輸出入が想起されたり、国家・企業間の政治経済の問題（国益の対立と交渉）として捉えられることが多い。しかし、「貿易」の対象はモノだけではなく、すべての貿易活動は「法」（条約や関連国内法）に基づいて行われており、利害対立をめぐる交渉・解決も「法」に基づいて行われる。本科目は、そのような「法」の基礎的領域の理論と実際を扱うものである。

◆**学修到達目標** 米中通商交渉など貿易分野にとどまらない国家間の経済対立、TPP 11、日欧 EPA（経済連携協定）及び日米物品貿易協定の発効、世界各国による貿易制限措置の相次ぐ発動と WTO（世界貿易機関）に対する紛争解決の要請等、貿易・国際投資の動向の変容は目まぐるしい。本科目では、貿易・国際投資のルールに関する基礎的理解を習得するとともに、貿易・国際投資をめぐる諸課題や貿易紛争に関する基礎知識を身につける。

◆**授業方法** 教科書の内容を中心に貿易・投資のルールについて解説するとともに、貿易・投資関係の各種資料を参照しながら、貿易・投資のルールが現実の貿易・投資にどのような影響を与えているのかを説明する。また、「現実」をルールに則して考えることが重要であるため、受講者との Q&A やディスカッションを可能な限り行う。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容：総論（データでみる貿易・投資の動向）<br>事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。<br>事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。                     |
| 2 回  | 授業内容：グローバル貿易体制の成立と展開・全体像（GATT/WTO 体制の歴史的展開）<br>事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。<br>事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。 |
| 3 回  | 授業内容：基本原則（最恵国待遇、内国民待遇、数量制限禁止など。ケーススタディを含む）<br>事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。<br>事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。  |
| 4 回  | 授業内容：一般的例外と非貿易的関心事項（「貿易と環境」問題を中心に）<br>事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。<br>事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。          |
| 5 回  | 授業内容：1 日目のまとめ（時間が許せば、受講者によるディスカッション）<br>事前学修：第 1 回～第 4 回授業内容の復習<br>事後学修：1 日目（第 1 回～第 5 回授業）に関する不明点があれば、担当者に質問すること。       |
| 6 回  | 授業内容：衛生植物検疫措置／貿易の技術的障害（ケーススタディを含む）<br>事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。<br>事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。          |
| 7 回  | 授業内容：貿易救済措置①（セーフガード。ケーススタディを含む）<br>事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。<br>事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。             |
| 8 回  | 授業内容：貿易救済措置②（アンチダンピング。ケーススタディを含む）<br>事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。<br>事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。           |
| 9 回  | 授業内容：貿易救済措置③（補助金・相殺措置。ケーススタディを含む）<br>事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。<br>事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。           |
| 10 回 | 授業内容：2 日目のまとめ（時間が許せば、受講者によるディスカッション）<br>事前学修：第 6 回～第 9 回授業内容の復習<br>事後学修：2 日目（第 6 回～第 10 回授業）に関する不明点があれば、担当者に質問すること。      |
| 11 回 | 授業内容：農産品貿易・サービス貿易の自由化（ケーススタディを含む）<br>事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。<br>事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。           |
| 12 回 | 授業内容：地域経済統合・原産地規則（FTA/EPA、関税同盟。ケーススタディを含む）<br>事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。<br>事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。  |
| 13 回 | 授業内容：貿易・投資紛争処理制度（WTO 紛争解決手続を中心に。ケーススタディを含む）<br>事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。<br>事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。 |
| 14 回 | 授業内容：3 日目のまとめ（時間が許せば、受講者によるディスカッション）<br>事前学修：第 11 回～第 13 回授業内容の復習<br>事後学修：試験（第 15 回授業）の準備                                |
| 15 回 | 授業内容：総括（30 分）、試験（60 分）<br>事前学修：3 日間の授業内容の復習<br>事後学修：試験内容に関する特段の不明点があれば、担当者に質問することが望ましい。                                  |

◆**教科書** 〔凡例〕 WTO FTA CPTPP - 国際貿易・投資のルールを比較で学ぶ - 飯野文著 弘文堂 2019 年

◆**参考書** 〔凡例〕 WTO・FTA 入門 小林友彦ほか著 法律文化社 2016 年

〔凡例〕講義 国際経済法 柳村秀ほか編 東信堂 2018 年

〔凡例〕ケースブック WTO 法 松下満雄ほか編 有斐閣 2009 年

◆**成績評価基準** 授業の出席を前提として、試験の評点（＋ディスカッション実施の場合はその参加度）で評価を行います。試験のみとなれば 100 点満点、上記の合算方式となれば試験 80%＋ディスカッション 20%を予定します。

◆**授業相談（連絡先）**：本科目の履修前相談については、担当者へメール（n\_okada@als.aoyama.ac.jp）でお問合せください。スクーリング期間における授業内容に関する相談は、各日の昼休みなど休憩時間に応じます。

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔証券市場論〕

佐藤 猛

- ◆**授業概要** 授業は証券市場の金融プレーヤー（家計、政府（国債）、企業）を視点に、各プレーヤーの証券理論と証券市場の状況を説明する。家計ではポートフォリオ、政府では債券と為替、企業ではエージェンシー理論を中心に講義する。特に上場制度は実務観点から講義する。
- ◆**学修到達目標** 日本経済新聞及び週刊経済誌（週刊エコノミスト、週刊ダイヤモンド、週刊東洋経済）内容を各プレーヤーの立場から理解できるようにする。また投資判断（特に企業価値－株価）として会社四季報が理解できるようにする。
- ◆**授業方法** パワーポイントで授業を行う。必要に応じて練習問題を行う。また大きなテーマ（または各日の）終了時にはコメントを提出してもらいます。事前学修では教科書または参考書を利用してください。
- ◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容：総論：証券市場－発行市場と金融プレーヤー<br>事前学修：教科書：43－58 頁、113－115 頁を事前に読んでおくこと<br>事後学修：金融プレーヤーについて図で整理しよう。   |
| 2 回  | 授業内容：総論：リスクとリターン<br>事前学修：教科書：107－109 頁を事前に読んでおくこと<br>事後学修：リスクとリターンの 3 つの類型で復習しよう                 |
| 3 回  | 授業内容：総論：証券の種類<br>事前学修：教科書：29－38 頁、86－87 頁を事前に読んでおくこと<br>事後学修：各証券の特徴を整理しよう                        |
| 4 回  | 授業内容：家計：日米のポートフォリオ比較<br>事前学修：教科書：123－125 頁を事前に読んでおくこと<br>事後学修：日米のポートフォリオを比較してまとめよう               |
| 5 回  | 授業内容：家計：運用委託 ファンド（ヘッジ＋ベンション）<br>事前学修：教科書：39－42 頁、63－67 頁を事前に読んでおくこと<br>事後学修：証券市場のファンドの位置づけを整理しよう |
| 6 回  | 授業内容：政府：債券（国債）のファンダメンタルズ<br>事前学修：教科書：91－95 頁、116－117 頁、121－123 頁を事前に読んでおくこと<br>事後学修：債券の格付けを理解しよう |
| 7 回  | 授業内容：政府：国債（財政）とユーロ問題<br>事前学修：EU の歴史を調べておこう<br>事後学修：ユーロ問題の要点を整理しよう                                |
| 8 回  | 授業内容：企業：上場企業<br>事前学修：企業の歴史を事前に調べておこう<br>事後学修：ダウ工業株 30 種の上場企業名を調べよう。                              |
| 9 回  | 授業内容：企業：上場システム（＋コーポレート・ガバナンス）<br>事前学修：教科書：83－85 頁を事前に読んでおくこと<br>事後学修：コーポレート・ガバナンス・コードの事例を調べよう    |
| 10 回 | 授業内容：企業：ベンチャー企業（IPO・リクルート問題）<br>事前学修：具体的なベンチャー企業について調べておこう<br>事後学修：最近上場した IPO を調べよう              |
| 11 回 | 授業内容：企業：株価指数（最適ポートフォリオ）CAPM<br>事前学修：教科書：155－158 頁を事前に読んでおくこと<br>事後学修：CAPM の計算問題を解こう              |
| 12 回 | 授業内容：企業：株式のファンダメンタルズ<br>事前学修：教科書：88－90 頁、95－98 頁を事前に読んでおくこと<br>事後学修：理論株価の計算問題を解こう                |
| 13 回 | 授業内容：企業：企業価値の増殖（財務戦略）<br>事前学修：教科書：113－115 頁を事前に読んでおくこと<br>事後学修：CAP についてその構造を復習しよう                |
| 14 回 | 授業内容：企業：企業価値の増殖（経営戦略）<br>事前学修：ペプレンの暖簾とシュンペーターのイノベーションの概念を調べておこう<br>事後学修：企業価値の増殖の経営戦略を体系化しよう      |
| 15 回 | 授業内容：総復習<br>事前学修：いままでの配布資料から不明の点をピックアップしておこう<br>事後学修：発行市場と金融プレーヤーから日本の証券市場の特徴を整理しよう              |

- ◆**教科書** 通信『証券市場論 0829』通信教育教材（教材コード 000185）
- ◆**参考書** 関西『証券理論の新体系』税務経理協会（授業中は使用しないが事前学修には参考になる。キンドル版利用可能）。その他の参考書でも可。
- ◆**成績評価基準** 授業内小テスト（コメント）4 回（各 25 点）

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



# 講座内容（シラバス）

## 〔教育課程論〕

滝澤 雅彦

◆**授業概要** 各学校の教育活動・指導内容の土台となっている学習指導要領について学ぶ。各学校・園種の連続性や全体的理解のために、幼稚園・こども園の幼稚園要領から小学校、中学校、高等学校に至る長期的な視野から各校種の学習指導要領のポイントを理解し、各学校・園における具体的な教育課程を参考に、カリキュラム・マネジメントの実践について多角的に学ぶ。以上のことを、公立中学校長、全日本中学校長会生徒指導部長、及び文部科学省中央教育審議会専門委員等の経験を踏まえて、授業内容に反映させる。

◆**学修到達目標** 1. 学習指導要領の変遷と、それらとの比較における新学習指導要領の特色について理解し説明することができる。  
2. 学校教育における教育課程の役割と、教育課程編成の実践について理解し説明することができる。  
3. 学校教育におけるマネジメントの意義・重要性とカリキュラム・マネジメントについて理解し説明することができる。

◆**授業方法** 1. 本時の授業テーマに関連する話題についてグループ・ディスカッションを行い意見交換する。  
2. レジューメに基づいて解説する。  
3. 解説中に行う発問についてグループ・ディスカッションを行い意見交換・指導する。  
4. 最後に、本時または次回のテーマに関する授業レポートを作成し提出する。

◆**履修条件** 令和2年度夜間スクーリング（春期）「教育課程論」との積み重ね不可。

◆**授業計画〔各90分〕**

|     |  |
|-----|--|
| 1回  | 授業内容：カリキュラムとは何か<br>事前学修：直近の教育関係の話題やニュースについて情報を収集しておくこと。<br>事後学修：配布レジューメの読み返しとノート整理をしておくこと。                             |
| 2回  | 授業内容：学習指導要領とは何か<br>事前学修：前時の配布レジューメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。<br>事後学修：本時の配布レジューメ、資料およびノートを読み返しておくこと。                        |
| 3回  | 授業内容：学習指導要領の変遷と新学習指導要領の特色<br>事前学修：前時の配布レジューメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。<br>事後学修：本時の配布レジューメ、資料およびノートを読み返しておくこと。              |
| 4回  | 授業内容：学習指導要領の内容と各学校の教育課程<br>事前学修：前時の配布レジューメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。<br>事後学修：本時の配布レジューメ、資料およびノートを読み返しておくこと。                |
| 5回  | 授業内容：教育課程編成の実践<br>事前学修：前時の配布レジューメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。<br>事後学修：第1回から第5回までの配布レジューメ、資料およびノートを読み返しておくこと。                 |
| 6回  | 授業内容：児童生徒や地域の実態を踏まえた教育課程編成<br>事前学修：直近の教育関係の話題やニュースについて情報を収集しておくこと。<br>事後学修：返却された授業レポートを読み返しておくこと。                      |
| 7回  | 授業内容：幼小、小中、中高といった校・園種間の円滑な接続<br>事前学修：前時の配布レジューメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。<br>事後学修：本時の配布レジューメ、資料およびノートを読み返しておくこと。           |
| 8回  | 授業内容：学校における2種類のマネジメントとは何か<br>事前学修：前時の配布レジューメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。<br>事後学修：本時の配布レジューメ、資料およびノートを読み返しておくこと。              |
| 9回  | 授業内容：カリキュラムをマネジメントするとはどういうことか<br>事前学修：前時の配布レジューメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。<br>事後学修：本時の配布レジューメ、資料およびノートを読み返しておくこと。          |
| 10回 | 授業内容：各教科のカリキュラム・マネジメント<br>事前学修：前時の配布レジューメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。<br>事後学修：第6回から第10回までの配布レジューメ、資料およびノートを読み返しておくこと。        |
| 11回 | 授業内容：特別の教科 道徳のカリキュラム・マネジメント<br>事前学修：直近の教育関係の話題やニュースについて情報を収集しておくこと。<br>事後学修：返却された授業レポートを読み返しておくこと。                     |
| 12回 | 授業内容：総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメント<br>事前学修：前時の配布レジューメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。<br>事後学修：本時の配布レジューメ、資料およびノートを読み返しておくこと。           |
| 13回 | 授業内容：特別活動のカリキュラム・マネジメント<br>事前学修：前時の配布レジューメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。<br>事後学修：本時の配布レジューメ、資料およびノートを読み返しておくこと。                |
| 14回 | 授業内容：カリキュラム評価の意義と重要性<br>事前学修：前時の配布レジューメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。<br>事後学修：本時の配布レジューメ、資料およびノートを読み返しておくこと。                   |
| 15回 | 授業内容：カリキュラム評価の実践<br>事前学修：前時の配布レジューメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。<br>事後学修：返却された授業レポートと第11回から第15回までのレジューメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 |

◆**教科書** 当日資料配布 1. 教科書は指定しない。  
2. 当日配布レジューメ  
3. 当日配布資料

◆**参考書** 凡例 中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）  
凡例 高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）

◆**成績評価基準** 授業内小テストおよび授業レポート（80%）、グループ・ディスカッションおよび発表内容（20%）。  
毎回出席することを前提として評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：初回の授業時に伝達する。

**注意**

# 講座内容（シラバス）

## 〔英語科教育法Ⅳ〕 オープン受講：不可

小林 和歌子

◆**授業概要** 本講義では、英語及び英語科目の指導法に関して教授法の観点から、また第二言語習得理論の観点から総合的に学習する。主に4技能を如何に効率的に教えたらいのか、学習動機、自律的な学習者の育成、また CEFR と Can-Do リストを使用した英語教育法に関して考察を深める。

◆**学習到達目標** 英語学習の過程、英語教授法・第二言語習得理論の具体的な歴史・概要を知りそれらを現在の英語学習者のニーズや学習環境に応じて実行できるようになる技術を身に付ける。第二言語習得理論研究の過去・現在を知ることにより、今後の英語教育業界における山積する問題についても考察し、より良い「行動志向の進化する英語教師」となることを目標とする。

◆**授業方法** 講義に加えてグループワークによるマイクロ・ティーチングも適宜取り入れる。また各教授法・第二言語習得理論・評価法についての省察（リフレクションペーパー）を書いたり発表したりすることにより、英語学習・英語教育における振り返りの習慣を構築する。中間テストと期末テストを実施する予定である。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容：オリエンテーション・EFL と ESL の違い・英語教育の目的 講義とディスカッション<br>事前学修：該当するテキストをよく読んで基本用語を学習すること。<br>事後学修：授業内容をノートに整理して、良く確認しておくこと。                            |
| 2 回  | 授業内容：各英語教授法の概観 講義とディスカッション<br>事前学修：該当するテキストの箇所をよく読んで、ざっと理解しておくこと。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理して良く確認しておくこと。  |
| 3 回  | 授業内容：各英語教授法の概観 講義とディスカッション<br>事前学修：該当するテキストの箇所をよく読んで、ざっと理解しておくこと。<br>事後学修：授業の内容をノートに整理して良く確認しておくこと。  |
| 4 回  | 授業内容：小中高で如何に連携は可能か CEFR の紹介 講義とディスカッション<br>事前学修：CEFR に関してテキストの該当箇所をよく読んで理解しておくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理して、良く確認しておくこと。中間テストに備え始めよう。                 |
| 5 回  | 授業内容：第二言語習得理論に関する研究の紹介 講義とディスカッション<br>事前学修：第二言語習得理論に関するテキストの該当箇所を良く読んでおくこと。<br>事後学修：授業内容をノートに整理して良く確認しておくこと。                                     |
| 6 回  | 授業内容：インプットアウトプットそしてインタラクション 講義とディスカッション<br>事前学修：該当するテキストの章をよく読んで理解しておくこと。<br>事後学修：授業内容を確認して中間テストの準備をすること。  |
| 7 回  | 授業内容：インプットアウトプットそしてインタラクション 講義とディスカッション<br>事前学修：該当するテキストの箇所をよく読んで、ざっと理解しておくこと。<br>事後学修：授業内容を確認して中間テストに備えること。                                     |
| 8 回  | 授業内容：中間テストと解説<br>事前学修：今までの学習を振り返り想定問答を作る等して試験に備えること。<br>事後学修：テストに出た問題に対して自分が如何に答えたのかノートをしながら確認すること。  |
| 9 回  | 授業内容：Vygotsky の発達最近接領域と足場架け 講義とディスカッション<br>事前学修：Vygotsky の理論の基本用語を該当するテキストの箇所をよく読み理解に努めること。<br>事後学修：授業のノートを整理しつつ、授業内容を良く理解しようと努めること。             |
| 10 回 | 授業内容：英語能力をどのように評価するのか 講義とディスカッション<br>事前学修：該当するテキストの箇所をよく読んで評価に関してざっと理解しておくこと。<br>事後学修：授業中のスライドをノートに纏めて理解を深めること。                                  |
| 11 回 | 授業内容：CEFR と Can-Do リスト 観点別評価 講義とディスカッション<br>事前学修：該当するテキストの箇所をよく読んで CEFR の基本理念について考えること。<br>事後学修：授業中のスライドをノートに纏めて CEFR 及び Can-Do リストに関して理解を深めること。 |
| 12 回 | 授業内容：自律的な学習者育成のために 講義とディスカッション<br>事前学修：該当するテキストの箇所をよく読んで自律的とは何か考えてみること。<br>事後学修：授業中に取ったノートを纏めながら、ディスカッションの内容を振り返ること。                             |
| 13 回 | 授業内容：学習動機・個人差・学習ストラテジー<br>事前学修：該当するテキストの箇所をよく読んでモチベーション、自己効力感について考えること。<br>事後学修：授業中のスライドをノートに纏めながら、口頭発表や期末テストに備えること。                             |
| 14 回 | 授業内容：口頭発表及び総括まとめ<br>事前学修：授業中に扱ったテーマを参考にして良い教師とはどのような教師か考える。<br>事後学修：クラスメートの口頭発表を振り返り、これまでの学習に関して考察を深め期末テストに備えること。                                |
| 15 回 | 授業内容：期末テストと解説<br>事前学修：中間テスト以降の学習を振り返り期末テストに備えること。<br>事後学修：授業内容を確認、理解してこの英語教授法Ⅳの講義全体を振り返ること。  |

◆**教科書** 図1 『英語科教育法Ⅰ T2380Q』 通信教育教材（教材コード 000580）（この教材は市販の『行動志向の英語科教育の基礎と実践―教師は成長する』 JACET 教育問題研究会編（三修社）と同一です）

図2 『国際語としての英語・進化する英語教育法』 岩本夏美・今井由美子・大塚朝美・杉森直樹著 松柏社

◆**参考書** 図3 『Structural Equation Modeling of Writing Proficiency Using Can-Do Questionnaires』 Wakako Kobayashi 著 文眞堂

◆**成績評価基準** リフレクションペーパー（30%）発表・参加（30%）中間・期末テスト（40%）

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 【英語科教育法Ⅱ】

市川 泰弘

◆**授業概要** 本講義では英語を教える目的を見据え、日本の英語教育の現状を踏まえながら5つの領域（Reading, Listening, Writing, Speaking, Debating）をどのように指導していくかを実際の現場の状況をとらえながら理解し、また新たに築き上げるための能力を身につけ、さらに今後の英語教育のあり方について対象となる生徒・学生の能力・取り組み意識を心にとめながら考察していく。

◆**学習到達目標** 本講義の目標は、1）5つの領域（Reading, Listening, Writing, Speaking, Debating）についてそれぞれの具体的なポイントを理解し、2）各領域の指導方法を理解し、3）今求められている英語教育の具体的な内容を把握することである。さらに個々の内容は当然学生・生徒のモチベーション・能力の違いによって変化していくものであるから、その変化に対応できる能力および対応の基盤となる英語力を修得し、様々な教えるための方策を作成できるようになることを目指す。

◆**授業方法** テーマを設定し、グループディスカッションを行い、発表をしてもらいます。テーマに関する資料は事前あるいは当日配布し、決められた時間で内容をまとめ、議論を進めて行きます。各テーマごとにその日の最後にレポートを作成、提出してもらいます。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 回  | 授業内容 | オリエンテーション、5つの領域（Speaking, Listening, Writing, Reading, Presentation）と今までの英語教育、従来どのような教育方法を行ってきたかを概観し、長所・短所を明らかにする。テーマディスカッションを行い、最後にレポートを作成し、提出する。 |
|      | 事前学修 | 参考文献の授業内容に関わる部分を読む。  |
|      | 事後学修 | 配付資料を復習する。   |
| 2 回  | 授業内容 | Inputとしての領域（Listeningとその指導概要）について、教える対象（小学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。  |
|      | 事前学修 | 参考文献の授業内容に関わる部分を読む。  |
|      | 事後学修 | 配付資料を復習する。   |
| 3 回  | 授業内容 | Inputとしての領域（Listeningとその指導概要）について、教える対象（中学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。  |
|      | 事前学修 | 参考文献の授業内容に関わる部分を読む。  |
|      | 事後学修 | 配付資料を復習する。   |
| 4 回  | 授業内容 | Inputとしての領域（Listeningとその指導概要）について、教える対象（高等学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。   |
|      | 事前学修 | 参考文献の授業内容に関わる部分を読む。  |
|      | 事後学修 | 配付資料を復習する。   |
| 5 回  | 授業内容 | Inputとしての領域（Readingとその指導概要）について、教える対象（小学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。  |
|      | 事前学修 | 参考文献の授業内容に関わる部分を読む。  |
|      | 事後学修 | 配付資料を復習する。   |
| 6 回  | 授業内容 | Inputとしての領域（Readingとその指導概要）について、教える対象（中学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。  |
|      | 事前学修 | 参考文献の授業内容に関わる部分を読む。  |
|      | 事後学修 | 配付資料を復習する。   |
| 7 回  | 授業内容 | Inputとしての領域（Readingとその指導概要）について、教える対象（高等学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。   |
|      | 事前学修 | 参考文献の授業内容に関わる部分を読む。  |
|      | 事後学修 | 配付資料を復習する。   |
| 8 回  | 授業内容 | Outputとしての領域（Writingとその指導概要）について教える対象（小学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。  |
|      | 事前学修 | 参考文献の授業内容に関わる部分を読む。  |
|      | 事後学修 | 配付資料を復習する。   |
| 9 回  | 授業内容 | Outputとしての領域（Writingとその指導概要）について教える対象（中学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。  |
|      | 事前学修 | 参考文献の授業内容に関わる部分を読む。  |
|      | 事後学修 | 配付資料を復習する。   |
| 10 回 | 授業内容 | Outputとしての領域（Paragraph Writingとその指導概要）について教える対象（中学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。  |
|      | 事前学修 | 参考文献の授業内容に関わる部分を読む。  |
|      | 事後学修 | 配付資料を復習する。   |
| 11 回 | 授業内容 | Outputとしての領域（Writingとその指導概要）について教える対象（高等学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。   |
|      | 事前学修 | 参考文献の授業内容に関わる部分を読む。  |
|      | 事後学修 | 配付資料を復習する。   |
| 12 回 | 授業内容 | Outputとしての領域（Paragraph Writingとその指導概要）について教える対象（高等学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。   |
|      | 事前学修 | 参考文献の授業内容に関わる部分を読む。  |
|      | 事後学修 | 配付資料を復習する。   |
| 13 回 | 授業内容 | Outputとしての領域（Speakingとその指導概要、Presentationとその指導概要）について教える対象（小学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。   |
|      | 事前学修 | 参考文献の授業内容に関わる部分を読む。  |
|      | 事後学修 | 配付資料を復習する。   |
| 14 回 | 授業内容 | Outputとしての領域（Speakingとその指導概要、Presentationとその指導概要）について教える対象（中学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。   |
|      | 事前学修 | 参考文献の授業内容に関わる部分を読む。  |
|      | 事後学修 | 配付資料を復習する。   |
| 15 回 | 授業内容 | Outputとしての領域（Speakingとその指導概要、Presentationとその指導概要）について教える対象（高等学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。  |
|      | 事前学修 | 参考文献の授業内容に関わる部分を読む。  |
|      | 事後学修 | 配付資料を復習する。   |

◆**教科書** 資料を作成し、配布するか、使用する資料がダウンロードできるサイトを示します。

◆**参考書** 『行動志向の英語科教育の基礎と実践―教師は成長する―』JACET 教育問題研究会編 三修社 2017 年  
『英語授業改善のための処方箋：マクロに考えミクロに対処する』金谷憲著 大修館書店  
Brown, H.D. Teaching by Principles - An Interactive Approach to Language Pedagogy (4<sup>th</sup> Edition) Longman

◆**成績評価基準** 講義内でのディスカッション・発表（30%）、レポートなど（70%）で総合的に判断します。詳細は第 1 回目の講義で説明します。特にディスカッションでの Participation は重要となります。

**注意** E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔社会科・公民科教育法Ⅱ〕

壽福 隆人

- ◆**授業概要** 中学校社会科・高等学校公民科の倫理的分野を中心に、学習指導要領が掲げる指導目標を踏まえて、学習の意義を理解し、教育機器を用いた授業を設計・実施できる能力を育てる。
- ◆**学習到達目標** 世界には様々な価値観が存在することを前提として、それぞれの思想や倫理観がそれぞれの民族や社会の歴史や文化を踏まえて成立していることを、授業を通じて理解し考えることができる中学生や高校生を育てるための教材開発能力を身につける。とくに、教育機器を用いた教材収集力と授業展開能力を身につけることを目標として、学習指導案を作成し、模擬授業を実施して教員としての資質育てる。
- ◆**授業方法** 講義形式を中心に進められるが、並行して学習指導案作成のための教材研究を行い、適宜研究発表を行い、議論を通してよりよい学習指導案の作成方法を考える。さらに、模擬授業を実施して討議を通してよりよい倫理分野の授業を考える。

### ◆履修条件

### ◆授業計画〔各 90 分〕

|      |   |
|------|---|
| 1 回  | 授業内容：資料検索の方法(1)NDL を利用した資料収集の方法<br>事前学修：インターネットを用いた資料収集の体験<br>事後学修：国立国会図書館を利用してみる                                 |
| 2 回  | 授業内容：資料検索の方法(2)Research map を用いた資料収集の方法<br>事前学修：インターネットを用いた資料収集の体験<br>事後学修：研究者検索をやる                               |
| 3 回  | 授業内容：資料集と知的財産について考える<br>事前学修：インターネットを用いた資料収集の体験<br>事後学修：研究者の著作物を検索する  |
| 4 回  | 授業内容：中学生と高校生の倫理分野の知識について理解する<br>事前学修：中学校学習指導要領を読んで、中学生の倫理的分野の学習状況を調べる<br>事後学修：中学校学習指導要領を読んで、中学生の倫理的分野の学習状況を確認する   |
| 5 回  | 授業内容：中学生と高校生の倫理分野の知識について理解する<br>事前学修：高等学校学習指導要領を読んで、高校生の倫理的分野の学習状況を調べる<br>事後学修：高等学校学習指導要領を読んで、高校生の倫理的分野の学習状況を確認する |
| 6 回  | 授業内容：倫理の学習指導案を作成する(1)古代ギリシャ思想を題材として<br>事前学修：インターネットで倫理学習指導要領例を探す<br>事後学修：倫理学習指導案例の良い部分や問題点についてまとめる                |
| 7 回  | 授業内容：倫理の学習指導案を作成する(2)世界の宗教を題材として<br>事前学修：倫理の資料について考える<br>事後学修：倫理で用いられている資料の価値について考える                              |
| 8 回  | 授業内容：倫理の学習指導案を作成する(3)アジアの思想を題材として<br>事前学修：高校生が議論できる討論議題について考える<br>事後学修：高校生が議論できる討論の議題としてよい議題と悪い議題について整理する         |
| 9 回  | 授業内容：倫理におけるディベートについて考える(1)近代ヨーロッパ思想を題材として<br>事前学修：ディベートの題字を考える<br>事後学修：倫理学習におけるディベートの成果について考える                    |
| 10 回 | 授業内容：倫理におけるディベートについて考える(2)アメリカの思想を大事として<br>事前学修：ディベートの題字を考える<br>事後学修：倫理学習におけるディベートの成果について考える                      |
| 11 回 | 授業内容：倫理模擬授業のための模擬授業(1)民主主義をだいたいとして<br>事前学修：文字資料を用いた指導案を作成する<br>事後学修：文字授業を用いた指導案の良い点と悪い点を整理する                      |
| 12 回 | 授業内容：倫理模擬授業のための模擬授業(2)平和主義を題材として<br>事前学修：討論を用いた授業案を作成してみる<br>事後学修：討論を用いた授業の良い点と悪い点を整理する                           |
| 13 回 | 授業内容：倫理模擬授業のための模擬授業(3)資本主義の思想を題材として<br>事前学修：グループ発表を用いる授業案を作成する<br>事後学修：グループ発表を用いた授業案の良い点と悪い点を整理する                 |
| 14 回 | 授業内容：倫理模擬授業のための模擬授業(4)社会主義の思想を題材として<br>事前学修：作業を用いる授業案を作成してみる<br>事後学修：作業を用いる授業の良い点と悪い点を整理する                        |
| 15 回 | 授業内容：倫理の学習の意義についてまとめる<br>事前学修：これまで検討してきた倫理の授業案をまとめる<br>事後学修：倫理の授業を作成する場合の留意点についてまとめる                              |

- ◆**教科書** 中学校学習指導要領  
高等学校学習指導要領  
[凡例]『新編歴史教育の課題と教育の方法・技術』 壽福隆人 著 DTP 出版

### ◆参考書

- ◆**成績評価基準** 出席と提出物で総合評価する。また、党議中の発言も評価の重要な材料とする。

- ◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

## 講座内容（シラバス）

### 〔生徒指導・進路指導論〕 オープン受講：不可

上野 昌之

◆**授業概要** 学校教育における生徒指導・進路指導の理念、意義を考え、個の伸張と社会性の育成を目指している観点に立ち、どのように進められるものかを考える。教員経験をもとに実際の学校現場や子どもを取り巻く環境で生じる諸問題を検討する。また、進路指導はキャリア教育に包含されるものであり、将来の進路を選択・計画していくために必要な組織的な人間形成のあり方や学校と社会との接続を意識した職場体験（インターンシップ）などについても考える。

◆**学修到達目標** 生徒指導が社会性を促し自己存在の確立を考えさせる指導であることを理解できる。子どもを取り巻く社会の諸相に目を向け、子どもの置かれた状況を理解した上で、実践的な生徒指導ができるように個々の事例について問題点を整理できる。そして、生徒が自己確立と社会的協働の重要性を理解していくためにはどのような働きかけが必要と考えられる。生徒が自らで自己実現に向かう目標を考え進められるようにするには、どのような指導・援助が必要かを考えられる。

◆**授業方法** 主な授業方法はパワーポイントを使用した講義とするが、適宜ティーチャー・アズ・ファシリテーターとして振る舞い、主体的で対話的な深い学びを学生諸君に促す。具体的には、テーマを与え、小グループによるディスカッションや全体への報告を織り込む。個人的にもレビューシート等を記入してもらい、課題への考察や授業の整理を行ってもらう。

◆**履修条件** 教務課宛「昨年は（2019年度屋間・土曜スクーリング「生徒指導・進路指導論」との積み重ね不可）」という記載を付けていただいていた。積み重ねについてはわからないので、この欄の記載はお任せします。

#### ◆授業計画〔各90分〕

|     |   |
|-----|---|
| 1回  | 授業内容：教育課程における生徒指導の位置づけ：生徒指導とはどのような指導か。<br>事前学修：これまでの学校生活での生徒指導の体験をまとめておく。<br>事後学修：生徒指導の意味をまとめて理解すること。                 |
| 2回  | 授業内容：生徒指導の意義と目的：学校教育における生徒指導の重要性を考える。<br>事前学修：教科書の第1章第1節を読んでおくこと。<br>事後学修：本時の要点をまとめておくこと。                             |
| 3回  | 授業内容：生徒指導の法的な位置づけ：教育基本法・学校教育法・子どもの権利条約他。<br>事前学修：教育基本法の前文および第1条を調べ、記録しておくこと。<br>事後学修：生徒指導が法的に位置づけられている指導であることを理解すること。 |
| 4回  | 授業内容：生徒指導における生徒理解：集団指導と個別指導、教員の生徒理解。<br>事前学修：教科書第1章第4節を読んでおくこと。<br>事後学修：本時のそれぞれの指導により何を育成しようとしているのかまとめて理解しておく。        |
| 5回  | 授業内容：学校教育の諸問題1：外的問題行動（非行）の実態と対応指導。<br>事前学修：教科書第6章第1節を読んでおくこと。<br>事後学修：外的問題行動への対応をまとめて理解しておく。                          |
| 6回  | 授業内容：学校教育の諸問題2：内的問題行動の実態と対応指導（教育相談）。<br>事前学修：教科書第5章第1節を読んでおくこと。<br>事後学修：内的問題行動への対応をまとめて理解しておくこと。                      |
| 7回  | 授業内容：学校教育の諸問題3：生徒指導と体罰。<br>事前学修：これまでの学校生活で体罰を見聞した経験を思い出しておくこと。<br>事後学修：体罰の排除について必要なことは何か考えをまとめておくこと。                  |
| 8回  | 授業内容：学校教育の諸問題4：不登校・ひきこもりの実態と対応指導。<br>事前学修：教科書第6章第12節を読んでおくこと。<br>事後学修：不登校のもたらす意味、不登校への対応をまとめて理解しておくこと。                |
| 9回  | 授業内容：学校教育の諸問題5：いじめの実態と対応指導。<br>事前学修：教科書第6章第6節を読んでおくこと。<br>事後学修：いじめが起きないようにするにはどうしたらよいか考えをまとめておくこと。                    |
| 10回 | 授業内容：学校教育の諸問題6：発達障害・身体的障害生徒の実態と対応指導<br>事前学修：教科書第6章第2節を読んでおくこと。<br>事後学修：発達障害についてまとめて理解しておくこと。                          |
| 11回 | 授業内容：キャリア教育1：進路指導の位置づけ。キャリア教育への展開。<br>事前学修：自分自身の高等学校時代の進路指導を振り返っておくこと。<br>事後学修：キャリア教育の目的、方法を理解すること。                   |
| 12回 | 授業内容：キャリア教育2：フリーターとニート問題。<br>事前学修：フリーター、ニートとはどのようなものか調べること。<br>事後学修：フリーター、ニート問題が現代社会に及ぼす影響を確認し整理すること。                 |
| 13回 | 授業内容：キャリア教育3：キャリア教育の実践。<br>事前学修：自分自身のキャリア形成に関し考えをまとめておくこと。<br>事後学修：本時の内容をもとに、今後の自己のキャリア形成を考えること。                      |
| 14回 | 授業内容：理解度の確認<br>事前学修：これまでの講義を振り返っておくこと。<br>事後学修：生徒指導と進路指導（キャリア教育）の要点をまとめ、整理すること。                                       |
| 15回 | 授業内容：試験及び解説<br>事前学修：これまでの講義をまとめ、要点を整理しておくこと。<br>事後学修：解説のポイントを整理し、生徒指導・進路指導に求められる観点を理解すること。                            |

◆**教科書** 〔通団〕『生徒指導・進路指導論T30500』通信教育教材（教材コード000581）文部科学省、教育図書、2011年当日資料配布 バンドアウトのプリントを配布する。

◆**参考書** 〔凡例〕『高等学校 キャリア教育の手引き』文部科学省、教育出版、2012年

◆**成績評価基準** 試験（70%）、授業内課題への回答またはレビューシート等（30%）

◆**授業相談（連絡先）**：講義時間の前後。

#### 注意



# 講座内容（シラバス）

## 〔特別活動・総合的な学習の時間の指導法〕オープン受講：不可

今泉 朝雄

◆**授業概要** 学校教育における重要な教育活動である特別活動・総合的な学習の時間について、教育課程上の位置づけや教育的意義、計画や指導の方法等について学習する。また、それら基礎的知識をもとに、主体的、対話的で深い学びを基盤とした集団活動、探究的な学習に関わる計画、指導の実践的な資質能力を身につける。

◆**学習到達目標** ① 特別活動・総合的な学習の時間の教育的意義、教育課程における位置付け、各領域の特徴、学習指導要領における目標・内容について理解する。  
② それぞれの実践に関する年間指導計画各、活動の指導計画、指導方法、評価方法について実践的な視点から検討することが出来る。

◆**授業方法** 講義だけではなく、特別活動・総合的な学習に関する様々な活動、指導方法や実践に関する学生同士の討議、分析などを採り入れ、実践的な学習を行う。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |                      |  |
|------|----------------------|--|
| 1 回  | 授業内容<br>事前学習<br>事後学習 | イントロダクション～本時で何を学ぶのか～<br>特別活動と総合的な学習の定義を理解する。そしてそれらの指導のために学ばべき内容について把握する。<br>自身の特別活動と総合的な学習の経験について振り返る。<br>それぞれの言葉の定義を自身なりに明確にする。   |
| 2 回  | 授業内容<br>事前学習<br>事後学習 | 特別活動の教育的意義と学習指導要領上の位置付け<br>教科ととの比較において特別活動の特徴と教育的意義を考察し、学習指導要領における特別活動の目標、内容を踏まえてその理解を深める。<br>自身の特別活動の経験が教育的にどのように意味を持っていたのか、振り返る。<br>自身の経験が学習指導要領の目標とどのように関わっていたかを自身なりに整理する。      |
| 3 回  | 授業内容<br>事前学習<br>事後学習 | 教育課程における特別活動、総合的な学習の位置付け<br>特別活動・総合的な学習が各教科や道徳教育など他の教育課程領域とどのように関連を持つのか理解する。<br>学校のエデュケーションにはどのような領域があったかを振り返る。<br>特別活動、総合的な学習が他の領域とどのような関係にあるのかを整理する。                             |
| 4 回  | 授業内容<br>事前学習<br>事後学習 | 集団活動と特別活動<br>特別活動の基盤となる学校に於ける集団活動のあり方についてその基礎理論を学ぶ。<br>学校に於ける集団活動について、よかった点、悪かった点を振り返る。<br>本時の理論を踏まえながら、よりよい集団のあり方について自身なりに検討する。   |
| 5 回  | 授業内容<br>事前学習<br>事後学習 | 学級活動の計画と指導<br>特別活動の一領域である学級活動・ホームルーム活動の目標、内容を理解し、それらをどのように計画を立て指導をしたらよいかについて事例的に学ぶ。<br>学級活動でどのような取り組みを行ったかについて振り返る。<br>学級活動の目標を整理し、よりよい学級活動を実施するために必要なことについて過去の経験から検討する。           |
| 6 回  | 授業内容<br>事前学習<br>事後学習 | 話し合い活動の実践<br>学級活動のみならず学校教育のあらゆる場面で必要となる合意形成や話し合い活動の指導方法について実践的な取組を行う。<br>小学校～大学、社会人経験も踏まえ、どのような話し合いがよいのかを考えておく。<br>本時の実践に於ける良かった点、悪かった点を整理する。                                      |
| 7 回  | 授業内容<br>事前学習<br>事後学習 | 話し合い活動の指導理論<br>前回の取組を踏まえながら、話し合いの基本的な考え方とその指導方法について多面的に理解する。<br>前回の内容について、指導する側から振り返る。<br>本時の指導方法を実践の場でどのように生かすかを検討する。   |
| 8 回  | 授業内容<br>事前学習<br>事後学習 | 学校行事の計画と指導<br>学校行事の目標・内容を理解し、学校教育のあり方をより豊かにするため、諸行事をどう教育課程に位置付け、計画を立て、指導実践すればよいのか事例的に学ぶ。<br>運動会とはどのような意義があったかについて、経験から考察する。<br>運動会を事例に、学校教育をどのように変えていくことが可能なのかについて検討する。            |
| 9 回  | 授業内容<br>事前学習<br>事後学習 | 生徒会活動の計画と指導<br>生徒会活動の目標、内容を理解し、生徒の自発的自治的な取組を高めるために必要な指導を検討する。<br>自身の生徒会活動への取組がどのようなものだったか、振り返る。<br>目標を踏まえながら、生徒の自発性と教師の指導性との関係について検討する。  |
| 10 回 | 授業内容<br>事前学習<br>事後学習 | 総合的な学習の時間について、学習指導要領における目標・内容を理解し、それが現代の教育政策においてどのような意義をもつのかについて理解する。<br>どのような総合的な学習の経験があるかについて振り返る。<br>目標に照らしながら、自身のこれまでの経験がその目標に達していたのかを分析する。                                    |
| 11 回 | 授業内容<br>事前学習<br>事後学習 | 総合的な学習で育てるべき資質について<br>前回の内容を踏まえながら、総合的な学習において具体的にどのような資質・能力を育てるべきなのか、教科を越えて必要となる資質・能力とは何かについて学ぶ。<br>総合的な学習の経験において得られた知識・能力について振り返る。<br>総合的な学習において求められる資質・能力について現代の教育策との関連で整理する。    |
| 12 回 | 授業内容<br>事前学習<br>事後学習 | 総合的な学習の年間指導計画<br>総合的な学習の年間指導計画がどのような考え方のもとに構成されるのか、それがどのように行われるか、事例的に検討する。<br>ネット上から年間指導計画例を一つ探し、その全体のあり方を把握しておく。<br>他の領域との関係も踏まえた年間指導計画の意義を自身なりに整理する。                             |
| 13 回 | 授業内容<br>事前学習<br>事後学習 | 主体的、対話的で深い学びを実現する単元計画<br>主体的、対話的で深い学びの意味を理解し、それを実現するための探究的な課題設定について、事例的に検討する。<br>主体的、対話的で深い学びの意味について事前に学習しておく。<br>主体的、対話的で深い学びを実現する探究のプロセスを整理する。                                   |
| 14 回 | 授業内容<br>事前学習<br>事後学習 | 家庭や地域住民、関係機関との連携のあり方／両領域の評価の方法について<br>特別活動・総合的な学習の取組を豊かにするために様々な関係機関との連携方法と、教育目標を実現するために必要な評価の考え方について事例的に学ぶ。<br>「チームとしての学校」という考え方について基礎概念を調べる。<br>連携のあり方を整理し、どのように具体化すべきかについて検討する。 |
| 15 回 | 授業内容<br>事前学習<br>事後学習 | 授業全体のまとめ、自信の学習の振り返り<br>これまでの学習内容のポイントを整理し、これからの新しい時代における両領域の方向性について検討する。<br>これまでの学習内容について総復習をしておく。<br>これからの特別活動、総合的な学習がどうあるべきかを自身なりに検討する。  |

◆**教科書** 〔選〕『特別活動・総合的な学習の理論と指導法』関川悦雄・今泉朝雄 弘文堂

◆**参考書** 〔選〕『中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 29 年告示）』文部科学省  
〔選〕『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成 29 年告示）』文部科学省

◆**成績評価基準** 授業内課題 30%  
最終レポート 70%

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

## 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

### 〔法学通論 / 法律学概論（国際法を含む）〕

遠藤 清臣

◆**授業概要** 憲法改正の論議が進んでいる。この論議に参加するには、日本国憲法に対する最低限の理解が必要である。法学＝法に対する基本的理解、を下敷きにして、国際社会と日本国憲法の関係、日本国憲法の歴史的意義、日本国憲法の解釈について、改めて考察してみたい。受講者は、授業前にこれまでの憲法に対する知識や考え方を整理しておくとともに、授業後、改めて憲法について再考してもらいたい。

◆**学修到達目標** 授業概要で述べた通り、日本国憲法を素材としてはいるが、あくまでも法学・法律学についての講座であるから、法の意義、解釈などの方の一般理論を理解してもらいたい。とりわけ、法の実在形式や法の解釈を身に付けることは、憲法議論その他の法律上の考え方について、受講者の役に立つものと思う。

◆**授業方法** 科目の性質上、原則として、講師が一方向的に講義する形式にならざるを得ない。受講者の人数や、講義の進捗状況を見ながら、可能な限り、受講者との質疑や簡単な討論を含めたいと考えている。

#### ◆授業計画〔各 90 分〕

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容：簡単なガイダンス、法の本質と性格、法における平等の概念<br>事前学修：不要、当日の講義に集中すること。<br>事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認                |
| 2 回  | 授業内容：法の基礎にある社会正義、日本国の法の沿革<br>事前学修：不要、当日の講義に集中すること。<br>事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認                       |
| 3 回  | 授業内容：日本国における近代憲法の成立<br>事前学修：不要、当日の講義に集中すること。<br>事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認                             |
| 4 回  | 授業内容：社会のなかで成立する法と、国家の定める法、成文法と不文法<br>事前学修：不要、当日の講義に集中すること。<br>事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認               |
| 5 回  | 授業内容：法の解釈の役割、法の解釈方法<br>事前学修：不要、当日の講義に集中すること。<br>事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認                             |
| 6 回  | 授業内容：国際法の形式と成立、国際法の解釈、国際法の効力、国際私法<br>事前学修：不要、当日の講義に集中すること。<br>事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認               |
| 7 回  | 授業内容：権利の意義、権利と義務、権利と義務の関係<br>事前学修：不要、当日の講義に集中すること。<br>事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認                       |
| 8 回  | 授業内容：権利の社会的制限<br>事前学修：不要、当日の講義に集中すること。<br>事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認                                   |
| 9 回  | 授業内容：権利の主体と客体<br>事前学修：不要、当日の講義に集中すること。<br>事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認                                   |
| 10 回 | 授業内容：日本国憲法の基本的人権、基本的人権の総論規定<br>事前学修：不要、当日の講義に集中すること。<br>事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認                     |
| 11 回 | 授業内容：日本国民の定義、外国人の人権、社会権の意義、日本国憲法の定める社会権規定の解釈<br>事前学修：不要、当日の講義に集中すること。<br>事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認    |
| 12 回 | 授業内容：議会制民主主義の課題と選挙制度、二院制の問題点<br>事前学修：不要、当日の講義に集中すること。<br>事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認                    |
| 13 回 | 授業内容：行政の形式、大統領制と議院内閣制の課題<br>事前学修：不要、当日の講義に集中すること。<br>事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認                        |
| 14 回 | 授業内容：現行裁判制度の概要と、その問題点<br>事前学修：不要、当日の講義に集中すること。<br>事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認                           |
| 15 回 | 授業内容：筆記試験<br>事前学修：プリント、配布物により講義の重要ポイントの総復習<br>事後学修：法の役割と、日本国憲法のあり方について、講義を受けて感じたことや、疑問点を整理し再考すること。 |

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 教科書は特に指定しない。講義当日プリントを配布する。

◆**参考書** **〔通〕**『法学 B11500』通信教育部教材（教材コード 000515）

**〔凡〕**『現代法学入門』三浦隆・石川信編著 北樹出版

**〔凡〕**『ポケット六法』その他の簡易な六法（参考書はいずれも必要があれば入手すればよく、講義当初に持参する必要はない。）

◆**成績評価基準** 筆記試験の成績による。場合により講義中の課題、質疑内容を評価に加えることがある。

#### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔博物館経営論〕 オープン受講：不可

中野 照男

◆**授業概要** 本講義は、博物館の適切な管理と運営について理解し、ミュージアム・マネージメントの基礎能力を養うことを目指す。博物館の設置状況により、さまざまな管理運営形態があることを理解し、各運営形態によって、どのような問題が存在するかを個別に把握し、ミュージアム・マネージメントに関わる柔軟な発想と実践的な能力を身に着ける。

◆**学修到達目標** 博物館の最も気品な仕事、すなわち博物館資料の収集、保管、展示、研究、教育、普及広報に関する実践的な行動量を獲得することができる。博物館を取り巻く、過去と現在の状況をつぶさに把握することによって、学芸員になった時に役立つミュージアム・マネージメントの修法を獲得し、博物館運営に関わる明晰な展望を持つことができる。

◆**授業方法** 講義形式で進める。講師の現場経験に基づき、博物館の現場をできる限り、具体的に説明することによって、博物館運営の現況を身近に感じられるように工夫する。その際、講義に必要な画像や映像を、適宜上映する。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |   |
|------|---|
| 1 回  | 授業内容：ガイダンス ―博物館経営論で何を学ぶのか<br>事前学修：好きな博物館、美術館を訪問し、その運営形態、展示企画、広報普及活動、教育プログラク等を観察すること<br>事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する |
| 2 回  | 授業内容：現在の博物館制度が抱える諸問題<br>事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する<br>事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する                        |
| 3 回  | 授業内容：展示・運営の観点から見た欧米の博物館の歴史 ―古代から 19 世紀まで<br>事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する<br>事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する    |
| 4 回  | 授業内容：展示・運営の観点から見た日本の博物館の歴史 ―東京国立博物館の 150 年<br>事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する<br>事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する  |
| 5 回  | 授業内容：国立西洋美術館の設立と運営に関わった学芸員たちの証言<br>事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する<br>事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する             |
| 6 回  | 授業内容：国立歴史民俗博物館が開館までに考えたこと、準備したこと<br>事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する<br>事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する            |
| 7 回  | 授業内容：国立博物館の独立行政法人化<br>事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する<br>事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する                          |
| 8 回  | 授業内容：博物館の機構改革 ―組織と機能の変革<br>事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する<br>事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する                     |
| 9 回  | 授業内容：博物館の財政制度と予算<br>事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する<br>事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する                            |
| 10 回 | 授業内容：博物館設備の管理と保全<br>事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する<br>事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する                            |
| 11 回 | 授業内容：博物館のマーケティング ―東京国立博物館 140 周年事業の前に<br>事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する<br>事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する       |
| 12 回 | 授業内容：博物館の危機管理はいかにあるべきか<br>事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する<br>事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する                      |
| 13 回 | 授業内容：博物館と博物館職員の倫理規定<br>事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する<br>事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する                         |
| 14 回 | 授業内容：博物館の教育・普及・広報 ―コミュニティとの絆<br>事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する<br>事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する                |
| 15 回 | 授業内容：博物館における運営計画の策定と自己点検評価<br>事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する<br>事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する                  |

◆**教科書** 教科書は使用しない。講義資料を、初回の講義の折にデータの形で渡すので、USB を持参すること

◆**参考書** 〔教材〕『博物館経営論 Y20400』通信教育教材（教材コード 000475）

〔図〕<この教材は市販の『新博物館 これからの博物館経営論』小林克著（同成社）と同じです。>  
『美術館の舞台裏 ―魅せる展覧会を作るには』高橋明也 筑摩書房 2015 年

◆**成績評価基準** 講義の最終回に試験を行う。試験を 70%、講義への参加・貢献度を 30%として、総合的に評価する。試験は、回答が明解な論理的構造を持っているかどうか、講義への参加・貢献度は、講義中に積極的に発言し、議論に参加したかどうかを評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：諮問、意見は次のメールアドレスに送っていただきたい。spgu75x 9@eco.ocn.ne.jp

注意

| 第2期                 |                                     | 8/10～8/15     |     |                              |  |
|---------------------|-------------------------------------|---------------|-----|------------------------------|--|
| 講座名                 | 担当教員                                | シラバス変更        | 受講者 | 備考                           |  |
| 政治学                 | 関根 二三夫                              |               | 全   | 昼間受講不可                       |  |
| 英語Ⅰ～Ⅳ               | 和泉 周子                               | あり            | 50  | 昼間受講不可                       |  |
| 英語Ⅰ～Ⅳ               | アレックス ブラウン                          | <del>あり</del> | 全   | 昼間受講不可                       |  |
| フランス語Ⅰ・Ⅱ            | 大庭 克夫                               | あり            | 全   | 昼間受講不可                       |  |
| 体育実技Ⅰ・Ⅱ             | 佐藤 秀明・佐藤 佑介<br>高橋 正則・深見 将志<br>水落 文夫 |               | 200 | 課題研究                         |  |
| 商法Ⅰ                 | 宮崎 裕介                               | あり            | 全   |                              |  |
| 民事訴訟法               | 吉田 純平                               |               | 全   |                              |  |
| 民法Ⅳ                 | 清水 恵介                               | あり            | 100 |                              |  |
| 国際政治学               | 大八木 時広                              |               | 全   |                              |  |
| 地方自治論               | 山田 光矢                               | あり            | 全   |                              |  |
| 国語学演習Ⅰ～Ⅲ            | 杉山 俊一郎                              |               | 全   | 後半 (ZOOM)                    |  |
| 国語音声学               | 林 直樹                                |               | 全   |                              |  |
| 国語学講義               | 鈴木 功真                               | あり            | 280 |                              |  |
| 国文学演習Ⅰ～Ⅵ            | 高橋 優美穂                              |               | 30  | 前半 (ZOOM)                    |  |
| 国文法                 | 阿久澤 忠                               |               | 全   |                              |  |
| 英語学特殊講義             | 吉良 文孝                               |               | 30  | 前半                           |  |
| 英米文学演習Ⅰ～Ⅲ           | 鈴木 ふさ子                              |               | 30  | 後半                           |  |
| スピーチコミュニケーションⅡ      | リチャード キャラカー                         |               | 60  | 前半 (ZOOM) <del>シラバス未掲載</del> |  |
| アメリカ文学史             | 北原 安治                               |               | 75  |                              |  |
| 英語学演習Ⅰ～Ⅲ            | 真野 一雄                               |               | 全   |                              |  |
| イギリス文学史Ⅰ            | 常名 朗央                               |               | 50  |                              |  |
| 英語学演習Ⅰ～Ⅲ            | 田中 竹史                               |               | 30  | 後半                           |  |
| 哲学演習Ⅰ・Ⅱ             | 長谷川 武雄                              |               | 30  | 後半                           |  |
| 日本史入門               | 関 幸彦                                |               | 全   |                              |  |
| 日本史演習Ⅰ・Ⅱ            | 下川 雅弘                               | あり            | 30  | 前半 受講者は史学専攻で2年以上             |  |
| 経済学史/経済学説史          | 塚本 隆夫                               |               | 全   |                              |  |
| 経済原論/経済学原論          | 陸 亦群                                |               | 全   | 後半 (ZOOM)                    |  |
| 地方財政論               | 斎藤 英明                               |               | 60  | 前半 (ZOOM)                    |  |
| 貿易論                 | 岡田 直己                               |               | 全   | 後半 (ZOOM)                    |  |
| 証券市場論               | 佐藤 猛                                |               | 60  |                              |  |
| 教育課程論               | 滝澤 雅彦                               |               | 全   |                              |  |
| 英語科教育法Ⅳ             | 小林 和歌子                              |               | 全   |                              |  |
| 英語科教育法Ⅱ             | 市川 泰弘                               |               | 30  | 前半                           |  |
| 社会科・公民科教育法Ⅱ         | 壽福 隆人                               |               | 30  | 前半                           |  |
| 生徒指導・進路指導論          | 上野 昌之                               |               | 30  | 後半                           |  |
| 特別活動・総合的な学習の時間の指導法  | 今泉 朝雄                               |               | 全   |                              |  |
| 法学通論/法律学概論 (国際法を含む) | 遠藤 清臣                               |               | 全   |                              |  |
| 博物館経営論              | 中野 照男                               |               | 全   |                              |  |

変更シラバスは後日掲載します

黄色：市ヶ谷校舎での面接授業（3日間授業）

オレンジ：ライブ配信授業（3日間授業）

白：Google classroomによる映像配信授業（月曜日～土曜日6日間授業）

前半：8月10日～8月12日（9：00～17：30）3日間のみの授業

後半：8月13日～8月15日（9：00～17：30）3日間のみの授業



# 講座内容（シラバス）

〔英語Ⅰ～Ⅳ〕

和泉 周子

◆**授業概要** 本授業では英文の読解の仕方を学びます。文法や語彙の理解に重点を置き、辞書を丁寧に引きながら、英文を正確に読むことができるようになることを目指します。

◆**学修到達目標** 1. 文法や文構造、語彙を理解し、運用して英文を和訳できるようになる。  
2. 英文の内容を正確に把握することができるようになる。

◆**授業方法** Microsoft Word で作成した解答ファイルを期限までに指定された場所に提出してもらいます。  
READING は一文ずつ和訳し、VOCABULARY PREVIEW・COMPREHENSION・PRACTICE は設問に答えてください。  
SUMMARY は括弧に適切な語を入れた上で全訳してもらいます。  
授業計画通りに進めますが、進度はあくまでの目安であり、授業計画通りの進度では進まない場合があります。  
本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング（前期）『英語Ⅱ・英語Ⅲ』（和泉周子）とは積み重ね不可

◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |      |   |
|------|------|---|
| 1 回  | 授業内容 | ガイダンス：授業内容や進め方、成績評価基準等の説明と Unit 1 The Hungry Cat：現在時制・現在進行形の文法確認及び演習  |
|      | 事前学修 | ①シラバスを確認する。 ② GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! は除く) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。   |
|      | 事後学修 | 現在時制・現在進行形の内容をノート等に整理し、間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。   |
| 2 回  | 授業内容 | Unit 1 The Hungry Cat：READING の読解と内容把握問題  |
|      | 事前学修 | ① VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。 ② READING の英文を読み、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。   |
|      | 事後学修 | ① VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。 ② READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解し、間違えた問題は該当箇所と照らし合わせて復習する。   |
| 3 回  | 授業内容 | Unit 2 The Chocolate Chip Cookie：過去時制・過去進行形の文法確認及び演習と READING の読解   |
|      | 事前学修 | ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! は除く) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。<br>② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。 ③ READING の英文を読む。                                     |
|      | 事後学修 | ①過去時制・過去進行形の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。 ② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。 ③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。   |
| 4 回  | 授業内容 | Unit 2 The Chocolate Chip Cookie：READING の内容把握問題  |
|      | 事前学修 | READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。  |
|      | 事後学修 | 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。   |
| 5 回  | 授業内容 | Unit 3 Hollywood's Hero：現在完了・現在完了進行形の文法確認及び演習と READING の読解  |
|      | 事前学修 | ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! は除く) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。<br>② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。 ③ READING の英文を読む。                                     |
|      | 事後学修 | ①現在完了・現在完了進行形の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。 ② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。 ③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。 |
| 6 回  | 授業内容 | Unit 3 Hollywood's Hero：READING の内容把握問題   |
|      | 事前学修 | READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。  |
|      | 事後学修 | 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。   |
| 7 回  | 授業内容 | Unit 4 Miscommunication：未来の文法確認及び演習と READING の読解  |
|      | 事前学修 | ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! は除く) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。<br>② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。 ③ READING の英文を読む。                                     |
|      | 事後学修 | ①未来の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。 ② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。 ③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。           |
| 8 回  | 授業内容 | Unit 4 Miscommunication：READING の内容把握問題   |
|      | 事前学修 | READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。  |
|      | 事後学修 | 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。   |
| 9 回  | 授業内容 | Unit 5 The Lucky Ride：過去完了の文法確認及び演習と READING の読解  |
|      | 事前学修 | ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! は除く) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。<br>② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。 ③ READING の英文を読む。                                     |
|      | 事後学修 | ①過去完了の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。 ② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。 ③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。         |
| 10 回 | 授業内容 | Unit 5 The Lucky Ride：READING の内容把握問題   |
|      | 事前学修 | READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。  |
|      | 事後学修 | 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。   |
| 11 回 | 授業内容 | Unit 6 A Real Monster：受け身の文法確認及び演習と READING の読解   |
|      | 事前学修 | ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! は除く) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。<br>② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。 ③ READING の英文を読む。                                     |
|      | 事後学修 | ①受け身の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。 ② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。 ③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。          |
| 12 回 | 授業内容 | Unit 6 A Real Monster：READING の内容把握問題   |
|      | 事前学修 | READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。  |
|      | 事後学修 | 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。   |
| 13 回 | 授業内容 | Unit 7 Lunchbox Revolution：助動詞の文法確認及び演習と READING の読解  |
|      | 事前学修 | ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! は除く) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。<br>② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。 ③ READING の英文を読む。                                     |
|      | 事後学修 | ①助動詞の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。 ② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。 ③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。          |
| 14 回 | 授業内容 | Unit 7 Lunchbox Revolution：READING の内容把握問題  |
|      | 事前学修 | READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。  |
|      | 事後学修 | 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。   |
| 15 回 | 授業内容 | 最終課題の提出及びその解説   |
|      | 事前学修 | 14 回目までの授業内容を確認し、理解する。  |
|      | 事後学修 | 全授業内容を整理し、ノート等にまとめる。  |

◆**教科書** 『Premium Reader Elementary 英語リーディングとの出会い：初級編』 Robert Juppe・馬場幸雄 金星堂 2019 年

◆**参考書** 指定しない

◆**成績評価基準** 最終課題（80%）、授業への参画度（20%）  
毎回出席することを前提とします。また、授業への参画度には解答ファイルの提出状況やその取り組み度が含まれます。

◆**授業相談（連絡先）：**

注意



◆**授業概要** 本年度は新型ウィルスの感染拡大により、従来の3日間の対面授業から、6日間のオンデマンド授業へと変更になりました。ただし授業期間が6日間に拡大されたことで、初学者の方であっても『報告課題』に真剣に取り組まれた方であれば、かなりの高い学習効果が期待できると思います。もちろん面接授業とは異なり「質疑応答」は直接にはできませんが、疑問・質問は＜Google classroom＞の「クラスのコメント」欄を通じてどしどし尋ねてください：可能な限り丁寧に・分かりやすくお答えするつもりです。

◆**学修到達目標** 英語にすれば中学1年レベルの内容が、フランス語でも言えて・書けて・聞き取れるようにするのが目標です。また『報告課題』や『科目修得試験』の＜フランス語Ⅰ＞のみならず、＜フランス語Ⅱ＞以降の学習をする上でもその大切なベースとなる、フランス語の持つルール＝規則性を徹底して身に付けます。

◆**授業方法** ＜Google classroom＞に up-load する 2 種類のプリントに基づき、ビデオ動画 15 回分を 6 日間に分けて配信していきます(14 回目と 15 回目は試験とその解説)。ビデオを視聴すること自体は履修でも何でもありません：ビデオの内容を理解したなら、今度はそれを覚えることが本当の履修です(外国語は「分かる」と「覚える」は完璧にイコールです)。なお配信する動画は(試験問題を除き)「昼間スクーリング前期」の内容と同一です：途中「昼間スクーリング云々」といった言い方もできますが、その点をご容赦ください。

◆**授業計画**

|      |         |  |
|------|---------|--|
| 1 回  | 授 業 内 容 | フランス語のアルファベ、綴り字と発音との関係の説明(1) (オレンジプリント)使用                                  |
|      | 事 前 学 修 | フランス語のアルファベを言えるようにしておくこと   |
|      | 事 後 学 修 | オレンジプリント 1 枚目の内容[母音の発音はアルファベ対応、etc]をマスターする。                                |
| 2 回  | 授 業 内 容 | 綴り字と発音との関係の説明(2)：「複合母音」(＝母音と母音の特別な組み合わせ) 5 種類について、 オレンジプリント 2 枚目を使って説明します。 |
|      | 事 前 学 修 | 「複合母音」5 種類をよく頭に入れてくること。  |
|      | 事 後 学 修 | 「複合母音」5 種類をその具体例とともにしっかり覚えること。   |
| 3 回  | 授 業 内 容 | 綴り字と発音との関係の説明(3)：母音と＜n＞との特別な組み合わせ(＝鼻母音)は 2 種類、これをオレンジプリント 2 枚目を使って説明します。   |
|      | 事 前 学 修 | 「鼻母音」2 種類をよく頭に入れてくること。   |
|      | 事 後 学 修 | 「鼻母音」2 種類をその具体例とともにしっかり覚えること。  |
| 4 回  | 授 業 内 容 | メインの 10 枚つづりのプリントの 1P～2P 目を説明します。  |
|      | 事 前 学 修 | up-load した CD を聞きながら、1 メインプリントの 1P～2P 目に目を通してくること。                         |
|      | 事 後 学 修 | メインプリント 1P～2P 目に具体例として挙げた名詞の「発音」「綴り」「意味」「性別」を覚えること。                        |
| 5 回  | 授 業 内 容 | メインプリント 3P 目：3 種類の「冠詞」の使い分けをその具体例とともに説明します。                                |
|      | 事 前 学 修 | メインプリント 3P 目(「不定冠詞」「部分冠詞」「定冠詞」)に目を通してくること。                                 |
|      | 事 後 学 修 | メインプリント 3P 目に具体例として挙げた飯詩を、「冠詞」とともに覚えること。                                   |
| 6 回  | 授 業 内 容 | メインプリント 4P 目：「数詞」(1～10)と「前置形容詞」「後置形容詞」の用法を具体例とともに説明。                       |
|      | 事 前 学 修 | メインプリント 4P 目(「数詞メイン」と「前置形容詞」「後置形容詞」)に目を通してくること。                            |
|      | 事 後 学 修 | メインプリント 4P 目に具体例として挙げた単語・表現をしっかりと身に付けること。                                  |
| 7 回  | 授 業 内 容 | メインプリント 5P 目：「指示形容詞」と「所有形容詞」、3 種類の「提示の仕方」を配布した CD を使いながら説明します。             |
|      | 事 前 学 修 | メインプリント 5P 目(「指示形容詞」と「所有形容詞」、3 種類の「提示の仕方」)に目を通してくること。                      |
|      | 事 後 学 修 | メインプリント 5P 目の内容を、その具体的な用例・例文とともに覚えること。                                     |
| 8 回  | 授 業 内 容 | 単語および表現の聞き取り・書き取り演習  |
|      | 事 前 学 修 | 1 回目～7 回目のビデオ配信で習った単語や表現をしっかりと覚えて「演習」に臨むこと                                 |
|      | 事 後 学 修 | 「演習」で出来なかった単語や表現をしっかりフォローしておくこと。   |
| 9 回  | 授 業 内 容 | メインプリント 6P 目：「動詞」＜être＞(＝be 動詞)の活用と用法を説明します。                               |
|      | 事 前 学 修 | up-load した CD を聞きながら、プリント 7P 目の＜être＞の活用を目を通すこと。                           |
|      | 事 後 学 修 | 「動詞」＜être＞の活用(「肯定形」と「否定形」)と用例を徹底して覚えること。                                   |
| 10 回 | 授 業 内 容 | メインプリント 7P 目：「動詞」＜avoir＞(＝have)の活用と用法を説明                                   |
|      | 事 前 学 修 | up-load した CD を聞きながら、プリント 7P 目の＜avoir＞の活用を目を通すこと。                          |
|      | 事 後 学 修 | 「動詞」＜avoir＞の活用(「肯定形」と「否定形」)と用例を徹底して覚えること。                                  |
| 11 回 | 授 業 内 容 | メインプリント 7P 目下段～8P 目前半：「第 1 群規則動詞」の活用と用例(前半部分)を説明します。                       |
|      | 事 前 学 修 | up-load した CD を聞きながら、「第 1 群規則動詞」の活用と用例を目を通すこと。                             |
|      | 事 後 学 修 | 「第 1 群規則動詞」の活用と用例(前半部分)をしっかり覚えること。   |
| 12 回 | 授 業 内 容 | メインプリント 8P 目後半～9P 目：「第 1 群規則動詞」の活用と用例(後半部分)と「基本的な前置詞」を説明します。               |
|      | 事 前 学 修 | up-load した CD を聞きながら、「第 1 群規則動詞」の活用と用例を目を通すこと。                             |
|      | 事 後 学 修 | 「第 1 群規則動詞」の活用と用例(後半部分)をしっかり覚えること。   |
| 13 回 | 授 業 内 容 | メインプリント 10P 目：「ヒヤリング演習 15 題  |
|      | 事 前 学 修 | メインプリント 10P 目の＜ヒヤリング演習＞用の 15 題を、up-load した CD を事前に何度も聞いて書き取ってくる            |
|      | 事 後 学 修 | ＜ヒヤリング演習＞の中で、間違えた箇所を徹底してフォローすること。  |
| 14 回 | 授 業 内 容 | 最終試験   |
|      | 事 前 学 修 | メインプリントの後半部分の内容(とりわけ 3 種類の動詞の活用と用例)をきちんとマスターすること。                          |
|      | 事 後 学 修 | 1 週間後に試験の「解答」を配信するので、間違えた箇所を各自チェックしておくこと。                                  |
| 15 回 | 授 業 内 容 | 試験の解説と、今後の＜フランス語Ⅱ＞以降の学習事項について簡単に説明します。                                     |
|      | 事 後 学 修 | 試験で自分ができなかった箇所・間違えた箇所をしっかりフォローしておくこと。                                      |

- ◆**教科書** 1. <発音と綴り字との関係>をまとめたプリント2枚：授業用資料として<Google classroom>にup-load  
2. 授業でメインに使用する10枚つづりのプリント：同じく授業用資料として<Google classroom>にup-load  
3. 上述のプリント中の単語や例文を収録したCD：これも音声資料として<Google classroom>にup-load  
履修には仏和辞典を必ず1冊用意してください；そもそも『報告課題』に取り組む段階で辞書は絶対に必要です。

◆**参考書(参考文献等)** 『フランス語Ⅰ E10100』 通信教育教材（教材コード000372） ※この教材は市販の『新・ゼフィール』 E. E. F. L. E. U. K（早美出版社）と同一です。 スクーリングの授業レベルを超えて<仏検4級>以上を目指す人には文法面でお薦めです。

『フランス語Ⅱ E10200』 通信教育教材（教材コード000373） ※この教材は市販の『フランス語基本500語』（財）フランス語教育振興協会（朝日出版社）と同一です。 同じく<仏検4級>以上を目指そうとする人には単語面で非常に有用な参考書です[添えられたイラストがとても可愛い]。

◆**成績評価基準** 最終日の試験の結果で判定します。なお試験は「和文仏訳」と「ヒヤリング形式」（原文を仏語で書き取ったのち和訳する）で出題します。安直な和訳・穴埋め・択一等は一切出題しません

# 講座内容（シラバス）

## 〔商法Ⅰ〕

宮崎 裕介

◆**授業概要** 本授業では、商法のうち商法総則・商行為法に関する分野を取り上げながら、企業取引と法律との関係について勉強していきます。具体的には、商業登記制度、商人・会社の名称（商号）、企業取引の補助者（商業使用人・代理商等）、営業譲渡、商事売買、運送取引、施設取引（場屋・倉庫営業）、消費者取引等について取り上げていきます。

◆**学修到達目標** 経済社会で日常的に行われている商取引について法的な知識を修得するために、商法総則及び商行為法の基礎的な知識及びそこから生じ得る法的諸問題について従来の判例や学説を手がかりに考察する能力を修得する。

◆**授業方法** オンデマンドで行う。事業資料はパワーポイントで作成したものをを用いる。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容：商法とはどのような法体系を有する法分野であるのかについて、その概要を説明する。<br>事前学修：日本経済新聞などを読んで商取引に関する現代的問題を知っておくこと<br>事後学修：授業資料を見直すこと |
| 2 回  | 授業内容：商法の意義と商法の法源について講義する。<br>事前学修：授業資料に予め目を通すこと<br>事後学修：授業資料を見直すこと                                       |
| 3 回  | 授業内容：商法の基本概念について講義する。<br>事前学修：授業資料に予め目を通すこと<br>事後学修：授業資料を見直すこと   |
| 4 回  | 授業内容：商業登記について講義する。<br>事前学修：授業資料に予め目を通すこと<br>事後学修：授業資料を見直すこと  |
| 5 回  | 授業内容：商号の意義、法規制の必要性、商号選定自由の原則、商号自由の制限、商号単一の原則を講義する。<br>事前学修：授業資料に予め目を通すこと<br>事後学修：授業資料を見直すこと              |
| 6 回  | 授業内容：名板貸、商号の譲渡、商号の廃止、商号の登記、商号権を講義する。<br>事前学修：授業資料に予め目を通すこと<br>事後学修：授業資料を見直すこと                            |
| 7 回  | 授業内容：商業帳簿を講義する。<br>事前学修：授業資料に予め目を通すこと<br>事後学修：授業資料を見直すこと   |
| 8 回  | 授業内容：商業使用人を講義する。<br>事前学修：授業資料に予め目を通すこと<br>事後学修：授業資料を見直すこと  |
| 9 回  | 授業内容：代理商を講義する。<br>事前学修：授業資料に予め目を通すこと<br>事後学修：授業資料を見直すこと  |
| 10 回 | 授業内容：営業を講義する。<br>事前学修：授業資料に予め目を通すこと<br>事後学修：授業資料を見直すこと   |
| 11 回 | 授業内容：商行為法総則を講義する。<br>事前学修：授業資料に予め目を通すこと<br>事後学修：授業資料を見直すこと   |
| 12 回 | 授業内容：商事売買および消費者売買を講義する。<br>事前学修：授業資料に予め目を通すこと<br>事後学修：授業資料を見直すこと   |
| 13 回 | 授業内容：交互計算を講義する。<br>事前学修：授業資料に予め目を通すこと<br>事後学修：授業資料を見直すこと   |
| 14 回 | 授業内容：匿名組合、仲介営業を講義し、講義全体を振り返る。<br>事前学修：授業資料に予め目を通すこと<br>事後学修：授業資料を見直すこと                                   |
| 15 回 | 授業内容：試験<br>事前学修：試験に備え、配布されたプリントをすべて見直すこと。<br>事後学修：試験内容についてどこまで解答できたかを各自で確認してみましょう。                       |

◆**教科書** 〔当日資料配布〕Google Classroom を通じて配布する

〔丸〕『商法総則・商行為法』近藤光男，第8版，有斐閣，2019年・『商法判例百選』神作裕之＝藤田友敬，有斐閣，2019年・最新版の六法

◆**参考書** 〔丸〕『商法総則・商行為法講義』松嶋隆弘＝大久保拓也編，中央経済社，2020年

◆**成績評価基準** オンデマンド講義となったことを考慮し，中間レポート（40パーセント）および期末レポート（60パーセント）で評価する

◆**授業相談（連絡先）：**

注意

◆**授業概要** 債権法各論は、契約や不法行為など、民法・財産法の具体的な規律を知る上で極めて有益な内容となっている。民法第3編「債権」のうち第2章の「契約」以下に規定された民法第521条から第724条の2までの対象条文やこれに関連する借地借家法などの特別法規について、近時の債権法改正や最新判例に即した解説を行う。

◆**学修到達目標** 授業概要に記した法領域中の各概念や各制度を理解し、説明できる力を修得する。

◆**授業方法** 配信された動画による講義形式で行う。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としている。

◆**授業計画**

|     |         |  |
|-----|---------|--|
| 1回  | 授 業 内 容 | シラバスに沿って授業概要や授業目的・到達目標、授業方法、成績評価の基準、教科書・参考書について説明し、次回以降、受講生が授業に参加できるよう、その準備や心構えを促すとともに、本講義の前提としての債権法改正について説明し、理解させる。 |
|     | 事 前 学 修 | シラバスを確認し、授業概要を踏まえつつ、各回の授業内容を読み込む。  |
|     | 事 後 学 修 | 授業での説明内容を確認し、教科書・参考書・六法・ノートの購入等、受講に向けた具体的準備を行う。  |
| 2回  | 授 業 内 容 | 債権各論の概要について説明し、理解させる。  |
|     | 事 前 学 修 | 教科書の序、1～4頁をよく読んでおく。  |
|     | 事 後 学 修 | レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。   |
| 3回  | 授 業 内 容 | 契約の概念、契約の成立、契約の効力のうち同時履行の抗弁権について説明し、理解させる。   |
|     | 事 前 学 修 | 教科書第1章のうち5～29頁を読み、契約の基本的仕組みについて考察する。   |
|     | 事 後 学 修 | レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。   |
| 4回  | 授 業 内 容 | 契約の効力のうち、危険負担、第三者のためにする契約、契約上の地位の移転、契約の解除、定型約款について説明し、理解させる。   |
|     | 事 前 学 修 | 教科書第1章のうち29～50頁を読み、特に同時履行の抗弁権、危険負担、契約の解除、定型約款について考察する。   |
|     | 事 後 学 修 | レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。   |
| 5回  | 授 業 内 容 | 売買のうち、売買の成立、契約の効力中の主に契約不適合責任について説明し、理解させる。   |
|     | 事 前 学 修 | 教科書第1章のうち52～83頁を読み、売買の基本的仕組みについて考察する。  |
|     | 事 後 学 修 | レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。   |
| 6回  | 授 業 内 容 | 売買のうち、買戻し、特殊な売買について解説するとともに、贈与、交換について説明し、理解させる。  |
|     | 事 前 学 修 | 教科書第2章のうち83～100頁を読み、特に特殊な売買、贈与について考察する。  |
|     | 事 後 学 修 | レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。   |
| 7回  | 授 業 内 容 | 消費貸借について説明するとともに、賃貸借のうち、主に当事者間の効力について説明し、理解させる。  |
|     | 事 前 学 修 | 教科書第3章のうち101～123頁を読み、消費貸借、賃貸借の基本的仕組みについて考察する。  |
|     | 事 後 学 修 | レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。   |
| 8回  | 授 業 内 容 | 賃貸借のうち、第三者に対する効力、当事者の変更、特殊な賃貸借について説明するとともに、使用貸借、雇用、請負について説明し、理解させる。  |
|     | 事 前 学 修 | 教科書第3章のうち123～139頁と、第4章のうち140～149頁を読み、特に賃貸借、請負について考察する。   |
|     | 事 後 学 修 | レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。   |
| 9回  | 授 業 内 容 | 委任、寄託、組合、終身定期金、和解、事務管理について説明し、理解させる。   |
|     | 事 前 学 修 | 教科書第4章のうち149～165頁と、第5章のうち168～177頁を読み、特に委任、組合、和解、事務管理について考察する。  |
|     | 事 後 学 修 | レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。   |
| 10回 | 授 業 内 容 | 不当利得のうち、一般的な要件・効果、給付利得一般について説明し、理解させる。   |
|     | 事 前 学 修 | 教科書第5章のうち177～196頁を読み、不当利得の基本的仕組みについて考察する。  |
|     | 事 後 学 修 | レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。   |
| 11回 | 授 業 内 容 | 不当利得のうち、特殊な給付利得、侵害利得、支出利得、多数当事者間の不当利得について説明し、理解させる。  |
|     | 事 前 学 修 | 教科書第5章のうち196～225頁を読み、不当利得の諸問題について考察する。   |
|     | 事 後 学 修 | レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。   |
| 12回 | 授 業 内 容 | 不法行為のうち、主に一般的不法行為の要件について説明し、理解させる。   |
|     | 事 前 学 修 | 教科書第6章のうち226～248頁を読み、一般的不法行為の要件について考察する。   |
|     | 事 後 学 修 | レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。   |
| 13回 | 授 業 内 容 | 不法行為のうち、不法行為の効果について説明し、理解させる。  |
|     | 事 前 学 修 | 教科書第6章のうち248～265頁を読み、不法行為の効果について考察する。  |
|     | 事 後 学 修 | レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。   |
| 14回 | 授 業 内 容 | 不法行為のうち、加害者側の反論、責任無能力者の監督者責任、使用者責任について説明し、理解させる。   |
|     | 事 前 学 修 | 教科書第6章のうち265～278頁と、第7章のうち279～295頁を読み、特に責任無能力者監督者責任、使用者責任について考察する。  |
|     | 事 後 学 修 | レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。   |

|     |         |  |
|-----|---------|--|
| 15回 | 授 業 内 容 | 不法行為のうち、土地工作物責任、製造物責任、動物占有者の責任、自動車損害賠償責任、共同不法行為について説明し、理解させる。  |
|     | 事 前 学 修 | 教科書第7章のうち295～318頁を読み、他の特殊的不法行為について考察する。                        |
|     | 事 後 学 修 | レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。 |

◆**教科書** 『新ハイブリッド民法4 債権各論』 滝沢昌彦ほか 法律文化社 2018年  
授業レジュメ配布

◆**参考書(参考文献等)** 指定しない。

◆**成績評価基準** 小テスト（75％）、最終テスト（25％）。授業内容を踏まえて出題される設問を解答させ、その内容により理解度をはかる。



# 講座内容（シラバス）

## 〔地方自治論〕

山田 光矢

- ◆**授業概要** 人類の歴史から、家族や集落や地域組織や国家の誕生と発展、地方自治制度の歴史と現状などを、ヨーロッパ諸国と日本の比較や、主権と自治権と人権の関係と地方自治制度の本質の分析を通じて、明治維新から現在までの日本の地方自治制度の確立と変遷を理解してもらい、日本の地方自治制度改革の歴史、目的、政策の特徴などの分析を通じて、日本の地方分権改革の現状と今後のあり方を解説する。
- ◆**学修到達目標** 日本の地方自治制度の現状を、明治維新以降の日本の地方自治制度改革の歴史から理解し、現状を維持すべきとするならその理由を、改革すべきとするならどこをどのように改革すべきかについて、自分の考えを確立する。
- ◆**授業方法** 講義形式を中心に基礎的な事項の理解を高めるとともに、項目ごとに討論や質疑応答を行い、各自の考えを確立できるように進めていく。
- ◆**履修条件** やる気さえあればその他の条件は特にありません。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |   |
|------|---|
| 1 回  | 授業内容：地方自治制度を国と地方の関係から解説する<br>事前学修：国家とはどのようなものか、地方公共団体とはどのようなものなのかを考えてくる<br>事後学修：国家と地方の関係に関する自分の考えを確認する  |
| 2 回  | 授業内容：自治権の理論を解説する<br>事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる<br>事後学修：固有権説、伝來說、制度的保障説、団体主権論の相違を理解する   |
| 3 回  | 授業内容：日本とヨーロッパ主要国の地方自治制度の相違を解説する<br>事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる<br>事後学修：日本の地方自治制度の特色をヨーロッパ諸国との比較から理解する   |
| 4 回  | 授業内容：地方政府の形態を解説する<br>事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる<br>事後学修：委員会制、首長制、議院内閣制、市支配人制の相違を理解する   |
| 5 回  | 授業内容：明治維新・大日本帝国憲法と日本の地方自治制度を解説する<br>事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる<br>事後学修：明治維新後の廃藩置県と行政村等、三新法下の自治制度、明治の大合併後の地方自治制度を理解する                                     |
| 6 回  | 授業内容：日本国憲法と地方自治制度（制限列举方式、概括例示方式）<br>事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる。日本国憲法第 8 章の内容を考えてくる<br>事後学修：地方自治の本旨に関する自分の考えを確立する。自治権の種類や独立規制（行政）委員会制度等を再確認する             |
| 7 回  | 授業内容：戦後の地方自治制度改革の歴史と特徴を解説する<br>事前学修：ドッジ・ラインやシャープ勸告、地方公共団体の種類等を中心に、教科書の関連した部分を読んでくる<br>事後学修：戦後の地方自治制度改革の内容・普通地方公共団体・特別地方公共団体の種類や特徴を理解する              |
| 8 回  | 授業内容：昭和大合併とその後の第一次から第七次までの全国総合開発計画と広域行政の展開<br>事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる<br>事後学修：広域市町村圏、地方生活圏、一部事務組合、広域連合等について理解する                                       |
| 9 回  | 授業内容：平成の大合併と国土形成計画・新国土形成計画および定住自立圏・地域自治組織・連携中枢都市圏等を解説する<br>事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる<br>事後学修：広域行政（定住自立圏、連携中枢都市圏等）と身近な行政（地域自治組織等）の特徴と望ましいあり方について理解する     |
| 10 回 | 授業内容：地方財政制度の特徴と問題点を解説する<br>事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる<br>事後学修：地方交付税交付金と国庫支出金（補助金）と三位一体の改革等の目的と内容等について理解する  |
| 11 回 | 授業内容：イギリスと日本の地方自治制度の共通点と異質点について、歴史を踏まえて解説する<br>事前学修：『政経研究』第 56 巻第 3 号にアクセスして論文を入手し関連部分に目を通してくる<br>事後学修：両国の広域行政と身近な行政に関する考え方と改革の特徴について理解する           |
| 12 回 | 授業内容：イギリスの地方自治制度改革の方向性について解説する<br>事前学修：『政経研究』第 56 巻第 3 号にアクセスして論文を入手し関連部分に目を通してくる<br>事後学修：イギリスの四地域の広域自治体、原則一層制の基礎自治体、パリッシュやコミュニティによる身近な準自治体について理解する |
| 13 回 | 授業内容：日本の地方自治制度改革の方向性について解説する<br>事前学修：『政経研究』第 56 巻第 3 号にアクセスして論文を入手し関連部分に目を通してくる<br>事後学修：日本の広域行政制度の種類と特徴と、身近な行政の不十分さ等について理解する                        |
| 14 回 | 授業内容：日本とイギリスの地方自治制度改革の共通性と相違点等について解説する<br>事前学修：『政経研究』第 56 巻第 3 号にアクセスして論文を入手し関連部分に目を通してくる<br>事後学修：日本の身近な行政の望ましい方向性について、地域自治組織や地域運営組織等を中心に理解する       |
| 15 回 | 授業内容：これまでの講義の総括<br>事前学修：これまでの講義の内容を整理してくる<br>事後学修：日本の地方自治制度改革の歴史と特徴等をイギリスと比較して理解する  |

- ◆**教科書** 丸沼『地方自治論』 福島康仁編・山田光矢他著 弘文堂 2,000 円（税別）  
〔当日資料配布〕 山田光矢著「日本とイギリスの冷戦終焉期以降の地方自治改革の歴史と日本の今後」日本大学法学部『政経研究』（第 56 巻第 3 号）2019 年 9 月。法学部にアクセスして論文を入手してください。
- ◆**参考書**
- ◆**成績評価基準** 試験を 60％、平常点を 20％、小テストやレポート等を 20％程度で評価する。
- ◆**授業相談（連絡先）**：講義の日の空いている時間を使います。時間がない場合にはメール等に対応します。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔国語学講義〕

鈴木 功真

◆**授業概要** 日本語は歴史的に変化している。それをまとめたものが日本語史である。そこで、本スクーリングでは日本語史の分野のうち、特に語彙史・文体史・日本語学史を中心に講義する。日本語の語彙は語種の点で特徴があり、文体は日本語の表記体系の特徴を踏まえた特徴があり、日本語を学問として考究した先学の蓄積により学史がある。それらを具体的な資料等を参照しながら講義する。

◆**学修到達目標** 日本語の歴史のうち、語彙史・文体史・日本語学史について、資料論・文字史・音韻史・文法史・敬語史を踏まえながら具体的に説明することができる。特にさまざまな日本語の歴史的資料に対したときにその資料にどのような特徴があるのかを必要な参考文献を引用しながら説明できるようになることを目標とする。それは日本語史的学問への入門になる。

◆**授業方法** 日本語史は具体的な資料を離れて抽象的な記述を行うことも可能であるが、本スクーリングでは可能な限り具体的な資料の影印等を参照しながら講義を進める計画である。積極的に解説や用例採集等の作業に参加してほしい。そうすることによって、学問として蓄積されている日本語史に対しても具体的な理解が深まるであろう。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としている。

### ◆履修条件

### ◆授業計画〔各 90 分〕

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 回  | 授業内容 | ガイダンス、日本語学・日本語史とは                      |
|      | 事前学修 | テキスト序論を見ておくこと                          |
|      | 事後学修 | テキスト表記史・音韻史・文法史・敬語史の概要を把握しておくこと        |
| 2 回  | 授業内容 | 語彙史 1、日本語の語彙の特徴                        |
|      | 事前学修 | テキスト 71 ～ 79 ページを読んでおくこと               |
|      | 事後学修 | 日本語史の観点でとらえた日本語の語彙の特徴をまとめておくこと         |
| 3 回  | 授業内容 | 語彙史 2、語種・語構成・位相語                       |
|      | 事前学修 | テキスト 79 ～ 84 ページを読んでおくこと               |
|      | 事後学修 | 日本語史の観点でとらえた語種・語構成・位相語をまとめておくこと        |
| 4 回  | 授業内容 | 語彙史 3、中古までの語彙                          |
|      | 事前学修 | テキスト 85 ～ 91 ページを読んでおくこと               |
|      | 事後学修 | 中古までの語彙史をまとめておくこと                      |
| 5 回  | 授業内容 | 語彙史 4、中世以降の語彙                          |
|      | 事前学修 | テキスト 91 ～ 97 ページを読んでおくこと               |
|      | 事後学修 | 中世以降の語彙史をまとめておくこと                      |
| 6 回  | 授業内容 | 文体史 1、仮名文以前                            |
|      | 事前学修 | テキスト 215 ～ 225 ページを読んでおくこと             |
|      | 事後学修 | 仮名文以前の文体史をまとめておくこと                     |
| 7 回  | 授業内容 | 文体史 2、仮名文                              |
|      | 事前学修 | テキスト 225 ～ 230 ページを読んでおくこと             |
|      | 事後学修 | 仮名文を文体史の中に位置づけること                      |
| 8 回  | 授業内容 | 文体史 3、和漢混淆文                            |
|      | 事前学修 | テキスト 231 ～ 245 ページを読んでおくこと             |
|      | 事後学修 | 和漢混淆文の文体史をまとめておくこと                     |
| 9 回  | 授業内容 | 文体史 4、口語再現の萌芽                          |
|      | 事前学修 | テキスト 245 ～ 253 ページを読んでおくこと             |
|      | 事後学修 | 中世・近世の文体史をまとめておくこと                     |
| 10 回 | 授業内容 | 文体史 5、言文一致体・文体の分析                      |
|      | 事前学修 | テキスト 253 ～ 258 ページを読んでおくこと             |
|      | 事後学修 | 言文一致体の文体史と、文体の分析についてまとめておくこと           |
| 11 回 | 授業内容 | 学史 1、歌学と国学                             |
|      | 事前学修 | テキスト 261 ～ 267 ページを読んでおくこと             |
|      | 事後学修 | 歌学と国学を日本語学史の中で位置づけること                  |
| 12 回 | 授業内容 | 学史 2、てにをはと品詞の研究史                       |
|      | 事前学修 | テキスト 268 ～ 275 ページを読んでおくこと             |
|      | 事後学修 | てにをはと品詞の研究史をまとめておくこと                   |
| 13 回 | 授業内容 | 学史 3、活用と係り結びの研究史                       |
|      | 事前学修 | テキスト 275 ～ 278 ページを読んでおくこと             |
|      | 事後学修 | 活用と係り結びの研究史をまとめておくこと                   |
| 14 回 | 授業内容 | 学史 4、音韻と仮名遣いの研究史                       |
|      | 事前学修 | テキスト 278 ～ 285 ページを読んでおくこと             |
|      | 事後学修 | 音韻と仮名遣いの研究史をまとめておくこと                   |
| 15 回 | 授業内容 | まとめ、これからの日本語                           |
|      | 事前学修 | これまでの授業を改めて復習し、日本語史を把握しておくこと           |
|      | 事後学修 | これまでの講義を踏まえ身の回りの日本語の中から歴史の変遷を自身で蒐集すること |

◆**教科書** 丸沼『国語学を学ぶ人のために』木田章義編 世界思想社 2013 年

◆**参考書** 丸沼『緑の日本語学教本』藤田保幸著 和泉書院 2010 年

丸沼『日本語史概説』沖森卓也編 朝倉書店 2010 年

◆**成績評価基準** 毎回の課題への取り組み・最終レポートにより総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：szk@sun.main.jp

注意

◆**授業概要** Students will learn the fundamental rules of crafting and delivering an English oral presentation. Topics to be covered will be how to organize a presentation into a speech that incorporates three aspects: a verbal message, a vocal message and a visual message. The students will gain practice reviewing their classmates' written and spoken texts and commenting on them.

◆**学修到達目標** Lectures will include warm up discussions and conversations, learning the fundamentals of presentations, watching examples of presentations, practicing each aspect of a presentation, writing and evaluating each other's presentations, and finally delivering the presentations.

◆**授業方法** Each class will begin with a discussion of one of the messages necessary for delivering an effective oral presentation. Then examples of presentations which incorporate that message will be observed and commented upon. After that, students will practice the message in a controlled environment. Finally the students will give a presentation on each of the three topics to be covered in the course.

◆**授業計画**

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 回  | 授業内容 | Introduction to the Course   |
|      | 事前学修 | Read about the Three Vs of an effective oral presentation pages 2-3                      |
|      | 事後学修 | Review the model speech from The Film The Candidate.                                     |
| 2 回  | 授業内容 | Discuss the most important aspect of an effective oral presentation – The audience       |
|      | 事前学修 | Read about the Curse of Knowledge, S-U-C-C-E-S and the Vocal Message pages 2-3.          |
|      | 事後学修 | Review the Vocal Message in preparation for the Introduction Speeches.                   |
| 3 回  | 授業内容 | Students deliver Introduction Speeches   |
|      | 事前学修 | Read about the Verbal Message page 5.  |
|      | 事後学修 | Review The Verbal Message pages 5-7.   |
| 4 回  | 授業内容 | Discuss Unexpected beginnings and hooking the audience.                                  |
|      | 事前学修 | Read about the Hook as a discourse device page 6.  |
|      | 事後学修 | Review the different devices to get the audience's attention page 3.                     |
| 5 回  | 授業内容 | Learn about the Visual Message   |
|      | 事前学修 | Read about para-linguistics page 4.  |
|      | 事後学修 | Review the Clinton-Bush Debate video and effective para-linguistics.                     |
| 6 回  | 授業内容 | Understand the importance of Concrete examples within the Verbal Message                 |
|      | 事前学修 | Read about how to incorporate supporting details into the Verbal Message pages 3 & 6.    |
|      | 事後学修 | Review the model speech from the TED Talk "Start with Why."                              |
| 7 回  | 授業内容 | Students Deliver Hobby Speeches  |
|      | 事前学修 | Complete the Hobby Speech outline on page 23   |
|      | 事後学修 | Review the Hobby speech and complete the self-evaluation form (Supplementary handout).   |
| 8 回  | 授業内容 | Building personal Credibility with your audience   |
|      | 事前学修 | Read about the second C in S-U-C-C-E-S why the audience should listen to you. pages 6    |
|      | 事後学修 | Review Building Credibility page 6.  |
| 9 回  | 授業内容 | Discuss finding a benefit for the audience   |
|      | 事前学修 | Read about different techniques to benefit the audience page 16.                         |
|      | 事後学修 | Review how the Microsoft advertisement benefits the audience page 16.                    |
| 10 回 | 授業内容 | Brainstorming topics and supporting information for job speeches.                        |
|      | 事前学修 | Read about the Job speech page 25.   |
|      | 事後学修 | Review the job speech topics and decide main points for outline on page 26.              |
| 11 回 | 授業内容 | Telling stories to make presentations more concrete                                      |
|      | 事前学修 | Read about storytelling page 3.  |
|      | 事後学修 | Review Connecting with your audience through stories page 3.                             |
| 12 回 | 授業内容 | Discuss Call to Action, Using Visuals, and Questions and Answers                         |
|      | 事前学修 | Read about how to use slides, and answering questions effectively page 8.                |
|      | 事後学修 | Review The Brain Lady Video, "6 Things Everyone needs to know about Oral Presentations". |
| 13 回 | 授業内容 | Students Deliver Job Speeches  |
|      | 事前学修 | Read about the Vocal Message page 7.   |
|      | 事後学修 | Watch and critically evaluate job speeches using worksheet on page 25                    |

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 4回 | 授業内容 | Go over all the information covered in the class until now.          |
|      | 事前学修 | Read about the Three Vs of public speaking pages 2-26                |
|      | 事後学修 | Review the Three Vs of an effective oral presentation.               |
| 1 5回 | 授業内容 | Final Examination  |
|      | 事前学修 | Read about the three Vs of an effective oral presentation pages 2-26 |
|      | 事後学修 | Review your speeches on video  |

◆教科書 The text will be provided by the instructor.

◆参考書(参考文献等) Made to Stick, Heath

◆成績評価基準 Evaluation will be based on the following: an in-class examination (40%); Introduction Speech (10%); A Hobby Speech (20%); A Job Speech (30%); and class participation.

# 講座内容（シラバス）

## 〔日本史演習Ⅰ・Ⅱ〕オープン受講：不可

下川 雅弘

◆**授業概要** 日本史の研究に必要な史料の読解力を養うため、応仁の乱に関連する中世の代表的な古記録・古文書を精読・発表し、受講生同士の対話や教員の講評を通じて、史料から読み取れる歴史的事象について考察していく。

◆**学修到達目標** ①日本中世の翻刻された史料を読解することができる。

②読解した史料を用いて、歴史を研究することができる。

③史料の読解から得た知見を、自らの考えに基づいて再構成し、その成果を発表することができる。

◆**授業方法** テキストとして配付した史料について、①受講生が予習として語句調べをし、②教員が語句を解説し、③受講生が書き下し、④教員が書き下しを解説し、⑤受講生が現代語訳し、⑥教員が現代語訳を解説し、⑦受講生が史料から読み取れる歴史的事象を考察・発表し、⑧受講生が各発表に対してコメントを寄せ、⑨教員がそれらに対する講評を行う。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |  |
|------|--|
|      | 授業内容：歴史資料とは  |
| 1 回  | 事前学修：別テキスト1「歴史資料とは」に目を通しておくこと<br>事後学修：別テキスト1「歴史資料とは」の学習内容を再確認すること  |
| 2 回  | 授業内容：初級史料の読解練習、歴史資料を読解するための基礎知識、テキスト「見本史料」の書き下し・現代語訳解説<br>事前学修：別テキスト2「足利義政と応仁の乱」・テキスト「見本史料」に目を通しておくこと<br>事後学修：テキスト「見本史料」の書き下し・現代語訳を再確認すること |
| 3 回  | 授業内容：テキスト「見本史料」の考察解説、テキスト「史料1」の語句調べ解説・書き下し演習<br>事前学修：テキスト「史料1」の語句調べに取り組んでおくこと<br>事後学修：テキスト「史料1」の語句調べの解説を再確認すること                            |
| 4 回  | 授業内容：テキスト「史料1」の書き下し解説・現代語訳演習<br>事前学修：テキスト「史料1」の語句調べに取り組んでおくこと<br>事後学修：テキスト「史料1」の書き下しの解説を再確認すること  |
| 5 回  | 授業内容：テキスト「史料1」の現代語訳解説・考察演習<br>事前学修：テキスト「史料1」の語句調べに取り組むこと<br>事後学修：テキスト「史料1」の現代語訳の解説を再確認すること   |
| 6 回  | 授業内容：テキスト「史料1」の考察発表・解説<br>事前学修：テキスト「史料1」の語句調べに取り組むこと<br>事後学修：テキスト「史料1」の考察の解説を再確認すること   |
| 7 回  | 授業内容：テキスト「史料2」の語句調べ解説・書き下し演習<br>事前学修：テキスト「史料2」の語句調べに取り組んでおくこと<br>事後学修：テキスト「史料2」の語句調べの解説を再確認すること  |
| 8 回  | 授業内容：テキスト「史料2」の書き下し解説・現代語訳演習<br>事前学修：テキスト「史料2」の語句調べに取り組んでおくこと<br>事後学修：テキスト「史料2」の書き下しの解説を再確認すること  |
| 9 回  | 授業内容：テキスト「史料2」の現代語訳解説・考察演習<br>事前学修：テキスト「史料2」の語句調べに取り組んでおくこと<br>事後学修：テキスト「史料2」の現代語訳の解説を再確認すること  |
| 10 回 | 授業内容：テキスト「史料2」の考察発表・解説<br>事前学修：テキスト「史料2」の語句調べに取り組んでおくこと<br>事後学修：テキスト「史料2」の考察の解説を再確認すること  |
| 11 回 | 授業内容：テキスト「史料3」の語句調べ解説・書き下し演習<br>事前学修：テキスト「史料3」の語句調べに取り組んでおくこと<br>事後学修：テキスト「史料3」の語句調べの解説を再確認すること  |
| 12 回 | 授業内容：テキスト「史料3」の書き下し解説・現代語訳演習<br>事前学修：テキスト「史料3」の語句調べに取り組んでおくこと<br>事後学修：テキスト「史料3」の書き下しの解説を再確認すること  |
| 13 回 | 授業内容：テキスト「史料3」の現代語訳解説・考察演習<br>事前学修：テキスト「史料3」の語句調べに取り組んでおくこと<br>事後学修：テキスト「史料3」の現代語訳の解説を再確認すること  |
| 14 回 | 授業内容：テキスト「史料3」考察発表・解説<br>事前学修：テキスト「史料3」の語句調べに取り組んでおくこと<br>事後学修：テキスト「史料3」の考察の解説を再確認すること   |
| 15 回 | 授業内容：テキスト「予備史料」の書き下し・現代語訳解説、総括テスト<br>事前学修：テキスト「予備史料」の語句調べにできれば取り組んでおくこと<br>事後学修：テキスト「予備史料」の書き下し・現代語訳の解説を再確認すること                            |

◆**教科書** 事前資料送付

◆**参考書** 丸沼『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』 芥米一志 吉川弘文館 2015 年  
丸沼

◆**成績評価基準** 課題提出 75%、総括テスト 25%

◆**授業相談（連絡先）：**

注意



| 第3期                |             | 8/17～8/22 |     |   |
|--------------------|-------------|-----------|-----|---|
| 講座名                | 担当教員        | シラバス変更    | 受講者 | 備考  |
| 美術史                | 森下 和貴子      |           | 全   |   |
| 総合科目Ⅰ～Ⅵ            | 根岸 良征       |           | 75  |   |
| ドイツ語Ⅰ・Ⅱ            | 志田 慎        |           | 全   | <del>シラバス未掲載</del>  |
| 英語Ⅰ～Ⅳ              | 小田井 勝彦      | あり        | 全   | <del>シラバス未掲載</del>  |
| 英語Ⅰ～Ⅳ              | 寒河江 融       | あり        | 50  |   |
| 英語Ⅴ                | 島本 信一郎      |           | 全   |   |
| 保健体育講義Ⅰ            | 高橋 正則・水落 文夫 |           | 75  | 月～水の3日間の動画配信  |
| 民法Ⅲ                | 田中 夏樹       | あり        | 75  |   |
| 知的財産権法             | 安田 和史       |           | 全   | <del>シラバス未掲載</del>  |
| 政治学原論              | 吉野 篤        |           | 全   | 昼間受講不可  |
| 経済政策総論/経済政策        | 周藤 利一       |           | 全   |   |
| かな書法               | 山本 まり子      | あり        | 全   | 前半（ZOOM）  |
| 異文化間コミュニケーション概論    | 大庭 香江       | あり        |     | <del>シラバス未掲載</del>  |
| 英語音声学              | 森 晴代        | あり        | 75  | 昼間受講不可  |
| 英文法                | 山岡 洋        | あり        | 全   |   |
| 英米文学特殊講義           | 猪野 恵也       |           | 75  |   |
| イギリス文学史Ⅰ           | 野呂 有子       | あり        | 全   |   |
| 英語学演習Ⅰ～Ⅲ           | 田中 竹史       |           | 30  | 前半  |
| 英作文Ⅱ               | アレックス ブラウン  |           | 全   |   |
| 哲学基礎講義             | 中澤 瞳        |           | 全   | <del>シラバス未掲載</del>  |
| 古文書学               | 渡邊 浩史       |           | 全   |   |
| 経済地理学/経済地理         | 清水 和明       |           | 75  |   |
| 租税論                | 鷗藤 俊英       |           | 全   |   |
| 金融論                | 谷川 孝美       |           | 全   |   |
| 簿記論Ⅰ               | 林 徳順        | あり        | 50  |   |
| 商法                 | 金澤 大祐       | あり        | 全   |   |
| 現代教職論              | 杉森 知也       | あり        | 30  | 前半（ZOOM）  |
| 社会科・地理歴史科教育法Ⅱ※     | 宇内 一文       | あり        | 30  | 前半（最終日対面）   |
| 道徳教育の理論と方法/道徳教育の研究 | 李 吉魯        | あり        | 50  | 後半（MEET）  |
| 社会科・地理歴史科教育法Ⅰ      | 卜部 勝彦       |           | 30  | 前半（ZOOM）<br>【履修条件】1）自宅でのPC利用で定額制によるブロードバンドの通信環境が整っていること 2）プリント出力・スキャン入力に即応できること 3）ある程度PC操作に慣れていること 4）事前課題を意欲的に取り組めること |
| 国語科教育法Ⅲ            | 野澤 拓夫       |           | 30  | 前半 <del>シラバス未掲載</del>   |
| 博物館情報・メディア論※       | 小林 克        | あり        | 全   | 最終日ZOOM利用   |
|                    |             |           |     |   |

変更シラバスは後日掲載します

黄色：市ヶ谷校舎での面接授業（3日間授業）

オレンジ：ライブ配信授業（3日間授業）

白：Google classroomによる映像配信授業（月曜日～土曜日6日間授業）

前半：8月17日～8月19日（9：00～17：30）3日間のみの授業

後半：8月20日～8月22日（9：00～17：30）3日間のみの授業

※社会科・地理歴史科教育法Ⅱは1・2日目は動画配信授業、3日目対面（市ヶ谷）です。

※博物館情報・メディア論（6日間）は最終日のみZOOMを使用

## 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

### 〔美術史〕

森下 和貴子

- ◆**授業概要** 日本美術史について学びます。仏教美術を中心に古代から近世まで、各時代を代表するような彫刻や絵画の名品を取り上げ、作品の技法や様式、作品が生み出された時代背景などを学ぶことにより、日本美術史の流れを理解することを目的とします。
- ◆**学修到達目標** 日本美術の基礎知識を学び、美術作品が制作された歴史や背景を知ることによって、実際に博物館や美術館などへ行って実作品を鑑賞するときに、自分が楽しむだけでなく、ほかの人にも説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式で行います。取り上げた作品が作られた時代の歴史を概説した上で、スクリーンに作品を映写しながら鑑賞のポイントを解説します。各自、作品を注意深く観察することにより、講義で指摘したポイントを自分の目で確認し理解することが重要です。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

|     |   |
|-----|---|
| 1回  | 授業内容：オリエンテーション① 仏像鑑賞のための基礎知識を学ぶ。<br>事前学修：教科書の付録212～213、228～241ページを読んでおくこと。<br>事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。 |
| 2回  | 授業内容：オリエンテーション② インドにおける仏像の誕生について学ぶ。<br>事前学修：教科書の学習指導書を読んで、全体を把握しておくこと。<br>事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。     |
| 3回  | 授業内容：飛鳥時代の美術① 飛鳥時代の歴史と美術について学ぶ。<br>事前学修：教科書22～28ページを読んでおくこと。<br>事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。               |
| 4回  | 授業内容：飛鳥時代の美術② 白鳳時代の歴史と美術について学ぶ。<br>事前学修：教科書28～36ページを読んでおくこと。<br>事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。               |
| 5回  | 授業内容：奈良時代の美術① 天平前期の歴史と美術について学ぶ。<br>事前学修：教科書38～41ページを読んでおくこと。<br>事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。               |
| 6回  | 授業内容：奈良時代の美術② 天平盛期の歴史と美術について学ぶ。<br>事前学修：教科書41～44、49～52ページを読んでおくこと。<br>事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。         |
| 7回  | 授業内容：奈良時代の美術③ 天平後期の歴史と美術について学ぶ。<br>事前学修：教科書44～45ページを読んでおくこと。<br>事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。               |
| 8回  | 授業内容：平安時代の美術① 平安前期の歴史と美術について学ぶ。<br>事前学修：教科書54～65ページを読んでおくこと。<br>事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。               |
| 9回  | 授業内容：平安時代の美術② 平安後期の歴史と彫刻作品について学ぶ。<br>事前学修：教科書70～75ページを読んでおくこと。<br>事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。             |
| 10回 | 授業内容：平安時代の美術③ 平安後期の歴史と絵画作品について学ぶ。<br>事前学修：教科書75～84ページを読んでおくこと。<br>事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。             |
| 11回 | 授業内容：鎌倉時代の美術① 鎌倉時代の歴史と彫刻作品について学ぶ。<br>事前学修：教科書86～90ページを読んでおくこと。<br>事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。             |
| 12回 | 授業内容：鎌倉時代の美術② 鎌倉時代の絵画作品について学ぶ。<br>事前学修：教科書90～100ページを読んでおくこと。<br>事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。               |
| 13回 | 授業内容：南北朝時代と室町時代の美術<br>事前学修：教科書102～116ページを読んでおくこと。<br>事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。                          |
| 14回 | 授業内容：江戸時代の美術<br>事前学修：教科書118～127ページを読んでおくこと。<br>事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。                                |
| 15回 | 授業内容：総まとめ<br>事前学修：配布プリントを読んで、これまでに受けた授業内容を確認し理解しておくこと。<br>事後学修：教科書を一読し、日本美術史の流れをつかむこと。                          |

- ◆**教科書** 〔当日資料配布〕 当日プリント配布  
通教材『美術史 B11400』 通信教育教材（教材コード000310）  
〈この教材は市販の『カラー版 日本美術史』辻性雄監修（美術出版社）と同一です〉
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 4日間を通じて出席することを前提とし、平常点と筆記試験により総合的に評価します。

#### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔総合科目〕

根岸 良征

◆**授業概要** 最初のコンピュータから現代のパソコンまでの変遷を通して、コンピュータの仕組み、インターネットの仕組みを講義する。また、近年対策が強く求められている情報セキュリティの基礎知識を講義する。IT 企業における IT 基礎教育の実務経験、IT システムの開発、運用経験を踏まえて、近年の実務的な動向を取り入れた講義を行う。

◆**学修到達目標** ・情報技術について基礎的な知識を習得し、パソコンを有意義に利用できるようになる。  
・メディア授業を受講するためにはどのような機器を用意すればよいのかを自らで情報収集でき、判断できる。  
・情報セキュリティの基本とその対策について理解し、実践することができる。

◆**授業方法** 授業は適宜映像資料を用いながら、講義中心に行う。また、パソコンを操作してケーススタディも行う。情報セキュリティについては、自らで情報を収集して、内容をまとめる。毎回授業中に小課題を出題する。教科書は講義で利用するので必ず持参すること。参考書に示した文献は受講前に目を通しておくことが好ましい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

|      |   |
|------|---|
| 1 回  | 授業内容：パソコン開発史① 計算機の開発、電話網の開発とコンピュータ<br>事前学修：計算する道具はいつの時代から存在していたのかを調べる<br>事後学修：講義と資料の内容をノートにまとめ、年表を作成する  |
| 2 回  | 授業内容：パソコン開発史② 計算機から情報処理装置への変遷<br>事前学修：ホストコンピュータとはなにかを調べる<br>事後学修：講義と資料内容をノートにまとめ、年表を作成する  |
| 3 回  | 授業内容：パソコン開発史③ 電卓開発とマイクロコンピュータの登場<br>事前学修：真空管、トランジスタ、リレーについて、役割を中心に調べる<br>事後学修：電卓の開発競争でなにが起きたのかをまとめる   |
| 4 回  | 授業内容：パソコン開発史④ パソコンの登場とインターネット<br>事前学修：1980 年ごろのパソコンについて、どのようなメーカーが、どのような機器を販売していたのかを調べる<br>事後学修：パソコンの普及のきっかけをまとめる                                     |
| 5 回  | 授業内容：コンピュータにおける情報表現、データの種類について<br>事前学修：パソコンで扱えるデータには、どのような種類があるのかを調べる<br>事後学修：文字、画像、音声のデータ表現についてまとめる  |
| 6 回  | 授業内容：パソコンのハードウェア（CPU、メモリ、補助記憶装置、入出力）の種類と役割<br>事前学修：自宅で利用しているパソコンのスペック（仕様）を調べる<br>事後学修：パソコンのハードウェアの種類と役割をノートに整理する                                      |
| 7 回  | 授業内容：ソフトウェアの種類と役割（OS、アプリケーションソフトウェア）<br>事前学修：自分で利用しているパソコンやスマートフォンの OS の名称を調べる。<br>事後学修：OS とアプリケーションの違いをわかりやすくノートにまとめる                                |
| 8 回  | 授業内容：ファイル管理入門、フォルダを利用した分類、圧縮・伸張<br>事前学修：パソコンの基本的な操作（キーボード、マウス操作など）を習得しておく<br>事後学修：自分の PC に保存してあるファイルを整理する   |
| 9 回  | 授業内容：インターネットの仕組み（TCP/IP、ルータ）、インターネットの利用<br>事前学修：インターネットの始まりを調べる<br>事後学修：インターネットの発展と普及の流れを、インターネットのサービスとともにまとめる  |
| 10 回 | 授業内容：情報セキュリティ① 情報セキュリティとはなにか<br>事前学修：教科書第 1 章、第 2 章（p. 2～24）を読む。参考書に指定した Web サイトの冊子を大雑把に通読し、キーワードを拾い上げる。<br>事後学修：授業中に配布したプリント資料を完成させ、情報セキュリティの意味を理解する |
| 11 回 | 授業内容：情報セキュリティ② 「様々な脅威」～ウイルス、標的型攻撃～<br>事前学修：教科書第 3 章（p.26～62）を読む<br>事後学修：授業中に配布したプリント資料を完成させ、具体的なウイルスの種類を知る  |
| 12 回 | 授業内容：情報セキュリティ③ 「セキュリティ対策」～ウイルス対策、ファイアウォール～<br>事前学修：教科書第 3 章（p.90～94）を読む<br>事後学修：授業中に配布したプリント資料を完成させ、具体的な対策法を知る  |
| 13 回 | 授業内容：情報セキュリティ④ 「スマートフォンのセキュリティ」「組織的な取り組み（ISMS）」<br>事前学修：教科書第 4 章（p.64～76）を読む<br>事後学修：授業中に配布したプリント資料を完成させ、組織としての対策を理解する                                |
| 14 回 | 授業内容：情報技術についての総まとめとレポート作成<br>事前学修：第 1 回から第 9 回までの資料の内容を見直す<br>事後学修：情報の表現方法について確実に理解する   |
| 15 回 | 授業内容：情報セキュリティについての総まとめとレポート作成<br>事前学修：第 10 回から第 13 回までの資料の内容を見直す<br>事後学修：標的型攻撃の特徴と対策法について確実に理解する  |

◆**教科書** 丸沼『情報セキュリティ読本「IT 時代の危機管理入門」』情報処理推進機構（IPA）著 五訂版  
実教出版（ISBN978-4407347753）

◆**参考書** ネットワークビギナーのための情報セキュリティハンドブック  
<https://www.nisc.go.jp/security-site/handbook/index.html>

◆**成績評価基準** 授業への参加度（各回の小課題の評価）による評価が 40%、最終課題の内容による評価が 60%。  
なお、最終課題は最終試験の位置づけとする。最終課題を提出しない場合には成績評価をつけない。

**注意** E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔英語Ⅴ〕

島本 慎一郎

◆**授業概要** Bilingual に憧れることは誰しも一度経験することだろう。しかし、Bilingual とは一体どのような人のことを指すのだろうか。Bilingual と呼ばれる人のバックグラウンドや環境は意外にも知る機会が少ないように思える。Reading Strategies の実践と Reading Fluency の向上を目指しながら、Bilingual の定義から Monolingual との相違点まで網羅的に学ぶ。

◆**学習到達目標** 1. 目的や用途に応じて Reading Strategies を使用できる。  
2. Bilingual の定義について例を交えて説明できる。  
3. Reading Fluency 向上の仕組みを踏まえて、Rapid Reading を実践できる。

◆**授業方法** 指定した範囲を各自読んでくことを前提とする。部分的に内容の解説や読解についてクラス全体で取り扱うが、基本的には読んできたものを Peer Reading や Small Group Reading の形式で内容の再構築やディスカッション、ポイントの整理を行う。同時に Reading Strategies の導入と実践を全体で行い実践する。また、その日学んだことをまとめるリアクションペーパーの提出を求める。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 回  | 授業内容 | 授業の進め方、オリエンテーション、Schema Building「バイリンガルとは何か？」  |
|      | 事前学修 | "Bilingual" というキーワードについて Web や文献を調べ、定義を考える。また、参照元ごとに、バイリンガルの定義にどのような違いがあるのかをまとめる。    |
|      | 事後学修 | 事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。                                 |
| 2 回  | 授業内容 | 授業の進め方、オリエンテーション、バイリンガルとは何か？   |
|      | 事前学修 | テキスト 1 章を読んでおくこと。  |
|      | 事後学修 | 事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。                                 |
| 3 回  | 授業内容 | バイリンガルを取り巻く環境、Reading における流暢さ、Chunking の実践   |
|      | 事前学修 | テキスト 2 章を読んでおくこと。  |
|      | 事後学修 | 事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。                                 |
| 4 回  | 授業内容 | ことばの働きと役割①機能からみたことば、Reading Strategies 概要の導入   |
|      | 事前学修 | テキスト 3 章を読んでおくこと。  |
|      | 事後学修 | 事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。                                 |
| 5 回  | 授業内容 | ことばの働きと役割②役割からみたことば、Inferring の実践、リアクションペーパー①作成                                      |
|      | 事前学修 | テキスト 3 章を読んでおくこと。リアクションペーパー作成のため、第 1 章～第 3 章の内容と自らの経験をどのように結びつけるか考える。                |
|      | 事後学修 | 事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。                                 |
| 6 回  | 授業内容 | 言語の選択、Scanning の実践   |
|      | 事前学修 | テキスト 4 章を読んでおくこと。  |
|      | 事後学修 | 事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。                                 |
| 7 回  | 授業内容 | Code-Switching と Code-Mixing   |
|      | 事前学修 | テキスト 5 章を読んでおくこと。（※ 6 章は割愛します。）  |
|      | 事後学修 | 事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。                                 |
| 8 回  | 授業内容 | ことばの訛り、Skimming の実践  |
|      | 事前学修 | テキスト 7 章を読んでおくこと。  |
|      | 事後学修 | 事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。                                 |
| 9 回  | 授業内容 | 複数言語の習得過程とバックグラウンド、Reading における未知語への対処   |
|      | 事前学修 | テキスト 8 章を読んでおくこと。  |
|      | 事後学修 | 事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。                                 |
| 10 回 | 授業内容 | バイリンガルであることの利便性と悩み、リアクションペーパー②作成   |
|      | 事前学修 | テキスト 9 章を読んでおくこと。（※ 10 章は割愛します。）リアクションペーパー作成のため、第 4 章～第 9 章の内容と自らの経験をどのように結びつけるか考える。 |
|      | 事後学修 | 事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。                                 |
| 11 回 | 授業内容 | バイリンガルの思考、バイリンガルの種類  |
|      | 事前学修 | テキスト 11 章を読んでおくこと。（※ 12、13、14 章は割愛します。）  |
|      | 事後学修 | 事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。                                 |
| 12 回 | 授業内容 | 子どもがバイリンガルになる過程  |
|      | 事前学修 | テキスト 15 章を読んでおくこと。（※ 16 章は割愛します。）  |
|      | 事後学修 | 事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。                                 |
| 13 回 | 授業内容 | 子どもをバイリンガルにするには、Schema-building の実践  |
|      | 事前学修 | テキスト 17 章を読んでおくこと。   |
|      | 事後学修 | 事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。                                 |
| 14 回 | 授業内容 | テキスト第 1 章～17 章の再構築（復習）   |
|      | 事前学修 | テキスト第 1 章～17 章のまとめプリントを見返し、それぞれの要点について他者に説明できるようにする。                                 |
|      | 事後学修 | 事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。                                 |
| 15 回 | 授業内容 | 実体験に基づくバイリンガル経験談の共有、試験及び解説   |
|      | 事前学修 | 第 1 回～第 14 回の内容の復習とテキストの英文を読むようにしておくこと。  |
|      | 事後学修 | 事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。                                 |

◆**教科書** 〔訳〕『Bilingual: Life and Reality』François Grosjean Harvard University Press. 2012 年  
ISBN: 978-0674066137

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** テスト（40%）、リアクションペーパー（20%）、授業参画度（40%）

◆**授業相談（連絡先）**：メール：ss81@hawaii.edu

注意

# 講座内容（シラバス）

【保健体育講義Ⅰ】 オープン受講：不可

高橋 正則／水落 文夫

◆**授業概要** 近年、超高齢社会を向かえているわが国の平均寿命は、年々上昇しているものの、健康寿命との差は依然として縮まらない傾向が続いています。平均寿命と健康寿命の差は約10年前後であり、その差を埋めるためには、自立して生活できる健康な身体を積極的に獲得する必要があります。そこで、健康・体力に関する様々な情報に日頃から関心を向け、自身の健康維持・増進を目指す運動数値のある生活習慣を考えていきます。特に、トレーニングコーチ（日本オリンピック委員会強化スタッフ・医科学）として体力トレーニングやメンタルトレーニングの指導実績を生かし、実践的で効果的な健康教育に関する知識を授業に反映させていきます。

◆**学習到達目標** 生涯を通じて最も大切な健康とは何か、また、健康・体力の維持増進のために何が必要かについて、基本的な知識を習得することで、自らの生活習慣に結びつけることができるようになる。

◆**授業方法** この授業は、パワーポイントによって資料をスクリーンに提示しながら、講義形式で授業を進めます。また、必要に応じて、配布資料を準備し、各授業前に配布する予定です。なお、授業では講義内容からレポート等の課題を出す場合があります。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各90分〕

|     |      |  |
|-----|------|--|
| 1回  | 授業内容 | ガイダンス（授業のスケジュールおよび受講上の注意事項等の説明）、現代社会と健康：現代社会と健康の関連を説明する。   |
|     | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。                         |
|     | 事後学修 | 配布資料をまとめ、理解しておくこと。   |
| 2回  | 授業内容 | コミュニケーションスキル：現代社会におけるコミュニケーションスキルの重要性を解説する。                |
|     | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。                         |
|     | 事後学修 | 配布資料をまとめ、理解しておくこと。   |
| 3回  | 授業内容 | 体力の概念：体力の構成を行動体力と防衛体力の観点から説明する。                            |
|     | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。                         |
|     | 事後学修 | 配布資料をまとめ、理解しておくこと。   |
| 4回  | 授業内容 | オリンピズム：オリンピックに対する考え方やオリンピック教育の具体的内容を説明する。                  |
|     | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。                         |
|     | 事後学修 | 配布資料をまとめ、理解しておくこと。   |
| 5回  | 授業内容 | 運動・スポーツの効果：運動やスポーツが心身に及ぼす影響を解説する。                          |
|     | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。                         |
|     | 事後学修 | 配布資料をまとめ、理解しておくこと。   |
| 6回  | 授業内容 | 運動による疲労：身体活動が与える疲労を様々な指標で捉え、その影響を説明する。                     |
|     | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。                         |
|     | 事後学修 | 配布資料をまとめ、理解しておくこと。   |
| 7回  | 授業内容 | 休養の実態と意義：休養の必要性や効果的な取り方を解説する。                              |
|     | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。                         |
|     | 事後学修 | 配布資料をまとめ、理解しておくこと。   |
| 8回  | 授業内容 | 運動学習：運動を効果的に学習するための理論を説明する。また計8回の授業内容を範囲とする試験を実施する。        |
|     | 事前学修 | 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。また試験対策として、各授業の復習をしておくこと。 |
|     | 事後学修 | 配布資料をまとめ、講義全体の内容を整理し、理解しておくこと。                             |
| 9回  | 授業内容 |  |
|     | 事前学修 |  |
|     | 事後学修 |  |
| 10回 | 授業内容 |  |
|     | 事前学修 |  |
|     | 事後学修 |  |
| 11回 | 授業内容 |  |
|     | 事前学修 |  |
|     | 事後学修 |  |
| 12回 | 授業内容 |  |
|     | 事前学修 |  |
|     | 事後学修 |  |
| 13回 | 授業内容 |  |
|     | 事前学修 |  |
|     | 事後学修 |  |
| 14回 | 授業内容 |  |
|     | 事前学修 |  |
|     | 事後学修 |  |
| 15回 | 授業内容 |  |
|     | 事前学修 |  |
|     | 事後学修 |  |

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 当日、授業時にプリントを配布します。

◆**参考書** 丸沼『健康・スポーツ教育論』 日本大学文理学部体育学研究室編、八千代出版

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（貢献度）およびレポート・テストによって、総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：初回の授業時、受講学生に直接伝えます。

注意



# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔政治学原論〕

吉野 篤

- ◆**授業概要** 政治概念の歴史の変容を概観することを通じて、政治という現象の特質を把握する。
- ◆**学修到達目標** 政治とはどのような営みなのかを過去の学問的営為を振り返ることで把握できるようにする。
- ◆**授業方法** 基本的に講義形式で行う。また、ジャーナルな政治問題を考えるために主として新聞報道を素材としてコピーを配布し、授業の材料としたい。
- ◆**履修条件** 昼間スクーリング（前期）「政治学原論」（吉野篤）とは積み重ね不可。
- ◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容：オリエンテーションとして前期の全体像を示す<br>事前学修：テキストに目を通すこと<br>事後学修：内容を確認すること                   |
| 2 回  | 授業内容：古典古代の政治概念：プラトン<br>事前学修：テキストの該当箇所をチェックすること<br>事後学修：ノートを整理し、論点を確認すること           |
| 3 回  | 授業内容：古典古代の政治概念：アリストテレス<br>事前学修：テキストで内容を事前にチェックすること<br>事後学修：ノートを整理して論点を確認すること       |
| 4 回  | 授業内容：中世の政治像<br>事前学修：中世の政治状況について事前に概要を把握すること<br>事後学修：ノートを整理するとともに論点を確認すること          |
| 5 回  | 授業内容：マキャベリの画期的概念<br>事前学修：ルネサンスの意義について学習しておくこと<br>事後学修：ノートを改めて整理して論点を明確化すること        |
| 6 回  | 授業内容：社会契約説の歴史的意義<br>事前学修：該当箇所をチェックすること<br>事後学修：ノートを改めて整理し論点を明確化すること                |
| 7 回  | 授業内容：古典的自由主義の政治概念<br>事前学修：市民革命の概要を学習すること<br>事後学修：論点を改めて整理すること                      |
| 8 回  | 授業内容：市民革命の政治過程：イギリス革命<br>事前学修：17 世紀のイギリスの状況を事前にチェックすること<br>事後学修：改めて論点を整理すること       |
| 9 回  | 授業内容：アメリカ独立革命の意義<br>事前学修：18 世紀のアメリカ植民地の状況を調べる<br>事後学修：論点を改めて整理すること                 |
| 10 回 | 授業内容：フランス革命の政治過程<br>事前学修：革命の位置づけについて事前に調べておくこと<br>事後学修：論点を改めて整理すること                |
| 11 回 | 授業内容：保守主義の歴史的意義<br>事前学修：保守という概念について事前に確認すること<br>事後学修：論点を改めて整理すること                  |
| 12 回 | 授業内容：19 世紀の政治概念 マルクスの政治理論<br>事前学修：テキストで事前にチェックすること<br>事後学修：論点を改めて整理すること            |
| 13 回 | 授業内容：20 世紀の政治概念 国家像の変遷<br>事前学修：大衆社会の政治状況について事前に学習すること<br>事後学修：論点を改めて整理すること         |
| 14 回 | 授業内容：丸山眞男の政治概念<br>事前学修：丸山について事前に調べる<br>事後学修：論点を再整理すること                             |
| 15 回 | 授業内容：1980 年代の政治潮流、最終試験<br>事前学修：1980 年代の政治的特質について事前に調べておくこと<br>事後学修：改めて論点を確認・整理すること |

- ◆**教科書** 〔凡例〕吉野篤編『政治学 第2版』弘文堂 2018 年
- ◆**参考書** 講義の際に指示する。
- ◆**成績評価基準** 授業への取り組み・最終試験により総合的に評価する。

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔経済政策総論 / 経済政策〕

周藤 利一

◆**授業概要** 日本における現在及び将来にわたる公共経済政策の重要な課題について、景気循環、対外経済、財政、金融、租税、雇用・労働、社会福祉、社会保障、資源・エネルギーといった政策分野ごとに、現状と将来の課題、過去の政策とその効果、今後の政策のあり方について、データや実例を示しながら、分かりやすく解説します。

◆**学修到達目標** 現在の日本における公共経済政策の重要な課題に対して、どのような政策認識がなされ、政策の立案、形成、決定過程を経て、どのように実施され、その効果はどのようなものであったかを実証的に分析し、評価することにより、日本の経済政策の現状と課題、今後のあるべき方向を理解することを目標とします。

◆**授業方法** 講義形式で行います。経済政策の意義、経済体制の選択、経済の成長と安定、国際収支と対外関係等の基礎的理論を理解するとともに、金融政策、財政政策、租税政策、産業政策、貿易政策、企業政策、雇用・労働政策、社会保障政策等の主要な経済政策の内容を学びます。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容：経済政策序論：経済政策の意義、財の性質、経済主体、資源の配分と所得の配分など<br>事前学修：新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の内容を配布資料やノートで再確認し、自分の理解度を確認しておくこと。      |
| 2 回  | 授業内容：国民経済論・経済成長論：国民経済の意義と原理、生産・支出・所得の計測方法など<br>事前学修：新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の内容を配布資料やノートで再確認し、自分の理解度を確認しておくこと。      |
| 3 回  | 授業内容：国際収支と対外関係：国際収支の構造、外国為替市場と為替レートなど<br>事前学修：新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の内容を配布資料やノートで再確認し、自分の理解度を確認しておくこと。            |
| 4 回  | 授業内容：金融政策論①：管理通貨制度、金融システムの意義、マネーサプライなど<br>事前学修：新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の内容を配布資料やノートで再確認し、自分の理解度を確認しておくこと。           |
| 5 回  | 授業内容：金融政策論②：金融政策の限界、資産価格の安定化、金融の異次元緩和など<br>事前学修：新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の内容を配布資料やノートで再確認し、自分の理解度を確認しておくこと。          |
| 6 回  | 授業内容：財政政策論①：財政制度の意義、国の財政の構造、財政投融资など<br>事前学修：新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の内容を配布資料やノートで再確認し、自分の理解度を確認しておくこと。              |
| 7 回  | 授業内容：財政政策論②：裁量的財政政策、減税政策、日本の財政赤字、財政再建など<br>事前学修：新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の内容を配布資料やノートで再確認し、自分の理解度を確認しておくこと。          |
| 8 回  | 授業内容：租税政策論①：租税の基礎理論、租税の機能と効果、租税の基本原則、租税の分類など<br>事前学修：新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の内容を配布資料やノートで再確認し、自分の理解度を確認しておくこと。     |
| 9 回  | 授業内容：租税政策論②：日本の租税の現状、景気対策としての租税、税制の問題等<br>事前学修：新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の内容を配布資料やノートで再確認し、自分の理解度を確認しておくこと。           |
| 10 回 | 授業内容：貿易政策論、比較生産費モデル、垂直分業と水平分業、WTO ルール、EPA、TPP など<br>事前学修：新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の内容を配布資料やノートで再確認し、自分の理解度を確認しておくこと。 |
| 11 回 | 授業内容：雇用政策論・労働政策論：労働力及び労働の需要と供給の構造、労働条件の改善など<br>事前学修：新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の内容を配布資料やノートで再確認し、自分の理解度を確認しておくこと。      |
| 12 回 | 授業内容：社会保障政策論：私的保障と公的保障、財源の調達、社会保険と公的扶助など<br>事前学修：新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の内容を配布資料やノートで再確認し、自分の理解度を確認しておくこと。         |
| 13 回 | 授業内容：社会福祉政策論：社会福祉の供給体制、政府の役割、経済政策と社会政策の関係など<br>事前学修：新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の内容を配布資料やノートで再確認し、自分の理解度を確認しておくこと。      |
| 14 回 | 授業内容：資源・エネルギー政策論①：世界のエネルギー事情、日本のエネルギー事情、省エネ政策など<br>事前学修：新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の内容を配布資料やノートで再確認し、自分の理解度を確認しておくこと。  |
| 15 回 | 授業内容：資源・エネルギー政策論②：再生エネルギー、福島原発事故以後のエネルギー政策など<br>事前学修：新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。<br>事後学修：授業の内容を配布資料やノートで再確認し、自分の理解度を確認しておくこと。     |

◆**教科書** 当日資料配布

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** 試験 70%、平常点 30%

◆**授業相談（連絡先）** suto@meikai.ac.jp

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔英米文学特殊講義〕

猪野 恵也

◆**授業概要** イギリス文学やアメリカ文学よりもあまり知られていないアイルランド文学にフォーカスを当てる。アイルランドにおいて英語で書かれた文学はアングロ・アイリッシュ文学と呼ばれるが、特に18世紀以降のアングロ・アイリッシュ文学の理解を目指す。日本においてあまりなじみがないアイルランド文学の入門的知識を学びながら、アイルランド文学はイギリス文学の補完的存在ではないということを学修する。林景一著『アイルランドを知れば日本がわかる』を予め読んでおくこと。

◆**学修到達目標** ・アングロ・アイリッシュ文学とは何かを知り、説明することができる。・英語圏文学とは何か、考えられるようになる。

◆**授業方法** 主にプリントによる講義形式。学んだことを確認するためのリアクションペーパーに記入。授業計画は目安としたい。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容：シラバスの確認、日本とアイルランド及びアイルランド史概観                  |
|      | 事前学修：シラバスの確認、アイルランド史について調べておく                      |
|      | 事後学修：アイルランド史を年表にまとめ、人物と出来事を理解する                    |
| 2 回  | 授業内容：アイルランド史概観の続き及び初期アイルランド文学について                  |
|      | 事前学修：ゲール語について調べておく                                 |
|      | 事後学修：授業で読んだ作品を再読する                                 |
| 3 回  | 授業内容：Jonathan Swift (1667-1754) を中心に               |
|      | 事前学修：文学史において Swift の生涯と作品を調べておく                    |
|      | 事後学修：授業で読んだ作品を再読する                                 |
| 4 回  | 授業内容：Maria Edgeworth (1767-1849) を中心に              |
|      | 事前学修：文学史において Maria Edgeworth の生涯と作品について調べておく       |
|      | 事後学修：授業で読んだ作品を再読する                                 |
| 5 回  | 授業内容：アイルランド文芸復興の概観                                 |
|      | 事前学修：アイルランド文芸復興について調べておく                           |
|      | 事後学修：アイルランド史との関係からアイルランド文芸復興運動についてまとめる             |
| 6 回  | 授業内容：W.B.Yeats (1865-1939) を中心に                    |
|      | 事前学修：文学史において W.B.Yeats の生涯と作品について調べておく             |
|      | 事後学修：授業で読んだ作品を再読する                                 |
| 7 回  | 授業内容：John Millington Synge (1871-1909) を中心に        |
|      | 事前学修：文学史において John Millington Synge の生涯と作品について調べておく |
|      | 事後学修：授業で読んだ作品を再読する                                 |
| 8 回  | 授業内容：Oscar Wilde (1854-1900) について                  |
|      | 事前学修：文学史において Oscar Wilde の生涯と作品について調べておく           |
|      | 事後学修：授業で読んだ作品を再読する                                 |
| 9 回  | 授業内容：James Joyce (1882-1941) について                  |
|      | 事前学修：文学史において James Joyce の生涯と作品について調べておく           |
|      | 事後学修：授業で読んだ作品を再読する                                 |
| 10 回 | 授業内容：James Joyce の続き                               |
|      | 事前学修：文学史において James Joyce の生涯と作品について調べておく           |
|      | 事後学修：授業で読んだ作品を再読する                                 |
| 11 回 | 授業内容：Samuel Beckett (1906-89) について                 |
|      | 事前学修：文学史において Samuel Beckett の生涯と作品について調べておく        |
|      | 事後学修：授業で読んだ作品を再読する                                 |
| 12 回 | 授業内容：現代アイルランド文学 (John Banville を中心に)               |
|      | 事前学修：文学史において John Banville の作品について調べておく            |
|      | 事後学修：授業で扱った作品を再読する                                 |
| 13 回 | 授業内容：現代アイルランド文学 (Seamus Heaney を中心に)               |
|      | 事前学修：Seamus Heaney について調べておく                       |
|      | 事後学修：授業で読んだ作品を再読する                                 |
| 14 回 | 授業内容：現代アイルランド文学 (John McGahern を中心に)               |
|      | 事前学修：John McGahern について調べておく                       |
|      | 事後学修：授業で読んだ作品を再読する                                 |
| 15 回 | 授業内容：現代アイルランド文学 (Frank McCourt を中心に)               |
|      | 事前学修：Frank McCourt について調べておく                       |
|      | 事後学修：授業で扱った作品を再読する。映画「アンジェラの灰」を観る。                 |

◆**教科書** 当日資料配布

◆**参考書** 丸沼『アイルランド文学史』尾島庄太郎・鈴木弘 北星堂書店 1993 年 3 刷発行  
丸沼『アイルランド文学小史』シェイマス・ディーン 北山克彦・佐藤亭訳 国文社 2011 年発行  
丸沼『異界へのまなざし アイルランド文学入門』山田久美子 腐書房弓プレス 2005 年発行  
丸沼『アイルランドを知れば日本がわかる』林景一 角川書店 2009 年発行

◆**成績評価基準** 試験 (70%) リアクションペーパー (30%) 3 日間のスクーリングなので皆出席を前提とします。

◆**授業相談 (連絡先)** : ino0703@hotmail.co.jp (平日のみ受け付ける)

注意

# 講座内容（シラバス）

## 【英語学演習】

田中 竹史

◆**授業概要** ヒトは誰でも母語を獲得することができますが、その獲得は特別な勉強や訓練なしに子供の頃にいつの間にか当たり前のようになされてしまいます。これは、たとえば計算の仕方や交通規則を身につけるためには勉強しなければならないということや、ピアノやバイオリンを弾いたりあるいは泳いだり車を運転したりするためには特別な訓練が必要になる、といったことは対照的です。また、通常大人が外国語を身につけるのには意識的な努力が必要であるということとも対照的です。それでは、なぜ子供は特別な勉強や訓練をせずとも母語を身につけられるのでしょうか。なぜ大人は勉強や訓練なしには外国語を身につけることができないのでしょうか。そもそもヒトは一体どのような仕組みにより、極めて複雑で豊かな内容を持つ言語を身につけているのでしょうか。本講座では、上記のような事柄を通じて生物種としてのヒトの特徴について考えます。

◆**学修到達目標** 全ての生物種の中でヒト科ヒト属のみが持つと考えられている特殊な知識体系であることばに内在する性質、そして幼児による言語獲得の過程に触れることにより、ことばの分析方法や言語学・英語学の方法論を学ぶことを目標とします。

◆**授業方法** はじめにヒトのことばに関する基礎的知識（母語話者の持つ言語知識、言語獲得の過程、言語障害、類人猿などヒト以外の生物のコミュニケーション体系など）を講義形式により確認します。その後に、テキストを題材に、受講者による担当部分の内容説明・質疑応答（その過程でアクティブラーニング、グループディスカッションなどを含みます）、教員による補足説明（その過程で課題に対するフィードバックを含みます）、という演習形式で授業を進めます。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容：母語と外国語(1)<br>事前学修：参考書に挙げられている大津（2004, 2008）を読んでおくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。  |
| 2 回  | 授業内容：母語と外国語(2)<br>事前学修：配布された資料をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。  |
| 3 回  | 授業内容：言語の研究(1)<br>事前学修：配布された資料をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。   |
| 4 回  | 授業内容：言語の研究(2)<br>事前学修：配布された資料をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。   |
| 5 回  | 授業内容：ヒトの言語獲得(1)<br>事前学修：配布された資料をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。   |
| 6 回  | 授業内容：ヒトの言語獲得(2)<br>事前学修：配布された資料をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。   |
| 7 回  | 授業内容：Part III Transformational Syntax<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。                |
| 8 回  | 授業内容：Introduction<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。                                    |
| 9 回  | 授業内容：16 A Transformation Generating Yes/No Questions<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。 |
| 10 回 | 授業内容：Introduction, 1 Yes/No Questions<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。                |
| 11 回 | 授業内容：2 Affix-Hopping and Do-Support<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。                  |
| 12 回 | 授業内容：Conclusion<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。                                      |
| 13 回 | 授業内容：17 Children's Adherence to Structure Dependence<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。 |
| 14 回 | 授業内容：1 Structure Dependence and Yes/No Questions<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。     |
| 15 回 | 授業内容：Conclusion<br>事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。<br>事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。                                      |

◆**教科書** 凡例『An Introduction to Linguistic Theory and Language Acquisition』Crain & Lillo-Martin Blackwell 1999 年（該当箇所 pp.167-187 を配布します）

◆**参考書** 凡例『探検！ことばの世界』大津 由紀雄著 ひつじ書房 2004 年  
凡例『ことばに魅せられて 対話編』大津 由紀雄著 ひつじ書房 2008 年  
凡例『ファンダメンタル英語学 改訂版』中島 平三著 ひつじ書房 2011 年  
教材『英語学概説 N30700』通信教育教材（教材コード 000567）

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、発表や質疑応答などの授業に対する取り組み（50%）と授業終了後に提出のレポート（50%）により総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：tanaka.cont.english@gmail.com

**注意**

# 講座内容（シラバス）

〔英作文Ⅱ〕 オープン受講：不可

アレックス ブラウン

- ◆**授業概要** This is a short, intensive writing course that requires students to work together in groups to generate ideas and edit student's essays. The teacher will review notes on the writing process and guide you through various writing activities such as grammar revision and persuasive writing techniques.
- ◆**学修到達目標** This course focuses on the writing process of a five-paragraph essay. It's a step by step process in which we'll build two essays that have a sound Introduction, Body and Conclusion. Students will work together in a work-shop like manner and will have the chance to explore writing narratives and comparative essays.
- ◆**授業方法** Students will work on developing ideas, arguments and opinions based on supporting sentences within a five-step process. Generating ideas in groups along with editing various pieces is an important part of the course.
- ◆**履修条件** This course is an introduction to academic writing. You will be responsible for writing individual essays, however, group work is an important part of the course.
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |   |
|------|---|
| 1 回  | 授業内容: Prepare a written self-introduction.<br>事前学修: Orientation and writing survey.<br>事後学修: Read over the writing process.   |
| 2 回  | 授業内容: Study the notes on topic sentences.<br>事前学修: Topic sentence activities.<br>事後学修: Research your topic for Essay 1.   |
| 3 回  | 授業内容: Present your essay topic to the group.<br>事前学修: Brainstorm topic ideas. List ideas accordingly.<br>事後学修: Finish the activity on supporting sentences.   |
| 4 回  | 授業内容: Prepare to present answers regarding supporting sentences.<br>事前学修: Paragraph construction. Follow the rules of the process.<br>事後学修: Complete the grammar editing exercise.                              |
| 5 回  | 授業内容: Prepare your answers for presentation in a small group.<br>事前学修: Finish the rough draft for Essay 1.<br>事後学修: Use the editing checklist and make corrections accordingly.                                 |
| 6 回  | 授業内容: Prepare some comments and questions for your partner's essay.<br>事前学修: Essay analysis of students' essays.<br>事後学修: Prepare your final draft for submission.  |
| 7 回  | 授業内容: Pass in Essay 1 at the beginning of class.<br>事前学修: Lecture on Compare and Contrast essays.<br>事後学修: Research ideas for Essay 2.  |
| 8 回  | 授業内容: List 3 ideas for Essay 2.<br>事前学修: Brainstorm ideas for Essay 2 in groups.<br>事後学修: Complete your free writing activity.  |
| 9 回  | 授業内容: Summarize your free-writing activity.<br>事前学修: Construct supporting ideas for your main points of Essay 2.<br>事後学修: Read through your paragraphs for Essay 2.   |
| 10 回 | 授業内容: Present rough draft for Essay 2.<br>事前学修: Editing and Revision of Essay2. Fill out your partner's checklist and comment sheet.<br>事後学修: Edit your essay with attention to grammar and sentence structure. |
| 11 回 | 授業内容: Prepare Essay 2 for submission.<br>事前学修: Fill out two grading forms for each essay.<br>事後学修: Review notes for plot-driven essays.   |
| 12 回 | 授業内容: Explain the plot of your favorite story (movie or literary) .<br>事前学修: Unscramble the beginnings of three stories in a group.<br>事後学修: Complete your designated story.                                    |
| 13 回 | 授業内容: Revise your designated story.<br>事前学修: Creation and presentation of dialogue.<br>事後学修: # minute writing activity for homework.  |
| 14 回 | 授業内容: Prepare a discussion of the key points of your free-writing piece.<br>事前学修: Character-driven stories and character generation.<br>事後学修: Improve the focus of your three characters.                       |
| 15 回 | 授業内容: Present your characters in a group.<br>事前学修: Use your characters in a story board and work on their expansion.<br>事後学修: Thank you for your efforts in this course.  |

◆**教科書** 当日資料配布

◆**参考書** 当日資料配布

◆**成績評価基準** Students will be graded on two essays (60%). Strong consideration is placed on participation and group contributions (40%).

◆**授業相談（連絡先）**: downtownalbrow@hotmail.com

注意



# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔古文書学〕

渡邊 浩史

◆**授業概要** 歴史学において必要な広く史料論について講義した上で古文書の様式と機能について講義する。また古文書の写真や web 上で利用できる古文書を使用して古文書の機能の実際を学ぶ。

◆**学修到達目標** 古文書の様式や機能を理解する事で、古文書読解の基礎力を習得する。また、複数の文書がどのように機能するかも学び、卒業論文作成の基本的な能力を身につける。

◆**授業方法** 講義方式で行う。前半ではプリントを中心に講義する。後半ではテキストを指定するが、適宜 web 上で利用できる古文書のデジタルデータを利用する。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 回  | 授業内容 | はじめに 史料論                                   |
|      | 事前学修 | 事前にプリントの当該部分を読んでおくこと                       |
|      | 事後学修 | 授業で学習したことを自分で整理しておくこと                      |
| 2 回  | 授業内容 | 史料論  |
|      | 事前学修 | 事前にプリントの当該部分を読んでおくこと                       |
|      | 事後学修 | 授業で学習したことを自分で整理しておくこと                      |
| 3 回  | 授業内容 | 1. 古文書の様式(1)様式の分類                          |
|      | 事前学修 | 事前にプリントの当該部分を読んでおくこと                       |
|      | 事後学修 | 授業で学習したことを自分で整理しておくこと                      |
| 4 回  | 授業内容 | (2)公式様文書（詔書・勅旨を中心に）                        |
|      | 事前学修 | 事前にプリントの当該部分を読んでおくこと                       |
|      | 事後学修 | 授業で学習したことを自分で整理しておくこと                      |
| 5 回  | 授業内容 | (2)公式様文書（その他の公式様文書）                        |
|      | 事前学修 | 事前にプリントの当該部分を読んでおくこと                       |
|      | 事後学修 | 授業で学習したことを自分で整理しておくこと                      |
| 6 回  | 授業内容 | (3)公家様文書（宣旨・官宣旨を中心に）                       |
|      | 事前学修 | 事前にプリントの当該部分を読んでおくこと                       |
|      | 事後学修 | 授業で学習したことを自分で整理しておくこと                      |
| 7 回  | 授業内容 | (3)公家様文書（御教書を中心に）                          |
|      | 事前学修 | 事前にプリントの当該部分を読んでおくこと                       |
|      | 事後学修 | 授業で学習したことを自分で整理しておくこと                      |
| 8 回  | 授業内容 | (4)武家様文書（下文を中心に）                           |
|      | 事前学修 | 事前にプリントの当該部分を読んでおくこと                       |
|      | 事後学修 | 授業で学習したことを自分で整理しておくこと                      |
| 9 回  | 授業内容 | (4)武家様文書（下知状を中心に）                          |
|      | 事前学修 | 事前にプリントの当該部分を読んでおくこと                       |
|      | 事後学修 | 授業で学習したことを自分で整理しておくこと                      |
| 10 回 | 授業内容 | (4)武家様文書（その他の武家様文書）                        |
|      | 事前学修 | 事前にプリントの当該部分を読んでおくこと                       |
|      | 事後学修 | 授業で学習したことを自分で整理しておくこと                      |
| 11 回 | 授業内容 | 2. 古文書の実際 東寺百合文書に見る古文書の発給過程とその機能（矢野荘の悪党事件） |
|      | 事前学修 | 事前にプリントの当該部分を読んでおくこと                       |
|      | 事後学修 | 授業で学習したことを自分で整理しておくこと                      |
| 12 回 | 授業内容 | 桜井家文書とは                                    |
|      | 事前学修 | 事前にテキストの当該部分を読んでおくこと                       |
|      | 事後学修 | 授業で学習したことを自分で整理しておくこと                      |
| 13 回 | 授業内容 | 桜井家文書の中世                                   |
|      | 事前学修 | 事前にテキストの当該部分を読んでおくこと                       |
|      | 事後学修 | 授業で学習したことを自分で整理しておくこと                      |
| 14 回 | 授業内容 | 桜井家文書の近世                                   |
|      | 事前学修 | 事前にテキストの当該部分を読んでおくこと                       |
|      | 事後学修 | 授業で学習したことを自分で整理しておくこと                      |
| 15 回 | 授業内容 | まとめと試験                                     |
|      | 事前学修 | 1～14 回の内容をよく復習すること                         |
|      | 事後学修 | 試験の内容を含めてよく復習し理解を深めること                     |

◆**教科書** 丸沼『桜井家文書－戦国武士がみた戦争と平和－』 神奈川県立歴史博物館コレクション展図録  
神奈川県立博物館 2019 年

【事前資料送付】 プリント資料・史料

◆**参考書** 丸沼『古文書学入門』 佐藤進一 法政大学出版会 2003 年  
『古文書入門ハンドブック』 飯倉晴武 吉川弘文館 1993 年

◆**成績評価基準** 平常点 20% 試験 80%

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔経済地理学 / 経済地理〕

清水 和明

- ◆**授業概要** 経済地理学は、地表面上のあらゆる経済現象の地理的な広がりを対象とする学問である。本授業では、経済地理学の研究領域の中でも産業立地に関する領域を扱う。とくに、古典的な立地論を取り上げ、その特徴について理解を深めるとともに、現実世界への適用可能性について検討していく。また、特定の産業や地域を事例に、経済現象の地理的な差異が生じる要因について解説する。
- ◆**学習到達目標** 経済地理学の研究領域について理解を深め、その学問的な意義を専門用語を駆使して説明できるようになる。古典的な立地論の特徴について、自らの言葉で説明できるようになる。産業立地に関わる理論を応用して、現実の産業立地の要因を考察できるようになる。
- ◆**授業方法** 教科書の内容に基づいて、講義形式で進める。パソコンのプレゼンテーションソフトを利用する。随時、受講者に質問を行うとともに、理解度を確認するための小テストを実施する。
- ◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 回  | 授業内容 | 経済地理学とはどのような学問か<br>授業の進め方を説明する。近代地理学の歴史を説明し、経済地理学が登場した背景を解説する。合わせて、各時代の経済地理学の潮流についても解説する。                        |
|      | 事前学修 | テキストを一読し、経済地理学が対象とする領域について大まかな知識を得ておくこと。   |
|      | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理するとともに、配布資料を読み直し、経済地理学が対象とする領域を理解しておくこと。   |
| 2 回  | 授業内容 | 農業立地の理論と実際(1)チューネンの農業立地論の概要<br>産業立地論の基礎をなすチューネンの農業立地論の概要について、「経済地代」の概念を中心に解説する。                                  |
|      | 事前学修 | テキストの該当箇所を読み、チューネンの農業立地論が登場する背景（特にヨーロッパ農業の展開過程）を把握しておくこと。  |
|      | 事後学修 | テキストと配布資料を利用して、チューネンの農業立地論の特徴を整理しておくこと。  |
| 3 回  | 授業内容 | 農業立地の理論と実際(2)チューネンの農業立地論の意義と応用<br>チューネンの農業立地論の学問的な意義について解説する。合わせて、現実の農業立地を理解するにあたっての有効性と限界についても説明する。             |
|      | 事前学修 | 前回の授業のノートを確認し、いわゆる「チューネン圏」の成立に関わる要点を整理しておくこと。  |
|      | 事後学修 | テキストと配布資料を利用して、農業立地に関する理論の長所と短所を整理しておくこと。  |
| 4 回  | 授業内容 | 農業立地の理論と実際(3)日本の農業の地域的な展開<br>第二次大戦後の日本農業がいかに展開してきたのか農業政策の変遷を踏まえて説明する。また、具体的な事例として、特定の農産物産地を取り上げ、近年の動向および課題を解説する。 |
|      | 事前学修 | 日本の農業に関わる最近の動向について情報収集しておくこと。  |
|      | 事後学修 | 任意の農産物産地を対象に、その現状と課題を調べる。  |
| 5 回  | 授業内容 | 農業立地の理論と実際(4)アグリビジネスと地域（小テスト含む）<br>アグリビジネスの特徴について説明する。その上で、特定の企業の行動が地域に及ぼす影響を与えたのか解説する。                          |
|      | 事前学修 | 農業立地の理論および農産物産地に関する小テストを行う。  |
|      | 事後学修 | 「食」や「農」に関わる企業について情報収集しておくこと。   |
|      | 事後学修 | 任意のアグリビジネスを対象に、その地理的な展開を調べる。   |
| 6 回  | 授業内容 | 工業立地の理論と実際(1)ウェーバーの工業立地論の概要とその意義<br>ウェーバーの工業立地論について、「輸送費指向論」、「労働費指向論」、「工業集積論」を中心に解説する。                           |
|      | 事前学修 | チューネンの農業立地論の概要を整理するとともに、農業と工業の違いを整理しておくこと。   |
|      | 事後学修 | テキストと配布資料を利用して、ウェーバーの工業立地論の特徴を整理しておくこと。  |
| 7 回  | 授業内容 | 工業立地の理論と実際(2)ウェーバーの工業立地論の適用事例<br>ウェーバーの工業立地論の現実への適用事例について解説する。   |
|      | 事前学修 | 前回の授業のノートを確認し、ウェーバーの工業立地論の特徴を整理しておくこと。   |
|      | 事後学修 | テキストと配布資料を利用して、ウェーバーの工業立地論の長所と短所を整理しておくこと。   |
| 8 回  | 授業内容 | 工業立地の理論と実際(3)日本の工業立地の変化<br>第二次大戦後の日本工業がいかに展開してきたのか、具体的な工業地域を事例に解説する。   |
|      | 事前学修 | 日本の主要な工業地域についてその位置および各地域の特徴的な部門を調べておくこと。   |
|      | 事後学修 | テキストと配布資料を利用して、日本の主要な工業地域の特徴を整理しておくこと。   |
| 9 回  | 授業内容 | 工業立地の理論と実際(4)企業内地域間分業構造の展開<br>企業内の分業構造について解説した上で、地域への影響を具体的な事例を交えつつ説明する。   |
|      | 事前学修 | 高度経済成長期を通してみられた地域問題（都市・農村に関わる問題）について情報収集しておくこと。  |
|      | 事後学修 | 大企業の工場が進出した任意の地域を対象に、工場の進出によって生じた効果および問題を調べておくこと。  |
| 10 回 | 授業内容 | 産業立地に関する理論と実際(5)立地調整と地域（小テスト含む）<br>企業が事業展開を行っていく上で行う施設・機能の新設または再編がいかなる理由の下で展開しているのか、具体的な事例を踏まえて解説する。             |
|      | 事前学修 | 工業立地に関わる授業で取り上げた諸概念について整理しておくこと。   |
|      | 事後学修 | 任意の企業を対象に、1980年代から今日に至るまでの立地調整の展開を調べておくこと。   |
| 11 回 | 授業内容 | 中心地の立地理論とその応用(1)クリスタラーの中心地理論の概要とその意義<br>中心地理論の概要について「財の到達範囲」の概念を中心に解説する。都市の立地や階層性についても解説する。                      |
|      | 事前学修 | テキストの該当箇所を読み、中心地理論に関わるキーワードを整理しておくこと。  |
|      | 事後学修 | テキストと配布資料の内容を確認し、中心地理論の特徴を整理しておくこと。  |
| 12 回 | 授業内容 | 中心地の立地理論とその応用(2)中心地理論に関する実証的研究<br>中心地理論が現実の経済活動を説明できることを小売業・サービス業を事例に解説する。                                       |
|      | 事前学修 | 中心地理論の重要なポイントをノートに要約しておくこと。  |
|      | 事後学修 | 任意の小売業・サービス業を対象に、店舗立地の特徴を調べておくこと。  |
| 13 回 | 授業内容 | オフィス立地の理論と実際<br>オフィス立地に関する理論について説明する。企業の本社立地が特定の地域に集中する理由について解説する。   |
|      | 事前学修 | テキストの該当箇所を読んでおくこと。授業の終了が近いので、これまでの授業内容を再確認しておくこと。  |
|      | 事後学修 | テキストと配布資料の内容を確認し、オフィス立地の特徴を整理しておくこと。   |
| 14 回 | 授業内容 | 授業のまとめと理解度の確認<br>これまでの授業で扱った内容を熟読し、重要な点をノートに要約しておくこと。  |
|      | 事前学修 | これまでの授業で扱った内容を熟読し、重要な点をノートに要約しておくこと。   |
|      | 事後学修 | テキストと配布資料を利用して、授業で扱った内容を整理しておくこと。  |
| 15 回 | 授業内容 | 試験および解説<br>これまでの授業で扱った内容を熟読し、重要な点をノートに要約しておくこと。  |
|      | 事前学修 | これまでの授業で扱った内容を熟読し、重要な点をノートに要約しておくこと。   |
|      | 事後学修 | 授業の内容を確認・理解し、経済地理学とはどのような学問か、再確認すること。  |

- ◆**教科書** 丸沼『新版 地域と産業—経済地理学の基礎—』富田和暁著 原書房 2006 年  
〔当日資料配布〕必要に応じて配布する。
- ◆**参考書** 丸沼『日本経済地理読本 第9版』竹内淳彦・小田宏信編著 東洋経済新報社 2014 年  
丸沼『新版 経済地理学入門—地域の経済発展—』山本健児著 原書房 2005 年  
丸沼『現代の立地論』松原宏編著 古今書院 2013 年  
丸沼『キーワードで読む経済地理学』経済地理学会編 原書房 2018 年  
丸沼『経済地理学キーワード』青山裕子・ジェームズ・T・マーフィー・スーザン・ハンソン著 小田宏信・加藤秋人・遠藤貴美子・小室謙訳 古今書院 2014 年
- ◆**成績評価基準** 試験の結果（70%）、授業内を行う課題の結果（30%）。毎時間出席することを前提として評価する。

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔租税論〕

鶴藤 俊英

◆**授業概要** 日本の国家財政の収入源は、概ね税金である。国の財政状態の現状を把握・理解し、そこにある問題点を解決する方法を検討するのが、本講座の目的である。本講座では、税理士の実務経験を踏まえ、実際に施行されている租税制度を基に研究していく。初学者にも理解できるようにわかり易い補助教材・資料を用いて、具体的なテーマを設定の上、実社会でも問題とされている内容を基に授業を進めていくアクティブラーニング型講座である。

◆**学修到達目標** まず、日本の財政の現状が今後の国の在り方にどのように影響するのかを理解し、そこにある問題点を指摘・説明できる。次に、その問題点を解決するために必要と考えられる租税制度を提案し、その問題点を解決するために現行の租税制度をどのように改善すべきかを指摘できるようになる。さらに、あるべき租税制度を創案することができるようになる。

◆**授業方法** 各講義でのテーマについて、必要に応じて補助教材等を使用しながら解説する。各授業の最後に、そのテーマについてのリアクションペーパー（小論文等）を記述し、提出を求める。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |   |
|------|---|
| 1 回  | 授業内容：日本の財政状態の現状を把握する。<br>事前学修：ネットニュースなどで、事前に調べておくこと。<br>事後学修：当日配布資料で復習すること。                             |
| 2 回  | 授業内容：財政再建には何をすべきかを検討する。<br>事前学修：税金と国債について事前に調べておくこと。<br>事後学修：国債（借金）について再考すること。                          |
| 3 回  | 授業内容：税の基本的考え方（公平・中立・簡素）について説明する。<br>事前学修：身近な税金にはどんな税があるのかを事前に調べておくこと。<br>事後学修：「社会の会費」とは何を意味するのかを再考すること。 |
| 4 回  | 授業内容：現在の日本の租税体系について説明する。<br>事前学修：所得税、消費税について事前に調べておくこと。<br>事後学修：予算編成が意味するところを再考すること。                    |
| 5 回  | 授業内容：財政民主主義（租税法律主義）について説明する。<br>事前学修：税金を国民が負担しているということの意味を事前に調べておくこと。<br>事後学修：誰がどうやって税負担を決めたのかを再考すること。  |
| 6 回  | 授業内容：「パナマ文書」事件について説明する。<br>事前学修：ネットで「パナマ文書」を検索し、概要を調べておくこと。<br>事後学修：「パナマ文書」が抱える社会問題について再考すること。          |
| 7 回  | 授業内容：租税回避行為について説明する。<br>事前学修：節税、脱税について事前に調べておくこと。<br>事後学修：脱税と租税回避行為の境界について再考すること。                       |
| 8 回  | 授業内容：格差が社会にもたらす影響について説明する。<br>事前学修：現実にある格差について事前に調べておくこと。<br>事後学修：不公平社会における課税の公平について再考すること。             |
| 9 回  | 授業内容：低所得者に対する課税と「生活保護」について説明する。<br>事前学修：「生活保護」について事前に調べておくこと。<br>事後学修：課税最低限について再考すること。                  |
| 10 回 | 授業内容：少子高齢化社会について説明する。<br>事前学修：日本の未来について考えてみること。<br>事後学修：少子高齢化社会で担う「税」について再考すること。                        |
| 11 回 | 授業内容：「税と社会保障の一体改革」について説明する。<br>事前学修：政府が主張した説明を事前に調べておくこと。<br>事後学修：政府の取組（特に「税」）について再考すること。               |
| 12 回 | 授業内容：社会保障制度（年金）を概観する。<br>事前学修：基礎年金と厚生年金について事前に調べておくこと。<br>事後学修：年金制度について再考するとともに、そこに充てられる税について再考すること。    |
| 13 回 | 授業内容：社会保障制度（年金以外）を概観する。<br>事前学修：健康保険、介護保険、雇用保険について事前に調べておくこと。<br>事後学修：各種保険制度について、および税について再考すること。        |
| 14 回 | 授業内容：理解度の確認。<br>事前学修：リアクションペーパーに記した自分の考えをまとめておくこと。<br>事後学修：再考すべき問題点を再確認し、まとめておくこと。                      |
| 15 回 | 授業内容：試験および解説。<br>事前学修：前回の授業後にまとめたものと、教科書とを読み比べておくこと。<br>事後学修：本講座で指摘した問題点を再確認すること。                       |

◆**教科書** 丸沼『よくわかる税法入門 最新版』三木義一編著 有斐閣

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** 試験 70% 小論文 20% 授業参画度 10%

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内する。

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔金融論〕

谷川 孝美

- ◆**授業概要** 金融取引が行われる場を金融市場と言います。また、金融取引では銀行などの金融機関が重要な役割を果たしています。この講義では、金融に関する基本的な知識、理論を学び、多様な金融市場、金融機関の機能を理解し、また、戦後日本の金融制度の変遷を知ること、現代の金融問題を考える基礎を養うことを目的とします。
- ◆**学修到達目標** この講義では、わが国の金融制度を理解することを目指し、具体的には以下のことを目標とする。
1. 貨幣の定義、金利の決定などの基礎的な事柄を学び、説明できるようになる。
  2. 情報の非対称性、エージェンシー理論などを理解し、銀行などの金融仲介機関を説明できるようになる。
  3. 多様な金融市場を理解し、説明できるようになる。
  4. 日本における戦後の金融制度の変遷を理解し、説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 授業計画にそって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では、基本的な事柄を中心に、全体的かつ平易な解説をする予定です。授業計画を開講日数にあわせて分けますが、講義の進行状況によっては前後することもあります。また、理解度を確保するための小テストを実施する予定です。なお、この講義では中央銀行、金融政策は取り扱いません。
- ◆**履修条件** 令和元年東京スクーリング（10月期）『金融論』との積み重ね不可とはしませんが、同様の講義となります。
- ◆**授業計画**〔各90分〕

|     |   |
|-----|---|
| 1回  | 授業内容：授業の進め方・オリエンテーション・金融、金融市場とは何か<br>事前学修：事前配布資料、シラバスおよびテキストの「はじめに」をよく読んでおくこと。<br>事後学修：授業内で用いられた専門用語や説明を確認し、理解すること。                         |
| 2回  | 授業内容：貨幣の歴史、貨幣の定義<br>事前学修：事前配布資料およびテキスト第1章、第1,2節をよく読んでおくこと。<br>事後学修：配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。  |
| 3回  | 授業内容：貨幣供給と貨幣需要<br>事前学修：テキスト第1章、第3節貨幣の定義をよく読み、確認しておくこと。<br>事後学修：配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時紹介する資料を確認すること。                        |
| 4回  | 授業内容：金利の基本概念<br>事前学修：テキスト第2章、第2,3節をよく読むこと。<br>事後学修：配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、実際に金利計算をして理解を深めること。                                  |
| 5回  | 授業内容：金融における情報の非対称性問題（情報生産、フリーライド、重複問題）<br>事前学修：テキスト第3章、第3,4節をよく読み、情報生産、フリーライド、重複問題を確認すること。<br>事後学修：配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。        |
| 6回  | 授業内容：資金循環から見た日本の金融制度の特徴<br>事前学修：テキスト第6章、第2節をよく読むこと。<br>事後学修：配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。                     |
| 7回  | 授業内容：銀行の機能と役割<br>事前学修：テキスト第7章、第1節銀行をよく読み、確認しておくこと。<br>事後学修：配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。  |
| 8回  | 授業内容：信用創造とは何か<br>事前学修：テキスト第7章、第1節銀行をよく読むこと。また、第2回、第5回の講義内容を良く確認し理解しておくこと。<br>事後学修：配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、実際に信用乗数を計算して理解を深めること。 |
| 9回  | 授業内容：日本の金融市場1（インターバンク市場、短期金融市場）<br>事前学修：テキスト第5章、第1,2節をよく読むこと。<br>事後学修：配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。           |
| 10回 | 授業内容：日本の金融市場2（長期金融市場）<br>事前学修：テキスト第5章、第1,2節をよく読むこと。<br>事後学修：配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。                     |
| 11回 | 授業内容：日本の金融市場3（金融派生商品市場、外国為替市場）<br>事前学修：テキスト第5章、第1,2節をよく読むこと。<br>事後学修：配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。            |
| 12回 | 授業内容：金融制度の戦後史1（競争制限的規制）<br>事前学修：テキスト第6章、第3節日本の金融システムの歴史をよく読むこと。<br>事後学修：配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。                                   |
| 13回 | 授業内容：金融制度の戦後史2（金融の自由化、規制緩和、日本版ビッグバン）<br>事前学修：テキスト第6章、第3節日本の金融システムの歴史をよく読むこと。<br>事後学修：配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。                      |
| 14回 | 授業内容：理解度の確認<br>事前学修：配布された資料を熟読し、内容を確認しておくこと。<br>事後学修：配布資料やテキスト、参考書などで、講義内容をよく確認し理解すること。   |
| 15回 | 授業内容：試験および解説<br>事前学修：前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。<br>事後学修：今回の授業内容を再確認し、理解を深めること。  |

- ◆**教科書** **事前資料送付**  
〔当日資料配布〕必要に応じてプリント配布予定  
教材『金融論 R31800』通信教育教材（教材コード000540）
- ◆**参考書** 凡例『ベーシックプラス 金融論 第2版』家森信善 中央経済社 2018年  
凡例『日本の金融制度 第3版』鹿野嘉昭 東洋経済新報社 2013年  
講義時に適宜紹介します。
- ◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、最終試験を中心に授業への取り組み、平常点などにより総合的に評価します。

## 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔社会科・地理歴史科教育法Ⅰ〕 オープン受講：不可

ト部 勝彦

◆**授業概要** 本授業は、文部科学省初等中等教育局での官職経験を踏まえ、中学校社会科及び高等学校地理歴史科における次期学習指導要領の諸内容と背後の学問分野との関係、および授業設計や学習評価などを説明する。

◆**学修到達目標** 本授業では次の1)～3)を到達目標としている。1)中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習指導要領の目標・内容を理解し説明できる。2)地理教育と関係する地理学をはじめとする学問分野を踏まえた教材研究ができる。3)地図などの地理的技能を駆使した授業の設計とその指導、学習評価などができる。

◆**授業方法** 本授業は、次期学習指導要領における地理教育の即戦力的な指導者養成を目的とした教科教育法の特徴を踏まえ、講義形式および情報機器活用やアクティブ・ラーニングでの模擬授業、地図実習も予定している。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

|     |      |   |
|-----|------|---|
| 1回  | 授業内容 | 中教審答申と学習指導要領改訂からみた中学校社会科・高等学校地理歴史科  |
|     | 事前学修 | 文部科学省HPから次期学習指導要領のねらいを確認した上で、中学・高校の学習経験を振り返り、その相違点を発表できるようにしておくこと。                                  |
|     | 事後学修 | 授業内容を振り返って整理し、今後の学修内容につなげること。   |
| 2回  | 授業内容 | 中学校社会科地理的分野における学習指導要領の内容A「世界と日本の地域構成」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その1】～              |
|     | 事前学修 | 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んだ上で、中学校社会科地理的分野の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。                                       |
|     | 事後学修 | 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。   |
| 3回  | 授業内容 | 中学校社会科地理的分野における学習指導要領の内容B「世界の様々な地域」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その2】～                |
|     | 事前学修 | 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んだ上で、中学校社会科地理的分野の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。                                       |
|     | 事後学修 | 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。   |
| 4回  | 授業内容 | 中学校社会科地理的分野における学習指導要領の内容C「日本の様々な地域」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その3】～                |
|     | 事前学修 | 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んだ上で、中学校社会科地理的分野の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。                                       |
|     | 事後学修 | 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。   |
| 5回  | 授業内容 | 高等学校地理歴史科「地理総合」における学習指導要領の内容A「地図や地理情報システムで捉える現代世界」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その4】～ |
|     | 事前学修 | 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んだ上で、高等学校地理歴史科「地理A」の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。                                    |
|     | 事後学修 | 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。   |
| 6回  | 授業内容 | 高等学校地理歴史科「地理総合」における学習指導要領の内容B「国際理解と国際協力」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その5】～           |
|     | 事前学修 | 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んだ上で、高等学校地理歴史科「地理A」の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。                                    |
|     | 事後学修 | 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。   |
| 7回  | 授業内容 | 高等学校地理歴史科「地理総合」における学習指導要領の内容C「持続可能な地域づくりと私たち」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その6】～      |
|     | 事前学修 | 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んだ上で、高等学校地理歴史科「地理A」の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。                                    |
|     | 事後学修 | 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。   |
| 8回  | 授業内容 | 高等学校地理歴史科「地理探究」における学習指導要領の内容A「現代世界の系統地理的考察」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その7】～        |
|     | 事前学修 | 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んだ上で、高等学校地理歴史科「地理B」の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。                                    |
|     | 事後学修 | 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。   |
| 9回  | 授業内容 | 高等学校地理歴史科「地理探究」における学習指導要領の内容B「現代世界の地誌的考察」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その8】～          |
|     | 事前学修 | 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んだ上で、高等学校地理歴史科「地理B」の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。                                    |
|     | 事後学修 | 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。   |
| 10回 | 授業内容 | 高等学校地理歴史科「地理探究」における学習指導要領の内容C「現代世界におけるこれからの日本の国土像」と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その9】～    |
|     | 事前学修 | 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んだ上で、高等学校地理歴史科「地理B」の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。                                    |
|     | 事後学修 | 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。   |
| 11回 | 授業内容 | 中学校社会科地理的分野の学習指導案作成と模擬授業および学習評価～授業実践とその改善の模索【その1】～  |
|     | 事前学修 | 指定された単元1時間分の教材研究を徹底するとともに、各自が学習指導案を作成して模擬授業に備えておくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業内容を振り返って整理し、改善すべきポイントや課題の確認を行いながら今後の教育実習に備えておくこと。   |
| 12回 | 授業内容 | 高等学校地理歴史科「地理総合」の学習指導案作成と模擬授業および学習評価～授業実践とその改善の模索【その2】～  |
|     | 事前学修 | 指定された単元1時間分の教材研究を徹底するとともに、各自が学習指導案を作成して模擬授業に備えておくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業内容を振り返って整理し、改善すべきポイントや課題の確認を行いながら今後の教育実習に備えておくこと。   |
| 13回 | 授業内容 | 高等学校地理歴史科「地理探究」の学習指導案作成と模擬授業および学習評価～授業実践とその改善の模索【その3】～  |
|     | 事前学修 | 指定された単元1時間分の教材研究を徹底するとともに、各自が学習指導案を作成して模擬授業に備えておくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業内容を振り返って整理し、改善すべきポイントや課題の確認を行いながら今後の教育実習に備えておくこと。   |
| 14回 | 授業内容 | 近年における地理教育の動向～中学校の事例～   |
|     | 事前学修 | 指定された近年における地理教育のトピックについて予習しておくこと。   |
|     | 事後学修 | これまでの授業内容を振り返って整理し、新たな中学校社会科地理的分野の教科教育の特色を再確認しておくこと。  |
| 15回 | 授業内容 | 近年における地理教育の動向～高等学校の事例～  |
|     | 事前学修 | 指定された近年における地理教育のトピックについて予習しておくこと。   |
|     | 事後学修 | これまでの授業内容を振り返って整理し、新たな高等学校地理歴史科「地理総合」「地理探究」の教科教育の特色を再確認しておくこと。                                      |

◆**教科書** 図説『社会科・地理歴史科教育法Ⅰ T23600』 通信教育教材（教材コード000587／000589）  
〈この教材は市販の『中学校学習指導要領解説社会編／高等学校学習指導要領解説地理歴史編』文部科学省（東洋館出版社）と同一です。〉文部科学省のHPよりダウンロード可能です。

◆**参考書** 図説『文部科学省検定教科書 中学校社会科地図』 帝国書院編集部編（2018） 帝国書院  
図説 現行版の「中学校社会科地理的分野」の文部科学省検定教科書（出版社は任意）  
図説 現行版の高等学校「地理歴史科地理Aおよび地理B」の文部科学省検定教科書（出版社は任意）

◆**成績評価基準** 成績は授業内容の理解などを確認する小テスト、模擬授業に向けた学習指導案や地図実習の提出物、授業の参画度等をもとにして、総合的に評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に指示する。

注意



| 第3期                |             | 8/17～8/22 |     |   |
|--------------------|-------------|-----------|-----|---|
| 講座名                | 担当教員        | シラバス変更    | 受講者 | 備考  |
| 美術史                | 森下 和貴子      |           | 全   |   |
| 総合科目Ⅰ～Ⅵ            | 根岸 良征       |           | 75  |   |
| ドイツ語Ⅰ・Ⅱ            | 志田 慎        |           | 全   | <del>シラバス未掲載</del>  |
| 英語Ⅰ～Ⅳ              | 小田井 勝彦      | あり        | 全   | <del>シラバス未掲載</del>  |
| 英語Ⅰ～Ⅳ              | 寒河江 融       | あり        | 50  |   |
| 英語Ⅴ                | 島本 信一郎      |           | 全   |   |
| 保健体育講義Ⅰ            | 高橋 正則・水落 文夫 |           | 75  | 月～水の3日間の動画配信  |
| 民法Ⅲ                | 田中 夏樹       | あり        | 75  |   |
| 知的財産権法             | 安田 和史       |           | 全   | <del>シラバス未掲載</del>  |
| 政治学原論              | 吉野 篤        |           | 全   | 昼間受講不可  |
| 経済政策総論/経済政策        | 周藤 利一       |           | 全   |   |
| かな書法               | 山本 まり子      | あり        | 全   | 前半（ZOOM）  |
| 異文化間コミュニケーション概論    | 大庭 香江       | あり        |     | <del>シラバス未掲載</del>  |
| 英語音声学              | 森 晴代        | あり        | 75  | 昼間受講不可  |
| 英文法                | 山岡 洋        | あり        | 全   |   |
| 英米文学特殊講義           | 猪野 恵也       |           | 75  |   |
| イギリス文学史Ⅰ           | 野呂 有子       | あり        | 全   |   |
| 英語学演習Ⅰ～Ⅲ           | 田中 竹史       |           | 30  | 前半  |
| 英作文Ⅱ               | アレックス ブラウン  |           | 全   |   |
| 哲学基礎講義             | 中澤 瞳        |           | 全   | <del>シラバス未掲載</del>  |
| 古文書学               | 渡邊 浩史       |           | 全   |   |
| 経済地理学/経済地理         | 清水 和明       |           | 75  |   |
| 租税論                | 鷗藤 俊英       |           | 全   |   |
| 金融論                | 谷川 孝美       |           | 全   |   |
| 簿記論Ⅰ               | 林 徳順        | あり        | 50  |   |
| 商法                 | 金澤 大祐       | あり        | 全   |   |
| 現代教職論              | 杉森 知也       | あり        | 30  | 前半（ZOOM）  |
| 社会科・地理歴史科教育法Ⅱ※     | 宇内 一文       | あり        | 30  | 前半（最終日対面）   |
| 道徳教育の理論と方法/道徳教育の研究 | 李 吉魯        | あり        | 50  | 後半（MEET）  |
| 社会科・地理歴史科教育法Ⅰ      | 卜部 勝彦       |           | 30  | 前半（ZOOM）<br>【履修条件】1）自宅でのPC利用で定額制によるブロードバンドの通信環境が整っていること 2）プリント出力・スキャン入力に即応できること 3）ある程度PC操作に慣れていること 4）事前課題を意欲的に取り組めること |
| 国語科教育法Ⅲ            | 野澤 拓夫       |           | 30  | 前半 <del>シラバス未掲載</del>   |
| 博物館情報・メディア論※       | 小林 克        | あり        | 全   | 最終日ZOOM利用   |
|                    |             |           |     |   |

変更シラバスは後日掲載します

黄色：市ヶ谷校舎での面接授業（3日間授業）

オレンジ：ライブ配信授業（3日間授業）

白：Google classroomによる映像配信授業（月曜日～土曜日6日間授業）

前半：8月17日～8月19日（9：00～17：30）3日間のみの授業

後半：8月20日～8月22日（9：00～17：30）3日間のみの授業

※社会科・地理歴史科教育法Ⅱは1・2日目は動画配信授業、3日目対面（市ヶ谷）です。

※博物館情報・メディア論（6日間）は最終日のみZOOMを使用

# 講座内容（シラバス）

## 〔ドイツ語Ⅰ・Ⅱ〕

志田 慎

◆**授業概要** 「聴く」、「読む」、「話す」、「書く」の四つの基本能力をバランスよく磨いて、ドイツ語技能検定5級から4級レベルの総合的なドイツ語力を身につけます。

◆**学修到達目標** 「聴く」、「読む」、「話す」、「書く」の四つの基本能力をバランスよく身につける。ドイツ語技能検定5級から4級レベルの総合的なドイツ語力を身につける。

◆**授業方法** 1. 各課のダイアログをCDで聴き、みなで真似て発音練習します。これを数回繰り返します。  
2. 教科書の例文を用いて文法事項を解説します。  
3. 練習問題をみなさんに解いてもらい、担当教員が添削します。  
本授業の事前学修・事後学修の時間は各0.5時間を目安としています。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

|     |  |
|-----|--|
| 1回  | 授業内容：アルファベット／発音のポイント<br>事前学修：付録CDを聴いてみること。<br>事後学修：付録CDを聴いて発音練習すること。   |
| 2回  | 授業内容：発音のポイント／Lektion 1（動詞の現在人称変化）<br>事前学修：付録CDを聴いてみること。教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。<br>事後学修：付録CDを聴いて発音練習すること。授業で学習した部分を読みなおすこと。 |
| 3回  | 授業内容：Lektion 1（動詞の現在人称変化）<br>事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。<br>事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。                                       |
| 4回  | 授業内容：Lektion 2（seinとhabenの現在人称変化）<br>事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。<br>事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。                               |
| 5回  | 授業内容：Lektion 2（seinとhabenの現在人称変化）／小テスト<br>事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。<br>事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。                          |
| 6回  | 授業内容：小テストの解説／Lektion 3（wissenの現在人称変化）<br>事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。<br>事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。                           |
| 7回  | 授業内容：Lektion 3（wissenの現在人称変化）／Lektion 4（fahrenの現在人称変化）<br>事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。<br>事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。          |
| 8回  | 授業内容：Lektion 4（fahrenの現在人称変化）／Lektion 5（動詞の語幹の中の母音がeからiに変わる動詞）<br>事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。<br>事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。  |
| 9回  | 授業内容：Lektion 5（動詞の語幹の中の母音がeからiに変わる動詞）／復習<br>事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。<br>事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。                        |
| 10回 | 授業内容：復習／小テスト<br>事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。<br>事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。  |
| 11回 | 授業内容：小テストの解説／Lektion 6（助動詞 können の現在人称変化）<br>事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。<br>事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。                      |
| 12回 | 授業内容：Lektion 6（助動詞 können の現在人称変化）／Lektion 7（分離動詞の仕組み）<br>事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。<br>事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。          |
| 13回 | 授業内容：Lektion 7（分離動詞の仕組み）／<br>事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。<br>事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。                                       |
| 14回 | 授業内容：復習／理解度の確認<br>事前学修：教科書の該当部分を読んでおくこと。<br>事後学修：これまでに学習した内容を確認すること。   |
| 15回 | 授業内容：試験及び解説<br>事前学修：教科書の該当部分を読んでおくこと。<br>事後学修：これまでに学習した内容を確認すること。  |

◆**教科書** 丸沼『ドイツ・サラダ [DVD付]』 保阪良子著 朝日出版社 2010年

◆**参考書** 丸沼 独和辞典を必ず持参してください。推奨は『クラウン独和辞典』三省堂

◆**成績評価基準** 最終試験 50%、平常点（練習問題、小テストなど）50%により総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔英語〕

小田井 勝彦

◆**授業概要** 英語はヨーロッパの多くの言語や中国語などアジアの多くの言語が属する「インド・ヨーロッパ語族」の言語のひとつであるが、日本語はその語族には属していない。それゆえ英語と日本語では言語構造が大きく異なることとなり、日本人が英語を習得するためには文法知識をしっかりと身につけることが必須のこととなる。担当教員は翻訳実務経験があり、この授業ではその経験を伝えながら、学生が英文法をしっかりと習得し、英文を正確に理解できるようになることを目標とする。

◆**学修到達目標** ・英語でのコミュニケーションに必要な語彙、表現を習得する  
・体系的に英文法を理解し、正確に英語の文章を理解できるようになる  
・英文におけるニュアンスを的確にとらえ、日本語に翻訳することができる  
・日本語と英語の違いについて理解する  
・英語圏の文化を知る

◆**授業方法** 学生は事前に各章の文法説明を読み、知らない語句は辞書を引きながら、各章の例文を読み疑問点を整理しておく。授業では各章の重要な文法事項の解説、例文のポイントを解説します。授業における解説を参考に教科書の例文の和訳に取り組み、リアクションペーパーを提出していただきます。提出の締め切り後、模範解答・解説を提示します。

◆**履修条件** 同講師による昼間スクーリングとの積み重ね不可

◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 回  | 授業内容 | Chapter 1 品詞と文                                     |
|      | 事前学修 | 教科書の説明と例文に目を通し、英語の品詞にはどのようなものがあるか、文構造はどうなっているかを考える |
|      | 事後学修 | 品詞と5文型、文構造を意識しながら、リアクションペーパーを作成・提出する               |
| 2 回  | 授業内容 | Chapter 2 時制と時制の一致                                 |
|      | 事前学修 | 教科書の説明と例文に目を通し、時制にはどのような種類があるかを把握する                |
|      | 事後学修 | 各文の時制の違いを意識しながら、リアクションペーパーを作成・提出する                 |
| 3 回  | 授業内容 | Chapter 3 助動詞                                      |
|      | 事前学修 | 教科書の説明と例文に目を通し、助動詞にどのような種類があるのかを確認する               |
|      | 事後学修 | 助動詞それぞれに複数ある意味を考えながら、リアクションペーパーを作成・提出する            |
| 4 回  | 授業内容 | Chapter 4 態  |
|      | 事前学修 | 教科書の説明と例文に目を通し、能動態と受動態の違いについて考える                   |
|      | 事後学修 | 様々な形の受動態があることを意識しながら、リアクションペーパーを作成・提出する            |
| 5 回  | 授業内容 | Chapter 5 不定詞                                      |
|      | 事前学修 | 教科書の説明と例文に目を通し、不定詞の用法について考える                       |
|      | 事後学修 | 不定詞の様々な用法を考えながら、リアクションペーパーを作成・提出する                 |
| 6 回  | 授業内容 | Chapter 6 動名詞                                      |
|      | 事前学修 | 教科書の説明と例文に目を通し、動詞が名詞のように使われる動名詞の特徴を捉える             |
|      | 事後学修 | 動名詞の様々な使われ方を意識しながら、リアクションペーパーを作成・提出する              |
| 7 回  | 授業内容 | Chapter 7 分詞                                       |
|      | 事前学修 | 教科書の説明と例文に目を通し、分詞には様々な用法があることを概観する                 |
|      | 事後学修 | 分詞の様々な用法を確認し、リアクションペーパーを作成・提出する                    |
| 8 回  | 授業内容 | Chapter 8 比較                                       |
|      | 事前学修 | 教科書の説明と例文に目を通し、原級・比較級・最上級について考える                   |
|      | 事後学修 | 比較の表現をしっかりと理解し、リアクションペーパーを作成・提出する                  |
| 9 回  | 授業内容 | Chapter 9 関係詞                                      |
|      | 事前学修 | 教科書の説明と例文に目を通し、関係代名詞・関係副詞にはどのような種類があるのかを確認する       |
|      | 事後学修 | 修飾・非修飾の関係をしっかりと捉え、リアクションペーパーを作成・提出する               |
| 10 回 | 授業内容 | Chapter 10 仮定法                                     |
|      | 事前学修 | 教科書の説明と例文に目を通し、仮定法とは何かについて考える                      |
|      | 事後学修 | 仮定法が使われた様々な表現を理解して、リアクションペーパーを作成・提出する              |
| 11 回 | 授業内容 | Chapter 11 否定                                      |
|      | 事前学修 | 教科書の説明と例文に目を通し、否定の表現にはどのようなものがあるのかを知る              |
|      | 事後学修 | 否定表現のニュアンスの違いを意識しながら、リアクションペーパーを作成・提出する            |
| 12 回 | 授業内容 | Chapter 12 強調・倒置・同格・挿入・省略・名詞構文・無生物主語等              |
|      | 事前学修 | 教科書の説明と例文に目を通し、様々な特殊な表現があることを認識する                  |
|      | 事後学修 | 様々な特殊表現の特徴を認識し、リアクションペーパーを作成・提出する                  |
| 13 回 | 授業内容 | Chapter 13 名詞と冠詞                                   |
|      | 事前学修 | 教科書の説明と例文に目を通し、名詞に様々な種類があることを知る                    |
|      | 事後学修 | 文脈の中での名詞の使われ方を意識し、リアクションペーパーを作成・提出する               |
| 14 回 | 授業内容 | Chapter 14 代名詞                                     |
|      | 事前学修 | 教科書の説明と例文に目を通し、様々な代名詞があることを知る                      |
|      | 事後学修 | 代名詞が何を指しているのかを考え、リアクションペーパーを作成・提出する                |
| 15 回 | 授業内容 | Chapter 15 形容詞と副詞                                  |
|      | 事前学修 | 教科書の説明と例文に目を通し、形容詞と副詞の違いを考える                       |
|      | 事後学修 | 形容詞と副詞の様々な用法を確認し、リアクションペーパーを作成・提出する                |

◆**教科書** 『読む力を伸ばす英文法－実践的例文を中心に－』（朝日出版社、2013）

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 各日の課題（計6回）60%、最終レポート 40%

◆**授業相談（連絡先）：**

注意

◆**授業概要** 英語の小説というとても非常に難解なもの、という印象を持ちます。実際にベストセラーになっている長編小説や、名作と呼ばれる古典作品などは、生半可な知識では読み切れないものです。しかしながら、中学・高校で学んだ知識と辞書があれば、大体の短編小説は読むことができます。本授業では、わかりやすい文章の超短編推理小説を読み、わからない文に解説を加えて、より良く作品を理解し楽しむことを心掛ける。高校生に英語を教えていることをこの授業にも反映している。

◆**学修到達目標**

- ・わからない文章に対して文法的に解説をし、これまでに学んできた英文法の知識を再確認することで、文法知識を身に付けることができる。
- ・本授業でおさらいした文法知識で正確に英文を読むことができる。
- ・辞書があれば英文が読める事を実感し、英文を読む自信をつけることができる。
- ・謎を解く事で、文化や知識を深めることができる。

◆**授業方法** 動画による授業となります。動画内の解説を聞き、文法事項のおさらいをしつつ、文書を正確に把握してもらい、その確認を踏まえて物語の謎解きをしていきます。情景描写や表現などの、英文ならではの面白さも説明します。まず自分で意味を考えて下さい。その際、間違えることは問題ないです。解説を聞いて、なぜ間違ったかを確認します。わからないところを見つけるのも学習の一つです。なぜそのような意味になるのかはしっかりと説明しますので、きちんと理解するようにしてください。また、テキストについている問題を通して、文法知識の定着も目標とします。内容を把握した段階で謎解きをします。動画内での解説や、謎解きの考え方などをしっかりと理解しないと、最終レポートの問題が解けなくなります。身につくようにきちんとノートを取り、レポート作成の参考にできるようにしてください。

◆**授業計画**

|    |      |  |
|----|------|--|
| 1回 | 授業内容 | 教科書ガイダンス。Unit 11 から読み進めます。文章の精読。文法説明。                          |
|    | 事前学修 | わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。                        |
|    | 事後学修 | 授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。                                  |
| 2回 | 授業内容 | Unit 11 を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 11 終了。Unit 12 の導入。         |
|    | 事前学修 | わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。                        |
|    | 事後学修 | 授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 11 の謎解きを Reaction Paper に書く。 |
| 3回 | 授業内容 | Unit 12 を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 12 終了。Unit 13 の導入。         |
|    | 事前学修 | わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。                        |
|    | 事後学修 | 授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 12 の謎解きを Reaction Paper に書く。 |
| 4回 | 授業内容 | Unit 13 を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 13 終了。Unit 14 の導入。         |
|    | 事前学修 | わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。                        |
|    | 事後学修 | 授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 13 の謎解きを Reaction Paper に書く。 |
| 5回 | 授業内容 | Unit 14 を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 14 終了。Unit 15 の導入。         |
|    | 事前学修 | わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。                        |
|    | 事後学修 | 授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 14 の謎解きを Reaction Paper に書く。 |
| 6回 | 授業内容 | Unit 15 を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 15 終了。Unit 16 の導入。         |
|    | 事前学修 | わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。                        |
|    | 事後学修 | 授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 15 の謎解きを Reaction Paper に書く。 |
| 7回 | 授業内容 | Unit 16 を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 16 終了。Unit 17 の導入。         |
|    | 事前学修 | わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。                        |
|    | 事後学修 | 授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 16 の謎解きを Reaction Paper に書く。 |
| 8回 | 授業内容 | Unit 17 を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 17 終了。Unit 18 の導入。         |
|    | 事前学修 | わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。                        |
|    | 事後学修 | 授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 17 の謎解きを                     |

|     |      |  |
|-----|------|--|
|     |      | Reaction Paper に書く。  |
| 9回  | 授業内容 | Unit 18 を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 18 終了。Unit 19 の導入。         |
|     | 事前学修 | わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。                        |
|     | 事後学修 | 授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 18 の謎解きを Reaction Paper に書く。 |
| 10回 | 授業内容 | Unit 19 を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 19 終了。Unit 20 の導入。         |
|     | 事前学修 | わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。                        |
|     | 事後学修 | 授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 19 の謎解きを Reaction Paper に書く。 |
| 11回 | 授業内容 | Unit 20 を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 20 終了。Unit 21 の導入。         |
|     | 事前学修 | わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。                        |
|     | 事後学修 | 授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 20 の謎解きを Reaction Paper に書く。 |
| 12回 | 授業内容 | Unit 21 を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 21 終了。Unit 22 の導入。         |
|     | 事前学修 | わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。                        |
|     | 事後学修 | 授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 21 の謎解きを Reaction Paper に書く。 |
| 13回 | 授業内容 | Unit 22 を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 22 終了。Unit 23 の導入。         |
|     | 事前学修 | わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。                        |
|     | 事後学修 | 授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 22 の謎解きを Reaction Paper に書く。 |
| 14回 | 授業内容 | Unit 23 を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 23 終了。Unit 24 の導入。         |
|     | 事前学修 | わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。                        |
|     | 事後学修 | 授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 23 の謎解きを Reaction Paper に書く。 |
| 15回 | 授業内容 | Unit 24 を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 24 終了。Report の説明。          |
|     | 事前学修 | わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。                        |
|     | 事後学修 | 試験を含めたスクーリング全体で学んだことをおさらいし、Report を作成する。                       |

◆教科書 Solve the Mystery and Improve Your English Reading Skills ミステリーを読んで英語のスキルアップ  
Donald J. Sobol 著英宝社 1,800円＋税

◆参考書(参考文献等) 指定しない。

◆成績評価基準 Reaction paperの提出(およそ40%)・最終レポート(およそ60%)により総合的に評価します。動画を全て視聴することが前提となります。そこで課されるReaction Paperを出さないことは、授業を受けていないことを意味しますので、単位認定から外れることになります。



# 講座内容（シラバス）

## 〔民法Ⅲ〕

田中 夏樹

◆**授業概要** 本授業では、民法の債権総論を取り扱う。人からお金を借りた場合（消費貸借契約）や人と物の売買を行った場合（売買契約）のような人に対する権利（債権）について、具体的な契約類型に関する規律（債権各論の分野）ではなく、債権に共通した事柄を扱うものである。担当教員は元弁護士であり、実務上の取り扱いや具体的な事例等の言及を交えながら解説を行う。

◆**学修到達目標** 債権の発生、効果、消滅に至るまでのプロセスを中心とした判例や学説の解説を通じて、債権法の位置づけや債権法の機能について学び、債権法の位置づけや債権が発生してから消滅するまでの各段階についての基本的な知識を習得し、自らの言葉で説明できるようになることを目的とするが、演習問題を行うことで、実際に身につけた知識を活用し、物事を論理的、合理的かつ批判的に考察できるようにすることを目指す。

◆**授業方法** 基本的に講義形式にて債権法の解説を行うが、実際に身につけた知識を活用できるようにするため、単元ごとに演習問題を行うことを想定している。試験によって成績評価を行うため、試験後に授業内にて試験の解説等を行う。また、本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としている。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |                      |   |
|------|----------------------|---|
| 1 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 授業の内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、債権総論の授業進行方法や学習方法について説明し、受講生の今後の学習準備を行う。成績評価等の質問も受け付ける。<br>シラバスを確認するとともに、教科書の債権総論の導入部分を読み、債権総論の民法上の位置づけを理解する。（2時間）<br>授業内容で言及した学習方法を再確認し、到達度を踏まえた学習計画を検討する。（2時間）   |
| 2 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 民法の体系と債権法の位置づけ<br>債権法は民法の一分野であり、債権法が民法上どのような位置づけにあり、どのような性質を有しているかを物権法等と比較しながら学習する。<br>教科書の該当箇所を確認し、債権法が同じ財産法である物権法と位置づけがどのように異なっているかを確認し、不明点を明らかにする。（2時間）<br>特に物権法とどのように役割や機能が違うかについて、何故違うのか、何故そのような役割が与えられているかを自分なりに検討し、事前学習の疑問点を解消できたか確認する。（2時間）   |
| 3 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 債権の種類<br>債権の中にも種類物債権や特定物債権など様々な種類の債権が存在し、それぞれ性質が異なっている。これらの債権の分類と性質について解説を行う。<br>教科書の該当箇所を確認し、債権の中でもどのような種類の債権が存在し、どのような性質を有しているのかを理解し、教科書の該当範囲に目を通しておく。（2時間）<br>何故そのような分類を必要とすることがあり、分類にはどのような意味があるのかについて具体的な債権と関連付けて説明ができるようにする。（2時間）   |
| 4 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 債務不履行1<br>債務不履行について、なぜそのような制度が必要であるか、制度が機能するのはどのような場面かについて解説し、債務不履行制度の概要について理解することを目的とする。<br>教科書の該当箇所を確認し、債務不履行について制度の目的や要件を理解し、教科書の該当範囲に目を通し、授業前に不明点を明らかにしておく。（2時間）<br>債務不履行制度はいくつかの類型に分類されるが、何故そのような必要があるのか、制度趣旨等と関連付けて説明ができるようにする。（2時間）  |
| 5 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 債務不履行2<br>債務不履行について、前回の授業で扱った類型に応じて異なる要件が求められており、類型ごとの性質を踏まえてなぜそのような要件が必要となるのかを解説する。<br>教科書の該当箇所を確認し、債務不履行制度について、制度の目的を踏まえ、どのような法律上の要件が求められているか、分類によって要件がどう異なるのかを確認する。（2時間）<br>債務不履行の要件について、何故そのような理解となるのか、制度趣旨や債務不履行の類型ごとの性質と関連させて説明ができるようにする。（2時間）  |
| 6 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 債務不履行3<br>債務不履行について、債務不履行はその効果として契約そのものを溯及的に無効にする手段や契約が存在することを前提として損害賠償請求を行う手段など複数の手段が存在しており、各手段の性質を比較しながら説明する。<br>教科書の該当箇所を確認し、前回までに扱った類型や要件についての理解を確認するとともに、債務不履行の効果について、なぜそのような効果が認められるのかを検討する。（2時間）<br>債務不履行の効果について、そのような効果がなぜ認められるのか、複数の効果を選択できる場合には、どのような目的の違いが認められるのかを説明できるようにする。（2時間） |
| 7 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 受領遅滞<br>受領遅滞は、債権者側の責任の問題であり、一般的な債務不履行が債務者の責任であることと区別される。債務不履行制度との比較を通じて受領遅滞制度を解説する。<br>教科書の該当箇所を確認し、一般的な債務不履行制度と受領遅滞制度がどのように異なるか、制度趣旨や目的について確認をする。（2時間）<br>受領遅滞という概念の必要性や法的性質について、債務不履行制度との相違を説明できるか確認し、何故そのような理解が求められるのか確認する。（2時間）   |
| 8 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 責任財産の保全1<br>債務者から資金を回収する際に、債務者に財産がなければ空振りしてしまうため、民法上どのような債務者の責任財産を保つ仕組みが用意されているのかを解説する。<br>教科書の該当箇所を確認し、責任財産とは何か、責任財産を保全する目的は何かといった概要を確認しておく。（2時間）<br>責任財産を保全する必要性と債権者代位権の制度趣旨や機能について具体的な事例を念頭に説明ができるようにする。（2時間）  |
| 9 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 責任財産の保全2<br>責任財産の保全には、債権者代位権と詐害行為取消権とが民法上存在しているが、それぞれ適用場面が異なっており、どのような事情があればいずれの手段を選択するべきであるのかを解説する。<br>教科書の該当箇所を確認し、債権者代位権と詐害行為取消権の機能や目的の違いを予め確認し、どのような場面で機能するのかを考えてみる。（2時間）<br>責任財産の保全について、債権者代位権と詐害行為取消権を念頭に置き、法的な手段の区分と要件及び効果を制度趣旨と関連させて説明ができるようにする。（2時間）                                 |
| 10 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 連帯債務<br>多数当事者の中で最も重要な概念の一つである連帯債務について、債務者が複数人存在し、かつ、連帯して債務を負っている場合にどのような影響関係があるかを解説する。<br>教科書の該当箇所を確認し、連帯債務とはどのような当事者が登場し、どのような債権関係に立っているか概要を確認する。（2時間）<br>連帯債務は、債権者にとってどういったメリットのある制度であり、どのような制度設計が念頭に置かれているかを理解し、債権者の権利の拡張を説明できるようにする。（2時間）   |
| 11 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 保証債務<br>保証制度は主として債権者の債権を強化する目的で利用されるが、他方で保証人が不当に害されることを防ぐ必要がある。民法が各当事者の利害関係にどのような配慮をした制度を用意しているかを解説する。<br>教科書の該当箇所を確認し、保証債務の場合に、連帯債務とどのように異なるかを意識して、保証制度の機能や目的を確認しておく。（2時間）<br>保証債務について、制度趣旨の違いを踏まえ、連帯債務者の場合と比較してどのような立法的な保護がなされているのかを理解し、説明ができるようにする。（2時間）                                   |
| 12 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 債権譲渡<br>債権譲渡はかつては否定されていた制度であるが、近代に近づくにつれて積極的に活用されるようになった制度であり、債権譲渡を活用することの利点と不都合性としてどのようなものがあるかを解説する。<br>教科書の該当箇所を確認し、債権譲渡の制度について、どのような目的の制度であるか、どのような場面で活用される制度であるかを確認する。（2時間）<br>債権譲渡がどのような目的で行われる制度であるか、債権譲渡のやり方にはどのような類型があるのかを理解し、債務者・債権者・第三者の状況に応じてどのような手法が妥当であるかを考えられるようにする。（2時間）       |
| 13 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 債務消滅<br>発生した債権がどのようにして消滅するのかについて、総論的な解説を行う。債権の消滅に関しては、債権者と債務者の利害関係が対立するため、どのような調整がなされるのかといった観点から解説を行う。<br>教科書の該当箇所を確認し、債務が消滅するのはどういった類型が存在するかを確認し、弁済についての該当箇所を確認する。（2時間）<br>債務が消滅する法制度間の差異を理解し、各制度ごとの論点や特徴としてどのようなものがあるか、なぜそのような問題が生じるのかといったことを順序立てて説明できるようにする。（2時間）                          |
| 14 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 債権総論まとめ<br>債権法総論の授業のまとめとなる解説を合わせて行う。<br>これまでの授業内容を復習する。（2時間）<br>授業内容のまとめを踏まえ、不明点を整理して次回の授業までに質問事項を整理しておく。（2時間）  |
| 15 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 最終試験としてレポート試験を課す。また、債権法と他の法領域についての関係性にも言及し、履修計画の一助にしたい。<br>前回までの授業の復習を行い、理解できているところとできていないところを分け、不明点を復習し、試験に向けて準備する。（2時間）<br>債権法と他の法領域との関係を考え、債権法の役割について検討する。（2時間）  |

◆**教科書** 『民法Ⅲ K30200』 通信教育教材（教材コード 000354）

◆**参考書**

◆**成績評価基準** レポート試験 80%、授業への参画度（毎日のリアクションペーパー）20%

◆**授業相談（連絡先）**：教員のメールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp までご連絡ください。

注意

# 講座内容（シラバス）

〔知的財産法〕 オープン受講：不可

安田 和史

◆**授業概要** 著作権制度は、著作物を生み出す著作者の労苦に報い、文化の発展に寄与できるよう著作物の利用を促し著作物を保護することを目的としている。著作権制度は、著作者による創作や実演家などの準創作行為の保護を中心としつつ、適正な利用の均衡点を模索しつつ毎年のように改正がされている。講義では、基本的な著作権法に関する理解を判例等を用いて行うとともに、近年の改正などについても改正のきっかけとなったケースなどを含め解説を加える。

◆**学修到達目標** 講義では、テキストと判例を用いて著作権法の基礎理論について解説を行う。著作権法に関する入門的な知識を習得することを目的とする。

◆**授業方法** 講義形式による授業を行う。講義では、図などを用いて視覚的な理解が高まるように工夫をする。質問を受け付けられるよう、フォームなどを活用したいと考えている。

◆**履修条件** なし

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容：オリエンテーション。講義の概要、著作権法の目的、遠隔。著作権法と条約<br>事前学修：教科書 265 頁～ 270 頁を読んでおくこと。<br>事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。                                   |
| 2 回  | 授業内容：著作権法の保護対象 その1<br>事前学修：教科書 271 頁以下を読んでおくこと。<br>事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。   |
| 3 回  | 授業内容：著作権法の保護対象 その2<br>事前学修：教科書 271 頁以下を読んでおくこと。<br>事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。   |
| 4 回  | 授業内容：著作者および著作者の権利 その1<br>事前学修：教科書 280 頁以下を読んでおくこと<br>事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。   |
| 5 回  | 授業内容：著作者および著作者の権利 その2<br>事前学修：教科書 280 頁以下を読んでおくこと<br>事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。   |
| 6 回  | 授業内容：著作権の制限その1<br>事前学修：教科書 294 頁以下を読んでおくこと<br>事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。  |
| 7 回  | 授業内容：著作権の制限その2<br>事前学修：教科書 294 頁以下を読んでおくこと<br>事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。  |
| 8 回  | 授業内容：著作権の制限その3<br>事前学修：教科書 294 頁以下を読んでおくこと<br>事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。  |
| 9 回  | 授業内容：出版・著作隣接権<br>事前学修：教科書 307 頁以下を読んでおくこと<br>事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。   |
| 10 回 | 授業内容：集中権利処理機関<br>事前学修：教科書 326 頁以下を読んでおくこと<br>事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。   |
| 11 回 | 授業内容：権利侵害（民事上の救済）<br>事前学修：教科書 329 頁以下を読んでおくこと<br>事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。   |
| 12 回 | 授業内容：権利侵害（刑事上の救済）<br>事前学修：教科書 330 頁以下を読んでおくこと<br>事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。   |
| 13 回 | 授業内容：最近の法改正等について（デジタル化・ネットワーク化の進展に対応した柔軟な権利制限規定の整備、アーカイブの利活用促進に関する権利制限規定の整備等）<br>事前学修：事前学習資料を第 12 回までに配布する。<br>事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。 |
| 14 回 | 授業内容：最近の法改正等について（教育の情報化に対応した権利制限規定等の整備、障害者の情報アクセス機会の充実に係る権利制限規定の整備）<br>事前学修：事前学習資料を第 12 回までに配布する。<br>事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。           |
| 15 回 | 授業内容：今後の法改正等について（海賊版対策関係）<br>事前学修：事前学習資料を第 12 回までに配布する。<br>事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。   |

◆**教科書** 〔図〕 土肥一史『知的財産法入門（第 16 版）』中央経済社（2019 年）3500 円（＋税）  
ISBN-13: 978-4502293313  
〔当日資料配布〕 当日資料を配布します。

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提に、試験（60%）、授業への参加や貢献による平常点（40%）により行う。

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔かな書法〕

山本 まり子

◆**授業概要** 書・文字に関する歴史的・文化的事項について理解を深める。芸術性のみならず、実社会・実生活において活かせる書についても学び、毛筆・硬筆による実践を通して書写力の向上を図る。  
中学校（国語科）の学習内容において「正しい」とされている字形・筆遣い等の確認を行った上で学校教育現場で「書写」を指導するために必要な基礎的知識・技能を学び、基礎固めを行う。

◆**学修到達目標** 1) 授業中取り上げる書・文字に関する歴史的・文化的事項、基礎知識の習得

① 文字・書体の誕生とその変遷

② 平安時代の名筆

2) 毛筆・硬筆による表現技術の習得

① 仮名のいわゆる単体・連綿

② 漢字

③ 漢字仮名交じり

3) 学校教育現場で「書写」を指導するために必要な基礎的知識、技能の習得

① 中学校の学習内容において「正しい」とされている字形・筆遣いについて

② 書きにくい（不安定な字形になりがちな）漢字について

◆**授業方法** 規範とされる書のいくつかを取り上げ、それを中心に講義・実践を行う。各自、指定の「提出作品」を制作する（「提出作品」の内容は担当者作成のプリントに記載）。課題の中には受講生自作の俳句の毛筆による作品化もある（自作俳句は原則、事前に＜開講前＞メールにて回収する）。画像・映像の鑑賞も行う。分析的、感覚的鑑賞を行い、受講生自らの言葉でそれについて説明・表現する時間も設ける。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各 90 分〕

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 回  | 授業内容 | ガイダンス  |
|      | 事前学修 | 資料 A「ガイダンスプリント」・資料 C No.25 に目を通す。                        |
| 2 回  | 事後学修 | 資料 A「ガイダンスプリント」・資料 C No.25 再読                            |
|      | 授業内容 | 文房四宝（筆・墨・硯・料紙）に関する基礎知識                                   |
| 3 回  | 事前学修 | 資料 A No.1 ①に目を通す。  |
|      | 事後学修 | 資料 A No.1 ①再読  |
| 4 回  | 授業内容 | 仮名の「単体」  |
|      | 事前学修 | 資料 A No.1 ②をもとに各自、毛筆による書写を行う。                            |
| 5 回  | 事後学修 | 授業中、指摘した平安時代の書の特徴について復習を行う。                              |
|      | 授業内容 | 仮名の「単体」。   |
| 6 回  | 事前学修 | 資料 A No.1 ②をもとに毛筆による書写を行う。                               |
|      | 事後学修 | 授業中、指摘した平安時代の仮名の書の特徴についてノートに整理し、各自定着を図る。                 |
| 7 回  | 授業内容 | 熨斗袋の表書き、資料 A No.8（当該内容は授業中、指示する）。                        |
|      | 事前学修 | 資料 A No.3 を手本とし、毛筆による学習を行う。                              |
| 8 回  | 事後学修 | 授業中指摘した個々の字形、筆遣いの特徴について言葉で説明できるようにノートに纏め、整理する。           |
|      | 授業内容 | 仮名の「連綿」  |
| 9 回  | 事前学修 | 資料 A No.2（両面 2 枚）に目を通し、字母の確認を行う。                         |
|      | 事後学修 | 授業中の解説内容（「右寄法」「省略法」、それに伴う変体仮名の書き方）について確認を行う。             |
| 10 回 | 授業内容 | 和歌を書く（資料 A No.5）。  |
|      | 事前学修 | 資料 A No.5 の筆路について確認を行う。                                  |
| 11 回 | 事後学修 | 資料 A No.5 の筆路について復習を行い、要点をノートに纏める。                       |
|      | 授業内容 | 資料 A No.5 の清書を行う。資料 A No.8：「正しい」字形・筆遣いについて考える。           |
| 12 回 | 事前学修 | 資料 A No.5 の筆路について再度復習を行う。資料 B No.18 に目を通す。               |
|      | 事後学修 | 資料 A No.5 の筆路についての復習、資料 A No.8 記載の「正しい」字形・筆遣いについての復習を行う。 |
| 13 回 | 授業内容 | 小テスト（20 分間）の実施。  |
|      | 事前学修 | 第 1 日目に予告する小テストに関する必要事項について確認を行う。                        |
| 14 回 | 事後学修 | 授業中の指摘事項についてノートに纏める。                                     |
|      | 授業内容 | 「散らし書き」の基礎   |
| 15 回 | 事前学修 | 自作俳句を漢字仮名交じりで書す。   |
|      | 事後学修 | 漢字仮名交じりで書した自作俳句の散らし方について再検討を行う。                          |
| 16 回 | 授業内容 | 漢字の書体の変遷   |
|      | 事前学修 | 資料 B No.11・14 に目を通す。                                     |
| 17 回 | 事後学修 | 授業中指摘した漢字の書体に関する基礎知識をノートに纏める。                            |
|      | 授業内容 | 平安時代の古筆に見られる筆遣い、上下に位置する文字の関係について。                        |
| 18 回 | 事前学修 | 資料 B No.17 裏に目を通す。その他、粘葉本和漢朗詠集に関する基礎知識を各自得ておく。           |
|      | 事後学修 | 映像の書を指摘事項を踏まえ、再度、毛筆にて表現する。                               |
| 19 回 | 授業内容 | 映像の書を指摘事項を踏まえ、再度、毛筆にて表現する。                               |
|      | 事前学修 | 資料 B No.13 に目を通す。  |
| 20 回 | 事後学修 | 資料 B No.13 の再読。主に「万葉仮名」「草仮名」「変体仮名」に関する説明事項を纏める。          |
|      | 授業内容 | 寸松庵色紙の鑑賞と臨書  |
| 21 回 | 事前学修 | 資料 A No.9、資料 B No.10・No.12 に目を通す。                        |
|      | 事後学修 | 資料 A No.9、資料 B No.10・No.12 の再読、及び復習。                     |
| 22 回 | 授業内容 | 寸松庵色紙に関する基礎知識、及び総括。                                      |
|      | 事前学修 | 再度、資料 A No.9 の筆路・作品構成、及び資料 B No.10・No.12 について復習を行う。      |
| 23 回 | 事後学修 | 資料 B No.10・No.12 の再読。                                    |

◆**教科書** 事前資料送付 事前にプリント送付（資料 A・B・C の束に分かれている）。  
書道用具一式、各自用意のこと。それが不可能な場合は事前送付資料記載のアドレス宛に期日までにメールにて相談のこと。

◆**参考書** 丸沼 名児耶明監修『別冊太陽』191（小学館）

◆**成績評価基準** 受講状況（授業中の課題への取り組み方・積極性等）50%、授業成果 30%、授業内テスト 20%

◆**授業相談（連絡先）**：事前送付資料に記載

注意



# 講座内容（シラバス）

## 〔異文化間コミュニケーション概論〕

大庭 香江

- ◆**授業概要** 1. テキストで異文化間コミュニケーションについての解説を読み、例題を通して問題を掘り下げます。  
2. 英語論文を読み、異文化間コミュニケーションの実際について考察を行います。  
3. 日本とそれ以外の国についてディスカッションを行います。

- ◆**学習到達目標** 異文化間コミュニケーションとは文化的背景の異なる人同士のコミュニケーションですが、国籍の同じ日本人同士でも文化的背景が一緒であるとは限りません。出身地、男女、世代によっても文化的背景は異なります。私たちは日常的にも異文化間コミュニケーションを経験しているのです。

本授業では、異文化間コミュニケーションについて述べられた英語論文や、エクササイズを通して、英語が使われている国や地域の文化を理解し、多様な文化的背景を持った人々との交流を通しての文化の多様性及び異文化交流の意義について考え、異文化間コミュニケーションの現状と課題を学び、実践していきます。

また、SNS を利用した異文化交流を行い、日本大学に在籍している留学生と日本とそれ以外の国の文化についてのディスカッションする機会を設けます。

テキストの解説と、アクティビティを行います。

- ◆**授業方法** テキストの内容の詳しい解説と、異文化間コミュニケーションのワークシートやアクティビティを行います。

- ◆**履修条件**

- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 回  | 授業内容 | 異文化間コミュニケーションとは何かについての考察                             |
|      | 事前学修 | テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと                     |
|      | 事後学修 | 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う                     |
| 2 回  | 授業内容 | コミュニケーションの定義   |
|      | 事前学修 | テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと                     |
|      | 事後学修 | 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う                     |
| 3 回  | 授業内容 | ステレオタイプ  |
|      | 事前学修 | テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと                     |
|      | 事後学修 | 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う                     |
| 4 回  | 授業内容 | 言語コミュニケーション  |
|      | 事前学修 | テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと                     |
|      | 事後学修 | 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う                     |
| 5 回  | 授業内容 | 非言語コミュニケーション   |
|      | 事前学修 | テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと                     |
|      | 事後学修 | 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う                     |
| 6 回  | 授業内容 | ジェスチャー   |
|      | 事前学修 | テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと                     |
|      | 事後学修 | 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う                     |
| 7 回  | 授業内容 | 時間の感覚  |
|      | 事前学修 | テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと                     |
|      | 事後学修 | 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う                     |
| 8 回  | 授業内容 | 空間の感覚  |
|      | 事前学修 | テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと                     |
|      | 事後学修 | 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う                     |
| 9 回  | 授業内容 | コミュニケーションスタイルとスキルの分析                                 |
|      | 事前学修 | テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと                     |
|      | 事後学修 | 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う                     |
| 10 回 | 授業内容 | 双方向コミュニケーション   |
|      | 事前学修 | テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと                     |
|      | 事後学修 | 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う                     |
| 11 回 | 授業内容 | アサーティブ・コミュニケーション                                     |
|      | 事前学修 | テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと                     |
|      | 事後学修 | 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う                     |
| 12 回 | 授業内容 | 異文化間コミュニケーション・シミュレーションの実践                            |
|      | 事前学修 | テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと                     |
|      | 事後学修 | 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う                     |
| 13 回 | 授業内容 | 日本文化を紹介する：SNS を利用した異文化交流                             |
|      | 事前学修 | 日本文化を代表するものは何か、具体例を挙げ準備を行うこと                         |
|      | 事後学修 | 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う                     |
| 14 回 | 授業内容 | 日本とそれ以外の国における文化的行動規範の違いについて：日本大学に在籍している留学生とのディスカッション |
|      | 事前学修 | テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと                     |
|      | 事後学修 | 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う                     |
| 15 回 | 授業内容 | 英語圏の文化についての考察 まとめ、及び試験                               |
|      | 事前学修 | テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと                     |
|      | 事後学修 | 授業の内容を整理し、レポートにまとめる                                  |

- ◆**教科書** 『異文化コミュニケーション・ワークブック』八代京子著 三修社

- ◆**参考書**

- ◆**成績評価基準** 試験及びレポート 50%、授業参画度 50%

- ◆**授業相談（連絡先）：**

注意

# 講座内容（シラバス）

【英語音声学】 オープン受講：不可

森 晴代

◆**授業概要** 発声器官の説明から始めて、母音、子音については細かい音声現象の説明、日本語と英語の違い、英米の違いの理解の徹底及び発音練習を行います。プロソディでは語強勢と文強勢に触れ、総合的な発音練習を行います。最終目的は発音記号を正確に読める力をつけることです。辞典を引くとき発音記号を意識して見るようにしておきましょう。授業には必ず辞典を準備してください。

◆**学修到達目標** 1. 日本語との違いを意識し、英語の発音の特徴及び発音記号を理解することができる。  
2. 英語のスペルと発音のすれに意識を置き、正確な発音をすることができる。  
3. 発音記号からスペルに変換することができる。

◆**授業方法** 動画にによる授業進行となります。一日に 30 ～ 40 分前後の動画を 3 本配信します。動画の終わりにリアクションペーパーの提出をお願いしています。授業を視聴したという証拠として必ず提出してください。授業内容は、母音、子音、語強勢、文強勢を扱います。事前に配布するプリントには専門用語が数多く出てくるので、前もって読んでおいてください。テキスト用プリントや練習問題はコピーして手元に置いた状態で、視聴してください。提出されたリアクションペーパーはこちらで成績を処理し、限定コメント欄でフィードバックいたします。

◆**履修条件** 令和元年度夏期スクーリング『英語音声学』（森晴代）とは積み重ね不可。

◆**授業計画（各 90 分）**

|      |  |
|------|--|
| 1 回  | 授業内容：音声学とは？発声器官の名称説明<br>事前学修：音声学の学問領域について、参考書を読んで各自調べておくこと<br>事後学修：学問分野、発声器官の名称を覚えること  |
| 2 回  | 授業内容：発音記号に慣れよう！（練習問題配布）及び解答、発音記号の見方<br>事前学修：発声器官のそれぞれの役割を見返しておくこと、発音記号を書けるようにしておくこと<br>事後学修：解答したプリントの発音記号を理解しておくこと                                 |
| 3 回  | 授業内容：基本母音の説明、英語の母音の分類基準の説明<br>事前学修：基本母音について、参考書を各自調べておくこと<br>事後学修：基本母音について、整理しておくこと  |
| 4 回  | 授業内容：前舌母音、後舌母音の説明及び発音練習<br>事前学修：前舌母音、後舌母音について、配布されたプリントを読んでおくこと<br>事後学修：前舌母音、後舌母音の発音練習をしておくこと、日本語との違いを意識すること                                       |
| 5 回  | 授業内容：中舌母音、二重母音の説明及び発音練習<br>事前学修：中舌母音、二重母音について、配布されたプリントを読んでおくこと<br>事後学修：中舌母音、二重母音の発音練習をしておくこと。英語と日本語の二重母音に対する認識の違いを理解しておくこと。二重母音の発音記号が書けるようにしておくこと |
| 6 回  | 授業内容：母音、二重母音の演習問題配布及び解答<br>事前学修：英語の母音、二重母音の理論及び発音を理解しておくこと<br>事後学修：解答したプリントの復習をしておくこと  |
| 7 回  | 授業内容：子音の分類基準の説明、閉鎖音の説明及び発音練習<br>事前学修：閉鎖音について、配布されたプリントを読んでおくこと<br>事後学修：閉鎖音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと  |
| 8 回  | 授業内容：摩擦音、破擦音の説明及び発音練習<br>事前学修：摩擦音、破擦音について、配布されたプリントを読んでおくこと<br>事後学修：摩擦音、破擦音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと   |
| 9 回  | 授業内容：鼻音の説明及び発音練習<br>事前学修：鼻音について、配布されたプリントを読んでおくこと<br>事後学修：鼻音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと  |
| 10 回 | 授業内容：流音、半母音の説明及び発音練習<br>事前学修：流音、半母音について、配布されたプリントを読んでおくこと<br>事後学修：流音、半母音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと  |
| 11 回 | 授業内容：子音連続の発音練習<br>事前学修：子音連続について、配布されたプリントを読んでおくこと<br>事後学修：英語の子音連続の発音練習をしておくこと、母語干渉を理解しておくこと  |
| 12 回 | 授業内容：子音の演習問題配布及び解答<br>事前学修：英語と日本語の子音の違いを理解しておくこと<br>事後学修：解答したプリントの復習をしておくこと  |
| 13 回 | 授業内容：語強勢、句強勢の説明、演習<br>事前学修：強勢、句強勢とは何か、配布されたプリントを読んでおくこと<br>事後学修：語強勢、句強勢を正確に理解できたか復習すること  |
| 14 回 | 授業内容：文強勢の説明、演習<br>事前学修：文強勢とは何か、配布されたプリントを読んでおくこと<br>事後学修：文強勢規則、通常強勢、対比強勢について正確に理解できたか復習すること  |
| 15 回 | 授業内容：レポート作成 提出<br>事前学修：レポートに備え、理論の総復習をしておくこと<br>事後学修：英語音声学における諸事象を理解できたか復習すること   |

◆**教科書** 事前資料送付 プリント使用

◆**参考書** 丸沼『英語の音声を科学する』新装版 CD 付 川越いつえ著 大修館書店

◆**成績評価基準** 平常点（リアクションペーパー）⇒ 30%、課題プリント（Practice 1～4）⇒ 20%、レポート課題⇒ 50%

◆**授業相談（連絡先）**：Google classroom の限定コメントにて受けつけます

注意



# 講座内容（シラバス）

## 【英文法】

山岡 洋

◆**授業概要** 本講義では、英文法の中でも、特に「助動詞（auxiliary verbs）」に焦点を当てて講義をすすめていく。ただ、助動詞と一言に言っても、狭い意味では、can, may, willなどの法助動詞を指すが、広い意味では一般動詞の否定文や疑問文に用いられるdoや、完了形・進行形・受動態に用いられるhaveやbeも含まれる。本講義では、法（mood）・法助動詞（modal auxiliaries）・時制（tense）・アスペクト（aspect）・完了形（perfect）・進行形（progressive）・態（voice）を含めた、広い意味での助動詞の全体像を紹介していく。

◆**学修到達目標** 英文法全体における助動詞の位置付けを理解した上で、そもそも助動詞とはどのように定義付けられるものなのか、本動詞と助動詞の違いは何なのかを理解した上で、助動詞の中身として、法（mood）・法助動詞（modal auxiliaries）・時制（tense）・アスペクト（aspect）・完了形（perfect）・進行形（progressive）・態（voice）を含めた、広い意味での助動詞の実態を理解できるようにする。

◆**授業方法** この授業では、『新英文法概説』を教科書として用い、第5章第1節「動詞類」の内容を、メディア授業「英文法MB」の第1章から第5章のコンテンツを利用して、助動詞の概略を理解してもらう。しかし試験はこの授業独自の試験を作成して助動詞の理解度を測るため、この授業と「英文法MB」の単位は別のもものとなる。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各90分）**

|     |  |
|-----|--|
| 1回  | 授業内容：Course Introduction: What is a verb?<br>事前学修：教科書 pp. 210-220 を読んでおく。<br>事後学修：授業中にとったノートを、教科書 pp. 210-220 を見ながら再確認する。                                  |
| 2回  | 授業内容：法（mood）・直説法（indicative mood）<br>事前学修：教科書 pp. 228-31 を読んでおく。<br>事後学修：授業中にとったノートを、教科書 pp. 228-31 を見ながら再確認する。  |
| 3回  | 授業内容：仮定法（subjunctive mood）・命令法（imperative mood）<br>事前学修：教科書 pp. 231-34 を読んでおく。<br>事後学修：授業中にとったノートを、教科書 pp. 231-34 を見ながら再確認する。                              |
| 4回  | 授業内容：法助動詞（modal auxiliaries）<br>事前学修：教科書 pp. 235-37 を読んでおく。<br>事後学修：授業中にとったノートを、教科書 pp. 235-37 を見ながら再確認する。   |
| 5回  | 授業内容：can, could [能力・可能] [許可] [可能性]<br>事前学修：教科書 pp. 237-42 を読んでおく。<br>事後学修：授業中にとったノートを、教科書 pp. 237-42 を見ながら再確認する。   |
| 6回  | 授業内容：may, might [許可] [可能性] [祈願] [目的節・譲歩節の中で]・must と have (to-inf.) [義務] [推量]<br>事前学修：教科書 pp. 242-47 を読んでおく。<br>事後学修：授業中にとったノートを、教科書 pp. 242-47 を見ながら再確認する。 |
| 7回  | 授業内容：その他（need, dare, had better, ought, used）<br>事前学修：教科書 pp. 247-52 を読んでおく。<br>事後学修：授業中にとったノートを、教科書 pp. 247-52 を見ながら再確認する。                                |
| 8回  | 授業内容：アスペクト（aspect）と時制（tense）<br>事前学修：教科書 pp. 252-54 を読んでおく。<br>事後学修：授業中にとったノートを、教科書 pp. 252-54 を見ながら再確認する。   |
| 9回  | 授業内容：未来を表す表現（future expressions）<br>事前学修：教科書 pp. 257-266 を読んでおく。<br>事後学修：授業中にとったノートを、教科書 pp. 257-266 を見ながら再確認する。   |
| 10回 | 授業内容：完了形（perfect）<br>事前学修：教科書 pp. 266-70 を読んでおく。<br>事後学修：授業中にとったノートを、教科書 pp. 266-70 を見ながら再確認する。  |
| 11回 | 授業内容：進行形（progressive）<br>事前学修：教科書 pp. 270-72 を読んでおく。<br>事後学修：授業中にとったノートを、教科書 pp. 270-72 を見ながら再確認する。  |
| 12回 | 授業内容：受動態（passive voice）<br>事前学修：教科書 pp. 272-77 を読んでおく。<br>事後学修：授業中にとったノートを、教科書 pp. 270-72 を見ながら再確認する。  |
| 13回 | 授業内容：理解度確認<br>事前学修：これまでの授業の内容を改めて見直し、特に英文分析を確認する。<br>事後学修：試験に備えて、例文における英文分析を確認する。  |
| 14回 | 授業内容：最終試験とその解説<br>事前学修：前回の理解度確認を改めて読み直し、新たな英文で自分の理解度を再度確認する。<br>事後学修：自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。   |
| 15回 | 授業内容：最終試験の解説<br>事前学修：自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。<br>事後学修：授業内容を確認して、自分の単文の構造に関する理解が適切かどうかを再確認する。  |

◆**教科書** 丸沼 山岡洋（2014）『新英文法概説』 開拓社  
[当日資料配布] 当日配付資料なし

◆**参考書** 丸沼 江川泰一郎（1991）『英文法解説』 金子書房  
丸沼 綿貫陽・宮川幸久・須貝猛敏・高松尚弘・マークピーターセン（2001）『ロイヤル英文法』 改訂新版 旺文社  
丸沼 中邑光男・山岡憲史・柏野健次（2017）『ジーニアス総合英語』 大修館  
丸沼 安井稔（1996）『英文法総覧』 改訂版 開拓社

◆**成績評価基準** 授業参加度：20%（視聴回数など）  
最終試験：80%（教科書・参考図書・ノート・電子辞書など、インターネット通信によるもの以外参照可）

◆**授業相談（連絡先）**：yamaokah@obirin.ac.jp

注意

野呂 有子



# 講座内容（シラバス）

## 〔哲学基礎講読〕

中澤 瞳

◆**授業概要** 本授業は、文献の読み方、要約の方法を理解しながら、哲学者の文献を読む授業である。また、文献読解をふまえて自分の考えをまとめ、提示することを行う授業である。課題文献は、シモーヌ・ド・ボーヴォワール『第二の性』で、主に第2巻第1部第1章を講読する。

なお、分量のある文献を短期間で読むため、全体像が崩れない限りで、適宜割愛して読んでいく。省いた箇所は、それぞれ事後学習において目を通して欲しい。授業の進捗具合によっては、授業回と講読する箇所がシラバスとはずれる場合がある。その場合は、授業において訂正し、事前事後学習については改めて指示する。

◆**学修到達目標** 本授業の目標は、文献の精読ができるようになること、要約ができるようになることである。また文献の内容を理解し、文献が提起する問題について自分でも考えることができるようになることも目標である。

◆**授業方法** 基本的には、次のような手順で授業を進めていく。まず、学生のみなさん一人一人に文献を音読していただく。一回の音読量は、基本的には1パラグラフである。次に、パラグラフの分析を行う。その次に、それぞれのパラグラフの分析を踏まえながら説明を加える。内容の要約をみなさんが作成し、文献の理解を深め、文献が提起する問題についてみなさん一人一人でも考えてもらう。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

|     |      |  |
|-----|------|--|
| 1回  | 授業内容 | ガイダンスとして授業の方法、計画などを説明する。また、課題文献の著者の紹介を行う。  |
|     | 事前学修 | シラバスをよく読む。これまで、自分かどのような本をどのようなやり方で読んできたか、考えをまとめておく。ボーヴォワールについて検索しておく。              |
|     | 事後学修 | 授業の内容を改めて把握する。興味があれば、映画『サルトルとボーヴォワール 哲学と愛』の視聴を行っても良い。                              |
| 2回  | 授業内容 | 文献の精読と要約について（授業内でプリントを配布、使用）   |
|     | 事前学修 | 要約とはなにかについて簡単に調べておく。   |
|     | 事後学修 | 文献の精読の仕方、要約の仕方について理解する。  |
| 3回  | 授業内容 | ボーヴォワールの思想の概要と、『第二の性』の哲学的な位置づけ、および『第二の性 I 事実と神話』を説明する。                             |
|     | 事前学修 | 『第二の性』という書物の概要について調べる。『第二の性 II 体験（上）』の目次に目を通す。                                     |
|     | 事後学修 | ボーヴォワールの思想の概要と、『第二の性』の哲学的な位置づけを説明できるようにする。   |
| 4回  | 授業内容 | 『第二の性 II 体験（上）』序文、第1部第1章（pp.12-16）を読む。   |
|     | 事前学修 | 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。  |
|     | 事後学修 | 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。   |
| 5回  | 授業内容 | 『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.16-29）を読む。  |
|     | 事前学修 | 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。  |
|     | 事後学修 | 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。   |
| 6回  | 授業内容 | 『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.29-46）を読む。  |
|     | 事前学修 | 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。  |
|     | 事後学修 | 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。   |
| 7回  | 授業内容 | 『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.46-54）を読む。  |
|     | 事前学修 | 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。  |
|     | 事後学修 | 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。   |
| 8回  | 授業内容 | 『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.55-66）を読む。  |
|     | 事前学修 | 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。  |
|     | 事後学修 | 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。   |
| 9回  | 授業内容 | 『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.66-79）を読む。  |
|     | 事前学修 | 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。  |
|     | 事後学修 | 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。   |
| 10回 | 授業内容 | 『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.79-91）を読む。  |
|     | 事前学修 | 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。  |
|     | 事後学修 | 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。   |
| 11回 | 授業内容 | 『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.91-104）を読む。   |
|     | 事前学修 | 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。  |
|     | 事後学修 | 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。   |
| 12回 | 授業内容 | 『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.104-113）を読む。  |
|     | 事前学修 | 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。  |
|     | 事後学修 | 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。   |
| 13回 | 授業内容 | 『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.113-124）を読む。  |
|     | 事前学修 | 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。  |
|     | 事後学修 | 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。   |
| 14回 | 授業内容 | 『第二の性 II 体験（上）』序文、第1部第1章を振りかえる。  |
|     | 事前学修 | 『第二の性 II 体験（上）』序文、第1部第1章（pp.12-124）を読み直す。  |
|     | 事後学修 | 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。   |
| 15回 | 授業内容 | 授業内試験と解説   |
|     | 事前学修 | これまで読んできた教科書の箇所を読み直し、要約も読み直し、自分の考えをまとめる。   |
|     | 事後学修 | 授業の続きとして、『第二の性 II 体験（上）』第2部第5章、『第二の性 II 体験（下）』を読む。また、身体や性差に関する、関心が持てそうな別の文献を読んでみる。 |

◆**教科書** **〔当日資料配布〕**  
**〔事前資料送付〕**

事前に資料は配布するが、さらに前もって文献に目を通したい人は、ボーヴォワール（『第二の性』を原文で読みなおす会 訳）『決定版 第二の性 II 体験（上）』新潮社、2001年の第1部第1章に目を通すこと。ただし、この本は現在絶版のため入手は難しいので、図書館などで探して欲しい。なお『第二の性』の邦訳書は他にもあるが、訳語や章立てなどに違いがあるので、なるべく記載の文献に目を通すこと。詳細は授業で説明する。

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 授業への参加、貢献（50%）、各日の最後の時間を実施する授業内レポート（50%）により総合的に評価する。なお、毎回出席することを前提として評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：授業終了後、教室で行う。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔簿記論Ⅰ〕

林 徳順

◆**授業概要** 簿記は「帳簿記入」の略語であります。企業の経済活動及びその結果について、企業の経理担当者は一定なルールに従って、種々の帳簿に記入し、それらの帳簿を基に計算書を作成して関係者に報告します。本講義では、①企業の経済活動及びその結果に関する記録ルールが学修でき、②報告に必要な主たる計算書の作成方法について理論的に学修できます。

◆**学修到達目標** 本講義の学修到達目標は、初心者が①簿記の基礎理論（簿記の種類、簿記上の取引、複式簿記の構造及びその一巡の手続き）について理解でき、②現金・預金、売掛金・買掛金、三分法による商品売買記録に関する具体的な簿記上の会計処理が理解できできることとあります。受講生の理解度に応じて、授業進度を調整する場合があります。

◆**授業方法** 本講義では、教員がパワーポイントを利用しながら授業内容についてわかりやすく解説し、受講生の皆さんが授業内容に関する練習問題を解いていただきます。練習問題を解くとき、電卓が必要であります。受講生の理解度の考慮し、授業進捗度を調節する場合があります。積極的に授業に参加し、予習復習を取り組むことが必要です。毎回の授業中、小テスト実施し、翌日に前日授業中小テストについての振り返りを行います。

◆**履修条件** なし。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1 回  | 授業内容 | 簿記の意義としくみ                                      |
|      | 事前学修 | 簿記の意義としくみ（テキスト P1 ～ P18）について予習し、専門用語の意味を調べておく。 |
|      | 事後学修 | 簿記の基礎、簿記 5 要素等について練習問題を解きながら理解を深める。            |
| 2 回  | 授業内容 | 仕訳と転記  |
|      | 事前学修 | 仕訳と転記（テキスト P19 ～ P36）について事前に学習する。              |
|      | 事後学修 | 仕訳と転記の方法について、テキストの該当箇所を熟読しながら理解を深める。           |
| 3 回  | 授業内容 | 仕訳帳と元帳   |
|      | 事前学修 | 仕訳帳と総勘定元帳の関係等（テキスト P37 ～ P43）について事前に学習する。      |
|      | 事後学修 | 主要簿と補助簿に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。              |
| 4 回  | 授業内容 | 決算(1)～試算表の作成～                                  |
|      | 事前学修 | 試算表の作成（テキスト P44 ～ P51）について事前に学習する。             |
|      | 事後学修 | 試算表作成に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。                |
| 5 回  | 授業内容 | 決算(2)～帳簿締切りと財務諸表の作成～                           |
|      | 事前学修 | 帳簿締切りと財務諸表の作成（テキスト P51 ～ P60）について事前に学習する。      |
|      | 事後学修 | 帳簿締切りと財務諸表の作成に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。        |
| 6 回  | 授業内容 | 決算(3)～精算表の作成～                                  |
|      | 事前学修 | 6 桁精算表の作成等（テキスト P60 ～ P63）について事前に学習する。         |
|      | 事後学修 | 6 桁精算表の作成等に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。           |
| 7 回  | 授業内容 | 現金・預金の意義及びその簿記上の会計処理                           |
|      | 事前学修 | 現金・預金の意義等（テキスト P64 ～ P70）について事前に学習する。          |
|      | 事後学修 | 現金・預金の意義等に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。            |
| 8 回  | 授業内容 | 当座預金と当座借越、小口現金の会計処理                            |
|      | 事前学修 | 当座預金等の会計処理（テキスト P70 ～ P83）について事前に学習する。         |
|      | 事後学修 | 当座預金等に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。                |
| 9 回  | 授業内容 | 三分法による商品売買の会計処理                                |
|      | 事前学修 | 商品売買の会計処理（テキスト P84 ～ P90）について事前に学習する。          |
|      | 事後学修 | 商品売買に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。                 |
| 10 回 | 授業内容 | 諸掛と返品に係る会計処理等                                  |
|      | 事前学修 | 諸掛と返品に係る会計処理等（テキスト P90 ～ P104）について事前に学習する。     |
|      | 事後学修 | 諸掛と返品等に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。               |
| 11 回 | 授業内容 | 売掛金・買掛金の意義及びその簿記上の会計処理                         |
|      | 事前学修 | 売掛金・買掛金の意義等（テキスト P105 ～ P120）について事前に学習する。      |
|      | 事後学修 | 売掛金・買掛金に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。              |
| 12 回 | 授業内容 | 貸付金、借入金、未収入金、未払金、立替金、預り金に関する会計処理               |
|      | 事前学修 | 貸付金の意義等（テキスト P121 ～ P130）について事前に学習する。          |
|      | 事後学修 | 貸付金等に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。                 |
| 13 回 | 授業内容 | 仮払金、仮受金、受取商品券、差入保証金に関する会計処理                    |
|      | 事前学修 | 仮払金等（テキスト P130 ～ P137）について事前に学習する。             |
|      | 事後学修 | 仮払金等に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。                 |
| 14 回 | 授業内容 | 受取手形と支払手形                                      |
|      | 事前学修 | 受取手形と支払手形（テキスト P138 ～ P148）について事前に学習する。        |
|      | 事後学修 | 受取手形と支払手形に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。            |
| 15 回 | 授業内容 | 有形固定資産   |
|      | 事前学修 | 有形固定資産の意義等（テキスト P149 ～ P164）について事前に学習する。       |
|      | 事後学修 | 有形固定資産に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。               |

◆**教科書** 丸沼『検定簿記講義 3 級商業簿記〔2020 年度版〕』渡部裕巨・片山覚・北村敬子、中央経済社、2020 年。  
『検定簿記ワークブック〔3 級 / 商業簿記〕』渡部裕巨・片山覚・北村敬子、中央経済社、2020 年。

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 授業中小テスト 100%。毎回出席することを前提として成績評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：初回の講義時に受講学生に直接伝えます。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔商法〕

金澤 大祐

◆**授業概要** 現代社会においては、多くの事業が株主会社形態で営まれており、会社経営を行う者のみならず、日常生活を営む上でも、株式会社の基本的な仕組みを知っていることが望まれる。そこで、本授業では、商法のうち、会社法について、株式会社を中心に、設立から、資金調達、機関、企業買収についての基礎的な事項を講義し、その際には、受講者が具体的なイメージを持ちやすいように、会社法が関係する具体的な事例について取り扱うこととする。  
本授業では、現役弁護士の教員が、専門分野に関する実務経験を講義に反映させている。

◆**学修到達目標** 会社法上の基礎的な条文を六法で引くことができる。  
会社法上の基礎的な制度について、その概要や制度趣旨を説明することができる。  
会社法上の基礎的な判例について、事案、争点及び裁判所の判断について説明することができる。

◆**授業方法** 講義形式が基本であるため、予習と復習が必須であるが、漫然と講義を受講していても知識が定着しないため、講義内での質疑応答（人数が多い場合にはリアクションペーパー）及び小テストを実施することによって知識の定着を図る。

◆**履修条件** 民法を履修していることが望ましい。

◆**授業計画（各 90 分）**

|      |   |
|------|---|
| 1 回  | 授業内容：株式会社の設立手続と会社の能力<br>事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。<br>事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。                |
| 2 回  | 授業内容：株主の地位と株主間の利害調整<br>事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。<br>事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。                 |
| 3 回  | 授業内容：株式の内容と株式の流通<br>事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。<br>事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。                    |
| 4 回  | 授業内容：会社の資金調達方法<br>事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。<br>事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。                      |
| 5 回  | 授業内容：株主総会の意義と招集手続<br>事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。<br>事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。                   |
| 6 回  | 授業内容：株主総会の運営<br>事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。<br>事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。                        |
| 7 回  | 授業内容：株主総会決議の瑕疵<br>事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。<br>事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。                      |
| 8 回  | 授業内容：取締役の選解任と取締役会<br>事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。<br>事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。                   |
| 9 回  | 授業内容：取締役の義務、取締役の報酬<br>事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。<br>事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。                  |
| 10 回 | 授業内容：企業会計と監査役、指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社<br>事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。<br>事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。 |
| 11 回 | 授業内容：役員等の対会社責任と対第三者責任<br>事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。<br>事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。               |
| 12 回 | 授業内容：組織再編の意義と手続<br>事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。<br>事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。                     |
| 13 回 | 授業内容：組織再編における救済手段<br>事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。<br>事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。                   |
| 14 回 | 授業内容：事業譲渡とキャッシュアウト<br>事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。<br>事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。                  |
| 15 回 | 授業内容：総復習<br>事前学修：1 回～14 回までの講義内容を確認すること。<br>事後学修：解説を参考に十分に理解していなかった箇所について、復習すること。   |

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 Google classroom 上にてレジュメを配信する予定である。  
〔丸沼〕 最新版の六法  
〔丸沼〕 酒巻俊之『会社法講義 令和元年改正対応版』（桜門書房、2019 年）

◆**参考書** 〔丸沼〕 岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2016 年）  
〔丸沼〕 石山卓磨『現代会社法講義〔第3版〕』（成文堂、2016 年）

◆**成績評価基準** 全5回の小テスト 100%

◆**授業相談（連絡先）** : kanazawa.daisuke@nihon-u.ac.jp

注意



# 講座内容（シラバス）

## 〔現代教職論〕 オープン受講：不可

杉森 知也

◆**授業概要** 「教師の成長」をキーワードに、養成・採用・研修を通して見通すとともに、教職のもつ特性と課題を歴史的・国際的な視点を含めて把握する。さらに、学校・教師を巡る現代的な課題などに迫るとともに、採用段階および入職後に求められることに関することなど、講義を通して得られる知見を総合しながら自らの教職観を考える。以上のことを、高校での教員や学校関係者評価委員長等の経験を踏まえて授業内容に反映させる。

◆**学修到達目標** 1. 近年の学校・教員を巡る状況の変化（チーム学校を含む）について、国際的な動向を踏まえて説明することができる。  
2. 教職の意義、教員の役割と職務内容、研修、服務上・身分上の義務と身分保障、教職の専門性などについて総合的に理解し、それらを含めて求められる役割・資質能力について説明することができる。  
3. 講義内容とグループ・個人ワークを合わせて、教職の職業的特徴と自己の教職観を説明することができる。

◆**授業方法** PowerPointに音声を入れたmp4ファイル動画の視聴を基本とする。初日と二日目の16:30～17:30は、Zoomによる質問・相談を実施する（質問・相談がある場合のみ参加。参加の有無は、成績に反映しない）。指定教科書を読んで動画を視聴し、復習の上、確認テストや課題を提出してもらう。三日目は、Zoomによる説明と個人作業・グループ活動をおこなう。詳しくは、初回の授業時に指示する。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各90分）**

|     |      |  |
|-----|------|--|
| 1回  | 授業内容 | ガイダンス：本講の説明＋教師との出会いを振り返る   |
|     | 事前学修 | これまでに会った教師、受けた授業を振り返り、特徴的な点を洗い出して簡単なメモを作成する。   |
|     | 事後学修 | 「『良い』教師、『良い』授業の要件」をノートにまとめておく。   |
| 2回  | 授業内容 | 教員の職務内容とその意義   |
|     | 事前学修 | 教科書第3章を読み、教員の職務内容についてノートに整理する。   |
|     | 事後学修 | 授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。   |
| 3回  | 授業内容 | 教員の地位と身分①：教員の地位と身分保障   |
|     | 事前学修 | 教科書第5章1を読み、その内容についてノートに整理する。   |
|     | 事後学修 | 教育公務員の身分保障の意味と指摘されている問題について、自分の言葉で説明できるように準備する。課題を提出する。  |
| 4回  | 授業内容 | 教員の地位と身分②：教員の服務  |
|     | 事前学修 | 教科書第5章2,3を読み、その内容についてノートに整理し、扱われている法令の判例と解説を『解説教育六法』で調べる。地方公務員法第32条、第36条・教育公務員特例法第18条1について授業で扱った以外の事例を検索し、その判例の内容と時期的な背景を踏まえて授業で扱った判例と比較するレポートをまとめておく。授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。 |
|     | 事後学修 |  |
| 5回  | 授業内容 | 教員の地位と身分③：教員の待遇  |
|     | 事前学修 | 教科書第5章4,5を読み、その内容についてノートに整理する。   |
|     | 事後学修 | 授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。   |
| 6回  | 授業内容 | 教員研修の意義と種類   |
|     | 事前学修 | 教科書第4章1,2と第6章を読み、その内容についてノートに整理する。   |
|     | 事後学修 | 自身の居住地にある教育センターと教職員支援機構のウェブを閲覧して、どのような研修が実施されているかノートにまとめる。授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。   |
| 7回  | 授業内容 | 教員の免許制度①：日本の教員免許制度   |
|     | 事前学修 | 教科書第2章を読み、その内容についてノートに整理する。  |
|     | 事後学修 | 相当免許主義の例外措置の拡大について、その理由と問題性について人の言葉で説明できるように準備する。課題を提出する。  |
| 8回  | 授業内容 | 教員の免許制度②：世界の教員免許制度と日本の改革動向   |
|     | 事前学修 | 「教員養成6年制」がなぜ議論されたのかについてインターネット等で調べ、ノートにまとめる。   |
|     | 事後学修 | 教員免許が教員の質の維持・向上に寄与しているのか、また寄与するために必要な要件は何かについてまとめる。授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。  |
| 9回  | 授業内容 | 教員のやりがいとバーンアウト   |
|     | 事前学修 | 教科書第7章1,2,3,5を読んで、その内容についてノートに整理する。  |
|     | 事後学修 | 「教員のやりがいとバーンアウトの関係」について、ノートにまとめる。授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。  |
| 10回 | 授業内容 | 価値多様化社会の中の専門職  |
|     | 事前学修 | 「『教員の権威』は低下しているか」について、自分なりの考えをメモとしてまとめる。   |
|     | 事後学修 | 「教員の権威性」を歴史的な視点でとらえ、その大きな変化のポイントをノートにまとめる。授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。   |
| 11回 | 授業内容 | 新しい教師の力量   |
|     | 事前学修 | 教科書第4章4を読んで、その内容についてノートに整理し、質問事項をまとめる。   |
|     | 事後学修 | 授業を踏まえて、ノートを完成させる。授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。   |
| 12回 | 授業内容 | チーム学校、3日目のワークの説明   |
|     | 事前学修 | 出身小学校または中学校のホームページを閲覧し、チーム学校としてどのような活動をしているか調査し、その内容をノートにまとめる。   |
|     | 事後学修 | 現在の日本で「チーム学校」が必要とされている理由をノートにまとめる。   |
| 13回 | 授業内容 | 教職観ワーク①  |
|     | 事前学修 | 自らの授業観（教科を通して身に付けさせたいことと、そのために必要な具体的な方法）を考え、保護者に説明し理解を得られる程度にまでプレゼンテーションできるよう準備しておく。また、自身が赴任したいと考える自治体の教育委員会HPを閲覧して、当該自治体が求める教師像を調べる。  |
|     | 事後学修 | 自らの授業観（教科を通して身に付けさせたいことと、そのために必要な具体的な方法）を、事前学習で調べた教育委員会の求める教師像の一部にマッチングさせてみる。  |
| 14回 | 授業内容 | 養成・採用・研修の一体化②：教職観ワーク   |
|     | 事前学修 | 自らのクラス運営（担当クラスの1年を通しての成長期待と生徒・保護者への関わり方・指導・協力を要請する内容など具体的な方法）について、事前学習で調べた教育委員会の求める教師像の一部にマッチングさせてみる。  |
|     | 事後学修 | 自らのクラス運営方針を整理し、「学級新聞」（担任を持った初日に配布するものを想定）の素案を考える。  |
| 15回 | 授業内容 | 「学級新聞」プレゼンテーション  |
|     | 事前学修 | 授業時に配布する「学級新聞」フォーマットを使用・または参考にして、（できれば手書きで→スキャン。スキャナーがない場合は、画像またはWordで作成も認める）学級新聞を作成する。保護者・生徒に理解してもらうことを意識して記述すること。  |
|     | 事後学修 | 授業でおこなったグループワークで指摘されたこと、他者のプレゼンテーションを見て共感できたことなどを踏まえて、再度、自身の教職観・教科指導観を見直し、それぞれについて90秒以内でプレゼンテーションできるようにしておくこと。また、学級新聞についても、それを踏まえて書き直すこと。                                    |

◆**教科書** **【教材】**『現代教職論 T10100』通信教教材（教材コード000541）3,100円（送料込）＜この教材は市販の『現代教職論』羽田積男・関川悦雄編著（弘文堂）と同一です。＞  
**【図】**『解説教育六法2020』解説教育六法編修委員会 三省堂

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 授業後に実施する課題（40%）、同確認テスト（30%）、Zoomによる最終日の活動における積極的な姿勢と提出課題（30%）で総合的に評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：初日・二日目はZoomで授業相談を実施する。最終日も、最後に相談の時間を設ける。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔社会科・地理歴史科教育法Ⅱ〕

宇内 一文

◆**授業概要** 中学校社会科及び高等学校地理歴史科の授業（とくに歴史）の実践について、最新の教育動向を踏まえて学んでいく。中学校・高等学校教員として、自分が授業を担当する際、どのように教材研究をするのか、また生徒に対してどの学習方法をもって授業を展開していくのかについて学習する。実践に必要な知識・指導方法・指導技術について、具体的な討議や様々なグループワーク、模擬授業などを通して身につけることを目標にする。

◆**学習到達目標** 1. 学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の目標と内容を理解できる。  
2. 社会科・地理歴史科の背景となる学問領域との関係を理解し教材研究に活用できるとともに発展的な学習内容について探究し、それを学習指導に生かすことができる。  
3. 社会科・地理歴史科の基礎的な学習指導理論を理解するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけている。  
4. 社会科・地理歴史科の実践研究の動向を知り、授業設計の向上に主体的に取り組むことができる。

◆**授業方法** 授業の2/3はオンラインにて実施し、社会科・地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力などの内容についての社会科教育原理を解説する。1/3は対面で実施し、社会科・地理歴史科の学習指導と授業設計の方法を修得し、主体的に取り組むことができるようになるために、受講者による模擬授業を行う。なお、模擬授業はグループによる20分程度を予定している。模擬授業の教科書には、『中学社会 歴史 未来をひらく』（教育出版、2019年）を指定する。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

|     |      |   |
|-----|------|---|
| 1回  | 授業内容 | 社会科の学びが変わる：社会科・地理歴史科をめぐる現代的課題   |
|     | 事前学修 | 指定した学習指導要領をよく読んでおくこと。   |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「社会科・地理歴史科をめぐる現代的課題」についての理解を深めていくこと。   |
| 2回  | 授業内容 | 社会科の目標：「公民的資質・能力」主体的に社会に参画する個人として必要な資質・能力の育成  |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「社会科の目標」についての理解を深めていくこと。   |
| 3回  | 授業内容 | 社会科の内容：「社会的な見方・考え方」を活用した社会科授業の構造化   |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「社会科の内容」についての理解を深めていくこと。   |
| 4回  | 授業内容 | 社会科の成り立ちとその歩み <sup>(1)</sup> 戦後から1970年代半ばまで「経験主義から系統主義へ」  |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「戦後から1970年代半ばまでの社会科の変遷」について「経験主義から系統主義へ」をキーワードにして理解を深めていくこと。   |
| 5回  | 授業内容 | 社会科の成り立ちとその歩み <sup>(2)</sup> 1970年代後半から現在まで「ゆとり・生きる力」   |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「1970年代後半から現在までの社会科の変遷」について「ゆとり・生きる力」をキーワードにして理解を深めていくこと。  |
| 6回  | 授業内容 | 社会科の教育課程：学習指導要領と社会科・地理歴史科のカリキュラム・マネジメント   |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「社会科の教育課程」について「カリキュラム・マネジメント」をキーワードにして理解を深めていくこと。  |
| 7回  | 授業内容 | 教科書はどのようにつくられているか：学習指導要領と教科書  |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「学習指導要領と教科書」についての理解を深めていくこと。   |
| 8回  | 授業内容 | 社会科の授業をどうやればいいのか（社会科の授業技術）：「どのように学ぶか」と「何ができるようになるか」、新聞・情報機器の活用の仕方・掲示物等の作成   |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「社会科の授業技術」についての理解を深めていくこと。   |
| 9回  | 授業内容 | 社会科の学習指導と評価：「真正の学び」と「バックワード・デザイン」   |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「社会科の学習指導と評価」についての理解を深めていくこと。  |
| 10回 | 授業内容 | 授業をデザインしよう：アクティブな社会科授業づくりのための学習指導案の作成方法   |
|     | 事前学修 | 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「アクティブな社会科授業づくりのための学習指導案の作成方法」についての理解を深めていくこと。   |
| 11回 | 授業内容 | 歴史的分野（日本史）の教材研究・授業・実践例 <sup>(1)</sup> 近代以前（古代）の日本の歴史／学習指導案の作成   |
|     | 事前学修 | 中学校社会科歴史的分野の目標 <sup>(3)</sup> をねらいとした、「B 近世までの日本とアジア <sup>(1)</sup> 古代までの日本 アー（イ）日本列島における国家形成」の内容に関係する授業計画を構想し、その第1時限目の〔学習指導案〕と〔板書案〕を作成すること。                  |
|     | 事後学修 | PDCAサイクルにもとづく学習指導案および模擬授業のふり回り <sup>(1)</sup>   |
| 12回 | 授業内容 | 歴史的分野（日本史）の教材研究・授業・実践例 <sup>(2)</sup> 近現代の日本の歴史／模擬授業  |
|     | 事前学修 | 中学校社会科歴史的分野の目標 <sup>(1)</sup> をねらいとした、「C 近現代の日本と世界 <sup>(1)</sup> 近代の日本と世界 アー（カ）第二次世界大戦と人類への惨禍」の内容に関係する授業計画を構想し、その最終時限（まとめの1時間）の〔学習指導案〕と〔板書案〕を作成すること。         |
|     | 事後学修 | PDCAサイクルにもとづく学習指導案および模擬授業のふり回り <sup>(2)</sup>   |
| 13回 | 授業内容 | 歴史的分野（世界史）の教材研究・授業・実践例 <sup>(1)</sup> 近代以前の世界の歴史／学習指導案の作成   |
|     | 事前学修 | 中学校社会科歴史的分野の目標 <sup>(2)</sup> をねらいとした、「B 近世までの日本とアジア <sup>(1)</sup> 古代までの日本 アー（ア）世界の古代文明や宗教のおこり」の内容に関係する授業計画を構想し、その第1時限目の〔学習指導案〕と〔板書案〕を作成すること。                |
|     | 事後学修 | PDCAサイクルにもとづく学習指導案および模擬授業のふり回り <sup>(3)</sup>   |
| 14回 | 授業内容 | 歴史的分野（世界史）の教材研究・授業・実践例 <sup>(2)</sup> 近現代の日本の歴史／模擬授業  |
|     | 事前学修 | 中学校社会科歴史的分野の目標 <sup>(3)</sup> をねらいとした、「C 近現代の日本と世界 <sup>(1)</sup> 近代の日本と世界 アー（ア）欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」の内容に関係する授業計画を構想し、その最終時限（まとめの1時間）の〔学習指導案〕と〔板書案〕を作成すること。 |
|     | 事後学修 | PDCAサイクルにもとづく学習指導案および模擬授業のふり回り <sup>(4)</sup>   |
| 15回 | 授業内容 | PDCAサイクルにもとづく学習指導案および模擬授業のふり回り <sup>(4)</sup>   |
|     | 事前学修 | これからの社会科・地理歴史科について考える   |
|     | 事後学修 | 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。  |

◆**教科書** 通材『社会科・地理歴史科教育法Ⅱ』通信教育教材（教材コード●●●●●）

◆**参考書** 丸沼『中学社会 歴史 未来をひらく』深谷克己ほか 教育出版 平成31年（平成27年度検定済み、平成28年度採用）  
事前資料送付  
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版 平成30年  
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編』東洋館出版 平成31年

◆**成績評価基準** オンライン授業の課題への取り組み（40%）、模擬授業及び学習指導案（40%）、期末レポート（30%）。これらを総合的に判断し、評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：unai.kazufumi@nihon-u.ac.jp

注意



# 講座内容（シラバス）

## 〔道德教育の理論と方法 / 道德教育の研究〕 オープン受講：不可 李 吉魯

◆**授業概要** この授業では、道德の意義や原理などを踏まえ、学校における道德教育の目標や内容を理解する。また、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育及びその要となる道德科における指導計画や指導方法などを幅広く理解する。さらに、授業中に配布する資料や各種のデータ、映像などを用いて教育の問題に対する理解を深めるとともに、受講生どうしの「話し合い」を通じて、多様な考え方を共有する場としたい。

◆**学修到達目標** 1. 道德及び道德教育、道德性、道德科の指導、評価等の意義を理解し、学校教育の中でこれらが、どのように位置づけられているのかを説明できる。  
2. 学習指導要領に基づいて道德に関する諸概念の検討、道德教育の歴史的背景、道德教育の指導計画など、道德の授業実践に役立つ基本的な事項について知り、説明することができる。  
3. 学習指導案の作成を通して、教師としての求められる資質・能力を養うことができる。

◆**授業方法** 授業は同時双方向型と課題研究型を併用して行う。その際、オンライン配信は、Google Meet を用いて、リアルタイムで授業を進める。また、授業に関する受講生への対応（出席確認・質疑応答・設問回答・確認テスト等）については、Google Classroom を通じて行う（受講生同士の意見交換も同様）。これらの授業方法に対応できるよう、主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の手法を取り入れ、受講生の能動的な学習への参加を促す。なお、提出された課題に対しては、採点をし、点数を入力して受講生に「返却」するとともに、限定公開のコメントを通じてフィードバックを行う。

◆**履修条件** オンライン授業を行うにあたって、授業は原則、時間割に基づく授業時間に行う。その際、大学の学習支援システムより、Google Classroom のクラスコード及び Google Meet のリンク（URL）を入手して登録を済ませてください。また、授業関連の資料は Google Classroom よりダウンロードして事前に目を通してください。  
＊クラスコード（doodxsu）＊

### ◆授業計画〔各 90 分〕

|      |                      |  |
|------|----------------------|--|
| 1 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 道德とは何か<br>学校における道德教育の重要性、授業の課題や進め方、評価、教職の学習方法等について説明する。<br>シラバスに沿って授業の目的や内容、方法などについて確認しておくこと。<br>授業の内容を要約し、重要だと理解した点をまとめておくこと。   |
| 2 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 道德教育の必要性<br>教育の役割を踏まえて、道德性とは何か、人間が道德性の涵養によって何ができるか、どう生きるべきかを考える。<br>道德と学校教育との関係について把握しておくこと。<br>授業の復習。道德性と人間発達との関連性について整理しておくこと。   |
| 3 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 道德性の発達理論<br>ピアジェ（Piaget, Jean 1896-1980）とコールバーグ（Kohlberg, Lawrence 1927-1987）道德性発達理論等について学修する。<br>道德性の発達理論について、その意義と内容を把握しておくこと。<br>授業の復習。コールバーグと日本の道德教育との関係について整理しておくこと。                          |
| 4 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 道德教育の指導計画と実践<br>教育基本法と学校教育法に基づく道德教育の役割を説明するとともに、道德教育の全体計画と年間指導計画等について学修する。<br>道德教育と関連する教育基本法と学校教育法の条文内容を把握しておくこと。<br>授業の復習。学校教育における道德教育の意義及び位置づけについて整理しておくこと。                                      |
| 5 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 戦前の道德教育<br>教育道德教育を担った「修身」が天皇制国家主義にもとづいた戦前の教育を根底から支えるに至った過程について学修する。<br>特設された「道德の時間」の内容を把握しておくこと。<br>授業の復習。天皇制公教育と修身との関係について理解しておくこと。   |
| 6 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 戦後の道德教育<br>「道德の時間」が特設された経緯や、道德教育を積極的に推進することをめぐる見解の対立等について学修する。<br>学習指導要領の変遷と道德教育の位置づけについて把握しておくこと。<br>授業の復習。道德教育の改革と「道德の時間」の設置との関連について整理しておくこと。  |
| 7 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 「道德の時間」から「特別の教科 道德」へ<br>道德教育は日本国憲法や教育基本法の理念に基づく新しいあり方が模索され、「道德の時間」から「特別の教科 道德」へと変更される。その背景と経緯、そして内容について学修する。<br>道德教育と関連する学習指導要領の改正点について把握しておくこと。<br>授業の復習。「特別の教科 道德」の意義について整理しておくこと。               |
| 8 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 道德科の学習指導案づくり①<br>学習指導案の構成と作成、その留意事項などについて学修する。<br>道德科の指導案の作成例について参考資料等をよく読んで、確認しておくこと。<br>授業の復習。道德科の学習指導案作成にあたって、その基本的な枠組みと要点を整理しておくこと。  |
| 9 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 道德科の学習指導案づくり②<br>道德科とは何をやる時間なのか、作成された学習指導案の見直し、指導方法の問題点などについて学修する。<br>道德科の指導方法と改善点について把握しておくこと。<br>授業の復習。道德科と他の教育活動との関連等について理解しておくこと。  |
| 10 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 道德科の評価のための具体的な工夫<br>①道德科における評価の意義と基本的な考え方（数値による評価ではなく、記述式であること等）、②評価の方法（ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価、エピソード評価等）。<br>道德授業改善の方向性について、一部改正の学習指導要領及び解説における評価の内容を確認しておくこと。<br>授業の復習。学校教育における道德科の位置づけについて整理しておくこと。 |
| 11 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 道德教育の実践①<br>模擬授業と検討会（グループによる発表及び質疑応答）<br>どうしたら良い授業ができるかについて受講者同士で意見交換をすること。<br>授業の復習。模擬授業の感想及び評価について、自分なりにまとめておくこと。  |
| 12 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 道德教育の実践②<br>模擬授業と検討会（グループによる発表及び質疑応答）<br>前回の模擬授業の内容を確認し、学習指導案に目を通しておくこと。<br>授業の復習。模擬授業の感想及び評価について、自分なりにまとめておくこと。   |
| 13 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 道德教育の実践③<br>模擬授業と検討会（グループによる発表及び質疑応答）<br>前回の模擬授業の内容を確認し、学習指導案に目を通しておくこと。<br>授業の復習。模擬授業の感想及び評価について、自分なりにまとめておくこと。   |
| 14 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 授業のまとめ<br>本当に「道德に答えはない」のか、教師はどのように道德教育をすべきか。これまでの学習内容を確認し、道德科の評価のあり方等を含む道德教育の具体的な授業改善の方向性について総括する。<br>配布資料や参考資料などを熟読し、該当する内容を事前に整理しておくこと。<br>授業の復習。要点項目として配布された資料などを、再確認し授業内容を整理しておくこと。            |
| 15 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 授業の振り返りと理解度チェック<br>授業全体の振り返りと学習内容について復習しておくこと。<br>学習の成果を見直し、教師はどのように道德教育をすべきかを、自分なりにまとめておくこと。  |

◆**教科書** 丸沼『小学校学習指導要領解説 道德編』文部科学省 東洋館出版 2008 年  
丸沼『中学校学習指導要領解説 道德編』文部科学省 日本文教出版 2008 年  
丸沼『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「特別の教科 道德編」』文部科学省 教育出版 2017 年

◆**参考書** 丸沼『道德教育の理論と方法 / 道德教育の研究 T 21300 / T 21400』通信教育教材（教材コード 000543）  
この教材は市販の『道德教育の理論と方法』羽田植男・関川悦雄編 弘文堂 2016 年）と同様。  
丸沼『教科化された道德への向き合い方』碓井敏正著 かまがわ出版 2017 年  
丸沼『考える道德教育「道德科」の授業づくり』笹田博通・山口匡・相澤伸幸編 福村出版 2018 年  
丸沼『私たちの道德 中学校』廣済堂あかつき 2014 年

◆**成績評価基準** オンライン授業による総合的な評価  
①毎回の確認テスト、中間及び学期末テスト等（70%）  
②提出課題及び授業への参加度（30%）

◆**授業相談（連絡先）**：授業に関するお問い合わせ先  
メールアドレス 1：cdgi20019@g.nihon-u.ac.jp（大学）  
メールアドレス 2：onkochishin6@hotmail.com（個人）  
いつでもお気軽にご利用ください。

## 注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔国語科教育法Ⅲ〕

野澤 拓夫

◆**授業概要** 新たな時代が要請する国語学力「思考力・判断力・表現力」の養成・伸長を目指した教育とはどのようなものなのかについて考え、理解する。また、その実現に必要な「よい授業」とそれを目指した「よい指導案」づくりを、グループごとに検討する。具体的には、高校1年生対象の「国語総合」の教材により現代文・古文・漢文の各分野で、どのようにしたら学習者を主体とした授業が展開できるかをグループごとに検討し、模擬授業を通して確認・評価していく。

◆**学修到達目標** 具体的な教材に即した模擬授業を経験することにより、「よい指導案」を作成するための基本的な知識を得ることができる。さらに意識的・計画的に作成していく意味を体得することができる。また、グループごとに話し合い、検討し合って意欲的な模擬授業を展開することを通して、確かな授業力を身に付ける準備ができる。模擬授業後に全体で展開例について議論・評価していく過程を通して、全体でもその成果物を共有することができる。

◆**授業方法** 初日の理論を基に2日目からグループごとに「よい指導案」づくりと「よい授業」の実現を目指し、協働してさまざまな検討を加え、意欲的な模擬授業を実践する。その具体的な展開例から全体で議論を重ね、指導案・指導法の適否についての考察・評価を行う。教育実践例（DVD）を紹介し、これらについても分析・検討を行う。模擬授業・教育実践例とも個人に評価シートの提出を求める。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各90分〕

|     |      |   |
|-----|------|---|
| 1回  | 授業内容 | ガイダンスとして授業の進め方を説明する。グループを編成し、本シラバスに提示した現代文・古文・漢文の3分野8教材を用いた模擬授業の分担（グループ・発表者）を決める。よい模擬授業の実現に向けて、「授業評価」の観点を参照しつつ、その条件について討議する。  |
|     | 事前学修 | 本シラバスに提示した現代文・古文・漢文の3分野8教材を読んでおくこと。また「よい授業」の条件には何が挙げられるかを考えておくこと。「評価」の意味について考えておくこと。  |
|     | 事後学修 | 討議内容を整理するとともに、授業内容と配布資料とを確認し、理解を深めておくこと。  |
| 2回  | 授業内容 | 教育実践例「言語活動を活かす読むことの授業」をDVDで紹介し、解説する。また、指導技術に関するプリントを配布し、「思考力・判断力・表現力を伸ばすための授業」とはどのような授業なのかについて検討する。   |
|     | 事前学修 | 「思考力・判断力・表現力」を伸ばすためには、何が必要かについて考えておくこと。   |
|     | 事後学修 | 授業内容と配布資料を確認し、国語科教育に求められている事項を理解しておくこと。   |
| 3回  | 授業内容 | 「国語科教育法Ⅲ」のテキストにより、国語科教育に求められている「国語学力」の内実について解説する。それをふまえて「学習指導要領解説」を参照しつつ、新しい時代に求められている学習者を主体とした国語科教育の内容、国語科教員が果たすべき役割について解説する。                                      |
|     | 事前学修 | テキストと「学習指導要領解説」に目を通しておくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業内容を確認・整理して、国語科教員が果たすべき役割について理解を深めておくこと。   |
| 4回  | 授業内容 | 新しい時代が要請する能力と「2020年度以降の大学入試改革」との関わりについて解説し、併せてそれを受けてさまざまな教育機関がどのような動きをみせているのかについても解説する。   |
|     | 事前学修 | 「2020年度以降の大学入試改革」について調べておくこと。   |
|     | 事後学修 | 授業内容を確認・整理して、国語科教育を取り巻く環境についての理解を深めておくこと。   |
| 5回  | 授業内容 | 現代文・古文・漢文の授業それぞれの模擬授業展開上の留意点と、指導案作成上の注意点を説明し、質疑に答える。その後、グループごとに担当する教材の性格を分析し、模擬授業の準備に入る。配布された指導案のフォームを用いて、「よい指導案」づくりに取り組む。  |
|     | 事前学修 | 指導案を作成するうえでの留意点をインターネット等であらかじめ調べておくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業内容をふまえ、各グループごとに担当する模擬授業の指導方法・授業形態について検討、決定しておくこと。   |
| 6回  | 授業内容 | 現代文 評論「彼らがそれを学ばなければならない理由」（65～69頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。  |
|     | 事前学修 | 当該教材を読んで、適切と思われる指導方法を考え、授業プランを立てておくこと。<br>※当該教材による模擬授業を担当するグループについては、発表者を中心に協働して教材のジャンルや性格に適した指導方法・授業形態を選択し、意欲的な授業プランを立てること。それに基づいた学習指導案を作成し、必要に応じてワークシートなども用意すること。 |
|     | 事後学修 | ※模擬授業を担当したグループについては、授業内容をふまえて、ふりかえりを行い、その成果を共有しておくこと。   |
| 7回  | 授業内容 | 古文 伊勢物語「さらめ別れ」（290頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。  |
|     | 事前学修 | 当該教材を読んで、古文・物語という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業内容を確認し、古文教材の扱い方について整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。   |
| 8回  | 授業内容 | 漢文 唐詩「登鸛鵲樓・春望」（320～325頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。  |
|     | 事前学修 | 当該教材を読んで、漢詩という教材の性格をふまえた授業プランを立てておくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業内容を確認し、漢文教材の扱い方を整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。  |
| 9回  | 授業内容 | 現代文 随筆「赤毛のアン」との出会い」（16～21頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。   |
|     | 事前学修 | 当該教材を読んで、随筆という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。   |
|     | 事後学修 | 授業内容を確認し、随筆教材の扱い方を整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。  |
| 10回 | 授業内容 | 古文 俳諧紀行文・奥の細道「平泉」（279～280頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。   |
|     | 事前学修 | 当該教材を読んで、前の古文で学んだ留意点を活かした授業プランを立てておくこと。   |
|     | 事後学修 | 授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。  |
| 11回 | 授業内容 | 古文 随筆・徒然草「仁和寺にある法師」（246～247頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。   |
|     | 事前学修 | 当該教材を読んで、古文・随筆という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。  |
| 12回 | 授業内容 | 漢文 史伝「管鮑の交わり」（312～313頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。   |
|     | 事前学修 | 当該教材を読んで、前の漢文で学んだ留意点を活かした授業プランを立てておくこと。   |
|     | 事後学修 | 授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。  |
| 13回 | 授業内容 | 現代文 小説「デューク」（29～39頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。  |
|     | 事前学修 | 当該教材を読んで、小説という教材の性格をふまえた授業プランを立てておくこと。  |
|     | 事後学修 | 授業内容を確認し、小説の扱い方について整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。   |
| 14回 | 授業内容 | 教育実践例として、アクティブ・ラーニングを用いた2例（作文と漢字）の「学習ゲーム」をDVDで紹介し、その教育的な意図と効果について分析・検討する。   |
|     | 事前学修 | アクティブ・ラーニングについて調べておくこと。   |
|     | 事後学修 | 授業内容を確認し、アクティブ・ラーニングをどのようにしたら、授業に取り入れられるのかについて考えておくこと。  |
| 15回 | 授業内容 | 試験  |
|     | 事前学修 | 14回の授業のふりかえりを行い、試験のための準備をしておくこと。  |
|     | 事後学修 | 試験問題（課題）について、正しい理解と適切な解答ができたかを確認すること。   |

◆**教科書** 『中学校 高等学校 国語科教育法』 益地恵一編著（建帛社）  
『新編 国語総合』 高校1年教科書（教育出版）17教出 国総343  
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（文部科学省）  
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』（文部科学省）  
国語・古語・漢和の各辞書  
『国語科 重要用語事典』 高木まさ他（明治図書）

◆**参考書**

◆**成績評価基準**

◆**授業相談（連絡先）**

注意



# 講座内容（シラバス）

## 〔博物館情報・メディア論〕

小林 克

◆**授業概要** 博物館は膨大な知識・資料の集積所である。博物館における情報の意義と活用方法を理解し、収蔵品のデジタル化の方法とメディアへの保存、デジタル化した情報の発信と保守について理解する。著作権法等の内容及意義を理解し、収蔵資料のデータベース化を行うことで応用を図り、調査研究・情報管理・公開についての知識の習得を目指す。

◆**学修到達目標** (1)博物館における情報・視聴覚資料提供の基本的考え方と、用いられる情報機器の概要について説明できる。  
(2)博物館の情報の提供と活用に関する基礎的能力を得る。

◆**授業方法** 実際に博物館で配布されている案内やホームページなどで公開・発信されている情報をもとにして、①博物館における情報・メディアの意義とその理論、②博物館における情報公開と発信、③博物館と知的財産の3項目について考え、学習目標の理解を深めます。また公開・発信されている情報を実際に確認して体験するために都内の博物館の見学（2日目午後）とその検討会（3日目午前）を予定しています。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各 90 分）**

|      |                      |   |
|------|----------------------|---|
| 1 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 現代の生活と映像・音声メディア 現代の暮らしの中では、建物の内外を問わず交通機関の内部でも音楽・映像そして情報が溢れている。これらの観点に立ち、博物館情報・メディア論の授業の進め方について説明する。<br>シラバスの内容を確認しておく。<br>身近にある様々なメディアを意識し、記録化する。   |
| 2 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 情報とは何か 氾濫する情報のなかで、情報の混濁が起きている。必要情報とは何かを考える。<br>自分自身の情報の取り方について、説明できるようにしておく。<br>不要な情報について考え発表できるようにする。  |
| 3 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 博物館と情報 大局的に見れば博物館そのものが一種のメディアである。博物館での一次資料と二次資料について考え、資料のドキュメンテーションとは何か理解し、博物館における情報の意義について学ぶ。<br>一次資料と二次資料、ドキュメンテーションについて調べておく。<br>それぞれの収蔵先は何か考える。   |
| 4 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | アナログ記録とデジタル記録 各種メディアにおけるアナログ記録とデジタル記録との基本的な違いを理解する。<br>アナログ記録再生装置について、どの様なものがあるか予め調べておく。<br>講義中で解説する各種メディアの違いについて、一覧表の作成を行う。  |
| 5 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 資料のデータベース化と応用 コンピュータを用いたデータベースの管理システムの紹介と、画像を含むデータベースの意義について学ぶ。<br>インターネットで見られる画像データベースに触れてみる。<br>データベース化された情報の応用例を考える。   |
| 6 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 情報提供と広報活動 博物館活動の中で、どのように情報発信し、特に広報活動として情報発信を行うのか示す。<br>インターネットや新聞雑誌から受け取る博物館情報の相違について考える。<br>メディアの特性について理解する。   |
| 7 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 開かれた博物館 発信される博物館情報 グローバルネットワークと博物館から発信される教育・普及情報について学ぶ。新型コロナウイルス禍に伴った、「おうちでミュージアム」等の活動や展示の動画配信についてその必要性和効果について学ぶ。<br>博物館から発信されるチラシやHP 等様々な媒体を見ておくこと。「おうちでミュージアム」等の活動や展示の動画配信について、実際にインターネットで確認しておく。<br>配布資料を基に授業内容を復習・確認する。 |
| 8 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | デジタルアーカイブとデジタルミュージアム 博物館で新たに試みられた、情報提供方法と教育効果について学ぶ。<br>デジタルミュージアム、デジタルアーカイブについて調べておく。<br>デジタル技術を生かした新しい展示法を考えてみる。  |
| 9 回  | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | インターネットと情報端末の利用 博物館でのインターネット利用の実態と、情報発信としての SNS 等の利用や問題点等を明らかにする。その上でスマートフォン等の情報端末の展示・教育普及等の利用について確認する。10 回～12 回（翌日）の博物館見学のポイントについて確認する。<br>最新のスマートフォン等を利用した展示や展示情報発信等についてネットで検索し確認する。<br>実際にスマートフォン等を活用した展示情報の獲得を行う。       |
| 10 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 博物館見学① 実際に博物館で公開・発信されている情報を視察する。見学する博物館は各自で選ぶが、原則は都道府県立の博物館（美術館）とし、大規模な市立等も可とする。判断に迷う場合は、前日まで小林までメールを送り確認すること。<br>事前に見学する博物館について、HP 等から情報を得ておく。<br>見学内容のメモを再確認する。   |
| 11 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 博物館見学② 博物館展示室でのメディア活用 展示室や教育普及活動等で情報メディアが如何に活用されているか理解する。理解するのに必要なチラシ等の配布物を集める。<br>展示室での情報を自分はどうのように得ていたか確認しておく。<br>博物館展示について、入館者の立場で触れてみることで流れを理解する。   |
| 12 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 博物館見学③ 実際に博物館で公開・発信されている情報を見学し、内容を再確認し、レポートを作成する。その際は、情報に対する具体的アクセス方法や内容を明示し、その評価も記入すること。<br>博物館見学の内容を整理しておく。<br>レポートの加筆・校正を行う。   |
| 13 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | ZOOM 授業。博物館活動の情報化 博物館における調査研究活動や、展示・教育普及活動の情報化について、前日の見学の内容について意見を述べる。その為、ZOOM 又は MEET を用いた授業とする予定。<br>レポート内容の確認と疑問点、感想を発表出来るように纏めておく。<br>他人の意見を再確認し、評価する。  |
| 14 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 博物館運営と情報メディア利用の実際 前日の見学について、意見交換を元として、纏めて講義を行う。<br>意見交換の内容を再確認する。<br>講義内容ノートを再確認する。   |
| 15 回 | 授業内容<br>事前学修<br>事後学修 | 授業内テストおよび総括 授業の総括と質疑応答。<br>今までの授業内容を再確認する。<br>事後学修 全体的な流れと体系を理解する。  |

◆**教科書** 丸沼『博物館情報・メディア論』西岡貞一・篠田謙一 一般財団法人放送大学教育振興会

◆**参考書**

◆**成績評価基準** レポート（20%）、授業参画度（発表や発言、受講態度等 20%）、テスト（60%）により総合的に評価。毎回の出席を前提として評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意